

佐賀県の遺跡

佐賀県の遺跡

佐賀県文化財調査報告書 第十三集

佐賀県教育委員会

は し が き

遠い祖先の人びとが用いた石器や土器・青銅器などの遺物や、貝塚・古墳・窯跡などの遺跡は、非常に貴重なものであるため、文化財保護法でその破壊が禁じられていることは、今さら申しあげるまでもありません。しかし、今日、土木工事や開墾事業等の著るしい進捗によって、これらの貴重な遺跡が破壊されていることは、憂慮にたえないところであります。

このような現状に対して、本県では昨年度遺跡調査員を委嘱し、県内の遺跡について調査を実施し、遺跡を保護するための一つの方法としてその台帳を作成したのでありますが、それを佐賀県文化財調査報告書第十三集に đăng載し発行することになりました。市町村当局が本書によって、管内の遺跡を確認し、遺跡が無届のままに破壊されることのないよう十分指導くださることを期待するものであります。

本書は、県内の遺跡を所在地と時代とによって分類し、各遺跡についてその概要を記述したもので、多くの人びとからその出版を待望されていた遺跡の集成書であります。考古学や古代史の研究はもとより、佐賀県の文化を知る上に欠くことのできない貴重な資料であると考えられますので、学校教育や社会教育の分野において十分活用いたくとともに、一般の方々の教養書として広く購読されることを希望するものであります。

本書が刊行されるに当って、県内全域の遺跡の調査になみなみならぬ努力をはらっていただいた遺跡調査員各位に対し、厚くお礼を申しあげます。

昭和三十三年三月

佐賀県教育委員会

教育長 森 一郎

凡 例

一、遺跡台帳の作成は、昭和三十七年度の国庫補助事業として、遺跡調査員を委嘱し、実施したものである。

二、すでに破壊されて消滅している遺跡についても、できるだけ記録にとどめた。

三、登載した遺跡数は、八五九件であつて、先土器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代・歴史時代に分類し、さらに郡市別にまとめた。

四、各郡市別・各時代別にそれぞれ遺跡地名表と遺跡所在地図を掲載して、利用に便ならしめた。

五、今後新しく発見される遺跡も相当数予測されるし、歴史時代の遺跡については、補充すべきものが多く存在するが、主な遺跡はほとんど網羅されている。

六、遺跡調査員は次のとおりである。（勤務地は、調査員当時のもの）

小	山	持	大	多	原	木	松	小
林	本	永	石	良	口	原	隈	林
肇（鳥栖高等学校）	清	明	繁	正	一	武		
	吾（佐賀市久保泉小学校）	敏（佐賀市昭栄中学校）	男（大和町松梅中学校）	人（三田川中学校）	男（千代田村中部小学校）	雄（基山中学校）	嵩（鳥栖市基里中学校）	

岩	七	鏡	中	佐	川	金	大	古	前	原	山	志	富	河	尾	柴	木
下	田	山	村	々 木	内	丸	曲	川	山	口	崎	佐	樹	児	形	元	下
正	忠				正	貞	初	靖		静	猛	輝	憲	哲	善	静	
忠	志	猛	勲	勝	治	隆	郎	隆	博	雄	夫	彦	次	司	郎	雄	巧
(県文化財専門委員)	(県文化財専門委員)	(県文化財専門委員)	(塩田町久間中学校)	(鹿島市能古見中学校)	(大町中学校)	(武雄中学校)	(白石中学校)	(有田工業高等学校)	(伊万里高等学校)	(伊万里高等学校)	(北波多小学校)	(相知町伊岐佐小学校)	(唐津市志道小学校)	(唐津市第二中学校)	(多久市北部中学校)	(多久市西部中学校)	(唐津市西高校)

古	賀	秀	男（県社会教育課長）
服	部	博	次（県社会教育課長補佐）
木	下	之	治（県社教育課文化財係長）
高	島	保	夫（同文化財係）
安	本	雪	男（同文化財係）
山	田	四	郎（同文化財係）

七、遺跡の保護について、文化財保護法には次のような規定があるので、土木工事・開墾事業等に際してはもちろん、研究上の調査に当たっても十分留意し、無届けによる遺跡の破壊行為がないように厳に慎んでもらいたい。

(一) 史跡または特別史跡の現状を変更したり、またはその保存に影響を及ぼす行為をしようとするときは、現状変更許可申請書を県教育委員会を経由して、文化財保護委員会に提出し、その許可を受けなければならない。（法第八十条）

(二) 工事予定地内に、古墳・石棺・甕棺等の遺跡や土器・石器その他の埋蔵文化財が存在していると周知されている場合（本書に掲載されている潭滅遺跡を除くすべての遺跡）は、工事に着手する三十日前までに、県教育委員会を経由して文化財保護委員会に「埋蔵文化財の発掘届出書」を提出しなければならない。（法第五十七条）

(三) 工事中に古墳・石棺・甕棺等の遺物や土器・石器等の遺物を発見したとき、または石器・土器その他の遺物を偶然に発見した場合はその現状を変更しないで、発見の日から十日以内に県教育委員会を経由して、文化財保護委員会に届け出なければならない。（法第八十四条）

（四）

研究等の目的のため、埋蔵文化財の包含されている遺物を発掘して調査しようとするときは、発掘着手の三十日前までに県教育委員会を經由して、文化財保護委員会に届け出なければならない。（法第五十七条）

佐賀県の遺跡目次

三養基郡、鳥栖市

(一)

縄文時代遺跡

(三)

弥生時代遺跡

(七)

古墳時代遺跡

(三一)

歴史時代遺跡

(九五)

神埼郡

(一〇三)

縄文時代遺跡

(一〇三)

弥生時代遺跡

(一〇七)

古墳時代遺跡

(一二五)

歴史時代遺跡

(一三九)

佐賀郡、佐賀市

(一四五)

縄文時代遺跡

(一四五)

弥生時代遺跡

(一五一)

古墳時代遺跡

(一六五)

歴史時代遺跡

(一九三)

小城郡、多久市

(二〇五)

先土器時代遺跡

跡

(二〇五)

縄文時代遺跡

跡

(二一三)

弥生時代遺跡

跡

(二一九)

古墳時代遺跡

跡

(二二五)

歴史時代遺跡

跡

(二四三)

東松浦郡、唐津市

(二五一)

先土器時代遺跡

跡

(二五一)

縄文時代遺跡

跡

(二六九)

弥生時代遺跡

跡

(二九五)

古墳時代遺跡

跡

(三二五)

歴史時代遺跡

跡

(三六九)

西松浦郡、伊万里市

(三七六)

先土器時代遺跡

跡

(三七六)

縄文時代遺跡

跡

(三七九)

弥生時代遺跡

跡

(三八七)

古墳時代遺跡

跡

(三八九)

歴史時代遺跡

(三九四)

杵島郡、武雄市

(四二九)

先土器時代遺跡

(四二九)

縄文時代遺跡

(四三〇)

弥生時代遺跡

(四三二)

古墳時代遺跡

(四四一)

歴史時代遺跡

(四六五)

藤津郡、鹿島市

(四八三)

縄文時代遺跡

(四八三)

弥生時代遺跡

(四九三)

古墳時代遺跡

(五〇五)

歴史時代遺跡

(五一五)

插图目次

第1図	三養基郡・鳥栖市縄文時代遺跡所在地	(三)
第2図	三養基郡・鳥栖市弥生時代遺跡所在地	(七)
第3図	本 分 貝 塚	(一八)
第4図	切 通 変 棺 遺 跡	(二七)
第5図	三養基郡・鳥栖市古墳時代遺跡所在地	(三一)
第6図	大 塚	(五八)
第7図	永田第二号古墳出土品	(七一)
第8図	庚 申 堂 塚 出 土 品	(七三)
第9図	三養基郡・鳥栖市歴史時代遺跡所在地	(九五)
第10図	神埼郡縄文時代遺跡所在地	(一〇三)
第11図	狂 言 平 縄 文 遺 跡	(一〇四)
第12図	神埼郡弥生時代遺跡所在地	(一〇七)
第13図	唐 香 原 遺 跡	(一〇九)
第14図	神埼郡古墳時代遺跡所在地	(一一五)
第15図	運 田 山 古 墳 群	(一二〇)
第16図	伊 勢 塚	(一二六)

第17図	神埼郡歴史時代遺跡所在地	(一三九)
第18図	姉川城跡	(一四〇)
第19図	佐賀郡・佐賀市縄文時代遺跡所在地	(一四五)
第20図	佐賀郡・佐賀市弥生時代遺跡所在地	(一五一)
第21図	櫛木出土タクリス形銅剣銘范	(一五三)
第22図	西原遺跡	(一五七)
第23図	佐賀郡・佐賀市古墳時代遺跡所在地	(一六五)
第24図	花納丸古墳出土品	(一六九)
第25図	船塚	(一八一)
第26図	熊本山舟形石棺	(一九一)
第27図	佐賀郡・佐賀市歴史時代遺跡所在地	(一九三)
第28図	肥前国分寺瓦窯跡	(二〇〇)
第29図	小城郡・多久市先土器時代遺跡所在地	(二〇五)
第30図	長尾開拓先土器遺跡出土の尖頭器	(二〇七)
第31図	小城郡・多久市縄文時代遺跡所在地	(二一三)
第32図	長尾松喰遺跡出土品	(二一六)
第33図	小城郡・多久市弥生時代遺跡所在地	(二一九)
第34図	小城郡・多久市古墳時代遺跡所在地	(二二五)

第35図	三宝山古墳群	(二二九)
第36図	小城郡・多久市歴史時代遺跡所在地	(二四三)
第37図	梶峰城跡	(二四七)
第38図	晴気遺跡出土品	(二五〇)
第39図	東松浦郡・唐津市先土器時代遺跡所在地	(二五一)
第40図	女山先土器遺跡	(二五七)
第41図	東松浦郡・唐津市縄文時代遺跡所在地	(二六九)
第42図	西唐津海底縄文遺跡出土品	(二七六)
第43図	東松浦郡・唐津市弥生時代遺跡所在地	(二九五)
第44図	中尾弥生遺跡出土品	(三一一)
第45図	葉山尻支石墓	(三二一)
第46図	東松浦郡・唐津市古墳時代遺跡所在地	(三二五)
第47図	中ノ瀬第一号古墳出土品	(三三六)
第48図	島田塚	(三五八)
第49図	東松浦郡・唐津市歴史時代遺跡所在地	(三六九)
第50図	鏡社経塚出土品	(三七二)
第51図	西松浦郡・伊万里市先土器時代遺跡所在地	(三七六)
第52図	平沢良先土器遺跡出土品	(三七七)

第53図	西松浦郡・伊万里市縄文・弥生時代遺跡所在地	(三七九)
第54図	構縄文遺跡	(三八〇)
第55図	小麦原縄文遺跡出土品	(三八三)
第56図	西松浦郡・伊万里市古墳時代遺跡所在地	(三八九)
第57図	小島前方後円墳	(三九〇)
第58図	西松浦郡・伊万里市歴史時代遺跡所在地	(三九四)
第59図	多々良古窯跡	(三九九)
第60図	杵島郡・武雄市先土器・縄文時代遺跡所在地	(四二九)
第61図	杵島郡・武雄市弥生時代遺跡所在地	(四三二)
第62図	杵島郡・武雄市古墳時代遺跡所在地	(四四一)
第63図	玉島古墳	(四五二)
第64図	おつぼ山神籠石	(四六〇)
第65図	勇猛寺古墳中央石室	(四六一)
第66図	杵島郡・武雄市歴史時代遺跡所在地	(四六五)
第67図	弓野古窯製品	(四七二)
第68図	仏法堤経塚出土銅製経筒	(四七六)
第69図	藤津郡・鹿島市縄文時代遺跡所在地	(四八三)
第70図	万才遺跡	(四八五)

第71図	陣野遺跡出土品	(四八九)
第72図	藤津郡・鹿島市弥生時代遺跡所在地	(四九三)
第73図	鹿島小・中学校遺跡出土品	(四九六)
第74図	藤津郡・鹿島市古墳時代遺跡所在地	(五〇七)
第75図	行成第一号古墳	(五〇七)
第76図	藤津郡・鹿島市歴史時代遺跡所在地	(五一五)
第77図	片山経塚出土品	(五一七)

鳥 三

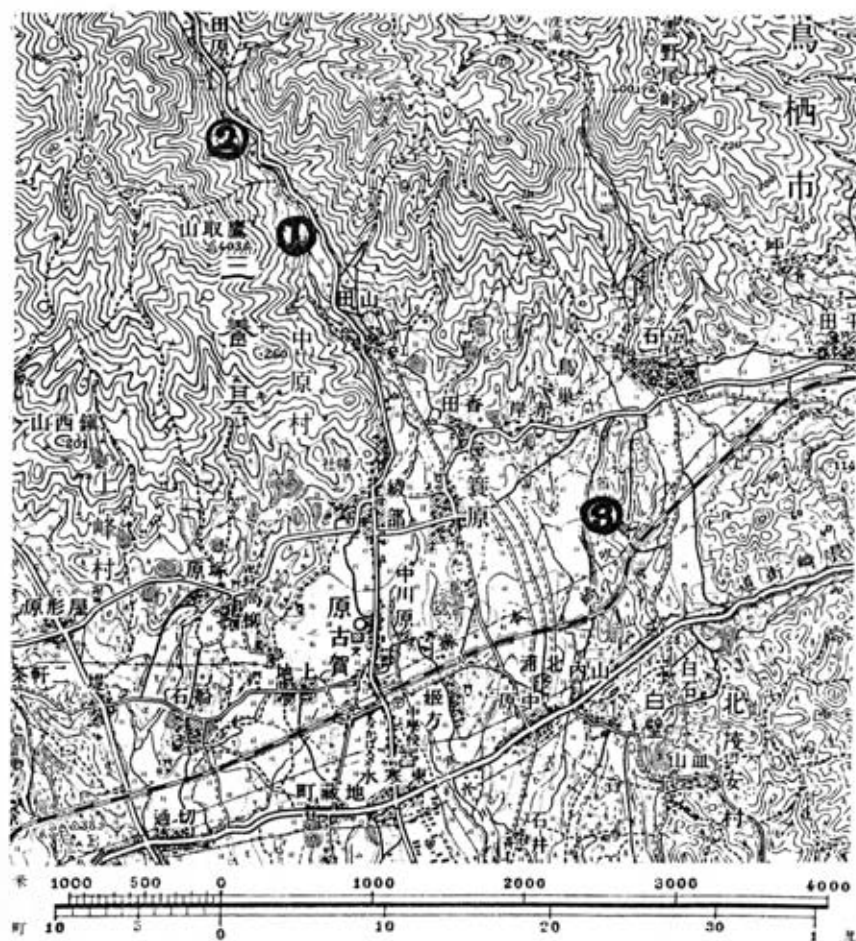
養

栖

基

市 郡

三養基郡 鳥栖市
第1図 縄文時代遺跡所在地



三養基郡 鳥栖市 縄文時代遺跡

- | | |
|--------------|-----------|
| 一 中原村 原古賀 | 鷹取山東麓縄文遺跡 |
| 二 中原村 原古賀 | 古田原 縄文遺跡 |
| 三 鳥栖市立石町 笛吹山 | 笛吹山 縄文遺跡 |

一、鷹取山東麓縄文遺跡

種別 遺物散布地

所在地 三養基郡中原村大字原古賀字古田原（畑）

概要 綾部川の上流、鷹取山東麓の扇状地は戦後開墾され、畑地として利用されている。この地域から縄文系

の遺物が発見されているが、その遺構は明らかでない。また、この地には古墳も築成されている。

出土品 石鏃・サヌカイド石匙・石剣・縄文土器

文献 松尾禎作著「東肥前の先史遺跡」

二、古田原縄文遺跡

種別 遺物包含地

所在地 三養基郡中原村大字原古賀字古田原（畑）

概要 綾部川上流の谷に面する鷹取山一帯より連なる扇状地の丘陵にある遺跡であって、高地遺跡の代表的なものである。古田原の樟脳小屋西方の成富家開墾地から、縄文系の土器、石匙、石斧、石鏃等が発見さ

れている。遺跡の範囲や遺物の包含状況等は明らかでない。

文献 松尾禎作著「中原村の史話伝説」（昭和三〇年一月三日、中原村公民館）

三、笛吹山縄文遺跡

種別 遺物包含地

所在地 鳥栖市立石町大字笛吹山（畑）

概要 背振山麓に派出した標高七〇米余りの南北にのびた笛吹山丘陵は、古墳群の密集地帯として知られて

いるが、この北部あたりは、また縄文時代中期の遺跡でもある。遺物の採集保存されているのは、少なく遺構も明らかでないが、縄文系の石鏃や石槍なども出土している。またこの地からは、平安時代の蔵骨器もかつて出土したことがある。

出土品 石鏃・石槍（中村守男氏保管）

文
献

松尾禎作「佐賀県考古大観」(昭和三二年三月一〇日、祐徳博物館) 松尾禎作「中原村の史話伝説」
(昭和三〇年十一月三日、中原村公民館)



三養基郡

第2図

鳥栖市

弥生時代遺跡所在地

三養基郡
鳥栖市
彌生時代遺跡

一 基山町小倉
二 基山町園部
三 基山町園部
四 基山町園部
五 基山町園部
六 基山町宮浦
七 基山町小倉
八 基山町長野
九 基山町小倉
一〇 基山町宮浦
一一 北茂安村中津隈
一二 北茂安村中津隈
一三 北茂安村白壁

関屋弥生遺跡
金丸弥生遺跡
三ヶ敷弥生遺跡
中隈弥生遺跡
仁王寺弥生遺跡
片山弥生遺跡
伊勢山弥生遺跡
会田弥生遺跡
白坂弥生遺跡
玉虫弥生遺跡
中津隈弥生遺跡
千飯甕棺遺跡
北尾甕棺遺跡

一四	北	茂安村	宇土
一五	北	茂安村	板部
一六	北	茂安村	千栗
一七	北	茂安村	東尾
一八	三	根町	天建寺
一九	三	根町	西島
二〇	三	根町	西島
二一	三	根町	東津
二二	三	根町	東津
二三	三	根町	天建寺
二四	三	根町	天建寺
二五	上	峰村	牟田
二六	中	原村	西寒水
二七	中	原村	古賀
二八	中	原村	古賀
二九	中	原村	古賀
三〇	鳥	栖市	今泉町
三一	鳥	栖市	柚比町

宇土	甕棺遺跡
板部	甕棺遺跡
千栗	弥生遺跡
東尾	銅劍出土遺跡
石井	北方貝塚
本分	貝塚
か	け
經塚	貝塚
神興塚	貝塚
持丸第一号	貝塚
持丸第二号	貝塚
上米	多貝塚
西寒水	甕棺遺跡
ドン	ドン落甕棺遺跡
上地第一号	甕棺遺跡
上地第二号	甕棺遺跡
藤の木	堅穴住居跡
柚比	東方弥生遺跡

三二	鳥栖市田代本町太田	太田観音東方甕棺遺跡
三三	北茂安村石貝	六の畑甕棺遺跡
三四	上峰村切通	切通甕棺遺跡
三五	上峰村堤	四本谷弥生遺跡
三六	鳥栖市柚比町	うつろ坂甕棺遺跡
三七	中原村義原	八幡社甕棺遺跡

一、関屋弥生遺跡

種別	遺物包含地
所在地	三養基郡基山町大字小倉字関屋
概要	基山駅の北方三〇〇米、国道三号線の東側丘陵斜面にある遺跡である。現在宅地や水田となつて遺構は破壊され、明らかでないが、石器や土器など数点が出土している。
出土品	土器（基山中学校保管）

二、金丸弥生遺跡

種別	甕棺埋藏遺跡
----	--------

所在地 三養基郡基山町大字園部字金丸 (山林・畑)

概要 杓子が峰の東方に派生する低丘陵の東北端、鳥栖市との接点にある弥生式甕棺の遺跡である。付近一帯は、果樹園となっているが、一〇〇個余りの甕棺が埋蔵されていると推定される大遺跡である。なお、付近からは、三叉鉾を始め、弥生遺物が相当数出土している。

出土品 弥生式甕棺・弥生式竈・土製鋸紡車・三叉鉾・石庖丁(基山中学校保管)

三、三ヶ敷弥生遺跡

種別 甕棺埋蔵遺跡

所在地 三養基郡基山町大字園部字三ヶ敷 (山林・畑)

概要 三ヶ敷部落の南に接する低丘陵地に弥生式甕棺群がある。相当数のものが埋置されていると推定されるが、その範囲は不明である。一部は露出している。

四、中限弥生遺跡

種別 遺物散布地

所在地 三養基郡基山町大字園部字中限 (畑)

概要 鎮西限部落の南方至近にある小独立丘陵は、古墳群地帯であるばかりでなく、弥生時代の遺跡であつて

遺物が発見されている。しかし遺跡の規模や範囲等は明らかでない。
出土品 石庖丁・紡錘車（基山中学校保管）

五、仁王寺弥生遺跡

種別 遺物散布地

所在地 三養基郡基山町大字園部字岩坪（山林）

概要 鳥栖市田代町との境にある杓子が峰の東山麓に近い所に仁王寺古墳群がある。この一帯からは、弥生時

代の遺物も発見されているが、遺跡の範囲や遺構などは明らかでない。

出土品 石庖丁二個・石斧四個（基山小学校保管）

六、片山弥生遺跡

種別 甕棺埋蔵遺跡

所在地 三養基郡基山町大字宮浦字向平原四四〇（畑）

概要 基肆城跡の南東麓、鹿兒島本線の西方五〇〇米の所にある小独立丘から弥生式甕棺の破片を多数出土している。甕棺以外にも土器の散布を多少みているが甕棺の埋蔵状態などは明らかでない。

出土品 弥生式甕棺破片・こしき破片・器台破片（基山小学校・基山中学校保管）

七、伊勢山弥生遺跡

種別	遺物包含地
所在地	三養基郡基山町大字小倉字伊勢山（畑・墓地）
概要	福岡県境に接し、基山駅の東方丘陵の端近くに伊勢山神社がある。ここは伊勢山古墳郡地帯であるが、また弥生時代の遺物も出土している。遺跡の範囲や遺構は明らかでない。なお、昭和三三年夏、道路工事の土取り作業中住居跡らしいものが発見されている。
出土品	弥生式甕・磨製石庖丁・半磨製石庖丁・砥石（基山中学校保管）

八、会田弥生遺跡

種別	甕棺埋蔵遺跡
所在地	三養基郡基山町大字長野字会田（山林）
概要	基山町の最南端近い所にある今町の南、鹿兒島本線の西側に小独立丘陵がある。昭和三四年にこの丘陵の東部が道路工事の土取場として崩された時、数個の甕棺が出土した。まだ、相当数埋蔵されていると推定されるが、明らかでない。
出土品	甕棺五個（基山町公民館保管）

九、白坂弥生遺跡

種別 遺物包含地

所在地 三養基郡基山町大字小倉字白坂（畑・水田）

概要 丘陵が鹿児島本線に向って傾斜している所に白坂部落がある。その部落の西方至近の所から弥生系の遺物が出土している。遺跡の範囲や遺構は明らかでない。

出土品 石庖丁・石斧（基山小学校保管）

一〇、玉虫弥生遺跡

種別 遺物包含地

所在地 三養基郡基山町大字宮浦字玉虫基山小学校

概要 四〇数年前、校舎建築基礎工事中、現在講堂が建っている所から、弥生住居跡が発見され、土器や石器

が出土したと伝えられている。しかし、遺跡の規模や構造などは不明であり、出土遺物も散失してしまっている。

一一、中津隈弥生遺跡

種別 遺物包含地

所在地 三養基郡北茂安村大字中津隈字中津隈三九二一番地 (畑)

概要 南部の底地に舌状に伸びる標高三〇米の丘陵地で、昭和元年春に遺物が出土したものである。この付近

一帯に見られる弥生時代の代表的遺物であるが、その遺構は明らかでない。

出土品 石廬丁五個・石斧四個・たたき石一個・土器

文献 松尾禎作著「東肥前の先史遺跡」

一二、千飯甕棺遺跡

種別 甕棺埋藏遺跡

所在地 三養基郡北茂安村大字中津隈字千飯

概要 千飯の部落の丘陵地一帯は合口甕棺が多く出品する所である。国道に面するこの付近は、土が運び去ら

れた断面に甕棺の露出が数個見られる。甕棺は殆んど須玖式であり、副葬品は殆んど発見されていない。

文献 松尾禎作著「東肥前の先史遺跡」

一三、北尾甕棺遺跡

種別 甕棺埋藏遺跡

所在地 三養基郡北茂安村大字白壁字北尾 (畑)

概要 北尾の丘陵地のほぼ中央部、尾根ぞいに白壁に通ずる小道(農道)ぞいの畑が遺跡である。牛を使用し
て畑をすいていた時に、牛が甕棺に足を入れたので甕棺を発掘して調べた所、甕棺の中からクリス形銅
剣が出土した。なお、この付近は甕棺が多数包含されている所である。

出土品 クリス形銅剣(北茂安中学校保管)

文献 松尾禎作著「東肥前の先史遺跡」

一四、宇土甕棺遺跡

種別 甕棺埋藏遺跡

所在地 三養基郡北茂安村大字宇土 (山林・畑)

概要 千栗に通ずる丘陵地、南面する一帯には弥生遺跡が広く分布している。三嶽山社付近には、合口甕棺、

や箱式石棺が埋藏されている。現在土取り工事が諸処で行なわれているため、遺跡の破壊が進み、弥生
系の石斧や石鏃なども出土している。

文献 松尾禎作著「東肥前の先史遺跡」

一五、板部甕棺遺跡

種別 甕棺埋藏遺跡

所在地 三養基郡北茂安村大字板部 (畑)

概要 板部より東寒水に至る道路に面するなどらかな丘陵地は、甕棺が以前多く出土したところである。最近
は、この台地から開墾時に石斧の破片も発見されている。

一六、千栗弥生遺跡

種別 遺物散布地

所在地 三養基郡北茂安村大字千栗 (畑・社地)

概要 千栗八幡宮付近は標高三〇米～四〇米の丘陵地をなしていて、筑後川の旧河道に面する丘陵地の最南端

にあたっている。この千栗宮を中心にこの一帯に、弥生系の石器や石鏃が広く分布している。なお、この遺跡の西方は宇土弥生甕棺遺跡となっている。

出土品 弥生式土器・石器 (執行正規氏保管)

文献 松尾禎作著「東肥前の先史遺跡」

一七、東尾銅剣出土遺跡

種別 銅剣出土遺跡

所在地 三養基郡北茂安村大字東尾 (畑)

概要

大塚古墳に通ずる丘陵地で、現在は畑となっている。昭和一七年頃、銅剣が地中から単独出土している。出土の状況や共伴物等については明らかでない。

出土品

銅剣一口

文献

松尾禎作著「東肥前の先史遺跡」

一八、石井北方貝塚

種別

貝塚

所在地

三養基郡三根村大字天建寺字石井（墓地）

概要

石井部落の北方にある墓地付近が貝塚であって、今日納骨堂が建っている地点である。この地はかつて小丘陵をなしていたが、水田化され、残丘が僅かに認められるにすぎない。現在貝層は見えないが、納骨堂建立の際、貝殻や土器が出土し、埋め戻しているという。付近に貝殻や土器片の散布が僅かばかりみられる。

出土品

貝殻・土器破片

文献

松尾禎作著「佐賀県考古大観」（昭和三二年三月一〇日・祐徳博物館）松尾禎作著「東肥前の先史遺跡」

一九、本分貝塚

種別

貝塚



第3図 本 分 貝 塚

所在地	概要	出土品	文献	備考
三養基郡南茂安村大字西島字本分一七九〇番地 (畑・水田・宅地)	筑後川沿いの沖積平野に広く分布している弥生 貝塚の一つである。昭和二八年三月この貝塚の ある畑地及び宅地の一部を地下げして水田化す る作業が行なわれることになったので、緊急に 調査を実施したのである。貝層は地表下三〇厘 の所に四五厘の層をなして続いている須玖式の 単純遺跡である。なお、宅地や畑の一部にまだ 貝塚は残存している。	丹塗大型器台・丹塗壺形土器・土彈・須玖式甕 棺、その他の土器・紡績車一・石庖丁三・か き、ばい、しじみ、しし貝等の貝殻・猪、鹿、 ねずみ等の骨・桃の種(佐賀県教育委員会及び 祐徳博物館保管)	松尾禎作著「佐賀県考古大観」(昭和三二年三 月一〇日・祐徳博物館)	昭和二八年三月、県教育委員会が一部分の発掘

調査を実施した。

二〇、かけ塚

種別 貝塚

所在地 三養基郡三根村大字西島字本分一六六九番地 (宅地)

概要 佐賀・久留米間の新道路に面する江頭良一宅すぐ裏側にある貝塚で、現在宅地の一部となっている。水

田化のため、大部分は破壊され、わずかに柿の木の根元に貝層の一部を残しているにすぎない。江頭宅の東方にある水田を貝屋敷といっているもので、元来は付近一帯は広範囲の貝塚であったと推定される。

佐賀沖積平野に分布する弥生貝塚の一つで、南方至近にある本分貝塚と一連をなすものであろう。

出土品 貝殻

文献 松尾禎作著「東肥前の先史遺跡」 松尾禎作著「佐賀県考古大観」 (昭和三年三月一〇日・祐徳博物館)

館)

二一、経貝塚

種別 貝塚 (湮滅)

所在地 三養基郡三根村大字東津字松枝 (水田)

概要

松枝の二本松と呼ばれている所にあつて、この貝塚を経塚と通称していた。この地方の弥生貝塚としては最南端に位置しているが、貝塚であつた残丘を水田化のため土を除去した際に貝殻及び土器が出土した。水田の表土から二五糎以下の土を瓦製造に使用しているので、全く貝塚は姿を消し、貝塚であつたことを認めるにすぎなくなっている。

文献

松尾禎作著「東肥前の先史遺跡」

二二、神輿塚貝塚

種別

貝塚

所在地

三養基郡三根村大字東津字松枝（水田）

概要

通称「柿木雑」といわれる所にあつて、宇佐八幡宮の南側の水田地帯に位置している小丘がこの貝塚である。神輿塚とも呼ばれていて、豊前国との争乱の際、豊前より御供せし神輿を埋めたところと伝えられている。ここは現在畑地に利用されているが、貝殻は発見できず、貝塚であるかどうか甚だ疑問である。

文献

松尾禎作著「東肥前の先史遺跡」

二三、持丸第一号貝塚

種別

貝塚

所在地 三養基郡三根村大字天建寺字持丸四八四番地 (水田)

概要 佐賀沖積平野に分布する弥生貝塚の一つであって、天神と呼ばれている地域に所在している。かつて貝塚は小丘陵状を呈していたが、除去されて水田となつたため湮滅してしまつた。現在この近くの岡荒次郎氏宅の裏側や水田の畦などのごく一部に貝殻や土器片が見出されるのみである。

文献 松尾禎作著「東肥前の先史遺跡」 松尾禎作著「佐賀県考古大観」 (昭和三十二年三月一〇日・祐徳博物館)

二四、持丸第二号貝塚

種別 貝塚

所在地 三養基郡三根村大字天建寺字持丸 (水田)

概要 佐賀沖積平野に分布する弥生貝塚の一つであって持丸第一号貝塚の北方に位置している。現在持丸部落の北端に位置する岡ツマ氏宅の西側の水田の角に貝塚の断面が露出しているのが認められる。また付近

一帯は水田化され、そのために貝塚は相当に破壊されており、黒曜石の剣片や弥生式土器片が散在している。以前この遺跡から人骨が多数出土したといわれている。

出土品 貝殻 (牡蠣)

文献 松尾禎作著「東肥前の先史遺跡」 松尾禎作著「佐賀県考古大観」 (昭和三十二年三月一〇日・祐徳博物館)

二五、上米多貝塚

種別 貝塚

所在地 三養基郡上峰村大字前牟田字上米多一六四二番地 (宅地)

概要 米多丘陵地の先端に位置している弥生貝塚で、永戸市郎氏の宅地内に所在している。家の土間に貝層が

露出しており、家屋及び宅地を含めた一四〇坪の広さが貝塚であると推定される。この貝塚の保存は良好と思われるが、埋蔵状態などは明らかでない。

文献 松尾禎作著「東肥前の先史遺跡」

二六、西寒水甕棺遺跡

種別 甕棺埋蔵遺跡

所在地 三養基郡中原村大字西寒水 (畑)

概要 西寒水西方のなだらかな低丘陵地にある遺跡で、みかん園に開墾中一〇数個の甕棺を出土した。付近一

帯は、多数の甕棺の出土を見る甕棺遺跡地であって、甕棺は須玖式である。

文献 松尾禎作著「東肥前の先史遺跡」

二七、ドンドン落甕棺遺跡

種別 甕棺埋藏遺跡

所在地 三養基郡中原村大字原古賀（畑）

概要 中原駅西南方にある農業倉庫裏の小川をドンドン落と称している。この所は六部山地蔵町にわたる櫛畑が続き、住宅地になっている所で、この畑の北端にあたることから、昭和九年頃多くの弥生式甕棺が出土している。相当数の甕棺が今なお埋藏されていると思うが、その範囲などは明らかでない。

文献 松尾禎作著「東肥前の先史遺跡」 松尾禎作著「佐賀県考古大観」 （昭和三二年三月一〇日・祐徳博物館）

二八、上地第一号甕棺遺跡

種別 甕棺埋藏遺跡

所在地 三養基郡中原村大字原古賀字上地（山林・畑）

概要 上地の弁財さん山と称する標高二〇米余りの丘陵地は、弥生式甕棺の大密集地であって、相当数のものが出土しているが、副葬品は殆んど発見されていない。現在、丘陵地東部の南側が崖をなし、そこに多くの甕棺が露出している。丘陵の頂点から一米余り下った所に合口甕棺が埋没し、人骨も出土しているが、甕棺は破損し散在している。

文献 松尾禎作著「東肥前の先史遺跡」 松尾禎作著「佐賀県考古大観」 （昭和三二年三月一〇日・祐徳博物館）

館)

二九、上地第二号甕棺遺跡

種別

甕棺埋藏遺跡

所在地

三養基郡中原村大字原古賀字上地 (山林・畑)

概要

第一号甕棺遺跡と同じ丘陵の南部上峰村との境にあたる所で、付近一帯は、東部に水田地帯を有する丘陵地である。この遺跡は、第一号遺跡と一連をなすものであつて多くの弥生式甕棺が埋藏されている。殆んど須玖式甕棺であつて、副葬品は発見されていないが、道路の側などに甕棺が点々として露出している。

文献

松尾禎作著「東肥前の先史遺跡」松尾禎作「中原村上地かめ棺遺跡」(昭和二十六年三月三十一日・佐賀県史跡名勝天然記念物調査報告第一〇号) 松尾禎作著「佐賀県考古大観」(昭和三十二年三月一〇日・祐徳博物館)

三〇、藤の木竪穴住居跡

種別

竪穴住居跡

所在地

鳥栖市今泉町大字藤の木字庄屋敷跡 (畑)

概要

鳥栖駅の南方約一軒、標高七米余りの低丘陵の南端、平地との接点に位置している。耕地整理のための土取り作業中に発見された弥生時代竪穴住居跡である。この遺跡付近は泉が湧き、弥生時代住居跡として好適な場所である。

出土品

弥生式土器（基里中学校・鳥栖高等学校保管）

三、柚比東方弥生遺跡

種別

甕棺埋蔵遺跡

所在地

鳥栖市柚比町字柚比平原今町（山林・畑・水田）

概要

萩野、安永田から今町、平原、柚比にかけての低丘陵台地一帯の大遺跡で、大正二年耕地整理の際数十個の合口甕棺が出土し、その中からクリス型銅剣一口と鉄剣二口が発見された。この遺跡付近からは、石斧や石鏃、石廂丁なども発見されており、近くに製鉄址と推定される遺跡や竪穴住居跡、炭化米出土遺跡などがある。

出土品

クリス型銅剣一口（東京国立博物館所蔵）

文献

松尾禎作著「佐賀県考古大観」（昭和三十三年三月一〇日・祐徳博物館）松尾禎作「原始時代の鳥栖」

備考

（昭和三十三年一月一五日・鳥栖史談第二号）
鎌倉時代の梅尾文書に田代の永瀬正種が銅鉾を持っているとあるが、この遺跡出土と推定される。

三二、太田観音東方甕棺遺跡

種別 甕棺出土遺跡

所在地 鳥栖市田代本町字太田 (水田)

概要

低丘陵端の階段状水田中にある遺跡であって、昭和三六年一二月に石蓋甕棺一個が発見された。この石棺は現地表下約六五厘の黄褐色土層中に斜位埋置された石蓋単棺であって、弥生時代後期の小形甕棺である。副葬品及び遺骨はなく、また、この遺跡一帯については何も調査されていないが、すぐ近くに史跡田代太田古墳が存在している。

出土品 甕棺一 (県教育委員会保管)

三三、六の畑甕棺遺跡

種別 甕棺埋藏遺跡

所在地 三養基郡北茂安村大字石貝字六の畑三嶽大権現社 (山林)

概要

南方へのびた舌状丘陵台地の南端近くにあつて、昭和三七年五月、土取り工事中現地下一米五〇の所から石蓋甕棺が出土した。甕棺は、斜位埋置で、一個体分の遺体が内蔵されており、副葬品はなかった。他にも甕棺が埋藏されているかどうか不明であり、従つて遺跡の範囲も明らかでない。

出土品 須玖式甕棺一個 (県教育委員会保管)



第4図 切通甕棺遺跡

三四、切通甕棺遺跡

甕棺埋藏遺跡

種別
所在地

三養基郡上峰村字切通 (山林・畑)

概要

背振山脈の南山麓の舌状台地にある遺跡で、

国道三四号線の北側に位置している。土取り
工事が数年間続けられているが、一〇〇個を
こす須玖式甕棺が出土しており、大型甕棺か
ら中型、小型、壺形等形式は多種多様であ
り、埋置様式も雑多である。副葬品が内蔵さ
れているのは稀であり、遺跡の大半は壊滅し
てしまっている。

出土品

甕棺多数・銅剣一・貝剣三 (県教育委員会及

び祐徳博物館・県文化館保管)

杉原莊介著「農耕文化の生成」(東京堂)

文献
備考

昭和三十一年四月、県教育委員会が応急調査を

実施、人骨は九州大学に保管された。

三五、四本谷弥生遺跡

種別

甕棺埋藏遺跡

所在地

三養基郡上峰村大字堤字切通四本谷（山林・畑）

概要

背振山脈の南山麓にのびる舌状丘陵上にある遺跡であって、この遺跡のある丘陵の北部至近には、松葉丘陵遺跡・二塚山弥生遺跡・南部至近には、切通弥生遺跡がある。昭和三十五年一月、雑木林を開墾中に須玖式合口甕棺が数個出土した。なお付近からは、平安時代の蔵骨器も数個出土している。

出土品

合口甕棺一組（祐徳博物館保管）

三六、うつろ坂甕棺遺跡

種別

甕棺出土地

所在地

鳥栖市柚比町梅坂

概要

うつろ坂と通称されている低丘陵の頂上付近にある遺跡であって、雑木林を開墾して密柑園造成作業中に発見されたものである。黄褐色土層の現地表下約一米の地点に、斜位埋藏されていた合口甕棺で、上鉢下甕の須玖式である。一体分の遺体の他は、副葬品など発見されなかった。

付近に同じ須玖式の甕棺片が散布しているところからみて、この地は甕棺の群集地であったと推定され、また、この地には破壊された円墳一基も存在している。

出土品 合口甕棺（県教育委員会保管）

備考 昭和三十九年一月一六日、鳥栖市教育委員会の協力をえて、県教育委員会が応急調査を実施した。

三七、八幡社甕棺遺跡

種別 甕棺埋蔵遺跡

所在地 三養基郡中原村養原八幡社

概要 低台地上にある八幡社の境内に、弥生時代中期の須玖式甕棺片が散在している。また、相当数のものが

埋蔵されていると推定されるが、詳細は不明である。なお、古墳時代末期の小円墳が四基余りこの地に築成されている。

第5図 三養基郡 鳥栖市 古墳時代遺跡所在地



三養基郡
鳥栖市

古墳時代遺跡

一 基 山 町 小 倉
二 基 山 町 園 部
三 基 山 町 園 部
四 基 山 町 園 部
五 基 山 町 宮 浦
六 基 山 町 宮 浦
七 基 山 町 園 部
八 基 山 町 小 倉
九 基 山 町 長 野
一〇 基 山 町 小 倉
一一 基 山 町 宮 浦
一二 基 山 町 園 部
一三 基 山 町 小 倉

池の坂 古墳群
しの林 古墳群
仁王寺 古墳群
馬場 古墳群
片山 古墳群
塚原 古墳群
鎌浦 古墳群
二谷寺 古墳群
上野 古墳群
桜町 古墳群
浦田 古墳群
黒谷 古墳群
上原 古墳群

三一	三〇	二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四
基	基	基	基	基	基	基	基	基	基	基	基	基	基	基	基	基	基
山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山
町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町
宮	長	園	宮	園	宮	園	小	小	園	宮	宮	小	小	宮	園	宮	園
浦	野	部	浦	部	浦	部	倉	倉	部	浦	浦	倉	倉	浦	部	浦	部

不	一	金	御	中	仁	黒	大	丸	小	向	宮	伊	お	水	小	た	皮
動	庵	丸	仮	隈	連	目		林	松	平	脇	勢	官	上	林	ける	籠
寺	山	古	殿	古	寺	牛		古	古	原	古	山	宮	古	古	古	石
古	古	墳	古	墳	古	古		墳	墳	古	墳	墳	塚	墳	墳	墳	墳
墳	墳	群	墳	群	墳	墳	塚	群	群	群	群	群	塚	群	群	群	群

四九	四八	四七	四六	四五	四四	四三	四二	四一	四〇	三九	三八	三七	三六	三五	三四	三三	三二
中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	北	北	北	基	基
原	原	原	原	原	原	原	原	原	原	原	原	原	茂	茂	茂	山	山
村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	安	安	安	町	町
原	原	原	原	原	原	原	原	原	原	原	原	原	中	東	中	小	小
古	古	古	古	古	古	古	古	古	古	古	古	古	津	尾	津	倉	倉
賀	賀	賀	賀	賀	賀	賀	賀	賀	賀	賀	賀	賀	限		限		

姫	巖	鷹	大	山	山	山	山	山	山	山	山	山	宝	大	中	こ	丸
方	島	取		田	田	田	田	田	田	田	田	田	満		津	う	林
前	神	山		第	第	第	第	第	第	第	第	第	宮		限	ら	窯
方	社	古	塚	九	八	七	六	五	四	三	二	一	前		古	焼	窯
後	境	墳		号	号	号	号	号	号	号	号	号	方	塚	墳	窯	跡
円	内			古	古	古	古	古	古	古	古	古	後				
墳	古			墳	墳	墳	墳	墳	墳	墳	墳	墳	円				
	墳												墳				

六 七	六 六	六 五	六 四	六 三	六 二	六 一	六 〇	五 九	五 八	五 七	五 六	五 五	五 四	五 三	五 二	五 一	五 〇
鳥	鳥	鳥	鳥	鳥	鳥	鳥	鳥	鳥	基	基	基	鳥	鳥	鳥	鳥	鳥	鳥
栖	栖	栖	栖	栖	栖	栖	栖	栖	山	山	山	栖	栖	栖	栖	栖	栖
市	市	市	市	市	市	市	市	市	町	町	町	市	市	市	市	市	市
柚	柚	柚	柚	柚	柚	柚	柚	柚	園	園	園	柚	柚	柚	柚	柚	柚
比	比	比	比	比	比	比	比	比				比	比	比	比	比	比
町	町	町	町	町	町	町	町	町				比	比	比	比	比	比
柚	柚	柚	柚	柚	柚	柚	柚	柚				比	比	比	比	比	比
比	比	比	比	比	比	比	比	比				比	比	比	比	比	比

杓	杓	杓	杓	杓	杓	杓	杓	杓	杓	杓	杓	杓	杓	杓	杓	杓	杓
子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子
ヶ	ヶ	ヶ	ヶ	ヶ	ヶ	ヶ	ヶ	ヶ	ヶ	ヶ	ヶ	ヶ	ヶ	ヶ	ヶ	ヶ	ヶ
峰	峰	峰	峰	峰	峰	峰	峰	峰	峰	峰	峰	峰	峰	峰	峰	峰	峰
第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
八	七	六	五	四	三	二	一	〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一
号	号	号	号	号	号	号	号	号	号	号	号	号	号	号	号	号	号
古	古	古	古	古	古	古	古	古	古	古	古	古	古	古	古	古	古
墳	墳	墳	墳	墳	墳	墳	墳	墳	墳	墳	墳	墳	墳	墳	墳	墳	墳

八五	八四	八三	八二	八一	八〇	七九	七八	七七	七六	七五	七四	七三	七二	七一	七〇	六九	六八
鳥栖市	鳥栖市	鳥栖市	鳥栖市	鳥栖市	鳥栖市	鳥栖市	鳥栖市	鳥栖市	鳥栖市	鳥栖市	鳥栖市	鳥栖市	鳥栖市	鳥栖市	鳥栖市	鳥栖市	鳥栖市
柚比町	牛原町	牛原町	田代本町	永吉町	柚比町	柚比町	柚比町	柚比町	神辺町	柚比町	柚比町	柚比町	柚比町	柚比町	柚比町	柚比町	柚比町
平原	割石	前田	太田	赤坂	平原	梅坂	梅坂	梅坂	申堂	永田	永田	永田	永田	永田	永田	永田	永田

平	割	百	岡	劍	愛	梅	梅	庚	永	永	永	永	杓	杓	杓	杓
原	石	度	寺	宕	坂	坂	坂	申	田	田	田	田	子	子	子	子
古	古	塚	前	山	第三、四、五号	第二号	第一号	堂	第一八号	第一七号	第二号	第一号	ヶ峰第二二号	ヶ峰第二一号	ヶ峰第二〇号	ヶ峰第一九号
墳	墳	墳	後	古	古墳	古墳	古墳	塚	古墳	古墳	古墳	古墳	古墳	古墳	古墳	古墳
			円	墳												

一〇三	鳥栖市 柚比町 永田
一〇二	鳥栖市 柚比町 梅坂
一〇一	鳥栖市 柚比町 梅坂
一〇〇	鳥栖市 立石町
九九	鳥栖市 柚比町 神山
九八	鳥栖市 柚比町 神山
九七	鳥栖市 柚比町 神山
九六	鳥栖市 萱方町 都谷
九五	鳥栖市 横井町
九四	鳥栖市 田代本町 太田
九三	鳥栖市 柚比町 東十郎
九二	鳥栖市 柚比町 東十郎
九一	鳥栖市 柚比町 東十郎
九〇	鳥栖市 柚比町 東十郎
八九	鳥栖市 柚比町 東十郎
八八	鳥栖市 山浦町 谷頭
八七	鳥栖市 山浦町
八六	鳥栖市 立石町 笛吹山

子持勾玉出土遺跡	梅坂炭化米第二号遺跡	梅坂炭化米第一号遺跡	立石古墳群	神山B群古墳	神山A群第二号古墳	神山A群第一号古墳	都谷古墳群	横井古墳群	太田東方古墳	東十郎第五号古墳	東十郎第四号古墳	東十郎第三号古墳	東十郎第二号古墳	東十郎第一号古墳	山浦第二号古墳群	山浦第一号古墳群	笛吹山大古墳群
----------	------------	------------	-------	--------	-----------	-----------	-------	-------	--------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	---------

一〇四	鳥栖市田代本町太田
一〇五	鳥栖市朝日町
一〇六	鳥栖市代官町
一〇七	上峰村堤
一〇八	上峰村堤
一〇九	上峰村堤
一一〇	上峰村堤
一一一	上峰村堤
一二二	上峰村堤
一二三	上峰村堤
一二四	上峰村堤
一二五	上峰村堤
一二六	上峰村堤
一二七	上峰村堤
一二八	中原村蓑原

田代太田古墳	薄尾古墳群	代官町低溫遺跡	屋形原第一号古墳	屋形原第二号古墳	屋形原第三号古墳	鎮西山南麓第一号古墳	鎮西山南麓第二号古墳	鎮西山南麓第三号古墳	谷渡第一号古墳	谷渡第二号古墳	谷渡第三号古墳	二本松古墳	二本柳古墳群	八幡社古墳群
--------	-------	---------	----------	----------	----------	------------	------------	------------	---------	---------	---------	-------	--------	--------

一、池の坂古墳群

種別 古墳

所在地 三養基郡基山町大字小倉字池の坂（山林）

概要

白坂から基肄城跡への登山口に城戸部落がある。この部落の北東方標高一〇〇米余りの所に、横穴式石室を有する小円墳が数基存在している。江戸時代に弾圧を蒙った新宗教信者の隠れ道場として利用されていたもので、一部は代官の命で破壊されたと伝えられている。

二、しの林古墳群

種別 古墳群（湮滅）

所在地 三養基郡基山町大字園部字三ヶ敷（畑）

概要

正応寺部落の南方に東にのびた低丘陵がある。その丘陵端に数基の古墳が、大正初年頃まで残っていたという。現在壊滅してしまっており、直刀・馬具・須恵器などを出土したといわれるが、その遺物も散失してしまっている。

三、仁王寺古墳群

種別 古墳群

所在地 三養基町基山町大字國部字岩坪 (山林)

概要 鳥栖市田代町との境にある杓子ヶ峰の東山麓に近い所に吉祥寺がある。この寺の周囲一帯に一〇数基の

古墳が築成されていた。ほとんど破壊され湮滅したが、数基のものが残存している。すべて小規模の横

穴式石室を有する円墳で、開口されており、遺物も殆んど残されていない。

出土品 須恵器(基山小学校保管)

四、馬場古墳群

種別 古墳群

所在地 三養基郡基山町國部字岩坪一〇二四、三〇 (畑)

概要 杓子ヶ峰の北麓、馬場部落に接する低丘陵にある古墳群であつて、明治の初めまでは、二〇基余りの古

墳があつたといわれる。現在数基残存しているが、横穴式石室を有する小規模の円墳で、玄室の広さ二

米×三米五〇、羨道の長さ二米五〇余りである。開口され、遺物は散在している。

五、片山古墳群

種別 古墳群

所在地 三養基郡基山町大字宮浦字片山四八〇番地 (畑)

概要

基山駅の北々西方約六〇〇米の所に小独立丘があつて、現在畑地となつてゐる。この丘陵に築成された数基の小円墳があつたが、一基を除き、破壊湮滅してしまつた。残る一基も封土はなくなつて、横穴式石室が露出してゐる。附近より須恵器片が出土してゐる。

六、塚原古墳群

種別

古墳群

(湮滅)

所在地

三養基郡基山町大字宮浦字塚原九一六番地 (畑)

概要

基肄城跡の南東山麓に展げた平地にあつて、向平原と鎮西隈とのほぼ中間に位置してゐる。現在、果樹園となつてゐる所に数基の古墳があつたが、昭和の初めごろ破壊され、僅かに古墳に使用されていた石の一部が残つてゐるのみである。

出土品

須恵器 五、六個 (基山中学校保管)

七、鎌浦古墳群

種別

古墳群

(湮滅)

所在地

三養基郡基山町大字園部字鎌浦 (畑)

概要

鎌浦部落に接続する丘陵端に、明治年間まで横穴式石室を有する円墳が、一〇数基築成されていたとい

われる。現在壊滅してしまい、墳物も散失している。

八、二谷寺古墳群

種別 古墳群

所在地 三養基郡基山町大字小倉字丸林 (畑・水田)

概要 丸林部落の南方にある丘陵谷あいには築成されていた数基の古墳である。横穴式石室を有する小規模の円墳であったが、果樹園造成のため破壊されてしまった。遺物も大部分は散在してしまっている。

出土品 耳環、須恵器(基山中学校保管)

九、上野古墳

種別 古墳 (湮滅)

所在地 三養基郡基山町大字長野字上野 (畑)

概要 鳥栖市との境に近く東にのびた丘陵の突端に位置しており、東側至近の所を鹿児島本線が通っている。

横穴式石室を有する円墳で昭和二八年三月開墾作業によって破壊され、湮滅してしまっている。

出土品 銀環八・玉類多数、貝釧・直刀・鉄鏃(基山中学校保管)

文献 鏡山猛「基山町上野古墳」(昭和二九年三月三十一日、佐賀県文化財調査報告書第三集)

備考 昭和二八年三月、九州大学鏡山猛教授によって調査された。

一〇、桜町古墳群

種別 古墳群

所在地 三養基郡基山町大字小倉字桜町

概要 基山駅の北東方約八〇〇米、住宅団地の北側斜面に数基の古墳が築成されていたが、ほとんど破壊されてしまひ現在一基残存している。横穴式石室を有する小円墳で、遺物は散失してしまつてゐる。

一一、浦田古墳群

種別 古墳群

所在地 三養基郡基山町大字宮浦字浦田（畑）

概要 式内社荒穂神社の南方、標高約一五〇米余りの丘陵上に四基の古墳が南北に並んでいる。すべて横穴式石室を有する円墳で、開口されており遺物も大部分散在している。附近一帯が果樹園として開墾されて

おり、次第に破壊される運命にある。

出土品 須恵器（基山小学校保管）

一二、黒谷古墳群

種別 古墳群

所在地 三養基郡基山町大字園部字黒谷

概要 鎮西隈の西方約八〇〇米、低丘陵南端に四基の古墳がある。横穴式石室を有する円墳で開口されている

が、よく原形が保存されている。遺物は大部分散失してしまっている。

出土品 須恵器数個（基山中学校保管）

一三、上原古墳群

種別 古墳群（湮滅）

所在地 三養基郡基山町大字小倉字上原（畑）

概要 城戸部落の南方低丘陵地帯にあった数基の古墳である。明治年間まで横穴式石室を有する円墳があった

といわれるが、現在壊滅し、その遺物も伝えられていない。

一四、皮籠石古墳群

種別 古墳群（湮滅）

所在地 三養基郡基山町大字園部字皮籠石（水田）

概要

皮籠石部落の南方、東にのびた丘陵端に三基の古墳が明治の中頃まで残存していたといわれる。横穴式石室を有する円墳であつたといわれ、現在は壊滅してしまい、遺物も伝えられていない。

一五、たける古墳群

種別

古墳群

所在地

三養基郡基山町大字宮浦字たける二八〇（畑）

概要

山麓の低丘陵上に築かれている円墳で、現在三基余り残存している。内部主体は横穴式石室であるが、破壊の度がひどい。すべて開口しており、遺物は散失してしまっている。

一六、小林古墳群

種別

古墳群

所在地

三養基郡基山町大字園部字小林二三五〇～八〇（宅地）

概要

杓子ヶ峰の北麓に近い標高二二〇米余りの所に位置し、小林部落の南端にある成富氏の宅地内にある。玄室の広さ三米×二米二〇、高さ二米三〇で羨道の長さ二米五〇の横穴式石室を有する小円墳であつて、出土品は散失している。付近に二基あつた古墳は破壊され存在しない。

一七、水上古墳群

種別

古墳群

(湮滅)

所在地

三養基郡基山町大字宮浦字水上

(宅地)

概要

契り山が東にのびて低丘陵を形成しているその端近くに築成されていた数基の古墳である。すべて破壊され遺物も伝えられていない。

一八、お宮塚

種別

古墳

所在地

三養基郡基山町大字小倉字城戸二八二八

(社地)

概要

基肄城跡の東南麓、標高約七〇米の所に城戸部落がある。この部落の中央に老松社があるが、その境内に封土径七米の円墳が存在している。内部主体は横穴式石室であって早くから開口し、遺物は不明である。

一九、伊勢山古墳群

種別

古墳群

(湮滅)

所在地

三養基郡基山町大字小倉字伊勢山

(畑・墓地)

概要

福岡県境に接し、基山駅の東方丘陵の端近くに伊勢山神社がある。この神社周辺に数基の横穴式石室を有する円墳があったが、すべて破壊され湮滅してしまっている。遺物はほとんど散失しその一部が保存されている。なおこの地域からは弥生時代の遺物も出土する。

出土品

須恵器、土師器（基山中学校保管）

二〇、宮脇古墳群

種別

古墳群

所在地

三養基郡基山町大字宮浦字宮脇一七四〇（畑・永田）

概要

基肆城跡の南麓、標高一〇〇米余りの所に式内社荒穂神社がある。この神社の近くに開けている階段状の畑に数基の古墳があったが、破壊されて、現在三基残っている。玄室一米五〇×二米あまりの横穴式石室を有する小円墳で、すべて開口され、遺物も明らかでない。

二一、向平原古墳群

種別

古墳群

所在地

三養基郡基山町大字宮浦字向平原四四四（畑）

概要

基肆城跡から南東に向かってゆるやかに伸びた丘陵南端にあつて、一見前方後円墳のように見える小高

丘上にある。もと数基の小円墳がここにあったが約四〇年前に破壊され現在小石室墳が一基残存している。鉄刀、耳環、須恵器等出土したと伝えるが、散失してしまつて不明。

出土品
須恵器（基山中学校・基山小学校保管）

二二、小松古墳群

種別
古墳群

所在地
三養基郡基山町大字園部字小松三五〇〇～三八〇〇番地（畑・水田）

概要
小林古墳群の北方、小松部落のほぼ中央に位置して、小松川をはさんで南岸の斜面に六基の古墳があつたが、二基は破壊湮滅している。すべて横穴式石室を有する円墳であるが中一基は複室を有している。すべて開口していて遺物は大部分散失してしまつてい

る。すべて開口していて遺物は大部分散失してしまつてい

二三、丸林古墳群

種別
古墳群
（湮滅）

所在地
三養基郡基山村大字小倉字丸林二四二一番地（水田）

概要
基肄城跡東南麓、標高八五米の所にある古墳群である。すべて小規模の円墳で内部主体は横穴式石室であつた。約二〇基あまり存在していたと推定されるが全部破壊されて遺跡は水田となっている。遺物は

ほとんど散失し、その一部が保存されており、須恵器、土師器が部落民に保有されている。
出土品 鉄剣二口、耳環六個（基山中学校・基山小学校保管）

二四、大塚

種別

古墳

（湮滅）

所在地

三養基郡基山町大字小倉字白坂一五五三番地（畑）

概要

鹿兒島本線基山駅の北方にある白坂部落の西方至近、基山登山道の北側にあった円墳である。昭和の初め頃、道路工事の土取場となり破壊され湮滅し、遺物はほとんど散失してしまった。なお近くから石斧四個が出土している。

出土品

須恵器（基山中学校保管）

二五、黒目牛古墳

種別

古墳

所在地

三養基郡基山町大字園部字黒目牛（水田）

概要

標高約一一〇米の所に展けている階段状の水田中にある古墳であって、横穴式石室を有する円墳である。すでに開口され墳形は多少変っており副葬品は散失してしまっている。

二六、仁連寺古墳群

種別 古墳群

所在地 三養基郡基山町大字宮浦字仁連寺一七二七（山林、畑）

概要 基肆城跡の南麓やや東より標高一二〇米～一五〇米の斜面一帯に約二〇基余りの小円墳が散在していた

が戦後の開墾によって破壊されてしまった。現在一基残存しているが、横穴式石室で、開口されている。この古墳の遺物はほとんど散失してしまっている。

出土品 須恵器二〇数個（基山中学校保管）

二七、中隈古墳群

種別 古墳群

所在地 三養基郡基山町大字園部字中隈（畑）

概要 鎮西隈部落の南方至近にある小独立丘陵上に一〇数基の古墳が築成されていたが、戦後開墾のため破壊

され現在半壊古墳一基が残存しているのみである。横穴式石室を有する小円墳であって遺物はほとんど散失しまっている。

出土品 須恵器数十個（基山中学校保管）

二八、御仮殿古墳群

種別 古墳群

所在地 三養基郡基山町大字宮浦字才の上（畑）

概要 基山の山麓が南にのびて平地に没する漸移地帯の低平な丘陵に一〇数基の古墳が群在していた。しかし

一基を残して破壊され湮滅してしまった。規模の小さい小円墳で内部主体は横穴式石室であり遺物はすべて散失している。

二九、金丸古墳群

種別 古墳群（湮滅）

所在地 三養基郡基山町大字園部字金丸（畑）

概要 鳥栖市に接した標高七〇米余りの金丸丘陵一帯は、弥生式甕棺群の埋蔵地であると共に古墳群地帯でも

ある。すべて破壊されつくしているが、処々にその残骸をとどめている。古墳はすべて横穴式石室を有する小円墳であったが、遺物は散失してしまっている。

三〇、一庵山古墳

種別 古墳

所在地 三養基郡基山町大字長野字長ノ原 (畑)

概要 鳥栖市との堺界に接する長ノ原部落の北側にある「いっちゃん山」と呼ばれている低丘陵上に築成されている古墳である。石室は現地表下一米の所にあるため、構造や規模は明らかでない。

三一、不動寺古墳群

種別 古墳群

所在地 三養基郡基山町大字宮浦字不動寺 (水田)

概要 基肄城跡の南麓やや西寄り、標高約一五〇米の所にある滝光徳寺附近の水田中に数基の古墳があった。ほとんど破壊してしまつて、現在横穴式石室を有する小円墳が一基残っており、遺物も散失してしまつている。

出土品 須恵器 (基山小学校保管)

三二、丸林窯跡

種別 窯跡

所在地 三養基郡基山町大字小倉字丸林 (山林)

概要 丸林部落の北方「城の山道」のそばの斜面に築成されていた窯跡である。出土した遺瓦から見ても、基肄

城跡の瓦を焼いた窯であると推定されているが、その遺構は明らかでない。

三三、こうら焼窯跡

種別 窯跡

所在地 三養基郡基山町大字小倉字丸林二八〇番地（宅地）

概要 基肄城跡東南麓、標高七〇米の基山登山口にあつて、俗に「こうらざき」と呼んでいる。昭和二四年頃

道路工事の際に発見され調査されないままに埋められてしまった。現在石垣の下となつていて、その規模や構造などは明らかでないが、基肄城出土瓦と同じ瓦であつて注目される。

出土品 複弁瓦及び布目瓦（基山中学校・基山公民館保管）

三四、中津隈古墳

種別 古墳

所在地 三養基郡北茂安村大字中津隈（草地・畑）

概要 中津隈より西寒水に至る道路より少し入り込んだ所にある古墳で、丘陵地の大部分は陸稲、さつまいも

畑に利用されており、古墳だけが残っている。小円墳で内部主体は明らかでない。

文献 松尾禎作著「東肥前の先史遺跡」

三五、大 塚

種 別 古 墳

所在地 三養基郡北茂安村大字東尾字大塚 (畑)

概要 昭和二十四年三月、附近一帯竹林であった地域を開墾して、畑作をなしているが、この古墳だけは公有地

となり残されている。塚石を利用して開墾の記念碑が古墳上に建立してある。この地域の代表的古墳といえよう。この古墳の封土から石剣一口が発見されている。

出土品 石剣一口 (北茂安中学校保管)

文献 松尾禎作著「東肥前の先史遺跡」

三六、宝満宮前方後円墳

種 別 古 墳

所在地 三養基郡北茂安村大字中津隈 (社地)

概要 中津隈のほぼ中央の宝満宮境内にある前方後円墳で、前方部は宝満宮の神殿になり、後円部が残っている。後円部の高さ四・三米、直径二七米ある。なお境内には封土が除かれ石室の一部が残っている円墳

と思われるものもある。

文献 松尾禎作著「東肥前の先史遺跡」

三七、山田第一号古墳

種別

古墳群

所在地

三養基郡中原村大字原古賀字山田（山林）

概要

山田部落の北方は標高一〇〇米、一五〇米のなだらかな扇状地状の丘陵地で一大古墳群をなして、数年前まではなお四〇基余りが存在していたといわれるが、次第に破壊されてその数を減じている。すべて横穴式石室を有する円墳で盗掘にあい、遺物もほとんど散失してしまっている。この第一号は副室を有して、石室の全長七米五〇、玄室の広さ五米二〇×二米二〇、高さ二米二〇で、内部には観音を奉祠している。

文献

松尾禎作著「中原村史話伝説」（昭和三〇年一月三日、中原村公民館）

三八、山田第二号古墳

種別

古墳群

所在地

三養基郡中原村大字原古賀字山田（山林）

概要

山田古墳群の一つで民家のすぐ裏の雑木林の中にある古墳で、内部主体は副室を有する横穴式石室である。石室の全長五米、奥室の長さ二米二〇、高さ二米二〇、前室の長さ一米五〇、高さ一米五〇あって、内部には弘法大師、不動明王、観音の三体を安置している。

文 献

松尾禎作著「中原村史話伝説」(昭和三〇年一月三日、中原村公民館)

三九、山田第三号古墳

種 別

古 墳 群

所在地

三養基郡中原村大字原古賀字山田 (山林)

概 要

山田古墳群の一つで、雑木林の中にある横穴式石室を有する円墳である。石室内部の全長六米、玄室の長さ四米、幅二米、高さ二米である。内部には三体の仏像が安置されている。

文 献

松尾禎作著「中原村史話伝説」(昭和三〇年一月三日、中原村公民館)

四〇、山田第四号古墳

種 別

古 墳 群

所在地

三養基郡中原村大字原古賀字山田 (山林)

概 要

山田古墳群の一つで、雑木林の中にある副室を有する横穴式石室墳である。石室の全長六米六〇、奥室の広さ一米八〇×一米六〇、高さ一米七〇である。内部には三体の仏像が安置されている。

文 献

松尾禎作著「中原村史話伝説」(昭和三〇年一月三日、中原公民館)

四一、山田第五号古墳

種別 古墳群

所在地 三養基郡中原村大字原古賀字山田 (山林)

概要 山田古墳群の一つで、竹林を開いて検を植栽している所にある。横穴式石室を有する円墳で、玄室の上部が破壊されており、玄室の高さは二米二〇であるが広さは不明である。

文献 松尾禎作著「中原村史話伝説」(昭和三〇年一月三日、中原公民館)

四二、山田第六号古墳

種別 古墳群

所在地 三養基郡中原村大字原古賀字山田 (山林)

概要 山田古墳群の一つで道路のすぐそばにある。横穴式石室を有する円墳で、石室はほとんど破壊され、僅かにその一部を残すのみである。

文献 松尾禎作著「中原村史話伝説」(昭和三〇年一月三日、中原村公民館)

四三、山田第七号古墳

種別 古墳群

所在地 三養基郡中原村大字原古賀字山田 (山林)

概要 山田古墳群の一つで、雑木林の中にある横穴式石室を有する円墳である。ほとんど破壊されてしまつて

石室の一部を僅かに残しているだけである。なおこの古墳の周囲一帯には破壊された古墳の跡を多く残していて、石室の材石は多く持ち去られている。

文献 松尾禎作著「中原村史話伝説」(昭和三〇年一月三日、中原村公民館)

四四、山田第八号古墳

種別 古墳群

所在地 三養基郡中原村大字原古賀字山田 (畑)

概要 山田古墳群の一つで、みかん園のほぼ中央部にある横穴式石室を有する円墳である。玄室の側壁三個が露出しているが大半は破壊され、ただ古墳の跡をとどめているのみである。

文献 松尾禎作著「中原村史話伝説」(昭和三〇年一月三日、中原村公民館)

四五、山田第九号古墳

種別 古墳群

所在地 三養基郡中原村大字原古賀字山田 (畑)

概要

山田古墳群の一つで、みかん園の中にある横穴式石室を有する円墳である。封土はほとんど取り除かれているが石室は完全である。附近一帯の古墳は破壊され、石垣その他に転用されている。多くの古墳が築成されていた跡をとどめている。

文献

松尾禎作著「中原村史話伝説」（昭和三〇年一月三日、中原村公民館）

種別

古墳

所在地

三養基郡中原村大字原古賀字高柳（水田）

概要

高柳部落から北へ約五〇〇米の地点で標高四〇米余りの丘陵地の先端にあたる所で附近は水田地帯となっている。この古墳の所在地には、多くの古墳があつて一つの古墳群を形成しているがこの大塚がもつとも規模が大きく代表的存在で

四六、大塚



第6図 大塚

文献

ある。横穴式石室を有する円墳で、石室の全長一〇米五、副室を有する巨石使用の古墳であるが、早く盗掘されて遺物は伝存しない。
松尾禎作著「東肥前の先史遺跡」

四七、鷹取山古墳

種別

古墳

所在地

三養基郡中原村大字原古賀字古田原（畑）

概要

綾部川の上流、鷹取山東麓の扇状地は戦後開墾され畑地となり、縄文系の遺物が出土している。ここに横穴式石室を有する円墳が二基存在している。いずれも盗掘墳であって、遺物は殆んど散失してしまっている。一基は封土も殆んど取り除かれており、他の一基はよく形態を保っている。

出土品

耳環

四八、厳島神社境内古墳

種別

古墳

所在地

三養基郡中原村大字原古賀字上地厳島神社境内（社地）

概要

上地竈棺埋蔵地として知られている低丘陵地の北端に近い所に厳島神社がある。この境内の雑木林の中

に三基の古墳があるが、破壊され石室の石材まで運び出されてしまい、封土の一部が残って古墳の面影を僅かにとどめている。横穴式石室を有する小円墳であったと推定されるが、遺物も伝存されていない。

文献

松尾禎作著「東肥前の先史遺跡」

四九、姫方前方後円墳

種別

古墳

所在地

三養基郡中原村大字原古賀字姫方中原中学校庭（校地）

概要

山麓に続く低丘陵地に建てられている中原中学校の校庭にある前方後円墳で、主軸の長さ四八米、後円部の径二六米、前方部の幅三二米あり、周囲には約二米の涅がある。内部主体は、副室を有する横穴式石室であったと推定されるが、破壊されていて遺物は散失してしまっている。この丘陵地帯は古墳が多く弥生時代の竪穴式住居も発見されている所である。

文献

松尾禎作著「東肥前の先史遺跡」 松尾禎作著「佐賀県考古大観」 （昭和三七年三月一〇日、祐徳博物館）

五〇、杓子ヶ峰第一号古墳

種別

古墳群

所在地

鳥栖市柚比町大字柚比小字杓子ヶ峰 (山林)

概要

基山町境にある杓子ヶ峰を中心とする丘陵地一帯に散在する二〇数基の古墳群であつて、東に神山古墳群、西に東十郎古墳群が連なっている。第一号古墳は、杓子ヶ峰の登山口二合目附近の登山道路沿い標高一〇〇米の所にある。封土の径八米余りの小円墳で内部主体は横穴式石室で開口している。

五一、杓子ヶ峰第二号古墳

種別

古墳群

所在地

鳥栖市柚比町大字柚比字杓子ヶ峰 (山林)

概要

杓子ヶ峰古墳群の中の一つで、第一号古墳から約五米離れた雑木林の中にある。横穴式石室を有する小円墳で、石室は開口しその一部は破壊されており、遺物は散失してしまっている。

五二、杓子ヶ峰第三号古墳

種別

古墳群

所在地

鳥栖市柚比町大字柚比字杓子ヶ峰 (山林)

概要

杓子ヶ峰古墳群の中の一つで、二号古墳の西側、標高一〇〇米の線上にある。小円墳で内部主体は横穴式石室であるがまだ開口されていない。

五三、杓子ヶ峰第四号古墳

種別 古墳群

所在地 鳥栖市柚比町大字柚比字杓子ヶ峰 (山林)

概要 杓子ヶ峰古墳群の一つで、雑木林の中にあり、第三号古墳より七米西方に位置している。横穴式石室を

有する小円墳で、僅かばかり開口していて、内部をのぞくことができる。

五四、杓子ヶ峰第五号古墳

種別 古墳群

所在地 鳥栖市柚比町大字柚比字杓子ヶ峰 (山林)

概要 杓子ヶ峰古墳群の一つで、この古墳群中最南端に位置している。ほぼ完全に原形が保たれている円墳

で、内部主体は副室を有する横穴式石室である。この古墳群中最大の規模を有する代表的なものであるが遺物は散失してしまっている。なお附近に三基余りの破壊古墳の存在が認められる。

五五、杓子ヶ峰第六号古墳

種別 古墳群

所在地 鳥栖市柚比町大字柚比杓子ヶ峰 (山林)

概要 観光地杓子ヶ峰丘陵地のほぼ先端にあつて墳丘上は草地となっている。横穴式石室を有する円墳であつて、南に開口している。石室は副室を有していて、奥室の広さ三米×二米四〇、前室の広さ四米×二米三〇である。遺物は散失してしまつてゐる。

五六、杓子ヶ峰第七号古墳

種別 古墳群

所在地 三養基郡基山町大字園部字杓子ヶ峰 (山林)

概要 観光地杓子ヶ峰の頂上に通ずる小道に並んだ三基のうちの一つであつて、封土の径一〇米、高さ二米五〇の円墳である。内部主体は副室を有する横穴式石室で、石室の全長は七米余り、遺物は散失してしまつてゐる。

五七、杓子ヶ峰第八号古墳

種別 古墳群

所在地 三養基郡基山町大字園部字杓子ヶ峰 (山林)

概要 杓子ヶ峰の頂上に通ずる小道に並んだ三基の古墳の一つで第七号古墳の北側に位置している。横穴式石

室を有する円墳であるが、封土は剝奪されて石室の一部が露出している。早く盗掘にあい、遺物は散失してしまっている。

五八、杓子ヶ峰第九号古墳

種別 古墳群

所在地 三養基郡基山町大字園部字杓子ヶ峰 (山林)

概要 杓子ヶ峰古墳群の一つで、杓子ヶ峰に通ずる小道に並んだ三基の古墳の一番西側に位置している。封土

の径一六米、高さ四米の円墳で内部主体は副室を有する横穴式石室である。奥室の広さ三米×二米八〇、高さ二米七〇、前室の広さ二米×二米五〇、高さ九〇釐で南々西の方向に開口しており、遺物は散失している。

五九、杓子ヶ峰第一〇号古墳

種別 古墳群

所在地 鳥栖市袖比町大字袖比字杓子ヶ峰 (山林)

概要 杓子ヶ峰頂上、神社北側にあって杓子ヶ峰古墳群の一つである。封土の径一五米四〇、高さ四米の円墳で、内部主体は横穴式石室である。

六〇、杓子ヶ峰第一号古墳

種別 古墳群

所在地 鳥栖市柚比町大字柚比字杓子ヶ峰（山林）

概要 杓子ヶ峰古墳群の中の一つで、神社の西方に位置している。封土の径一三米、高さ四米の円墳で内部主体は横穴式石室である。封土の上方が剝奪されて玄室が現われている。標高二二〇米の所に位置している。

て古墳分布上高い地点に位置している。

六一、杓子ヶ峰第一二号古墳

種別 古墳群

所在地 鳥栖市柚比町大字柚比字杓子ヶ峰（山林）

概要 杓子ヶ峰古墳群の中の一つで、この古墳群中最北端標高二三〇米の所に位置している。松林の中にあつて

封土の径一五米、高さ四米の円墳で内部主体は横穴式石室である。

六二、杓子ヶ峰第一三号古墳

種別 古墳群

所在地
概要

鳥栖市柚比町大字柚比字杓子ヶ峰 (山林)
杓子ヶ峰古墳群中の一基で封土の径一〇米、高さ三米二〇の小円墳である。内部主体は横穴式石室であ
ろうと推定されるが、石室は開口されておらずよく原形を保っている。

六三、杓子ヶ峰第一四号古墳

種別

古墳群

所在地

鳥栖市柚比町大字柚比字杓子ヶ峰 (山林)

概要

杓子ヶ峰古墳群の中の一基で第一三号古墳の東南方に位置している。封土の径六米七〇、高さ三米の小
円墳で内部主体は横穴式石室であらうと推定されるが、開口されていない。

六四、杓子ヶ峰第一五号古墳

種別

古墳群

所在地

鳥栖市柚比町大字柚比字杓子ヶ峰 (山林)

概要

杓子ヶ峰古墳群の中の一つで、第一二号古墳とともにこの古墳群中最北端に位置している。桧林中にあ
って封土の径一・一米、高さ四米の小円墳で内部主体は横穴式石室である。

六五、杓子ヶ峰第一六号古墳

種別 古墳群

所在地 鳥栖市柚比町大字柚比字杓子ヶ峰 (山林)

概要

杓子ヶ峰古墳群中の一基で、第一五号古墳の南方に位置している。封土の径一四米六〇、高さ六米の円墳で内部主体は副室を有する横穴式石室である。奥室の広さ三米三〇×三米一〇、高さ二米で石室の全長六米七〇である。石室内に不動明王、弘法大師を奉祀しており、よく形態は保存されている。遺物は散失してしまっているが、附近には須恵器破片が散在している。

六六、杓子ヶ峰第一七号古墳

種別 古墳群

所在地 鳥栖市柚比町大字柚比字杓子ヶ峰 (山林)

概要

杓子ヶ峰古墳群の中の一つで、第一六号古墳の西方標高二〇〇米の所に位置している。封土の径一〇米、高さ四米の円墳で内部主体は横穴式石室である。開口しているが内部には土砂が推積していて規模など明らかでない。

六七、杓子ヶ峰第一八号古墳

種別 古墳群

所在地 鳥栖市柚比町大字柚比字杓子ヶ峰 (山林)

概要 杓子ヶ峰古墳群の中の一基で第一六・一七号古墳の南方に位置している。封土の径一〇米、高さ四米の

小円墳、内部主体は横穴式石室で開口しているが土砂の推積のため石室の規模は明らかでない。附近の古墳はすべて相似た小円墳である。

六八、杓子ヶ峰第一九号古墳

種別 古墳群

所在地 鳥栖市柚比町大字柚比字杓子ヶ峰 (山林)

概要 杓子ヶ峰古墳群の中の一基で、封土の径一〇米、高さ四米の小円墳である。内部主体は横穴式石室であ

って、開口しているが土砂の推積のため石室の規模などは明らかでない。

六九、杓子ヶ峰第二〇号古墳

種別 古墳群

所在地

鳥栖市柚比町大字柚比字杓子ヶ峰 (山林)

概要

杓子ヶ峰古墳群の中の一基で標高一四〇米余りの所にある。封土の径八米、高さ三米の小円墳で内部主体は横穴式石室である。開口しているが、土砂のため石室内の規模などは明らかでない。近くに第一九・第二一・第二二号の古墳が群在している。

七〇、杓子ヶ峰第二号古墳

種別

古墳群

所在地

鳥栖市柚比町大字柚比字杓子ヶ峰 (山林)

概要

杓子ヶ峰古墳群の中の一基で第二〇号古墳と小道をはさんで相接した所にある。横穴式石室を有する円墳で石室の全長五米、玄室の広さ二米、高さ一米八〇、開口していて遺物は散失してしまっている。

七一、杓子ヶ峰第二号古墳

種別

古墳群

所在地

鳥栖市柚比町大字柚比字杓子ヶ峰 (山林)

概要

杓子ヶ峰古墳群の中の一基で第一九号と第二号古墳と一群をなして雑木林中にある。横穴式石室を有する円墳で石室の長さ五米六〇、玄室の広さ二米二〇×一米七〇、高さ一米八〇、開口されていて遺物は

散失してしまっている。南方には谷深く開かれた水田がのびてきている。

七二、永田第一号古墳

種別 古墳群

所在地 鳥栖市袖比町大字永田字大平一五三一番地（山林）

概要 永田丘陵地一帯に群集している横穴式石室を有する円墳であつて、現在二七基余りのものが確認され

る。この第一号古墳は東西に走る丘陵の尾根上に一列に並ぶ古墳群の中の一基であつて、雑木林の中に存在している。封土は流出し、石室の天井石が露出しており遺物は散失しているが、附近に須恵器片が散失している。

備考 附近は密柑園に開墾されつつあるので、古墳も次第に破壊されるおそれがある。

七三、永田第二号古墳

種別 古墳群

所在地 鳥栖市袖比町大字永田字大平一二七三番地（畑）

概要 袖比町の北方に標高七〇米の丘陵地が東西の方向に舌状に延びている。その丘陵地のほぼ中央部にあつて、第一号古墳の西に位置している。この古墳の西側には数基の古墳が並んでいるが、すべて横穴式石

七四、永田第一七号古墳

種別 古墳群

所在地 鳥栖市袖比町大字永田一二二三番地（山林・原野）

概要 袖比町北方の丘陵地にある永田古墳群中、西北にある第一四号から第一七号までの一群である。すべて



第7図 永田第2号古墳出土品（子持壺）

室を有する円墳で開口している。第二号出土の鉸具、第三号出土の須恵器等の遺物が保存されている。第四号古墳近くからは、子持勾玉が出土している。

出土品 鉸具・須恵器子持壺・横

瓶・提瓶・壺等（鳥栖市中

央公民館保管）

備考 附近は密柑園として開墾

され、古墳も次第に変貌し

つつある。

横穴式石室を有する円墳で、墳丘には柿の木が植栽されており、開口していて遺物も散失している。第一七号古墳は規模大きくこの一群中の代表的存在であり、付近に須惠器片が散在している。

出土品
須惠器壺・須惠器坏

七五、永田第一八号古墳

種別
古墳群

所在地
鳥栖市袖比町大字永田（山林）

概要
永田古墳群中、第一号と第一三号と水田を距てて、北に位置している第一八号から第二六号までの一群で、標高八〇米余りの丘陵上に密集している。横穴式石室を有する円墳であるが、破壊の度がひどい。遺物の一部が保存されている。

出土品
須惠器提瓶・須惠器壺・須惠器坏（成富徳次氏保管）

七六、庚申堂塚

種別
古墳

所在地
鳥栖市神辺町大字庚申堂（山林）

概要
南東にのびた標高五〇米余りの舌状台地上の椎、櫟の林中にある前方後円墳である。主軸の長さ七二米

で、南北の方向に築成されており、後円部径三九米、高さ五米、前方部幅五米、高さ四米五〇である。埴輪円筒が出土しており、封土上には葺石が認められる。内部主体は明らかでなく、墳丘上には庚申尊が奉祠されている。

出土品

円筒埴輪（基里中学校保管）

七七、梅坂第一号古墳

種別

古墳群

所在地

鳥栖市柚比町大字梅坂（畑）



第8図 庚申堂塚出土品（円筒埴輪）

概要

梅坂の丘陵地には、広範囲にわたり古墳が点在していて、一つの古墳群を形成している。この第一号古墳は、基山町境から約一五〇米南方柚比町からの道路の東側の丘陵地にあつて、付近は茶畑と密柑園が続いている。この古墳は畑の中央に、封土が除かれ天井石が露出したまま残っているが、おそらく横穴式石室を有する円墳であつたと推定される。須恵器や馬具を出土したというが確実ではない。なお付近からは弥生式の甕棺も出土している。

文献

松尾禎作著「東肥前の先史遺跡」

七八、梅坂第二号古墳

種別

古墳群

所在地

鳥栖市柚比町大字梅坂（畑）

概要

標高約五〇米のなだらかな丘陵地のほぼ先端に位置している。この丘陵地の東西の谷には水田が開け、丘陵地は密柑園となつているため、大部分の古墳が破壊されている。この古墳だけは、一応古墳の形態をとどめているが、横穴式石室の天井石の一部は取り除かれていて、遺物も散失してしまつていて、

文献

松尾禎作著「東肥前の先史遺跡」、松尾禎作著「田代を語る」

七九、梅坂第三・四・五号古墳

種別

古墳群

所在地 鳥栖市柚比町大字梅坂 (山林・畑)

概要 梅坂古墳群の中、東南方に位置する古墳群で、現在三基の存在が確認される。密柑園として付近が開墾

されているため、古墳は次第に破壊されている。横穴式石室を有する円墳で、遺物が比較的によく保存されている。この付近からは石斧が出土しており、また炭化米包含遺跡も近くにある。

出土品 耳環・玉類・鉄鏃・鉄刀・鉾具・砥石・その他。

八〇、愛宕山古墳

種別 円墳

所在地 鳥栖市柚比町大字平原字愛宕山 (山林)

概要 小高い残丘のように見える標高五〇米の愛宕山に愛宕宮が奉祠され公園となっている。この愛宕宮の背

後に古墳が一基あるが、封土は破壊されて僅かにその名残りをとどめているにすぎず、遺物も散失してしまっている。この古墳の東方至近の所に平原古墳がある。

文献 松尾禎作著「田代を語る」

八一、劔塚

種別 古墳

所在地 鳥栖市永吉町大字赤坂 (山林)

概要

赤坂町の西南二〇〇米、東へのびた標高四五米の台地上にある前方後円墳である。主軸の長さ八八米、後円部径四五米、高さ八米、前方部幅四八米、高さ六米、鳥栖市で最大の規模を有する古墳である。封土上には葺石があり、ヘラ描文様のある円筒埴輪が発見されている。内部主体の構造は不明であり、よく墳形も保存されているが後円部は元招魂場となっていたため、少し変形している。

出土品

円筒埴輪 (成富徳次氏保管)

文献

松尾禎作著「原始時代の鳥栖」(昭和三三年一月一日、鳥栖史談第二号)

八二、岡寺前方後円墳

種別

古墳

所在地

鳥栖市田代本町字太田 (宅地)

概要

低丘陵台地に位置している太田観音の境内から西方中島氏の宅地に至る地域にある前方後円墳で、そのすぐ西方に史跡田代太田古墳がある。封土は著しく破壊されていて明らかでないが、主軸の長さ七〇メートル八〇米余りであり、内部主体は不明。昭和三六年一二月、一三六四番地の岡伝助氏の畑から人物埴輪及び円筒埴輪が出土している。

出土品

円筒埴輪・埴輪人形 (鳥栖高等学校・田代小学校・鳥栖市中央公民館・県教育委員会保管)

八三、百度塚

種別 古墳

所在地 鳥栖市牛原町字前田六八六番地（水田）

概要 牛原町の南の水田中であって、封土は除去され、石室が完全に現われている。百度塚と呼ばれている横

穴式石室を有する円墳で、石室の全長八米、玄室の長さ二米三〇、幅二米六〇、高さ二米である。牛原町の平地にある代表的古墳であるが、遺物などは保存されていない。

文献 松尾禎作著「東肥前の先史遺跡」

八四、割石古墳

種別 古墳

所在地 鳥栖市牛原町大字割石（水田）

概要 群石山南麓の低丘陵地で、牛原町の西方、四阿屋に通ずる道路より一五〇米ほど北に位置している。古

墳は水田の畦の一部になっていて、玄室の両壁は破壊されている。横穴式石室を有する円墳で副室を有しており、石室の全長五米三〇、奥室の広さ二米三〇×一米三〇、高さは一米五〇、前室は広さ三米×一米二〇であって遺物は保管されていない。

文献 松尾禎作著「東肥前の先史遺跡」

八五、平原古墳

種別 古墳

所在地 鳥栖市柚比町字平原六八番地 (畑)

概要 丘陵端の標高三〇米余りの所に位置している古墳で、西方至近には愛宕山古墳がある。この古墳は横穴式石室を有する前方後円墳ではないかと推定されるが確実でなく、かつて鉄剣が出土したといわれるが

散失している。この古墳の西方に古墳時代と推定される鉄滓出土地がある。

文献 松尾禎作著「東肥前の先史遺跡」、松尾禎作著「田代を語る」、気象クラブ研究年報(基山中学校科学部報告書) 八二二

八六、笛吹山大古墳群

種別 古墳群

所在地 鳥栖市立石町大字笛吹山 (畑)

概要 笛吹山は脊振山山麓に派生した標高七〇米余りの南北にのびた丘陵地である。ここは古墳の密集地帯であって、北部に三基、中部に二〇基、南部に六七基の存在が認められていたが、戦後の開墾によって破

壊され、今日二〇基余りを数えるにすぎなくなっている。横穴式石室を有する小円墳群であって、早く盗掘にあり、遺物はほとんど伝存していない。ここはまた縄文時代以後の各時代の遺物も包含してい

る。

出土品 須惠器・馬具・鉄剣（鳥栖市立石町中村守男氏保管）

文献 松尾禎作著「佐賀県考古大観」（昭和三年三月一〇日、祐徳博物館）、松尾禎作著「中原村史話伝説」

（昭和三〇年十一月三日、中原村公民館）

八七、山浦第一号古墳群

種別 古墳群

所在地 鳥栖市山浦町 （山林）

概要 山浦部落の西北方の山麓に水田をはさんで南北に二つの古墳群がある。第一号古墳群は東にのびている

などらかな舌状台地の北側に散在している多くの小円墳からなっている。すべて内部主体は横穴式石室であつて、早くから開口しており遺物は伝存していない。ほぼ中央にある一基は石室の全長約五米でよく保存されており、この古墳群中の代表的なものである。

文献 松尾禎作著「東肥前の先史遺跡」

八八、山浦第二号古墳群

種別 古墳群

所在地

鳥栖市山浦町字谷頭一九九四 (山林)

概要

山浦部落の西北方の山麓に水田をはさんで南北に二つの古墳群がある。第二号古墳群は、南面した丘陵地に四基現存しているが、すべて横穴式石室を有する円墳である。その中で規模の最も大きいのは、石室の全長六米五〇で、副室を有しており、奥室の広さは二米×二米三〇、高さは二米三〇である。すべて早く盗掘されていて、遺物は伝存していない。

文献

松尾禎作著「東肥前の先史遺跡」

八九、東十郎第一号古墳

種別

古墳群

所在地

鳥栖市柚比町大字東十郎一六三八ノ五番地 (山林)

概要

杓子ヶ峰古墳群の西方に位置する古墳群で、この二つの古墳群は一連をなして接続している。第一号古墳は、標高一〇〇米の榆林中であって東十郎山への入口の所に位置している。横穴式石室を有する円墳で、石室の全長四米、玄室の広さ二米二〇×一米八〇、高さ一米九〇、開口されていて遺物は散失してしまっている。

九〇、東十郎第二号古墳

種別

古墳群

所在地 鳥栖市袖比町大字東十郎 (山林)

概要 東十郎古墳群の中の一基で、第一号古墳の北側の檜林中にある。横穴式石室を有する円墳であるが、封

土は剝奪され石室の天井石も一部破壊されていて破損の度が著るしい。

九一、東十郎第三号古墳

種別 古墳群

所在地 鳥栖市袖比町大字東十郎一六三八ノ五番地 (山林)

概要 東十郎古墳群の一つで第二号古墳の一八米余り北方に位置している。横穴式石室を有する円墳で、ほと

んど破壊され石室の一部を残すのみである。

九二、東十郎第四号古墳

種別 古墳群

所在地 鳥栖市袖比町大字東十郎一六三八ノ五番地 (山林)

概要 東十郎古墳群の中の一基で、第三号古墳の北方に位置している。横穴式石室を有する円墳であるが、破壊

の度がひどく、僅かに玄室の半分位を残存しているのみであって遺物は散失してしまっている。

九三、東十郎第五号古墳

種別

古墳群

所在地

鳥栖市袖比町大字東十郎一六三八ノ五番地（山林）

概要

東十郎古墳群中の一基で、標高二二〇米の地点にある。横穴式石室を有する円墳で石室も大半は破壊されてしまい、玄室の側壁を残しているのみであり、遺物も散失してしまっている。

九四、太田東方古墳

種別

古墳

所在地

鳥栖市田代本町字太田一三〇六ノ一番地（山林）

概要

低台地をなしている本村住宅への入口付近の道路のそばにある古墳である。小円墳で、内部主体は一見、竪穴式石室のように見えるが、羨道部の破壊された横穴式石室であろうと思われる。石室壁面等には鉄丹が塗布されており、遺物は散失してしまっている。

九五、横井古墳群

種別

古墳群

所在地 鳥栖市横井町（山林）

概要

横井の東南方標高二二〇米余りの都谷より通ずる谷底平野に面した南向きの丘陵地に古墳が六基ほど並んでいる。すべて横穴式石室を有する円墳で二基を残して他は半壊状態にある。一基は石室の全長六米五〇、すべて開口していて遺物も散失してしまっている。

九六、都谷古墳群

種別 古墳群

所在地 鳥栖市萱方町字都谷（山林）

概要

都谷の池の北西方にある丘陵地に三基の横穴式石室を有する小円墳がある。一基は副室を有していて石室全長五米八〇、玄室の広さ二米八〇×二米六〇、一基は石室がほとんど破壊している。開口していて遺物は伝存していない。

九七、神山A群第一号古墳

種別 古墳群

所在地 鳥栖市柚比町字神山一四三五番地（畑）

概要

柚比堤の北側の道を西に入ると、通称神山と呼ばれる地域の南麓の南向きの斜面は、現在開墾されみか

出土品

ん園になっている。谷が深く入り込み水田が展開していた所で、今日ではみかん園になっている。この一帯は古墳の一大密集地で、東に永田古墳群、西に杓子ヶ峰古墳群と一連をなしている。この神山古墳群の東側のA群はほとんど破壊されてしまい遺物も散失してしまっている。すべて横穴式石室を有する円墳である。

壺・その他（鳥栖市曾根崎町成富徳次氏保管）

九八、神山A群第二号古墳

種別

古墳群

所在地

鳥栖市柚比町字神山一四三五番地

概要

神山古墳群は現存しているものでも二二基を数えるが破壊されているのも数多いので一大密集地域としてあげることができる。第二号古墳以下、みかん園地帯に七基、雑木林中に一五基の横穴式石室墳を数えることができる。

九九、神山B群古墳

種利

古墳群

所在地

鳥栖市柚比町字神山（山林）

概要

柚比町杓子ヶ池の北西に連なる小道に沿うた古墳群でA群の西に位置していて、高さ五〇米〜二〇〇米の山麓にある。一〇〇米付近はみかん園に開墾され古墳は次第に破壊されつつある。すべて横穴式石室を有する円墳で、早く盗掘され遺物は散失してしまっている。

一〇〇、立石古墳群

種別

古墳群

所在地

鳥栖市立石町（畑）

概要

立石部落の北方、標高一一〇米余りの山麓のなだらかな丘陵地付近には、かつては多くの古墳が存在していた。しかし密柑園として開発されたために、破壊されて、現在ほとんど残存していない。昭和三四年九月に建立された無縁塔の所も古墳の跡で付近には須恵器の破片が多く散在している。この古墳群は横穴式石室を有する小円墳群である。

文献

松尾禎作著「東肥前の先史遺跡」

一〇一、梅坂炭化米第一号遺跡

種別

遺物包含地

所在地

鳥栖市柚比町大字梅坂（畑）

概要

平原の北方約三〇〇米の所にある丘陵地が遺跡である。戦後開拓団が入植し、開墾された所で最近には密柑園となっている。現地表下四〇糎～六〇糎余りの所から炭化米が出土しており、その中に土器が僅かばかり混入しているのが認められる。

文献

松尾禎作著「佐賀県考古大観」（昭和三二年三月一〇日、祐徳博物館）、鳥栖史談

一〇二、梅坂炭化米第二号遺跡

種別

遺物包含地

所在地

鳥栖市柚比町大字梅坂六〇六番地（畑）

概要

梅坂第一号炭化米遺跡の北方一五〇米、標高約四〇米余りの丘陵地で吉村氏宅の西側にある畑の断面に炭化米の層が表われている。この地域は戦後の入植によって開墾された所である。

文献

松尾禎作著「佐賀県考古大観」（昭和三二年三月一〇日、祐徳博物館）、鳥栖史談。

一〇三、子持勾玉出土遺跡

種別

祭祀遺跡

所在地

鳥栖市柚比町大字永田（畑）

概要

永田丘陵地にある永田古墳群中の第四号古墳付近から偶然に子持勾玉一個が発見された。埋蔵状態や共

伴遺物などについては明らかでない。県内唯一例の遺物であって注目に値する。
子持勾玉一個（鳥栖市中央公民館保管）

出土品

一〇四、田代太田古墳

種別 古墳

所在地 鳥栖市田代本町字太田一三七〇・一三七三番地

概要

低丘陵の末端近くに位置していて剣塚・庚申堂・岡寺古墳の三基の前方後円墳とともに古墳群を形成している。この古墳は封土の径約五四米、高さ約四米五〇の円墳で、南に開口した三室を有する横穴式石室である。石室の全長約八米、最大部幅二米二〇、高さは奥室で三米一〇である。玄室の奥壁には赤・緑・黄・黒の顔料で各種の文様が描かれている装飾古墳である。

出土品

石室は、明治年間に開口されたと伝えられていて、出土品は散失し所在は不明である。

文献

佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告第一輯（昭和三年三月三十一日、佐賀県）、郷土田代を語る（昭和一四年一月一日、松尾禎作）、佐賀県下の文化財（昭和三十一年三月三十一日、佐賀県教育委員会）、佐賀県の文化財（昭和三十六年三月三十一日、佐賀県教育委員会）

備考

史跡。昭和三四年一二月に文化財保護委員会によって壁面の模写が実施された。

一〇五、薄尾古墳群

種別

古墳群

(湮滅)

所在地

鳥栖市朝日町字平田原薄尾 (畑)

概要

長崎本線肥前麓駅の東北方、標高三五米余りの低丘陵にあった古墳群である。昭和二九年頃からこの地は、市営農場となすためブルトーザで開墾され、二〇基余りあったと推定される古墳が破壊されてしまった。封土の径四〇五米、高さ二米余りの小円墳が数米間隔に密集していたもので、内部主体は小口積みみの竪穴式石室、二体埋葬石室が多く、中には副葬品を蔵している古墳もあり、古い形式のものとして注目されている。

出土品

倣製鏡一・勾玉四・管玉五・鎌一・のみ一・鉄斧一・鉋一・鉄剣一・鉄刀子・鉄鏃(鳥栖市中央公民館・基里中学校・神埼農業高校保管)

文献

松尾禎作著「薄尾古墳群について」(昭和三十三年一月一五日、鳥栖史談第二号)

備考

昭和三十一年一月県教育委員会で古墳群の一部の応急調査を実施した。

一〇六、代官町低湿遺跡

種別

木器出土低湿遺跡

所在地

鳥栖市代官町サロンパス工場 (工場地)

概要

昭和三三年六月、サロンバス工場拡張工事中、表土からおよそ二米に及ぶ堆積層中の低湿地からケンに類似する木器二個が発見された。一個は柄部が破損しており、一個は完備を保ち全長一米一三・刃部の長さ四四釐四・幅一七釐である。出土状況は不明であり、伴出物は須恵器が大部分であったという。

出土品

木製ケン二個（サロンバス工場保管）

文献

木下之治「佐賀県における埋蔵文化財の発掘発見の覚書」（昭和三四年三月二五日、郷土研究第九号）

一〇七、屋形原第一号古墳

種別

古墳群

所在地

三養基郡上峰村大字堤字屋形原一六五一番地（畑）

概要

古賀宅のすぐ裏にあり、この付近一帯は標高四〇米余りの丘陵地である。戦後開拓団の入植があり、昭和二年より開発された新しい開墾地である。この古墳は、小円墳であって竹藪となつて残っている。

文献

松尾楨作著（東肥前の先史遺跡）

一〇八、屋形原第二号古墳

種別

古墳群

所在地

三養基郡上峰村大字堤字屋形原一六五一ノ三三番地（畑）

概要

標高七〇米余りの丘陵地にある古墳であつて、この地は昭和二十一年の入植により、桃・みかん等が植栽されている。この地は、中西氏の開墾畑であつて、古墳は竹藪として残されている。横穴式石室を有する円墳であつて、南々東に開口し、石室内部の全長五米七〇である。玄室の長さ二米三〇、幅二米一〇、高さ一米七〇で、羨道部の幅一米三〇、羨道部には須恵器片が散在している。

出土品

須恵器（はそう）（上峰村屋形原中西正典氏保管）

一〇九、屋形原第三号古墳

種別

古墳群

所在地

三養基郡上峰村大字堤字屋形原一六五一ノ四一番地（畑）

概要

鎮西開拓団が入植している低丘陵地にある古墳群の一つであつて、道路のすぐそばにある。封土の径一・二米、高さ四米五〇、内部は副室を有する横穴式石室であつて、この古墳群中の代表的存在である。早く盗掘にあつていて、副葬品など不明である。

一一〇、鎮西山南麓第一号古墳

種別

古墳群

所在地

三養基郡上峰村大字堤字屋形原（山林）

概要

鎮西山の南麓、標高五〇米余りの丘陵地で、西方には谷底平野が展開している。松と雑木林の中にある封土の径一〇米、高さ四米の円墳である。内部主体は横穴式石室で羨道部の中央付近が破壊され、開口している。早くから開口しているため副葬品等明らかでない。

一一一、鎮西山南麓第二号古墳

種別

古墳群

所在地

三養基郡上峰村大字堤字屋形原（山林）

概要

鎮西山南麓の古墳群の一つで、松や雑木林の中にある。西方には水田が展開し、屋形原の部落も見え、封土の径一〇米、高さ四米余りの円墳で、内部主体は横穴式石室である。早くから開口しており、副葬品などは散失していて明らかでない。

一二一、鎮西山南麓第三号古墳

種別

古墳群

所在地

三養基郡上峰村大字堤字屋形原（山林）

概要

鎮西山南麓古墳群の一つで、松や雑木林の中にあり、西方には水田が展開している。封土の径一〇米、高さ四米で、他の古墳とほとんど同じ規模を有しており、内部主体は横穴式石室である。現在僅かばか

り開口しているが、以前に盗掘されているものと推定される。

一一三、谷渡第一号古墳

種別 古墳群

所在地 三養基郡上峰村大字堤字船石・谷渡一六五八番地 (畑)

概要 鎮西開拓団に属する地域でなだらかな丘陵地の松、竹林の中に存在している円墳である。内部主体は横

穴式石室で、南東の方向に築かれている。玄室は、幅二米六〇、長さ三米八〇で羨道は破壊されているのか明らかでない。

一一四、谷渡第二号古墳

種別 古墳群

所在地 三養基郡上峰村大字堤字谷渡 (畑)

概要 標高五〇米余りの丘陵地の畑地の中央にある。封土も大部分は崩され、内部主体の石室も破壊されてし

まって、ただその名残りをとどめるのみである。横穴式石室を有する円墳であったと推定されるが、規模や構造など明らかでない。

一一五、谷渡第三号古墳

種別 古墳群

所在地 三養基郡上峰村大字堤字谷渡 (畑)

概要 谷底平野のほぼ中央部にある丘陵地で、畑地として利用されているが、そのほぼ中央にこの古墳がある。

横穴式石室を有する円墳で、玄室の長さ三米四〇、幅二米三〇、南々東に開口しており、羨道付近に須恵器破片が散在している。

一一六、二本松古墳

種別 古墳

所在地 三養基郡上峰村大字堤字二本松 (山林)

概要 鎮西山への道路に面して所在している。この付近の代表的古墳である。山麓の南面する位置に築かれていて、横穴式石室を有する円墳である。石室は南西の方向にあり、その全長は七米五〇、玄室の幅二

米四〇、長さ三米三〇、高さ二米六〇である。早くから開口していて、副葬品など散失してしまっている。

一二七、二本柳古墳群

種別 古墳群

所在地 三養基郡上峰村大字堤字二本柳（水田）

概要 標高一〇〇米、谷底平野の入り込んだ山麓に散在している古墳群であつて、その中の一基は、水田の畦

のところにある。横穴式石室を有する円墳群であるが、内部主体の規模や構造は明らかでない。

一二八、八幡社古墳群

種別 古墳群

所在地 三養基郡中原村養原八幡社

概要 低平な台地上にある八幡社の境内に約四基の古墳が築かれている。封土の径約四米、高さ一米弱の小円

墳群で、一基を残して他は石室が破壊され、石材は他に転用されてしまつてゐる。

石材は小さな自然石が用いられており、護道部は退化してしまつていて、古墳時代末期の群集小円墳と考えられる。遺物などは不明であるが、弥生時代中期の甕棺片が散在していて、弥生時代の甕棺埋葬地であることも知られる。



第9図 三養基郡 鳥栖市 歴史時代遺跡所在地

三養基郡
鳥栖市

歴史時代遺跡

- 一 基山町関屋
- 二 基山町宮浦
- 三 北茂安村中津隈
- 四 基山町小倉
- 五 上峰村前牟田
- 六 鳥栖市麓山浦
- 七 中原村養原
- 八 北茂安村白壁
- 九 鳥栖市麓立石
- 一〇 上峰村堤
- 一一 中原村石井

- 関屋土塁跡
- 宮脇蔵骨器出土遺跡
- 中津隈英雄塚
- 基肆（櫓）城跡
- 塔の塚廃寺跡
- 道庵山蔵骨器出土遺跡
- 山田蔵骨器出土遺跡
- 白石蔵骨器出土遺跡
- 笛吹山蔵骨器出土遺跡
- 四本谷蔵骨器出土遺跡
- 石井経塚

一、関屋土塁跡

種別 城跡遺構

所在地 三養基郡基山町大字小倉字関屋（宅地・荒地）

概要 基山駅の北方約五〇〇米、鉄道線の両側に幅五米四〇余りの土塁跡がある。この土塁跡は「小水城」と

呼ばれており、基肆城関係の遺構ではないかと見られているが明らかでない。破壊の度がひどくその全貌は明らかでない。

二、宮脇蔵骨器出土遺跡

種別 蔵骨器出土遺跡

所在地 三養基郡基山町大字宮浦字宮脇（畑）

概要 式内社荒穂宮の北方、標高一二〇米の山腹から戦後開墾中発見されたものである。発見後再埋置された

という。発見時における埋蔵状態や壺の形態等明らかでない。

三、中津隈英雄塚

種別 信仰遺跡

所在地 三養基郡北茂安村大字中津隈字英雄塚四六一番地（水田）

概要 水田中に一坪位の荒地が残っている。そこを中心に英雄塚という地名がある。さらに南の方にも長塚という地名が水田中にある。この地域には古墳らしいものは認めることはできないので、恐らく一種の信仰的遺跡であろう。

文献 松尾禎作著「東肥前の先史遺跡」

四、基肄（椽）城跡

種別 城跡

所在地 三養基郡基山町大字小倉字丸林・大久保（山林・畑・水田・草地）

概要 六六五年に唐・新羅の来襲に備えて、太宰府都城防衛のために築かれたわが国における史上最古の朝鮮式山城である。標高四〇四米の基山とその東峰の坊住山の間を北は築堤によって結び、南部を石垣で連

結し、その延長線は四二〇〇米に及んでいる。城跡には、展望所・土塁・石垣・水門・礎石・門趾等が残存しており遺瓦、焼米等が出土している。

出土品 遺瓦

文献 日本書記・続日本紀・万葉集・肥前風土記。佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告第一輯（昭和三年三月

三十一日、佐賀県）、佐賀県下の文化財（昭和三年三月三十一日、佐賀県教育委員会）、佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告第一輯（昭和三年三月三十一日、佐賀県教育委員会）

備考

特別史跡。一部福岡県におよんでいる。

五、塔の塚廃寺跡

種別

廃寺跡

所在地

三養基郡上峰村大字前牟田字小坊所一六九六（畑）

概要

防衛庁九州地区補給所の東側にあつて、低丘陵台地の南端近くに位置している。現在塔の礎石が数個点在しているのみで、遺瓦もほとんど散失してしまっている。礎石や遺瓦からして、奈良朝寺院跡と推定されており、肥前風土記に「神埼郡寺一所」とあるのに、神埼郡東脊振村辛上廃寺跡とともに擬せられている。

文献

松尾禎作著「塔の塚廃寺址」（昭和一五年四月、佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告第七輯）

六、道庵山蔵骨器出土遺跡

種別

蔵骨器出土遺跡（湮滅）

所在地

鳥栖市麓町大字山浦字道庵山婦人刑務所構内（官公地）

概要

低丘陵地にある婦人刑務所の構内から、採土中に二個の蔵骨器が出土した。一個は所在不明となり、一個だけ保存されている。須恵質の甕で、埋蔵状態は明らかでない。

出土品

蔵骨器一個

文献

松尾禎作著「東肥前出土蔵骨器について」（昭和二九年三月三十一日、佐賀県文化財調査報告書第三輯）

七、山田蔵骨器出土遺跡

種別

蔵骨器出土遺跡（湮滅）

所在地

三養基郡中原村大字養原字山田（畑）

概要

綾部川の造成する谷の近く、山田部落北方の「まめや」と俗称する標高一五〇米余りの、南方に開けた台地にある。昭和二七年開墾中に出土したといわれる須恵質の蓋付の甕であるが埋蔵状態は明らかでない。なお、この出土地付近はかつては横穴式石室古墳群地帯であったが、ほとんど破壊されてしまった。

出土品

蔵骨器一個（佐賀大学教育学部保管）

文献

松尾禎作著「東肥前出土蔵骨器について」（昭和二九年三月三十一日、佐賀県文化財調査報告書第三輯）

八、白石蔵骨器出土遺跡

種別

蔵骨器出土遺跡（湮滅）

所在地

三養基郡北茂安村大字白壁字白石（山林）

概要

南方へのびる舌状丘陵地から出土した蔵骨器であって埋蔵状態は明らかでない。頸部打欠きの須恵質の

藏骨器である。この付近は、甕棺や箱式石棺の埋蔵地帯であつて、鳥栖市麓の笛吹山藏骨器出土遺跡の南方約一軒五の地点である。

出土品 藏骨器一個（佐賀大学教育学部保管）

文献 松尾禎作「東肥前出土藏骨器について」（昭和二九年三月三十一日、佐賀県文化財調査報告書第三輯）

九、笛吹山藏骨器出土遺跡

種別 藏骨器出土遺跡（湮滅）

所在地 鳥栖市麓町大字立石字笛吹山（畑）

概要 長崎本線の北方、標高七〇米余りの低丘陵の笛吹山中央にある古墳群地帯の一角から、昭和二三年開墾

中に出土したものである。この藏骨器は須恵質の頸部打欠きの德利状の壺であつて、埋蔵状態は明らかでない。

出土品 藏骨器一個（佐賀大学教育学部保管）

文献 松尾禎作著「東肥前出土藏骨器について」（昭和二九年三月三十一日、佐賀県文化財調査報告書第三輯）

一〇、四本谷藏骨器出土遺跡

種別 藏骨器出土遺跡

（湮滅）

所在地

三養基郡上峰村大字堤字切通四本谷 (山林・畑)

概要

脊振山脈の南山麓にのびる舌状低丘陵上にある遺跡であつて弥生墓棺の出土地付近から昭和三五年一月に約五・六個の蔵骨器が発見された。蔵骨器は、須恵質と土師質の二種類があり、壺の口を上にして地表下約二〇厘の所に埋置してあり、塊状石を周りに積み重ねてあつた。付近には、土師質の器台や高杯等の破片が散布している。

出土品

蔵骨器片(祐徳博物館保管)

文献

木下之治「佐賀県における埋蔵文化財の発掘・発見の覚書」(昭和三五年一〇月一日、郷土研究第一〇号)

一一、石井経塚

種別

経塚

(湮滅)

所在地

三養基郡中原村大字石井字大手木 (畑)

概要

三養基高等学校の東南、寒水川の断層岸の東側に低丘陵がある。この低丘陵の支脈の突端近い所の頂上に築かれていたもので、地下約一米の所に木炭に充填されて埋置されていた。刀子二口分・盒子二個分も出土したが、行方不明となっており、銅製積上式経筒も紛失してしまつてゐる。

文献

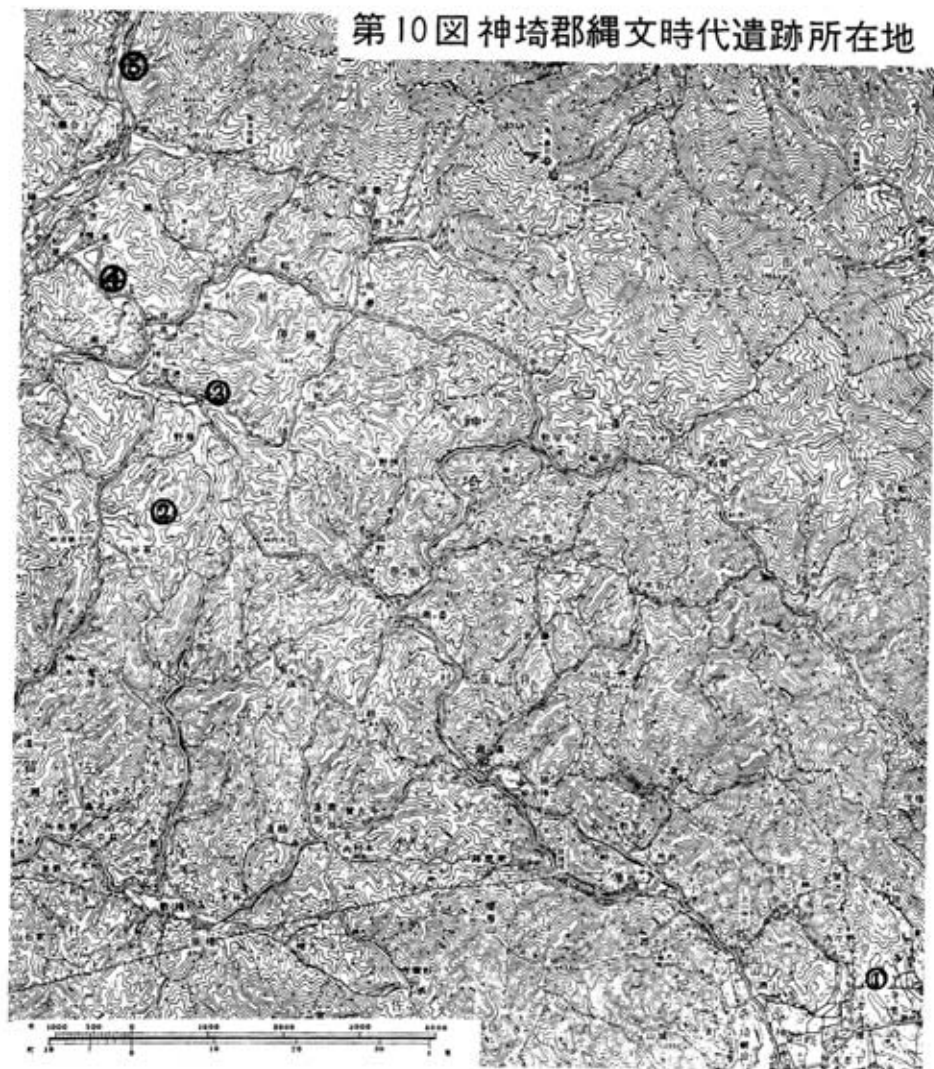
「石井の経塚」(昭和五年三月、佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告第二輯)、松尾・木下・松岡「佐賀県下出土の経塚概観」(昭和三二年五月三十一日、佐賀県文化財調査報告書第六輯)

神

埼

郡

第10図 神埼郡縄文時代遺跡所在地



神埼郡縄文時代遺跡

一	東背振村三津	戦場ヶ谷縄文遺跡
二	三瀬村藤原	狂言平縄文遺跡
三	三瀬村藤原	唐川縄文遺跡
四	三瀬村三瀬	釜頭南方縄文遺跡
五	三瀬村三瀬	宿北方縄文遺跡

一、戦場ヶ谷縄文遺跡

種別 遺物包含地

所在地 神埼郡東脊振村大字三津字寺ヶ里一五三六ノ一四番地 (畑)

概要 神埼町との境界に近い、南方にのびた山麓の台地にあつて昭和七・八年頃発見された縄文遺跡である。

約二〇〇米四方の地域から押型文土器を始め、石鏃・石斧などが多数出土していたが、現在ではほとんど見られなくなつてしまつてゐる。弥生式土器破片も多少出土してゐる。



第11図 狂言平縄文遺跡

出土品
文献

縄文土器破片（三田川中学校保管）
松尾禎作著「佐賀県考古大観」（昭和三十三年三月一日、祐徳博物館）

二、狂言平縄文遺跡

種別

遺物包含地

所在地

神埼郡三瀬村大字藤原字牟田元（水田）

概要

狂言平と呼ばれている標高四〇〇米余りの平らかな丘陵地にある遺跡であって、耕地整理中に縄文土器片が出土している。付近には、住居跡らしい遺構も見られ、土器は主として押型文である。

種別

遺物包含地

三、唐川縄文遺跡

所在地	神埼郡三瀬村大字藤原字唐川二八三番地（畑）
概要	唐川部落の藤井氏宅横の畑を耕作している際に縄文系の遺物が出土している。なお、遺跡の範囲や遺跡の状態などは明らかでなく関係土器も発見されていない。
出土品	石器・石鏃・磨製石斧

四、釜頭南方縄文遺跡

種別	遺物散布地
所在地	神埼郡三瀬村大字三瀬字釜頭（畑）
概要	釜頭南方に県道を横切って西方へ突出している舌状台地がある。この台地には、黒耀石やサヌカイドの剣片が多数散布しており、縄文系の石鏃が発見されている。土器はまだ発見されておらず遺構も明らかでない。
出土品	石 鏃
文献	七田忠志「三瀬村縄文遺跡」（昭和二十四年五月三十一日、佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告第八輯）

五、宿北方縄文遺跡

種別 遺物包含地

所在地	神埼郡三瀬村大字三瀬字宿（山林）
概要	宿と新村とのほぼ中間の県道沿い、標高約四二〇米の所にある遺跡であつて、道路によって切断された断面の土層中から曾畑式土器片と黒羅石の剝片が発見されている。この遺跡の範囲は明らかでない。
出土品	曾畑式土器（神埼町志波屋七田忠志氏保管）
文献	七田忠志「三瀬村縄文遺跡」（昭和二四年五月三十一日、佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告第八輯）

第12図 神埼郡弥生時代遺跡所在地



神埼郡弥生時代遺跡

一 神埼町唐香原
 二 神埼町荒堅目
 三 千代田村西大石
 四 千代田村高志
 五 千代田村高志
 六 千代田村姉
 七 千代田村東大石
 八 千代田村下直鳥
 九 千代田村西分
 一〇 千代田村上地
 一一 神埼町尾崎
 一二 千代田村下西
 一三 千代田村黒井十本松

唐香原遺跡
 荒堅目貝塚
 上黒井貝塚
 杏の木貝塚
 高志神社貝塚
 姉貝塚
 東大石貝塚
 下直鳥貝塚
 詫田西分貝塚
 上地貝塚
 岩田弥生遺跡
 貴別当神社弥生遺跡
 西大石弥生遺跡

二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四
東	東	神	東	東	東	三	三	三	東	三	東	三	千	神
脊	脊	埼	脊	脊	脊	田	田	田	脊	瀬	背	田	代	埼
振	振	町	振	振	振	川	川	川	振	村	振	川	田	町
村	村	仁	村	村	村	村	村	村	村	藤	村	村	村	城
大	石	比	三	石	大	田	田	田	大	原	石	田	用	原
曲	動	山	津	動	曲	手	手	手	曲		動	手	作	

松	西	広	三	西	二	二	二	二	東	小	西	片	柴	八
葉	石	門	津	二	塚	本	本	本	山	ヶ	石	合	尾	子
丘	動	弥	永	本	山	黑	黑	黑	石	倉	動	塚	弥	甕
陵	銅	生	田	杉	弥	木	木	木	棺	弥	弥	石	生	棺
弥	劍	遺	遺	遺	生	貝	第一	第一	遺	生	生	棺	遺	遺
生	銘	跡	跡	跡	遺	塚	号	号	跡	遺	遺	遺	跡	跡
遺	范				跡		弥	弥		跡	跡	跡		
跡	見						生	生						
	地						跡	跡						

一、唐香原遺跡

種別	遺物散布地
所在地	神埼郡神埼町大字竹字唐香原 一の割 (畑・水田)
概要	この遺跡は岩田から続く散布地で、付近一帯の原野・畑・水田は標高七、八米の台地となっている。地表、地下には弥生式土器を中心に縄文式土器及び須恵器の破片が稀に発見出来る。畑・水田の開墾の際にはかめ棺や土器が発掘されたということだが現存する遺物はない。
備考	昭和三十六年四月、密柑園開墾中合口竈棺一組が出土し、県社会教育課係員が調査を実施した。



第13図 唐 香 原 遺 跡

二、荒堅目貝塚

種別 貝塚

所在地 神埼郡神埼町大字本掘字荒堅目（山林・畑・水田・墓地）

概要 上荒堅目から下荒堅目へかけての一带が貝塚である。林野や畑の開墾が進んで、遺跡も次第に破壊されている。この遺跡の一部には、地表下一二種のところからさこ土となり、その層の厚さ一〇～三〇種

で、ここに貝殻や土器が含まれているところがあるといわれる。佐賀平野に分布する代表的な弥生貝塚の一つである。

三、上黒井貝塚

種別 貝塚

所在地 神埼郡千代田村大字姉字西大石一七六一ノ三番地（水田）

概要 明治初年までは、権現を祭った境内で、現在は水田となっている堀に囲まれた場所である。水田下一二

と三三種の所にある黒灰色のねばり強いさこ土の中に貝殻や弥生式土器片が含まれており、まには黒曜石も混っている。なお掘岸にも土器破片が散在している。佐賀平野に分布している弥生貝塚の一つである。

四、杏の木貝塚

種別 貝塚

所在地 神埼郡千代田村大字下板字高志一四八九・一五六〇番地（山林・畑）

概要 荒堅目から詫田までは、貝塚が南北の線に築かれているが、この貝塚もその一つである。この遺跡は水

田面より一米五〇～一米八〇高くなっており、開鑿の際貝殻や土器片が多数出土したといわれている。

この貝塚は、佐賀平野に分布する弥生貝塚の一つである。

五、高志神社貝塚

種別 貝塚

所在地 神埼郡千代田村大字下板字高志一二二九番地（社地）

概要 神社境内一帯が貝塚をなし、土器破片は全域より発見される。北西隅には、おびた・だしい・かき・やあ・かが

いなどの貝殻と土器片の層が見える。西方の堀をこした向う側の水田からは、獣骨が出土したといわれ

ており、土器片にはごく一部須恵器片も見受けられる。佐賀沖積平野に分布する弥生貝塚の中でよく原

状が保存されているものの一つである。

六、姉 貝 塚

種別 貝 塚

所在地 神埼郡千代田村大字姉字姉八四六（代表）番地（畑・水田・原野）

概要 この貝塚は、佐賀平野に分布する弥生貝塚の代表の一つであったが、相当に破壊の度が進んでいる。貝

塚は観音屋敷の他には余り発見できなくなっているし、土器片は観音屋敷の北及び西の方に散布している。昭和一二年頃、姉一二〇番地の畑の土をとっていた際地下九〇厘の所に窯跡らしきものがあつたといふことである。

七、東大石貝塚

種別 貝 塚

所在地 神埼郡千代田村大字姉字東大石一五八二（代表）番地（畑・水田）

概要 この貝塚の所在地は、現在大部分が水田となっているが、三〇年余り前までは低い台地状の原野であつた。水田の地表下一五〇四五厘の層が貝層となっていて、この貝層に弥生式土器片が含まれている。畑

割にも多くの土器と少数の貝殻、それに稀に黒曜石の破片も見える。この貝塚も佐賀沖積平野に分布している弥生時代貝塚の一つである。

八、下直鳥貝塚

種別 貝塚

所在地 神埼郡千代田村大字直鳥字下直鳥二一〇八・一二〇九 (代表) 番地

(山林・畑・水田・宅地・墓地・堀)

概要 神社境内を中心に付近一帯が遺跡であつて、貝殻・土器・石器それに人骨等が出土している。昭和三五

年の暗渠排水工事の時は、水田下四五・六〇畝の所から石庖丁・円石・土器破片などが出土し、数年前公民館横の畑から桶に入った人骨が発見されている。地表にも遺物は散布しているし、堀の底にも貝殻などが包含されている。この貝塚は佐賀沖積平野にある弥生貝塚の代表的なものの一つである。

九、詫田西分貝塚

種別 貝塚

所在地 神埼郡千代田村大字詫田字西分一七五三ノ一 (代表) 番地 (山林・畑・水田・宅地・墓地)

概要 一般に詫田貝塚と呼ばれているもので、佐賀、久留米間の道路の北側を中心に広い範囲に及んでいる。

土器・石器などは各種のものが出土しており、開墾当時は石棺も出土したといわれている。佐賀平野に分布する弥生貝塚の代表的な遺跡である。

出土品 壺・鉢・甕などの弥生式土器、石鏃・石剣・石庖丁・石斧・土彈・凹石(千代田中学校他保管)

文 献

松尾禎作「詫田貝塚の研究」(昭和七年三月、佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告第三輯)、松尾禎作著「佐賀県考古大観」(昭和三二年三月一〇日、祐徳博物館)

一〇、上 地 貝 塚

種 別 貝 塚

所在地 神埼郡千代田村大字詫田字上地五六〇番地 (水田)

概 要

上神代から北の方へ村道がのびているが、その村道の西方三〇米の水田中に小山がある。この小山が貝塚で貝殻はかきが主体をなしており、貝層中に弥生式土器や黒曜石片が含まれている。貝層は地表上八〇釐・地表下五〇釐に及んでいるが、少しずつ崩れている。佐賀沖積平野に分布する弥生貝塚の一つである。

一一、岩田弥生遺跡

種 別 遺物包含地

所在地 神埼郡神埼町大字尾崎字岩田三九六七番地他 (畑・水田)

概 要

日の隈山、早稲隈山の南方、低丘陵の南端の所が遺跡であって、その付近一帯にわたっている。地表に弥生式土器片を中心に、縄文式土器片や須恵器片もいくらか散布している。開墾中に弥生式甕棺や土器

が出土したといわれているが、遺物は保存されていない。

一二、貴別当神社弥生遺跡

種別

遺物包含地

所在地

神埼郡千代田村大字下西字上西四五番地

概要

貴別当社の境内及び周囲掘岸に多数の弥生式土器が見えている。なお、この神社を中心にして半径一〇〇米の水田下一五厘のさこ土には、多数の土器片が包含されているが、ほとんど貝殻は含まれていない。しかし、この一帯の掘底からは貝殻が若干出土する。

出土品

鉢一個・皿一個・器台一個（千代田西部小学校保管）

一三、西大石弥生遺跡

種別

遺物包含地

所在地

神埼郡千代田村大字黒井十本松字大石一五六五番地（畑）

概要

大石権現と呼ばれる伏石が一個あって、支石墓ではないかといわれている。発掘してみなければ判明しないが、この付近からは弥生式土器が数個発見されている。

文献

松尾禎作著「佐賀県下の支石墓」（昭和三〇年一月一日、佐賀県文化財調査報告書第四輯）

一四、八子甕棺遺跡

種別 甕棺埋藏地

所在地 神埼郡神埼町大字城原字六本黒木六番地 (畑)
概要 山麓の低丘陵の南端にあつて、近くを城原川が流れている。土取りの際に多数の弥生式甕棺や土器が出土したといわれ、地表にその破片が散在している、現在も合口甕棺と単棺が断面に露出しており、遺跡は相当広範囲に及んでいると思われる。なお、地表には須恵器の破片も多少散布し、稀には縄文土器片も発見される。

一五、柴尾弥生遺跡

種別 遺物包含地

所在地 神埼郡千代田村大字用作小字柴尾一六〇四・一五二一番地 (水田・草地)
概要 神社北方の水田に灌漑用土管理置作業中に、地下一米余りの所から甕棺の破片数個が出土した。また、神社南方の道路沿いには、貝層が認められる。この遺跡の更に南方には柴尾橋下流遺跡がある。

一六、片合塚石棺遺跡

種別 石棺埋藏遺跡（湮滅）

所在地 神埼郡三田川村大字田手字吉野ヶ里四本杉二五五三番地（畑）

概要 三田川村吉野ヶ里丘陵台地の中央標高約一五米の所にある。この台地一帯は、箱式石棺及び甕棺の群集

墓地で弥生系の石廬丁・石斧なども出土している。昭和二九年にこの石棺は発掘されたもので精巧な箱式石棺である。

一七、西石動弥生遺跡

種別 遺物散布地

所在地 神埼郡東背振村大字石動字西石動三五〇八ノ三番地（畑）

概要 西石動部落の西側にのびている山麓の斜面一帯にある西石動古墳群地帯から、弥生時代の遺物が出土し

ている。遺跡の範囲や埋藏状態などは明らかでない。

出土品 弥生式土器・磨製石斧

一八、小ヶ倉弥生遺跡

種別 遺物包含地

所在地 神埼郡三瀬村大字藤原字小ヶ倉一八〇七番地 (山林)

概要 平松部落の東方背振村境近くで、付近は低い山地に囲まれた平坦部である。林道を作る際に弥生式甕が

一個出土し、石斧も出土しているが、遺構は明らかでない。

出土品 土器の底部だけ存在している。

一九、東山石棺遺跡

種別 石棺埋藏遺跡

所在地 神埼郡東脊振村大字大曲字大塚ヶ里瀬ノ尾一七五一ノ一番地 (山林)

概要 三田川村との村境に近く横田住宅と鳥ノ隈住宅とに挟まれたゆるやかな台地の山林中にある。箱式石棺

が二個出土しているが、他にまだ埋藏されているかどうかは不明である。

二〇、二本黒木第一号弥生遺跡

種別 遺物包含地

所在地 神埼郡三田川村大字田手字二本黒木二二〇三番地 (畑)

概要 吉野ヶ里丘陵台地の南西地先、標高約一〇米余りの所で付近一帯には弥生時代の石器、甕棺などが埋藏されている。畑を耕作中、地下一米位の所から弥生系の遺物が出土しているが、その遺構は明らかでない。

い。

出土品 石斧・石庖丁・土彈（各一個）

二一、二本黒木第二号弥生遺跡

種別 遺物包含地

所在地 神埼郡三田川村大字田手字二本黒木西畑二三四番地（畑）

概要 吉野ヶ里甕棺・石棺埋藏弥生遺跡の所在する吉野ヶ里丘陵台地の西南端に近い標高約一〇米にある遺跡である。昭和二年二月密柑園造成中、地下一米余りの地点から弥生系の遺物が出土している。出土状

況や遺構は明らかでない。

出土品 甕棺・石斧・石庖丁・石鏃

二二、二本黒木貝塚

種別 貝塚

所在地 神埼郡三田川村大字田手字二本黒木西畑二三四番地（畑）

概要 弥生遺跡が広い範囲に分布している吉野ヶ里丘陵台地の南西端に近い標高一〇米余りの所にある。地下一米の所から貝殻とともに弥生系の遺物が出土している。貝殻は相当豊富に埋藏されているといわれる

が、貝塚の範囲は明らかでない。

出土品

石斧・石庖丁・石鏃・貝殻

二三、二塚山弥生遺跡

種別

石棺・甕棺埋藏遺跡

所在地

神埼郡東背振村大字大曲字松葉二塚山

概要

背振山脈の南山麓にのびる舌状低丘陵上にある遺跡で、松葉丘陵遺跡の至近の所にある。昭和三四年一〇月、開墾中に箱式石棺が出土し、石棺中から鏡及びガラス小玉数個が発見された。なお付近から甕棺六組・箱式石棺四個が出土していたと推定され、須恵器二個体分、土師器一個分の破片も発見された。後漢の獸幣鏡一面（一部に欠損あり、銘は「尚方作意《真》大《好》上有《仙》人不知老渴飲《玉》泉飢《食》棗」とある。）

出土品

二四、西二本杉遺跡

種別

住居跡

（湮滅）

所在地

神埼郡東背振村大字石動字西石動西二本杉二八一三番地（畑）

概要

南にのびた舌状丘陵の間に開けた階段状水田地帯に、僅か三〇〇平方米足らずの石塚と通称される畑が

出土品

あったのを昭和三十七年一月に水田化するため地下げ作業中発見された遺跡である。弥生時代後期の埴を主体として、弥生中期の須玖式土器片や土師器、須恵器片も若干出土し、磨製石斧一個も発見されている。暗灰色土層が北方の水田下まで延びていて、住居跡と推定されるが、この畑の部分は既に破壊されて、その構造は明らかでない。

磨製石斧一・弥生式後期埴四・土師高杯一・土器片（須玖式土器・伊佐座式土器・土師器・須恵器）若干（佐賀県教育委員会保管）

二五、三津永田遺跡

種別

甕棺遺跡

（湮滅）

所在地

神埼郡東背振村大字三津字永田（畑）

概要

背振山系の南山麓の舌状低丘陵地帯にある弥生式甕棺の群集地である。昭和二七・二八年の土取り工事によって遺跡は破壊され、多数の甕棺や人骨の他に、内行花文明光鏡・双禽鏡・流雲文獣帯鏡・銅鏤・素環頭太刀・鉄剣・鉄釧・ガラス製の管玉や小玉・貝釧・土製の勾玉や管玉等が発見された。弥生時代の重要遺跡として注目されている。

出土品

甕棺及び人骨（九州大学医学部保管）、内行花文明光鏡（東背振村多伊良寿一氏保管）、獣帯鏡及素環頭太刀（鹿島市祐徳博物館保管）、その他の遺物（神埼町志波屋七田忠志氏保管）

文献

七田忠志「東背振村三津の石蓋甕棺と内行花文明光鏡」（佐賀県文化財調査報告書第二輯）、坪井清足

備考
・金関恕「肥前永田遺跡弥生式甕棺伴出の鏡と刀」(史林第三七卷第二号)、金関丈夫「人種の問題」(日本考古学講座第四卷——河出書房刊行)、牛島陽一「佐賀県東脊振村三津遺跡出土弥生式時代人類の人類学的研究」(人類学研究第一卷・第三号・第四号)
内行花文明光鏡——佐賀県重要文化財指定。この遺跡は県教育委員会、七田忠志・坪井清足・金関恕諸氏等により部分的調査が実施された。

二六、広門弥生遺跡

種別
甕棺・石棺埋蔵遺跡

(湮滅)

所在地
神埼郡神埼町大字仁比山小字小淵

(密柑園)

概要

小淵部落の東方丘陵端、標高七〇〜八〇米の地点にある遺跡で、普通に広門さんと称されているところにある。昭和三三年開墾中、多数の甕棺と箱式石棺が発見された。箱式石棺は二個で、一個は長さ一米七〇・幅六〇㎝・三三㎝・深さ二〇㎝で、石敷床、鉄刀子一個と一個体分の遺体が発見された。他の一個からは鉄剣一口が出土している。甕棺は須玖式で、副葬品は発見されていない。

二七、西石動銅剣鎔範発見地

種別
銅剣鎔範発見地

所在地

神埼郡東脊振村大字石動字西石動（宅地）

概要

山麓にある民家から、クリス型銅剣鎔范が発見されている。これは恐らくこの民家の近くから出土したものであると推定されるが、その出土地は明らかではない。この鎔范は表裏に彫り込みがあつて、上半分が欠失している。

出土品

クリス型銅剣鎔范一個（京都大学保管）

二八、松葉丘陵弥生遺跡

種別

甕棺埋藏遺跡

所在地

神埼郡東脊振村大字大曲字松葉（畑）

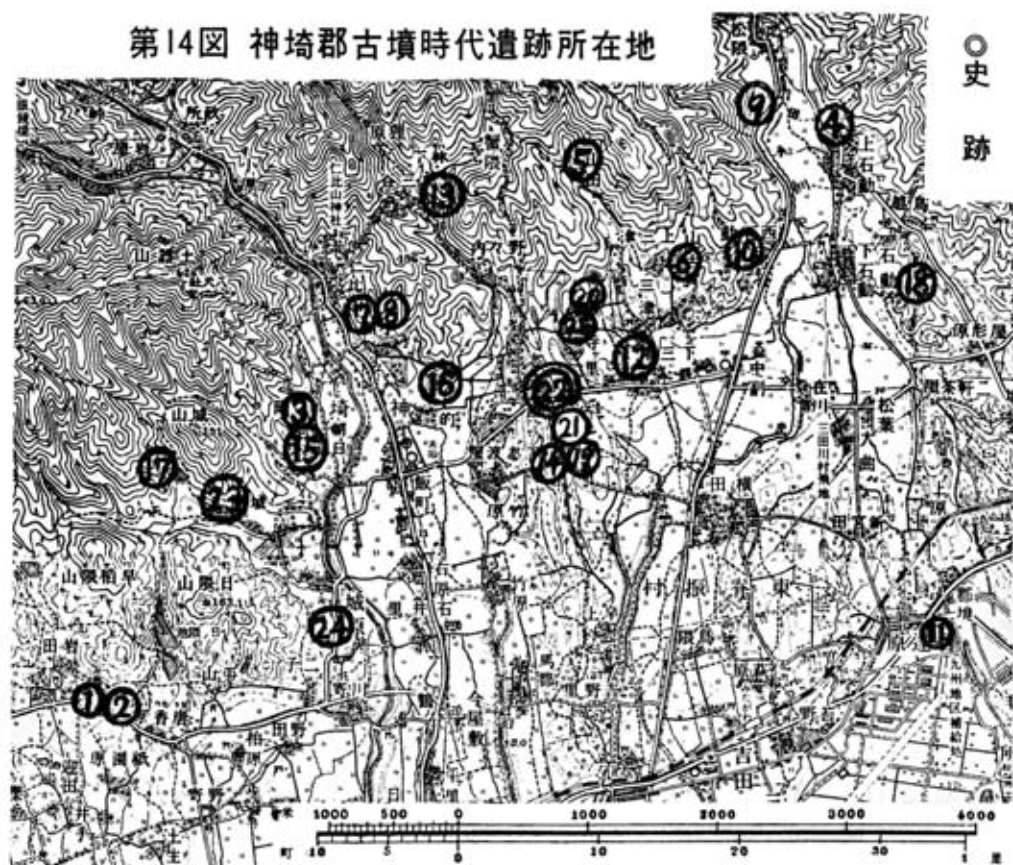
概要

脊振山脈の南山麓の舌状低丘陵上にある遺跡で、昭和三四年二月、開墾中、偶然に弥生式甕棺が発見されたものである。甕棺は垂直に近い斜位埋置の須玖式甕棺で破砕された甕棺片を蓋に用いた特色のあるものであつた。副葬品はなく人骨も残っていなかった。この近くからは以前数個の甕棺が出土したことがあるという。

文献

木下之治「佐賀県における埋藏文化財の発掘発見の覚書」（昭和三五年一〇月一日、郷土研究第一〇号）

第14図 神埼郡古墳時代遺跡所在地



神埼郡古墳時代遺跡

一 神埼町 岩田天神尾
 二 神埼町 尾崎
 三 神埼町 城原
 四 東脊振村 石動
 五 東脊振村 三津
 六 東脊振村 三津
 七 神埼町 的
 八 神埼町 的
 九 東脊振村 松隈
 一〇 東脊振村 石動
 一一 三田川村 吉田
 一二 東脊振村 三津

天神尾古墳群
 丸山古墳
 朝日古墳
 山田谷古墳群
 山田古墳群
 妙見社古墳
 花浦古墳群 第一号墳
 花浦古墳群 第二号墳
 運田山古墳群
 西石動古墳群
 目達原古墳群
 五ノ十古墳

一三	神	埼	町	志	波	屋
一四	神	埼	町	志	波	屋
一五	神	埼	町	城	原	
一六	神	埼	町	志	波	屋
一七	神	埼	町	城	原	
一八	東	脊	振	村	石	動
一九	東	脊	振	村	三	津
二〇	東	脊	振	村	三	津
二一	神	埼	町	志	波	屋
二二	神	埼	町	志	波	屋
二三	神	埼	町	城	原	
二四	神	埼	町	城	原	
二五	東	脊	振	村	三	津

三	谷	大	古	墳	群				
志	波	屋	開	拓	団	地	古	墳	群
朝	日	西	方	古	墳	群			
的	北	方	墓	地	内	古	墳		
猿	嶽	大	古	墳	群				
東	山	古	墳						
下	三	津	西	前	方	後	円	墳	
浦	田	古	墳						
志	波	屋	開	拓	団	地	古	墳	
伊	勢	塚							
城	山	石	棺	遺	跡				
六	本	黒	木	遺	跡				
戦	場	古	墳						

一、天神尾古墳群

種別 古墳

所在地 神埼郡神埼町大字尾崎字岩田天神尾四六三七の五〇番地他 (畑)

概要

早稲隈山南麓の丘陵端に一〇基余りの古墳が築成されている。すべて横穴式石室を有する円墳であつて、開口している。開墾のため次第に破壊されて、湮滅しつつあり、副葬品は何も保存されていない。

二、丸山古墳

種別

古墳

所在地

神埼郡神埼町大字尾崎一三七一ノ一・一三七一ノ二番地

概要

早稲隈山の南方、丘陵端に接して築かれている円墳で、封土の一部は密柑園となり墳丘上は墓地となっている。内部主体は明らかでないばかりでなく、古墳ではないという人もある。

三、朝日古墳

種別

古墳

(湮滅)

所在地

神埼郡神埼町大字城原字朝日三九五〇番地 (宅地)

概要

城原川西方約一〇〇米、山麓の丘陵端に位置していて、朝日部落の梅野氏宅地内の西隅に円墳があつたのを戦時中に破壊したもので規模・構造は不明である。石室内から約五〇個余りの須恵器が出土したといわれ、その大部分が保存されている。

出土品

各種の須恵器 (神埼町城原梅野久雄氏保管)

四、山田谷古墳群

種別 古墳群

所在地 神埼郡東脊振村大字石動字上石動四本杉一〇七三番地 (山林・畑)

概要 上石動部落の西北約五〇米、標高約六〇米余りの山麓にある古墳群である。大小九基の円墳が散在して

いるが、最大のは封土の径二・二米・高さ一二米である。内部主体は巨石を用いた横穴式石室で最大のもものは石室の全長九米一〇・玄室の幅四米・高さ三米である。殆んど盗掘にあつていて遺物は散失している。

五、山田古墳群

種別 古墳群

所在地 神埼郡東脊振村大字三津字山田二四九八ノ一 (畑)

概要 標高一三〇米余りの山麓にある山田部落の周辺に散在している一〇数基の古墳群である。封土の径七

米、高さ三米五〇余りの小円墳群であつて、内部主体は巨石を使用した横穴式石室である。すべて盗掘にあつて遺物は散失しているが鉄製太刀や鉄製馬具などが出土したという。

六、妙見社古墳

種別 古墳

所在地
概要

神埼郡東脊振村大字三津字山古賀二二八ノイ (山林)
南山麓の標高七〇米余りの低丘陵地に位置していて背後に妙見社がある。封土の径九米五〇、高さ四米と、径五米、高さ二米の二基の円墳で、内部主体は横穴式石室である。共に盗掘にあつて、遺物は散失しており、封土は次第に破壊されつつある。

七 花浦古墳群第一号墳

種別

古墳群

所在地

神埼郡神埼町大字的小淵一二九七ノ一 (山林)

概要

小淵部落の東北方、山麓に近い丘陵斜面にある。この地は古墳群地帯であつて、現在三〇基余りの存在が認められる。この第一号墳の近くの四基中二基は三〇数年前発掘され、鉄刀や人骨が出土したという。この第一号墳は径七米・高さ三米の円墳、長さ四米六〇の石室を有する巨石を使用した横穴式石室である。

八、花浦古墳群第二号墳

種別

古墳群

所在地

神埼郡神埼町大字的小淵一二六三番地 (山林・畑)

概要

小淵部落の東北方、山麓に近い丘陵斜面にある古墳群中、最大の規模を有するものである。この古墳の

内部主体は、三室を構成する巨石使用の横穴式石室で、石室全長は八米六〇の円墳である。早く盗掘にあり、遺物は保存されていない。他の古墳は横穴式石室を有する小円墳ですべて開口している。

九、運田山古墳群

種別

古墳群

所在地

神埼郡東脊振村大字松隈字松隈原ノ前二三八ノ

概要

一一（畑）

西石動、松隈両部落のほぼ中間、標高約五〇米の山麓台地の畑の中に三〇米余りの間隔で四基の円墳が築かれている。封土の径一二米、高さ五米のものが最大で内部主体はすべて横穴式石室である。すべて開口しており、遺物は散失してしまっている。



第15図 運田山古墳群

一〇、西石動古墳群

種別 古墳群

所在地 神埼郡東脊振村大字石動字西石動三五〇八ノ三 (畑)

概要 西石動部落の西側にのびている山麓の斜面一帯に一〇基の古墳が築かれていたが、昭和三十三年密柑園造成のための開墾により大部分が破壊された。封土径一〇米四〇、高さ二米六〇を最大に径六米、高さ一米五〇を最小とする規模の小さい円墳で内部主体は巨石を用いた横穴式石室である。殆んど盗掘にあり開口しており、遺物は散失しているが、一基処女墳が残っている。

出土品 須恵器提瓶・須恵器長頸壺他・鉄製太刀

文献 木下之治「佐賀県における埋蔵文化財の発掘発見の覚書」(昭和三十四年三月、郷土研究第九号)

一一、目達原古墳群

種別 古墳群

所在地 神埼郡三田川村大字吉田字目達原 (補給処団地)

概要 目達原低丘陵地にあった大小一二基余りの前方後円墳及び円墳からなる古墳群であって、筑紫米多國造都紀女加王の墳墓もこの中に含まれていた。昭和一七・一八年軍の飛行場建設に当って破壊されたが、

都紀女加王の墳墓は、上峰村に縮図模型を造り、遺物の大部分を再埋葬してある。遺跡は現在、目達原補給処となり、近くに円墳一基が残存している。

文 献

松尾禎作「目達原古墳群調査報告」(昭和二五年三月三十一日、佐賀県史跡名勝天然記念物調査報告第九輯)、松尾禎作「佐賀県考古大観」(昭和三二年三月一〇日、祐徳博物館)

一二、五ノ十古墳

種 別

古 墳

所在地

神埼郡東脊振村大字三津字下三津西(永田)一三四八ノヌ (畑)

概 要

国立肥前療養所の東北方、山麓端の低丘陵台地の中央部にある円墳で、封土の径二五米、高さ五米の比較的規模の大きなものである。内部主体は不明であるが、既に盗掘にあつていといわれる。近くから箱式石棺が出土している。

一三、三谷大古墳群

種 別

古 墳 群

所在地

神埼郡神埼町大字志波屋字三谷三一三三番地 (畑)

概 要

県史跡伊勢塚の北方約二軒、三面から山麓が迫ったところに三谷部落がある。この三谷部落の周辺に約五〇基余りの円墳が存在していたが、開墾によって破壊され、現在二〇基余りが開口して残存している。すべて横穴式石室であり遺物は散失してしまっている。

一四、志波屋開拓団地古墳群

種別

古墳

(湮滅)

所在地

神埼郡神埼町大字志波屋字志波屋開拓団地

(畑)

概要

東脊振村三津の永田遺跡南方約五〇〇米の吉野ヶ里丘陵台地の一部で、開拓地内にあつた高さ約二米余りの封土を有する三基の円墳である。内部主体は、側壁が各一個の板石で築かれた長さ二米五〇、幅一米、深さ一米の石室で、地山の上に築かれていた点から見て、一種の竪穴式石室であろう。開壟中ブルトーザーで破壊され、副葬品は不明である。

出土品

人骨

一五、朝日西方古墳群

種別

古墳群

所在地

神埼郡神埼町大字城原字朝日二八七九番地

(山林)

概要

猿嶽大古墳群の東北方に当る標高約二〇米の丘陵台地上の松林の中にある。横穴式石室を有する円墳五基が点在しているが、規模の最大のもは封土の径一六米、高さ三米五〇で石室の全長七米八〇を計る。巨石が用いてあり、玄室の側壁が三段積みになっているのがこの古墳群の特徴である。すべて開口されており、遺物は散失してしまっている。

一六、的北方墓地内古墳

種別 古墳

所在地 神埼郡神埼町大字志波屋字志波屋（墓地）

概要 的部落の北方約五〇米、山麓に近く小台地が形成され墓地となっている。この墓地の一角に円墳がある

が既に開口し遺物は明らかでない。封土は径一〇米、高さ六米、内部主体は横穴式石室で石室全長六米の巨石墳である。

一七、猿嶽大古墳群

種別 古墳群

所在地 神埼郡神埼町大字城原字北外二七二一ノ七（畑）

概要 日の隈山・早稲隈山の北側に開けている谷底地の東西約五〇〇米の間に築成されている大古墳群であつて、五〇基以上のものが群在していたが殆んど破壊され、付近には須恵器片が散在している。現在一〇

数基のものが残存しているが、すべて横穴式石室を有する小円墳で石室は巨石をもって構築されており開口している。

一八、東山古墳

種別 古墳

所在地

概要

神埼郡東脊振村大字石動小字下石動二本松二〇二二ノ一（山林）
下石動部落の東方約三〇〇米の双塚山に通ずる標高約四〇米の丘陵台地にあつて、付近一帯は現在開墾が行なわれている。封土の径約二〇米、高さ八米の円墳で内部主体は横穴式石室である。石室は巨石をもつて構築されており、全長一〇米、東脊振村最大の古墳である。既に盗掘にあり、遺物は散失してしまっている。

一九、下三津西前方後円墳

種別

古墳

所在地

概要

神埼郡東脊振村大字三津字永田（下三津西）一六〇番地（山林）
国立肥前療養所内の西側、三津永田遺跡の南方一〇〇米の丘陵台地の中央部の松林の中にある。全長五二米、後円部の高さ四米で後円部の石室は盗掘され石材もすでに掘り取られて僅か五個余りを残すのみである。東脊振村唯一の前方後円墳であるが、破壊の度がひどく、遺物も散失してしまっている。

二〇、浦田古墳

種別

古墳

所在地

概要

神埼郡東脊振村大字三津字浦田一五五七番地（山林）
寺ヶ里部落の北東部に当る山麓の斜面に築かれた小円墳である。内部主体は、横穴式石室であつてす

に開口しており、遺物は散失している。

二一、志波屋開拓団地古墳

種別 古墳

所在地 神埼郡神埼町大字志波屋字志波屋開墾団二〇〇

一番地（畑）

概要 国立肥前療養所西方の低丘陵上にある円墳で、

封土の径一〇米、高さ四米、内部主体は横穴式石室となっている。石室の全長五米で、既に開口され遺物は残存しない。この古墳の近くに県指定の伊勢塚前方後円墳がある。

一二、伊勢塚

種別 古墳

所在地 神埼郡神埼町大字志波屋字志波屋

（山林・畑）

概要 山麓の低丘陵にある前方後円墳で、南北の方向に



第16図 伊勢塚

築成されている。前方部と後円部のくびれ目を切断して県道が通り、前方部は畑となっていて相当に衰貌している。主軸の長さ七八米、前方部の幅二八米、後円部径三八米の県内屈指の大前方後円墳である。後円部にある横穴式石室は、長さ一六米七〇、羨道の発達した巨石積みで、奥壁にはかつて彩色文様があつたという。

早くから開口されていたため石室内部からの出土品なし。封土より埴輪片、土師器片、須恵器片等が発見されている。

文献

七田忠志「伊勢塚について」(仁比山公民館報第三六・三七号)、佐賀県下の文化財(昭和三十一年三月三十一日、佐賀県教育委員会)、佐賀県の文化財(昭和三十六年三月三十一日、佐賀県教育委員会)

備考

佐賀県史跡

二三、城山石棺遺跡

種別

石棺埋藏遺跡

所在地

神埼郡神埼町字城原 (畑)

概要

日の隈山の北にある城山と日の隈山との間にある谷あいには、古墳の大密集地帯である。この谷あいに面する城山の南麓に石棺群があり、一個からは鉄刀、鉄鏃等が出土したといわれる。殆んど破壊湮滅され、遺物は再埋葬してある。すべて板石囲いの箱式石棺である。

出土品

鉄刀・鉄鏃

二四、六本黒木遺跡

種別 遺物包含地

所在地 神埼郡神埼町大字城原字六本黒木（畑・水田）

概要 日の隈山の東山麓と城原川との間にある低平な台地を昭和三五年八月頃水田化するための作業中発見された遺跡である。地表に黒耀石の剝片や土器片が散在している。土器は大半が古墳時代に属する土師器

であるが、平安時代・鎌倉時代のものも含んでいる。遺構は明らかでない。

出土品 土師器（器台・埴・皿等）（県教育委員会保管）

二五、戦場古墳

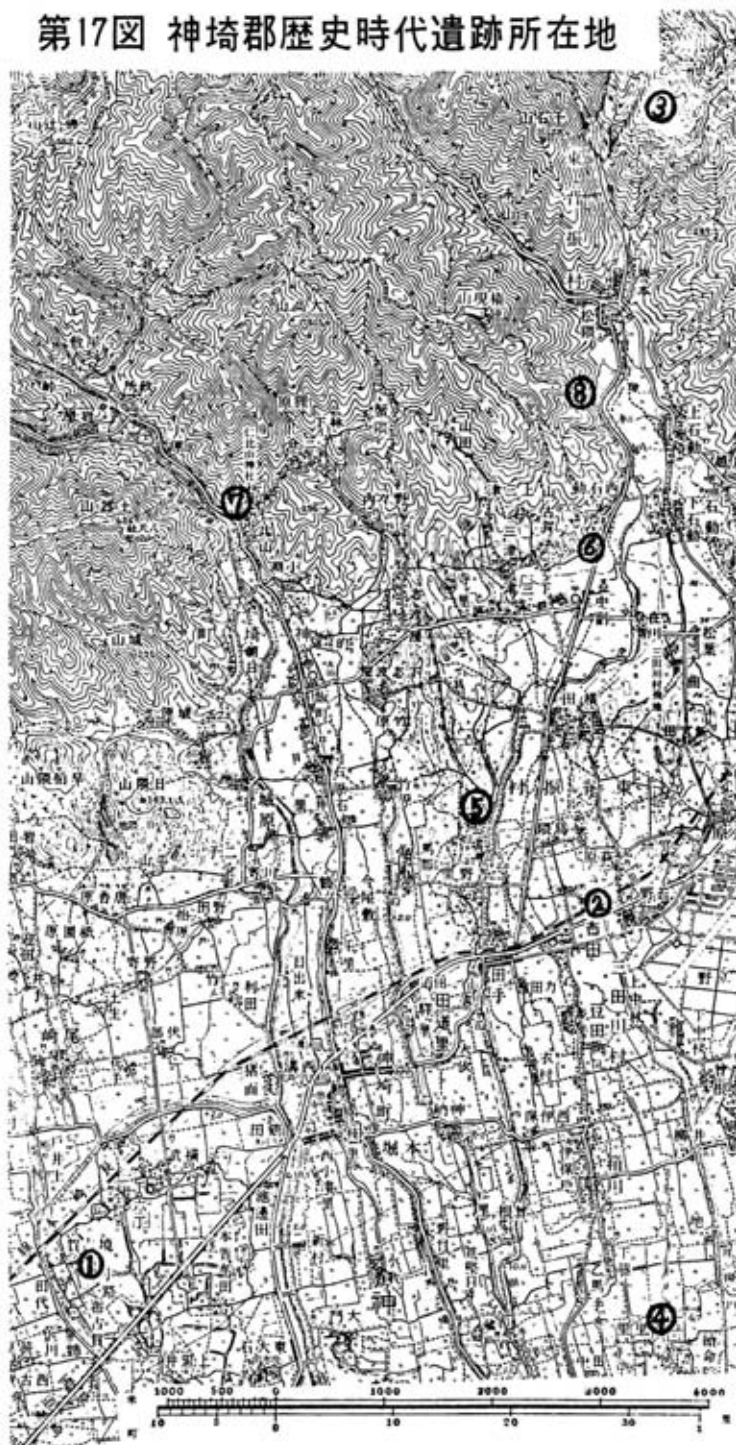
種別 古墳

所在地 神埼郡東脊振村大字三津字寺ヶ里戦場一五三六番地（畑）

概要 寺ヶ里部落の北東部、南にのびた山麓の低丘陵地、標高約三〇米の畑の中にある円墳である。封土も相

当に変形しているが、径一〇米五〇、高さ三米四〇で、内部主体は横穴式石室である。石室の全長八米六〇で巨石が使用されており、すでに開口され遺物は散失している。

第17図 神埼郡歴史時代遺跡所在地



神埼郡歴史時代遺跡

一 神埼町 姉川
 二 三田川村 吉田
 三 東脊振村 松隈
 四 三田川村 南里ヶ里
 五 東脊振村 大字 辛上
 六 東脊振村 大字 石動
 七 神埼町 的
 八 東脊振村 西石動

姉川城（館）跡
 練ヶ里条里制遺構
 靈仙寺 廃寺跡
 南里ヶ里貝塚
 辛上 廃寺跡
 西石動 蔵骨器出土遺跡
 仁比山 経塚
 一本杉山 蔵骨器出土遺跡

一、姉川城（館）跡

種別 城跡

所在地 神埼郡神埼町大字姉川字姉川一二〇六・一二〇

七（代表）（水田）

概要 菊池氏の一族である姉川氏が平地に築いたもので、中世のおもかげをよくとどめている一種の館跡である。館跡を中心に幾重にも掘がめぐられ、迷路によって外部に通じるようになっている。

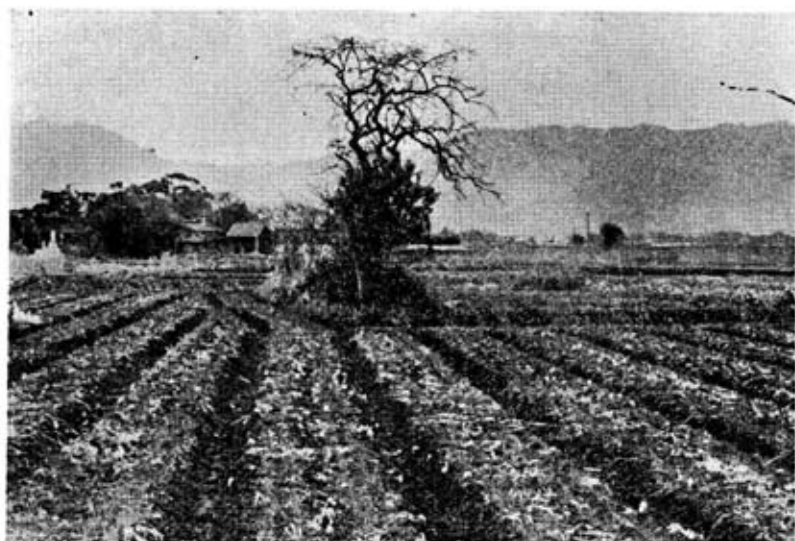
「下馬口」「構口」「小路」などの地名も残っている。また、館の南南西には土塁も残り「姉川城跡記念の標」も建てられている。以前は荒地であったが、戦時中に開墾された。

二、練ヶ里条里制遺構

種別 条里制遺構

所在地 神埼郡三田川村大字吉田字練ヶ里二本柳二四

〇（水田）



第18図 姉川城跡

概要

国鉄三田川駅を中心とする地域一帯で、主として水田地帯であるが、近時、工場建設、住宅建築により、耕地の変動多く条里制による土地区画が変貌しつつある。駅の北方一〇〇米の位置より西へ一の坪から三六坪までの地名が残り、区割も大体現存している。佐賀平野は条里制の地割が良く発達していてその遺構も多いが、この遺跡もその一つである。

三、靈仙寺廃寺跡

種別 寺院跡

所在地 神埼郡東脊振村大字松隈字坂本九瀬谷一九二三ノ三（山林）

概要

鎌倉時代初期に建立された靈仙寺の寺院跡で、標高約五〇〇米余りの山腹にある。全く荒廃して、その寺院の規模も明らかでないが、建治二年の石造三重塔、正平二〇年、永和四年、永徳二年の石造宝篋印塔等が残存している。なお境内には僧栄西の茶種栽培の記念碑がある。

四、南里ケ里貝塚

種別 貝塚

（湮滅）

所在地 神埼郡三田川村大字寄人字南里ケ里一の角三〇八・三〇九番地（水田・草地）

概要

佐賀の沖積平野に分布する貝塚の一つで、水田中に南北六米四〇、東西五米七〇、高さ一米一〇の小円墳状を呈していた貝塚である。昭和三〇年三月に水田化のため除去されたもので、「住の江がき」を主体

出土品 とする貝殻のみで、人工遺物は極めて少なく、土器は奈良・平安時代を主としたものであり時代の降った貝塚である。貝塚中に後世の遺体十数体分が埋葬されていた。
 貝殻（住の江がき・しじみ貝・しし貝・ばか貝・てんぐにし）。・獣骨（モウコノウマの歯牙）・土鍾六個・土器（土師質・須恵質）（祐徳博物館保管）
 備考 昭和三〇年三月、県教育委員会が調査を実施した。

五、辛上廃寺跡

種別 廃寺跡（湮滅）

所在地 神埼郡東脊振村大字辛上字八反（畑・水田）

概要 弥生墓群集遺跡として知られている吉野ヶ里低丘陵台地の東端、田手川の西側に位置している。塔心礎が残り遺瓦も多く出土しているが、遺構はほとんど壊滅してしまっている。この寺跡は奈良朝寺院跡と推定されていて、肥前風土記にいう「神埼郡寺一処」に上峰村塔の塚廃寺跡と共に擬せられている。

文献 松尾禎作「東脊振村辛上廃寺跡の調査」（昭和十一年三月三十一日、佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告

第五輯）

六、西石動蔵骨器出土遺跡

種別 蔵骨器出土遺跡（湮滅）

所在地 神埼郡東脊振村大字石動字西石動 (畑)

概要 東脊振村役場の北方約一杆、山麓に近い丘陵斜面にある古墳群地帯から昭和三年の開墾中、蔵骨器が

三個発見され二個は散失している。一個は須恵系の甕で頸部から上が打ち欠かれている。出土状況は明らかでない。

出土品 蔵骨器一個 (祐徳博物館保管)

文献 木下之治「佐賀県における埋蔵文化財の発掘発見の覚書」(昭和三四年三月二五日、郷土研究第九号)

七、仁比山経塚

種別 経塚 (湮滅)

所在地 神埼郡神埼町大字的字小淵壱森稻荷社 (社地)

概要 仁比山神社下方の谷あい近くに鎮座する壱森稻荷社にあった経塚である。滑石製経筒で、内部には経巻軸が残在していたといわれる。この経塚は、一回発掘された後、経筒の蓋のみ残して再埋置しているといわれる。

文献 松尾・木下・松岡「佐賀県下出土の経塚概観」(昭和三二年五月三十一日、佐賀県文化財調査報告書第六輯)

八、一本杉山蔵骨器出土遺跡

種別

蔵骨器出土遺跡

(湮滅)

所在地

神埼郡東脊振村西石動一本杉山

概要

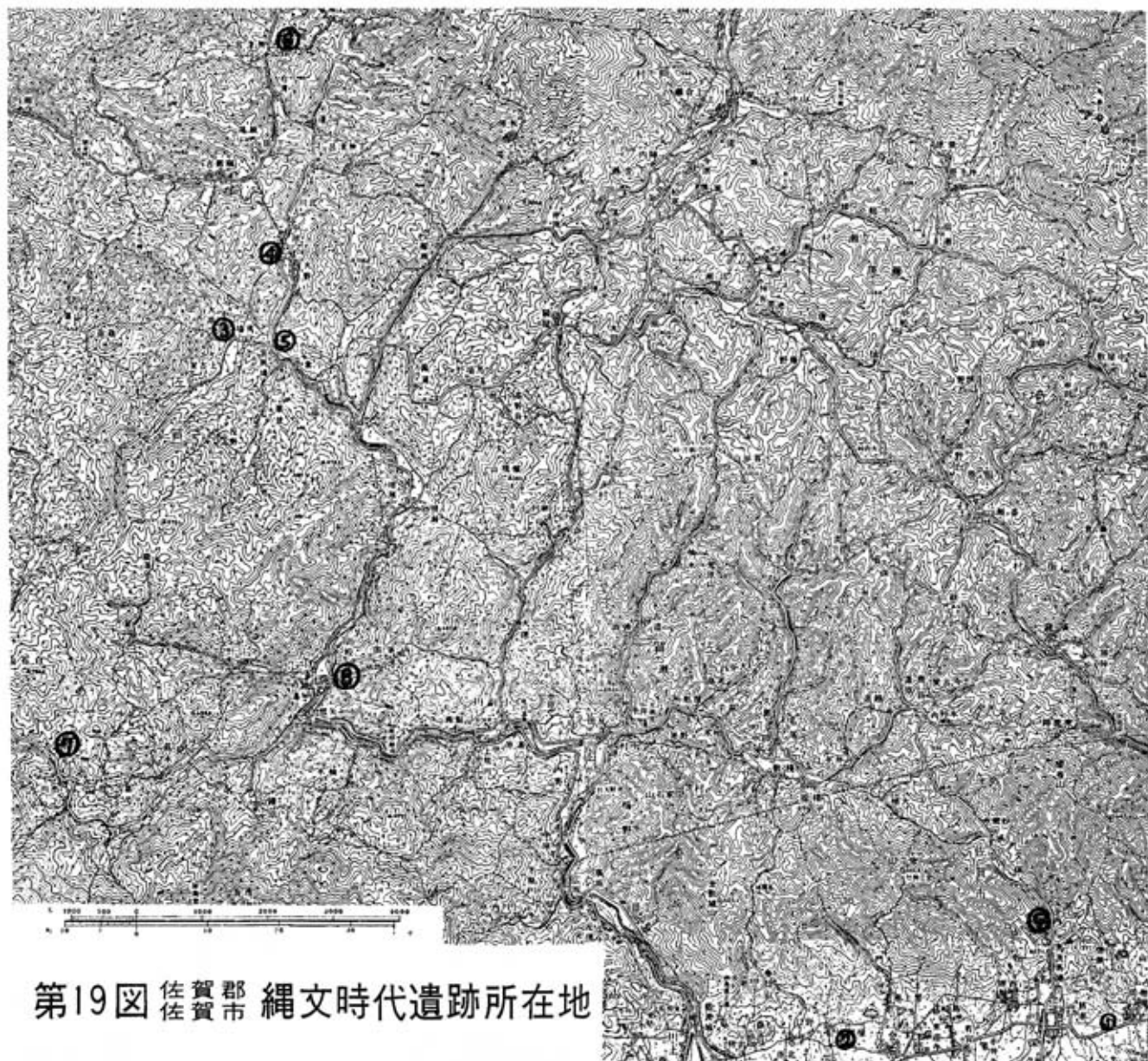
西石動部落の西北方、通称一本杉山の頂上付近から、昭和三八年一月、開墾中に発見された遺跡である。茶褐色の砂質粘土層の地山を掘り下げて、径四五厘米四〇厘米余りの不正円形に七個の塊状石を配置し、その中央に蔵骨器をおき、配石との間に木炭が充填されていた。

蔵骨器は、高台付の須恵質の壺であるが、細片となっていて、形式など明らかでなく、土師質片の土器片も含まれているところから見ても、蓋に土師質の土器が用いられていたのではないかと考えられる。

出土品

須恵質壺及び土師質土器片（県教育委員会保管）

佐
賀
郡
・
佐
賀
市



第19図 佐賀郡 縄文時代遺跡所在地

佐賀郡 佐賀市 縄文時代遺跡

- 一 佐賀市久保泉町川久保
- 二 佐賀市金立町金立
- 三 富士村大串
- 四 富士村大野
- 五 富士村大野
- 六 富士村上無津呂
- 七 富士村市川
- 八 富士村古湯
- 九 佐賀市久保泉町川久保

- 狐隈遺跡
権現原遺跡
大串神社付近遺跡
春日神社付近遺跡
地藏平遺跡
相尾遺跡
葛ノ頭峠遺跡
古湯遺跡
梅ヶ谷遺跡

一、狐隈遺跡

種別 遺物包含地

所在地 佐賀市久保泉町大字川久保字狐隈 (畑)

概要 脊振山脈の南麓に接続する標高三〇米あまりの狐隈低丘陵の南側台地一帯に、須恵器や土師器の破片が

散布しているこの一角を水田化するため地下げした時、下層から縄文式土器片や石斧などが発見された。この縄文系遺物の包含されている層位や状態などは明らかでないが、包含地は相当広範囲に及んでいると推定される。

出土品 縄文式土器片・磨製石斧片二個

二、権現原遺跡

種別 遺物包含地

所在地 佐賀市金立町大字金立字権現原 (畑)

概要 南山麓にのびている低平な丘陵台地上にあつて、縄文時代末期の御領式の土器と共に多くの石器類を包

蔵している遺跡である。遺跡は権現原溜池の東側一帯であつて、果樹園などの地表にも遺物が散布している。当時の住居跡であろうとは推定されるが、まだ遺構は明らかにされていない。

出土品 石鏃・石斧・石匙・縄文式土器片(祐徳博物館他保管)

三、大串神社附近遺跡

種別 遺物散布地

所在地 佐賀郡富士村大字大串字三本松五一三番地（畑・宅地・社地）

概要 標高七三九米余りの亀岳の東山麓に鎮座する大串神社の境内を中心に石器が発見されている。この遺跡

の東方は大串川・清川・神泉川が合流して盆地状を呈している。黒曜石の剣片と石鏃とがその主体をなしているが、土器の発見はなく、遺跡の性格は明らかにされていない。

出土品 石鏃・石斧（富士村右近法真氏保管）

四、春日神社附近遺跡

種別 遺物散布地

所在地 佐賀郡富士村大字大野字二本松九四七番地（畑・社地）

概要 丘陵端に鎮座している春日神社の境内から背後の丘陵地へかけて、黒曜石やサヌカイドの剣片および石

鏃が散布している。前面には神水川が流れて盆地を形成し、水田が開けている。石鏃のみで土器の発見はなく、遺跡の範囲も明らかでない。

出土品 石鏃（富士村右近法真氏保管）

五、地藏平遺跡

種別 遺物散布地

所在地 佐賀郡富士村大字大野字三入道六〇五番地（畑）

概要

丘陵端の傾斜面に遺跡はあつて、前面には神水川・清川・大串川が合流して盆地を形成し、水田が開けている。黒曜石の剝片と多数の石鏃がこの遺跡から発見されている。土器の発見はなく、遺跡の範囲や性格は明らかでない。

出土品

石鏃多数・石匙（富士村右近法真氏保管）

六、相尾遺跡

種別

遺物散布地

所在地

佐賀郡富士村大字上無津呂字相尾三三三番地（水田）

概要

山丘の末端に接した水田中より石斧一個が発見されている。其伴の遺物は、明らかでなく、また遺跡の性格も明らかでないため、今後の調査にまつ点が多い。

出土品

磨製石斧一個（富士村右近法真氏保管）

七、葛ノ頭峠遺跡

種別

遺物散布地

所在地

佐賀郡富士村大字市川字吉原二九五九番地（山林）

概要

近くには水田も開けていて、やや盆地状をなしている山林中より石鏃や石匙が発見されている。この遺

跡の範囲や性格も明らかでなく、今後の調査にまつ点が多い。

出土品

石鏃・石匙（富士村右近法真氏保管）

八、古湯遺跡

種別

遺物散布地

所在地

佐賀郡富士村大字古湯字北間一一五八番地（水田）

概要

盆地状を呈する所に遺跡はあつて、石斧や石剣破片等が出土しているが、土器などはまだ発見されていない。遺跡の性格や範囲も明らかでなく、今後の調査にまつ点が多い。

出土品

石剣片・石斧（富士村右近法真氏保管）

九、梅ヶ谷遺跡

種別

石器散布地

所在地

佐賀市久保泉町大字川久保字梅ヶ谷（畑）

概要

脊振山脈の南麓に近い前面に谷を望む標高約一〇〇米の畑地からサヌカイドのポイント一個が発見されているが、他に関係遺物は発見されていない。付近からは石鏃が多数発見されており、古墳群も存在している。なおここから約一杆南方の西原姥所から先土器系の石器一個が発見されている。

第20図 佐賀県弥生時代遺跡所在地



佐賀郡
佐賀市

弥生時代遺跡

- 一 佐賀市久保泉町上和泉
二 佐賀市久保泉町上和泉
三 佐賀市久保泉町上和泉
四 佐賀市久保泉町上和泉
五 佐賀市久保泉町川久保
六 佐賀市久保泉町川久保
七 佐賀市久保泉町川久保
八 佐賀市久保泉町川久保
九 佐賀市久保泉町川久保
一〇 佐賀市兵庫町瓦町
一一 佐賀市兵庫町瓦町
一二 佐賀市金立町金立

- 櫟木クリス形銅劍銘范出土遺跡
櫟木第一号甕棺遺跡
櫟木第二号甕棺遺跡
篠木野甕棺遺跡
上分石棺遺跡
神籠池石棺遺跡
清兵衛山遺跡
西原遺跡
天童山住居跡
牟田寄貝塚
牟田寄遺跡
三本黒木遺跡

一三 佐賀市金立町金立	陣の内遺跡
一四 佐賀郡大和町久留間	久留間遺跡
一五 佐賀市蓮池町用作	柴尾橋下流遺跡
一六 佐賀市久保泉町西原	西原薨棺遺跡
一七 佐賀市神野町	成章中学校遺跡
一八 佐賀市金立町千布	友貞住居跡
一九 佐賀市久保泉町川久保	天童山石棺遺跡

一、櫟木クリス形銅劍銘范出土遺跡

種別 遺物包含地

所在地 佐賀市久保泉町大字上和泉字櫟木四三六ノ一〇番地（畑）

概要

山麓の丘陵端から七五〇米余り南方の平地であるが、この遺跡のある一帯は、周囲の水田地帯より幾分か高くなっている。四〇年余り以前までは松林であったといわれるが、現在はぶどう園となっている。付近一帯の地表には弥生・須恵・土師等の各種の土器片が散布しており、磨剣石斧や弥生式甕棺などと共にクリス形銅劍銘范が出土している。ぶどう園造成中に出土したもので、遺跡は相当に攪乱されている。

出土品

クリス形銅劍銘范一個（文化財保護委員会所蔵）磨製石斧一個（佐賀市久保泉公民館保管）

文 献

備 考

種 別
所 在 地
概 要

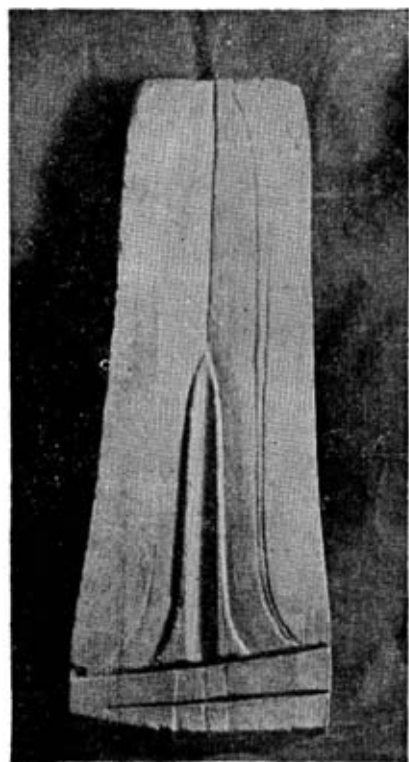
佐賀県佐賀市久保泉町
出土クリス形銅剣鎔范
(昭和三四年三月二〇
日、埋蔵文化財要覧二
文化財保護委員会)
昭和三〇年三月一日
に県教育委員会が応急
調査を実施した。なお
クリス形銅剣鎔范は、
昭和三十九年三月重要
文化財に指定された。

二、櫟木第一号甕棺遺跡

甕棺埋蔵遺跡

佐賀市久保泉町大字上和泉字櫟木 (畑・水田)

山麓に近い平地にあつて、かつてクリス型銅剣鎔范の出土した遺跡の西方五〇米の所にある。畑地を段下げて水田化しているさい弥生式甕棺が数個出土したという。この出土地に続いている畑地には、現



第21図 櫟木出土クリス形銅剣鎔范

在なお甕棺が埋蔵されていると推定される。

三、櫟木第二号甕棺遺跡

種別

甕棺埋蔵遺跡

所在地

佐賀市久保泉町大字上和泉字櫟木四五八番地（水田）

概要

山麓に近い平地にあつて、クリス形銅才銘范が出土した地点の南西約六〇米の所である。昭和三〇年三月に畑を八〇畝余り地下げして水田化する際、数個の甕棺が発見された。須玖式甕棺であつて、挿合または合口になつていて、斜位埋置されていたと推定される。副葬品や人骨は発見されなかつた。この出土地に続く畑には、今なお埋蔵されているのではないかと思われる。

出土品

甕棺三個（東京教育大学・多摩美術大学保管）

備考

昭和三〇年三月一四日に県教育委員会が応急調査を実施した。

四、篠木野甕棺遺跡

種別

甕棺埋蔵遺跡

（湮滅）

所在地

佐賀市久保泉町大字上和泉字篠木野（畑）

概要

川久保扇状地の西南端に近い場所であつて篠木野部落の北端に位置している。標高一三〜一四米余りの平坦な畑地であつて、松林であつたのを戦時中に開墾したところである。開墾中に多数の甕棺が出土し

ているが、現在ほとんど甕棺は残っていないと推定される。この畑の地表には、今も多数の弥生式甕棺の破片が散布している。なお付近の畑中に巨石が一カ所残っているが、古墳の跡ではないかと思われる。

五、上分石棺遺跡

種別

石棺埋藏遺跡

所在地

佐賀市久保泉町大字川久保字上分（畑・原野）

概要

丘陵端のなだらかな傾斜面に位置していて、広瀬へ通じている道路の近くに遺跡はある。この付近には関行丸古墳をはじめ数基の古墳があつて一つの古墳群を形成している。三郎丸と花納から箱式石棺がそれぞれ一個ずつ発見されている。数個の板石を組合せて造られていたというが、すでに破壊されていて詳細は不明である。三郎丸の石棺からは、鉄製太刀が出土しており、この石棺の南に一個今もなお現存している。

六、神籠池石棺遺跡

種別

石棺埋藏遺跡

（湮滅）

所在地

佐賀市久保泉町大字川久保字帯限山（堤防）

概要

史跡帯限山神籠石のある帯限山南麓の低斜面に神籠池があつて、その東端を列石が通っている。この神籠池の南西部に当る堤防付近から箱式石棺が一個発見された。板石を組合せて作られていたが、破壊さ

れてしまっているため、詳細な点は不明である。副葬品はなく、二体埋葬されていた。

七、清兵衛山遺跡

種別

甕棺及び石棺埋藏遺跡

(湮滅)

所在地

佐賀市久保泉町大字川久保字上分 (畑)

概要

史跡帯隈山神籠石の列石線が通っている清兵衛山が遺跡である。中清兵衛山と小清兵衛山の鞍部のやや西寄り、小清兵衛山の南斜面九合目近くのみかん畑から、開墾の際に弥生式の甕棺が出土し、その下部から板石を組合せた箱式石棺が発見された。この地は神籠石の列石線外至近の地であって西南方約三〇米のところには布目瓦窯跡がある。

八、西原遺跡

種別

遺物散布地

所在地

佐賀市久保泉町大字川久保字西原 (畑)

概要

西原の天神山から南へ篠木野の北端まで続く舌状低丘陵地(南北約二杆、東西四〇〇〜一〇〇米)一帯の畑地および原野に多数の石鏃およびその破片が散布している。この遺跡最北端地方には多数の円墳群および組合せ石棺があり、南端に当る篠木野には多数の甕棺が発見されている。



第22図 西原遺跡

九、天童山住居跡

種別 住居跡

所在地 佐賀市久保泉町大字川久保小字天童山

(山林)

概要 帯隈山から南方やや東寄りに続いている天童

山の山頂より北北西に当る林道の所にある。

ここは神籠石の列石内であつて、西から北にかけて深い谷をなしている。この林道の断面に赤褐色土層にはさまれて厚さ三三厘と二一厘の暗黒色土層が三米四〇ばかりつづいている。この暗黒色土層と下層の赤褐色土層との境目付近から土器片一個が発見されたというので、住居跡ではないかと推定される。

一〇、牟田寄貝塚

種別 貝塚

所在地 佐賀市兵庫町大字瓦町字牟田寄

概要 牟田寄部落の東方約五〇米の掘岸にある。付近一帯は沖積平野の平坦地である。貝層は薄くて二〇糎以下でありカキ殻が主体をなしている。貝塚及びその付近から弥生時代後期の土器が多く発見されている。

出土品 弥生時代後期の土器（巨勢公民館・県教育委員会保管）

一一、牟田寄遺跡

種別 遺物包含地

所在地 佐賀市兵庫町大字瓦町字牟田寄（水田・堀）

概要 平坦な平地の続く牟田寄部落の東部地区から千住部落の西部及び南西部の一帯にかけて、表土から約一

〇糎余り下層および掘岸等から弥生時代後期の土器片が発見されている。その分布範囲および遺構などは明らかでないが、この遺跡の一部に牟田寄貝塚がある。

出土品 弥生時代後期の土器（県教育委員会保管）

一二、三本黒木遺跡

種別 甕棺および石棺埋蔵遺跡

所在地 佐賀市金立町大字金立字三本黒木開拓団地

概要

金立山の南山麓に近く、射撃場の東側に当る傾斜面は古墳群地帯であるばかりでなく、弥生時代の甕棺や石棺の埋蔵されている遺跡でもある。甕棺は合口のものや、単棺のものがあ、須玖式である。石棺は板石で囲った箱式石棺で、共に副葬品は発見されていない。開壘により破壊されつつある。

一三、陣の内遺跡

種別

遺物散布地

所在地

佐賀市金立町大字金立字大門（畑・水田）

概要

南山麓にのびている舌状の低平な丘陵状をなしている畑地にあつて、権現原縄文遺跡の東方五〇〇米、金立から大門に通じている道路の傍にある百廟墓地の西側が遺跡である。主として石鉄が地表に散布しているが、遺跡の性格は明らかでない。

出土品

石 鉄

一四、久留間遺跡

種別

遺物包含地

所在地

佐賀郡大和町大字久留間字六の角（水田）

概要

川上川の谷口扇状地の末端に当る平地にあつて櫛田部落と東平川を距てた至近の所にある。弥生時代中期から後期にかけての土器を主体とする遺跡で住居跡や洗場などの遺構が発見され、また木器や木材ま

たは植物種子も出土している。県内に数少い弥生時代の低湿地遺跡であつて、奈良時代の遺物も若干発見されている。

出土品

石鏃・石包丁・凹石・磨石・石帯、高杯・器台・埴・甕・鉢等多くの土器、山グミ・栗・椎・ドングリ・その他（九州総合文化研究所保管）

文献

七田忠志・松尾禎作「久留間遺跡調査概報」（昭和二十六年三月三十一日、佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告第一〇輯）、松尾禎作「佐賀県考古大観」（昭和三十三年三月一日、祐徳博物館）

一五、柴尾橋下流遺跡

種別

住居跡

所在地

佐賀市蓮池町大字用作字五本松（水田）

概要

佐賀平野における典型的低湿遺跡で、城原川の河川改修工事によって発見されたものである。遺跡は、現在の水田面から一米の深さまで五層になっていて、上層は土師器や須恵器を主体とする攪乱層であり、最下層は弥生式後期の土器包含層となっている。住居跡は各層にその存在が認められるが、円形のプランを持つ竪穴であつて、土器・石器を始め、稲粃・瓜・木材等植物性の遺物が多数包蔵されており、その遺跡は広範囲に及び隣接する千代田村に続いている。

出土品

砥石一・石庖丁二・弥生後期土器片・土師器片多数（県教育委員会他保管）

文献

木下之治「佐賀県における埋蔵文化財の発掘発見の覚書」（昭和三十五年一〇月一日、郷土研究第一〇号）

佐賀県郷土研究会

備考 佐賀市蓮池町と神埼郡千代田村とにまたがって水田下に存在しているが、一部は河線工事で破壊された。

一六、西原甕棺遺跡

種別 甕棺埋藏遺跡

所在地 佐賀市久保泉町大字西原（畑）

概要 西原の低丘陵地に所在する遺跡で、川久保・金立間の西原バス停留所から北の方にのびている道路に沿

う小川の断面に甕棺が露出している。甕棺は須玖式であって相当数のものが埋藏されているようである。この遺跡は道路を中心にして道路横の畑に続いているがその範囲は明らかでない。

一七、成章中学校遺跡

種別 遺物包含地

所在地 佐賀市神野町成章中学校（校地）

概要 沖積平野に位置する佐賀市内の成章中学校の校地が遺跡である。校舎建築の工事中に地中から多量の土

器が出土している。土器は弥生後期から奈良時代に及んでおり、遺構や遺跡の範囲は明らかでない。現在、地表上には土器片は見当らない。

出土品
土器類

一八、友貞住居跡

種別
住居跡
(湮滅)

所在地
佐賀市金立町大字千布字友貞 (畑・水田)

概要
金立山の山麓に近い平地にある遺跡で、昭和三五年六月畑地を水田化するための土取り作業中に発見されたものである。現地表下一米八〇の所が褐色粘土の基盤層となっており、ここに畑跡を伴う竪穴住居

が営まれており、畑跡は一〇数個所にわたってその存在が確認された。高さ一米八〇の土層中からは、各時代に亘る各種の土器片が発見されており、弥生後期から平安時代に及ぶ住居跡であると推定される。

出土品
土器類 (佐賀市教育委員会・県教育委員会保管)

文献
木下之治「佐賀県における埋蔵文化財の発掘・発見覚書」(昭和三五年一〇月一日、郷土研究第一〇号)

備考
昭和三五年六月・七月に県教育委員会が応急調査を実施した。遺跡の大半は破壊されているが、接続し

ている畑地に一部分は残っていると推定される。

一九、天童山石棺遺跡

種別
石棺埋蔵遺跡
(湮滅)

所在地
概要

佐賀市久保泉町大字川久保字天童山（畑）

帯限山神籠石の列石線にある天童山の頂上に築成されていた箱式石棺である。板石を組合せた通例のもので、主軸は東西の方向をとり、内部の長さ二米一〇、幅一五厘米四〇厘米あり、副葬品は発見されなかった。昭和三十六年八月、ブルドーザによる開墾中に出土したため、蓋石は運び去られ、石室の一部も破壊されていた。

第23図 佐賀郡 佐賀市 古墳時代遺跡所在地



佐賀郡
佐賀市

古墳時代遺跡

- 一 佐賀市久保泉町 川久保
- 二 佐賀市久保泉町 川久保
- 三 佐賀市久保泉町 川久保
- 四 佐賀市久保泉町 川久保
- 五 佐賀市久保泉町 川久保
- 六 佐賀市久保泉町 川久保
- 七 佐賀市久保泉町 川久保
- 八 佐賀市久保泉町 川久保
- 九 佐賀市久保泉町 川久保
- 一〇 佐賀市久保泉町 川久保
- 一一 佐賀市久保泉町 川久保
- 一二 佐賀市久保泉町 川久保
- 一三 佐賀市久保泉町 川久保

- 関行丸古墳
花納丸古墳
三郎丸古墳群
天神山古墳群
鉢の谷古墳
岩盛古墳群
山王山古墳
剣谷・梅ヶ谷古墳群
城山古墳
藤付第一号古墳
藤付第二号古墳
西原古墳
西原古墳群

一四	佐賀市久保泉町川久保
一五	佐賀市久保泉町川久保
一六	佐賀市久保泉町川久保
一七	佐賀市久保泉町川久保
一八	佐賀市久保泉町川久保
一九	佐賀市久保泉町川久保
二〇	佐賀市久保泉町川久保
二一	佐賀市久保泉町川久保 神埼郡神埼町尾崎
二二	佐賀市金立町金立
二三	佐賀市金立町金立
二四	大和町小川
二五	大和町川上
二六	大和町久留間
二七	大和町久留間
二八	大和町尼寺
二九	大和町久留間
三〇	大和町梅野

西原第二・第三号古墳	狐隈遺跡	櫟木土師器出土遺跡	陶棺発見地	妙楽寺須恵器窯跡群	不動滝須恵器窯跡	小城内須恵器窯跡	帯隈山神籠石	三本黒木古墳群	小坪山古墳群	小川古墳	小隈山前方後円墳	船塚	磯石古墳群	築山前方後円墳	男女山古墳群	高畠古墳
------------	------	-----------	-------	-----------	----------	----------	--------	---------	--------	------	----------	----	-------	---------	--------	------

三一	大和町久池井
三二	大和町川上
三三	大和町星隈山
三四	佐賀市金立町金立
三五	佐賀市金立町金立
三六	佐賀市金立町金立
三七	佐賀市金立町金立
三八	佐賀市金立町金立
三九	佐賀市金立町金立
四〇	大和町久留間
四一	佐賀市久保泉町川久保
二	佐賀市久保泉町川久保

前隈山前方後円墳
小隈古墳
星隈山古墳群
大門古墳
西隈古墳
射的場古墳
朝鮮塚
丸山古墳
銚子塚
西野古墳群
熊本山石棺群出土遺跡
熊本山舟形石棺出土遺跡

一、関行丸古墳

種別 古墳

所在地 佐賀市久保泉町大字川久保字関行（竹林）

概要 脊振山塊の西南麓川久保扇状地の基部付近、標高二五米位の丘陵地に存在している。後円部径三五米、

前方部の長さ二〇米、前方部が非常に低い前方後円墳であって、内部主体は羨道部が発達していない只字式の横穴式石室である。石室内には三個の屍床が設けられており、内部には鉄丹が塗布されている。西方至近には三郎丸古墳群がある。

出土品

銅鏡四面・具釧二個・金銅製冠帽一具・金銅製半筒形裝飾具二個・鹿角状柄尖頭工具一・玉類数百個・鉄刀子八口・銅製三環鈴一個・鉄鏡四個・鉸具一三個・鉄留金具三一個（県文化館保管）

文献

渡辺正気「佐賀市関行丸古墳」（昭和三十三年三月、佐賀県文化財調査報告書第七集）

備考

昭和三十二年五月三日～十五日、佐賀県教育委員会が九州大学の援助を得て、発掘調査を実施した。

二、花納丸古墳

種別

古墳

（湮滅）

所在地

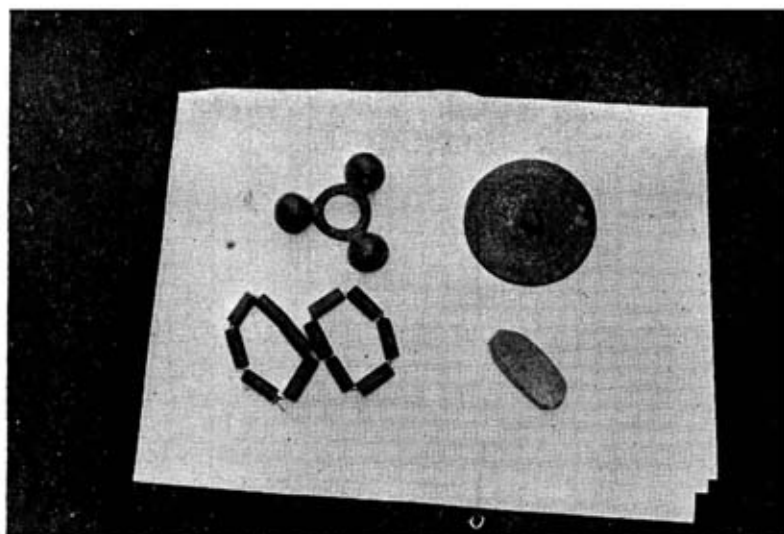
佐賀市久保泉町大字川久保字上分（畑・宅地）

概要

山麓に近い緩傾斜地にあった古墳で関行丸古墳、三郎丸古墳群などと相接した場所である。江戸時代に発掘された古墳であって、完全に湮滅してしまつて、その跡も明らかでないが、「天保庚子復月一九日」の発見始末や遺物見取図、計測を記した木版印刷物と遺物が保存されていて意義のある古墳である。

出土品

三環鈴一個、管玉一二個、銅鏡一面（佐賀市久保泉町川久保高柳フミ氏所蔵）



第24図 花納丸古墳出土品

三、三郎丸古墳群

種別 古墳群

所在地 佐賀市久保泉町大字川久保字三郎丸

(山林)

概要

南にのびる低丘陵の間にはさまれた緩傾斜地に築成されている古墳群で、その東方約四〇米の所に関行丸前方後円墳がある。現存するものは雑木林や竹林の中に在る四基だけである。以前は他にも数基あったが、開墾により壊滅している。何れも横穴式石室を有する円墳であって、盗掘されている。石室内や古墳付近から鉄製太刀二口と須恵器が発見されている。

出土品 須恵器

四、天神山古墳群

種別 古墳群

所在地 佐賀市久保泉町大字川久保字西原 (畑)

概要 脊振山脈の南山麓に近い標高約六〇～七〇米余りの斜面に築かれていた古墳群で、西原古墳群の北方約

二〇〇米前後の所にある。すべて横穴式石室を有する円墳であったと推定され、約一〇基余り存在していたといわれる。昭和三十一年に始まった開墾によって、一基を残し他はすべて破壊されてしまっている。土器以外は発見されていない所から見ても、早く盗掘にあったものと考えられる。残存している一基は副室を有する横穴式石室で、この古墳群中最も巨大なものであったといわれている。

出土品 須恵器片多数・土師器片若干

文献 木下之治「佐賀県における埋蔵文化財の発掘・発見の覚書」(昭和三四年三月二五日、郷土研究第九号、佐賀県郷土研究会)

五、鉢の谷古墳

種別 古墳

所在地 佐賀市久保泉町大字川久保字上分

概要 鉢の谷古墳は脊振山脈の西南麓、帯隈山神籠石の北方五〇〇米、標高七〇米余りの原野にある円墳であ

る。破壊の度がひどく、規模は明らかでないが、内部主体は横穴式石室である。遺物も散失していて明らかでない。

六、岩盛古墳群

種別 古墳群

所在地 佐賀市久保泉町大字川久保字岩盛 (山林)

概要

山麓に近い標高八〇米前後の斜面にあつて、天神山古墳群の北方約五〇〇米余りの所に位置している。岩盛谷の中にある小尾根を通っている小道をはさんで、南南東から北北西に分布する古墳群で松・雑木の繁茂で発見困難であるが、一四基が確認される。封土の径六米前後で高さも低い規模の小さい円墳である。内部主体は横穴式石室でほとんど盗掘にあつた形跡があり遺物は保存されていない。

七、山王山古墳

種別 古墳

所在地 佐賀市久保泉町大字川久保字西原 (畑)

概要

山麓にのびている丘陵の末端近くの台地上にある古墳である。戦後畑にしたとき多数の石塊が出たのでそれを石垣に使つたといわれ、現在墳丘が段畑となつている。封土の径二四米余りの円墳と推定され、高さは削平されているため不明であるが、現在四米八〇余りである。開鑿中出土したという石塊は封土の葺石であらうと思われ、内部主体は原状のまま残されていると推定される。

備考

もと墳丘上に山王神社が祠つてあつた。

八、劍谷・梅ヶ谷古墳群

種別 古墳群

所在地 佐賀市久保泉町大字川久保字劍谷・梅ヶ谷（山林）

概要

鈴隈山の北の低地を、北西から南東に延びて劍谷と梅ヶ谷を画する標高一〇〇米余りの小尾根に沿って築造された古墳群である。開墾によって大部分は破壊湮滅し、いま僅かに七基が残存しているが、これらも破壊に類している。規模は大小種々であるが、すべて横穴式石室を有する円墳である。石室の最大のもものは副室を有する横穴式石室と推定されるが、半分ほど破壊されている。

九、城山古墳

種別 古墳

所在地 佐賀市久保泉町川久保字上分（山林）

概要

帯隈山神籠石の西方約五〇〇米、鉢の谷古墳の南西方約一〇〇米のところにある独立峰に近い城山の南端に築かれている円墳である。内部主体は横穴式石室であるが、破壊の度がひどくその規模は明らかでない。副葬品などは何も保存されていない。

一〇、藤付第一号古墳

種別 古墳

所在地 佐賀市久保泉町大字川久保字西原 (山林)

概要 山麓にのびている丘陵の末端近くの台地上にある円墳で山王山古墳の西北方約三〇米の所にある。封土は相当にけずりとられ、変形してしまっていて、径約二〇米前後、高さ三米二〇余りになっている。石室は開口していて、長さ三米・幅一米四〇余りの横穴式石室である。副葬品は保存されていない。

一一、藤付第二号古墳

種別 古墳

所在地 佐賀市久保泉町大字川久保字西原 (山林)

概要 山麓にのびている丘陵の末端近くの台地上にある古墳で第一号古墳の北東一二〇米余りの所にある。封土は完全に剝奪されてしまつて、石室の一部だけが残存している。石室は、現在三米四〇×三米余りの横穴式石室である。副葬品などは何も保存されていない。

一二、西原古墳

種別 古墳

所在地 佐賀市久保泉町大字川久保字西原 (山林)

概要 脊振山脈の南麓に続く低丘陵にあつて、西原部落の北端近くに位置している。昭和の始めごろ道路建設によつて破壊され、現在破壊された石室の一部が残っている。前方後円墳かとも思われる形態を有し、

封土中には円筒埴輪が立てられていた。石室は小口石積で、円や三角などの幾何学文様を有する凝灰岩片が発見されているが、おそらく装飾石棺の破片であろうと推定される。勾玉や壺などが発見されたと
いわれるが、所在不明である。

出土品 幾何学文様陰刻の凝灰岩片（佐賀市久保泉公民館保管）

文献 松尾禎作「埴輪円筒を繞らせる西原古墳」（昭和十一年三月、佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告第五

輯）、松尾禎作著「佐賀県考古大観」（昭和三十三年三月一日、祐徳博物館）

一三、西原古墳群

種別 古墳群

所在地 佐賀市久保泉町大字川久保字西原（山林）

概要

脊振山脈の南麓に続く、西原低丘陵にある古墳群で西原古墳の東方、やや北寄り約一〇〇米の所にある古墳群である。東西約三〇〇米、南北五〇米～一五〇米の地域に松林があるが、そこに一八基、その南の竹林の中に一基確認される。ほとんど円墳であるが、二基は前方後円墳ではないかと思われる。すべて横穴式石室であって、開口されており、副葬品は何も保存されていない。

一四、西原第二・第三号古墳

種別 古墳群

所在地 佐賀市久保泉町大字川久保字西原（山林）

概要 脊振山脈の南麓に続く低丘陵の西原部落にあつて、幾何学文様のある凝灰岩の石棺破片と推定されるもの

を出土した西原古墳の北方七〇〜八五米の所にある二基の古墳である。一基は横穴式石室を有する円墳で、開口されている。副葬品は何も保存されていない。

一五、狐限遺跡

種別 土器散布地

所在地 佐賀市久保泉町大字川久保字狐限（畑）

概要 脊振山脈の山麓に接続する標高三〇米余りの狐限低丘陵の南側台地一帯に、須恵器や土師器の破片が散布している。この須恵器や土師器を出土する遺跡は耕作によつて破壊されていると推定されるが、その

下層に縄文式土器を包含する地層がある。

出土品 須恵器・土師器の破片・縄文土器片・石斧

一六、櫟木土師器出土遺跡

種別 遺物包含地

所在地 佐賀市久保泉町大字上和泉字櫟木（畑）

概要 クリス形銅才銘范の出土した地点から約二〇〇米の南方、櫟木部落の民家のすぐ北側のぶどう畑から土

師器が出土している。この遺跡付近の地表上には、須恵器や土師器の破片が散布しており、また、弥生式の甕棺も出土している。遺跡はクリス形銅才鎔范の出土地へ連なっていると推定される。
土師器埴・土師器器台（県文化館保管）

一七、陶棺発見地

種別 遺物発見地

所在地 佐賀市久保泉町大字川久保字梅ヶ谷

概要

山麓に近い標高一〇〇米余りの斜面、梅ヶ谷古墳の北方約一〇〇米余りの所に石祠があるが、その石祠の屋根に用いられていたのが、この陶棺の蓋である。どこから出土したのか不明であるが、県内では他に例のない遺物である。

出土品

遺物陶棺片（佐賀市久保泉公民館保管）

一八、妙楽寺須恵器窯跡群

種別 窯跡群

所在地 佐賀市久保泉町大字川久保字妙楽寺（山林・畑）

概要

標高一五〇米～二〇〇米余りの山腹、妙楽寺盆地の北方に位置していて、窯跡と推定される所が数ヶ所存在している。その地域は金立町にまたがっており、その主なるものは白水儀六氏宅付近に三ヶ所、金立町大小野の又ヶ谷・金立山登山口・山崎一氏宅裏などである。規模や構造は不明。

出土品 須恵器破片

一九、不動滝須恵器窯跡

種別 窯跡

所在地 佐賀市久保泉町大字川久保字成瀬（山林）

概要 脊振山脈の南麓、標高一五〇米余りの所にあつて不動滝に通ずる道がこの窯跡を略直角に近く断ち切つ

ている。この道の東は深さ一〇数メートル谷となり、小川が南流しているが、この小川から西側は非常に急勾配の崖となつてゐる。この自然の地形を利用して登り窯が築かれてゐる。規模は明らかでなく、付近には須恵器が多数散在してゐる。

出土品 須恵器長頸壺他（祐徳博物館・佐賀市久保泉公民館保管）

二〇、小城内須恵器窯跡

種別 窯跡（湮滅）

所在地 佐賀市久保泉町大字川久保字神上

概要 帯限山神籠石の西側列石線のそばに築成されている神籠池の東北端にあつた窯跡で、神籠池築成のさい

発見されたものであるが、現在ほとんど崩壊してしまつてゐる。窯跡付近には須恵器片がいくらか散布してゐる。

一一、帯限山神籠石

種別 神籠石

所在地 佐賀市久保泉町大字川久保、神埼郡神埼町大字尾崎（山林・畑）

概要 標高一七七米三の帯限山をめぐっている列石線であって、その総延長は二軒四余りと推定されるが、西側の約八〇〇米は埋没したままである。列石は、花崗岩の切石が用いられていて、長さ一米八八、高さ一米のものが最大である。水門址は明らかでなく、列石線内部から箱式石棺二基・古墳一基・須恵器窯跡一基が発見されている。

文 献 佐賀県史蹟名勝天然記念物第一〇輯（昭和二六年三月三十一日、佐賀県教育委員会）、佐賀県下の文化財（昭和三十一年三月三十一日、佐賀県教育委員会）、佐賀県の文化財（昭和三十六年三月三十一日、佐賀県教育委員会）

備考 史跡。昭和三十七年に国庫補助金の交付をえて保存施設を施工。昭和三十九年度に発掘調査が実施される予定である。

一二、三本黒木古墳群

種別 古墳群

所在地 佐賀市金立町大字金立字三本黒木開拓団地（畑）

概要 金立山の南麓に近く射撃場の東側に当る傾斜面は、古墳の密集地帯であって、現在一九基の存在が確認される。横穴式石室を有する円墳であって、ほとんど開口されているばかりでなく、すでに破壊されて

いる古墳も多い。しかもこの地は開拓団地であるので、近くすべてのものが破壊されはしないかと思われる。盗掘にあつていとみえて、須恵器片が発見される位で他の副葬品は何も発見されていない。この地からはまた、甕棺や石棺も多く発見されている。

二三、小坪山古墳群

種別

古墳群

所在地

佐賀市金立町大字金立字黒土原（畑・宅地）

概要

黒土原の台地一帯に六基余りの古墳が存在している。四基は盗掘墳であつて開口している。他の二基は処女墳と考えられる。横穴式石室を有する円墳であつて、かつて須恵器や鉄製太刀などが出土したといわれている。

二四、小川古墳

種別

古墳

所在地

佐賀郡大和町字小川（畑）

概要

山麓に続接する低平な台地上にあつた古墳で、昭和三十六年一月開鑿中破壊された。遺物の一部が採集保管されているが、古墳の規模や構造などは明らかでない。この古墳の北方至近の山麓地帯には、野口・礫石などの古墳群がある。

出土品

須恵器提瓶他（大和町教育委員会保管）

二五、小隈山前方後円墳

種別

古墳

所在地

佐賀郡大和町大字川上字小隈（山林・畑）

概要

標高九〇米前後の山丘の尾根上にある前方後円墳であつて、その下方斜面に破壊された小隈古墳がある。主軸の長さは六四米ではほぼ東西の方向にあり、後円部径二八米、高さ五米、前方部幅三四米、高さ五米である。封土上には円筒埴輪が埋置されている。周囲はみかん園として開発されているため、次第に破壊されつつある。

二六、船塚

種別

古墳

所在地

佐賀郡大和町大字久留間字東二一角

概要

山麓の平地に築成された県下第一の巨大な封土を有する前方後円墳で、主軸は南北の方向にある。全長一一四米、前方部の幅六二米、後円部の径六三米、後円部の高さ一〇米、墳丘の周囲には幅一二米から一八米に及ぶ周塹が設けられていて、水田となっている。墳丘は三段に築成され、葺石がおかれている。後円部中心から七〇米―一七五米の距離をもって七基の陪塚が存在している。内部主体の構造は不



第25図 船 塚

明である。

出土品 家形埴輪一個・大形勾玉一個
文献 松尾禎作「佐賀県考古大観」（昭和三十三年三月、

祐徳博物館）、佐賀県下の文化財（昭和三十一年三月三十一日、佐賀県教育委員会）、佐賀県の文化財（昭和三十六年三月三十一日、佐賀県教育委員会）
備考 佐賀県史跡

二七、礫石古墳群

種別 古墳群

（湮滅）

所在地 佐賀郡大和町大字久池井字野口（山林・畑）
概要 標高二三五米余りの春日山の東南麓斜面一帯に數十基の古墳が群集していた。すべて横穴式石室を

有する小円墳であったが、みかん園造成のためほとんど破壊されてしまい、遺物も多少出土しているらしいが、ほとんど散失してしまつて所在の明らかなのは少ない。

出土品

円筒埴輪・馬具・管玉・鉄鏃・須恵器片・土師器片

備考

昭和三年三月一日〜一日、佐賀県教育委員会が三基の応急調査を実施。

二八、築山前方後円墳

種別

古墳

所在地

佐賀郡大和町大字尼寺（山林）

概要

山麓に近い平地に築成された前方後円墳で、主軸の長さ六〇米、ほぼ東西の方向をとっている。後円部径四〇米、高さ七米、前方部幅三〇米、高さ六米である。封土には埴輪円筒があり、成富兵庫の墓が墳丘上に営まれている。明治年間に盗掘され、石室は開口していたといわれるが、最近では埋めもどされていて構造は明らかでないが、横穴式石室であるといわれる。

備考

遺物は保存されていないが、遺構はよく保たれていて、県内の代表的な前方後円墳の一つである。

二九、男女山古墳群

種別

古墳群

（湮滅）

所在地

佐賀郡大和町大字久留間字横馬場五一〇番地（畑）

概要

標高四〇〇米の高取山の南麓、標高一〇〇米前後の斜面に築成されていた七〇基余りの大古墳群である。横穴式石室を有する小円墳群で副室を有するものも八基ほど存在していた。昭和三〇年頃開墾のた

め破壊されてしまった。多くは盗掘にあつていて、遺物はあまり発見されていない。
須恵器・その他

出土品

三〇、高 畠 古 墳

種 別

古 墳

(湮滅)

所在地

佐賀郡大和町大字梅野字都渡城高畠 (畑)

概 要

春日山の南西麓、春日山御墓所と小さい谷を隔てたところにある円墳で、大正十一年三月発掘されたものである。封土はかなり大きい円墳で、内部主体は小石積の竪穴式石室、男女二体の合葬墳である。副葬品に注目すべきものが多く、中央学界に注目された古墳であるがその副葬品も大半散失してしまっている。

出土品

鉄鍬・斧頭・鎌・紡錘車など (祐徳博物館保管)

文 献

松尾禎作「都渡城高畠古墳」(昭和二十四年五月三十一日、佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告第八輯)、

松尾禎作「佐賀県考古大観」(昭和三十三年三月一日、祐徳博物館)

備 考

大正十一年八月、黒田勝美博士が来県調査された。

三一、前隈山前方後円墳

種 別

古 墳

所在地 概要	佐賀郡大和町大字久池井字春日（山林・畑） 高城寺の南麓、山麓近くに派生した小丘陵上にあつて、主軸の長さ約六〇米余りの前方後円墳である。 内部主体の構造は不明であるが、盗掘を免かれてはいないかと推定される。周囲がみかん園となつてい るので、封土は次第にけずられ変形していつている。なおこの古墳の東方四〇米の所に破壊された小円 墳が一基存在している。	備考	古墳の所も開墾してみかん園になす計画があるという。
-------------------	--	-----------	----------------------------------

三二、小隈古墳

種別 所在地 概要	古墳 佐賀郡大和町大字川上字小隈（みかん園） 山麓の丘陵端、標高五〇米の所にある古墳で、昭和三十三年六月、土取り工事によって破壊された。封土 の径一八米、高さ二米七〇余りの円墳で、封土中央部に板石を組み合せた箱式石棺四個が埋蔵されてい た。本古墳には、明治年間に墓が営まれたといわれ、そのため二基の石棺は大部分が破壊されていた。 この古墳の背後には小隈前方後円墳がある。	出土品 文献	硬玉製勾玉二・碧玉製管玉一一・内行花文鏡一（大和町教育委員会保管） 木下之治「佐賀県大和村小隈古墳調査報告」（考古学雑誌第四四卷第三号）
--------------------------	--	-------------------	---

三三、星隈山古墳群

種別

古墳群

所在地

佐賀郡大和村字星隈山（山林・畑）

概要

川上神社の西方高地にある古墳群で、現在四基の小円墳が残存しているが、すべて破壊の度がひどく、盗掘にあい開口している。横穴式石室を有しており、開墾が進むにつれて、次第に破壊され湮滅しつつある。

三四、大門古墳

種別

古墳

（湮滅）

所在地

佐賀市金立町大字金立字大門（畑）

概要

脊振山脈南麓の低丘陵地に存在している大門古墳群の中の一基である。畑地に存在しているため早く破壊され、側壁の一部と床面が僅かに残存していたものである。床面は、径二〇厘前後の敷石床で、長さ九〇厘・六五厘 五五厘の側壁が東側にのみ残っていて、他は欠失しているので石室の規模も構造も明らかでない。遺物は敷石の上から発見されたものである。

出土品

耳環三・碧玉製管玉四・鉄製太刀二・鉸具二・鉄鏃二〇余（佐賀市岸川町井田日出二氏保管）

三五、西隈古墳

種別

古墳

所在地

佐賀市金立町大字金立字西隈二九四二ノ二一・二九三六（山林）

概要

山麓の低丘陵地に築かれた円墳で、封土の径三〇米、高さ約四米である。封土中央に羨道の簡略な横穴式石室が設けられており、内部に長さ二米・幅一米一〇・高さ一米三〇の長持形石棺がある。石棺には縄通環や横口があり、正面に円形や山形の線刻文様がある。小口石積の石室や石棺には鉄丹が一面に施されており、封土上には円筒埴輪や葺石が設けられている。

出土品

円筒埴輪片、盗掘にあい早くから開口していたために石室内部からの出土品はない。

文献

佐賀県下の文化財（昭和三十一年三月三十一日、佐賀県教育委員会）、佐賀県の文化財（昭和三十六年三月三十一日、佐賀県教育委員会）

備考

佐賀県史跡

三六、射的場古墳

種別

古墳

（湮滅）

所在地

佐賀市金立町大字金立字開拓（荒地）

概要

脊振山脈の南麓の低丘陵地、射的場近くに存在していたもので、昭和三五年一〇月土取り作業によって破壊された。封土は相当に変貌していたが径二五米余りの円墳であると推定され、封土中央に東西に向

いた竪穴式石室が営まれていた。石室は長さ一米九〇、幅四五厘、三四厘、高さ五六厘、側壁は小口石積で天井石三枚が用いられていた。内部には鉄丹が施され床は粘土床で枕石一個があり、一体分の遺体が残っていた。

出土品 鉄刀子一（佐賀市教育委員会保管）

三七、朝鮮塚

種別 古墳

所在地 佐賀市金立町大字金立字一一本杉三一〇一番地（原野）

概要 山麓の低丘陵端にあつて、封土も著しく破壊されているが、現在封土の径九米前後、高さ三米余りの

円墳であつて、朝鮮陶工の墓と称される寛永年間の石碑二基が立てられている所から朝鮮塚と呼ばれている。封土の西端近くに石室が営まれているが、天井石や羨道部など欠失破壊されていて構造は明らかでない。しかし西側に羨道が開いた横穴式石室であると推定される。

出土品 耳環二・鉄鏃五・他に破片少数、土師器皿一（佐賀市教育委員会保管）

備考 昭和三十六年三月、佐賀市教育委員会が県教育委員会の協力をえて調査を実施した。

三八、丸山古墳

種別 古墳

（湮滅）

所在地
概要

佐賀市金立町大字金立字五本黒木

山麓から平野への漸移地帯に位置していて、当地方に群在している古墳中の代表的な円墳である。封土は、南北径三〇米五〇、東西径二五米、高さ四米四〇で、相当に変貌している。葎石の痕跡は認められるが、埴輪は存在しない。封土の中心よりやや南寄り、基底部から一米四〇の高さの所に、主軸を南々西から北々東において石室が築かれ、南方に開口している。

玄室は、奥行二米三八、二米三〇、幅二米二〇、二米一二で、羨道は長さ一米一〇、幅九一厘、八八厘で羨門の方が僅かに広くなっている。扁平板石の小口積みで、上部にいくにつれて持送り、高さは二米五〇余りである。壁面には鉄丹が塗布されており、床には径四厘余りの小石が敷き詰められている。この石室は、早く盗掘にあつていて、内部は攪乱されていたが、副葬品の一部が発見された。

封土の中心から一〇米五〇余り離れた封土の西端近く、封土の基底部に箱式石棺一基が埋置されていた。石棺は、長さ一米一〇、幅三三厘、三〇厘、深さ六三厘、扁平な小板石の小口積みで蓋には一個の扁平板石が用いられていた。自然床であつて遺体や副葬品等は発見されなかった。

出土品

碧玉製管玉四個、鉄鏃・鉄刀子片若干（佐賀市教育委員会保管）

文献

木下之治「佐賀市金立町丸山古墳」（新郷土、昭和三八年四月号）、木下・安本「東肥前考古界の歩み」（新郷土、昭和三九年一月号）

備考

この古墳は、土取り工事のため破壊されてしまったが、昭和三八年三月八、九の両日に県と佐賀市の教育委員会が合同で応急調査を実施した。

三九、銚子塚

種別

古墳

所在地

佐賀市金立町大字金立二二六四

概要

山麓の低地に東西の方向に築成された県内屈指の大前方後円墳である。主軸の長さ九八米・前方部幅三二米・後円部径五八米・後円部の高さ八米で、封土の周りには幅一六米から二八米に及ぶ周溝が設けられている。周溝は水田となり、後円部上には記念碑が建てられているが、内部主体については不明である。封土中から丹塗底部穿孔土師埴形土器が発見されている。

出土品

丹塗底部穿孔土師埴形土器（祐徳博物館保管）

文献

松尾禎作「佐賀県考古大観」（昭和三二年三月、祐徳博物館）、佐賀県下の文化財（昭和三十一年三月三十一日、佐賀県教育委員会）、佐賀県の文化財（昭和三十六年三月三十一日、佐賀県教育委員会）

備考

佐賀県史跡

四〇、西野古墳群

種別

古墳群

所在地

佐賀郡大和町大字久留間字西野（山林）

概要

高取山の南麓、標高約七〇米の谷川に面した斜面に横穴式古墳群が存在している。この地は大和町と三日月村の境界で、この古墳群は両町村にまたがっている。ほとんど破壊されていて遺物なども保存され

ていない。

四一、熊本山石棺群出土遺跡

種別

石棺群出土遺跡

(湮滅)

所在地

佐賀市久保泉町大字川久保字熊本山

概要

史跡指隈山の南方に標高約八〇米余りの独立丘を呈する熊本山がある。昭和三八年みかん園造成のため、全山ブルドーザによって開墾され、六基の箱式石棺が破壊された。

この山の東北峰上にあった石棺は、主軸が南北の方向をとり、左右・前後とも一個の板石で囲まれた箱式石棺であった。石棺内部の長さ約一米四〇、幅約五〇釐、深さ三五釐、二五釐で、底部は小石床となっており、内部には鉄丹が塗布され、棺外は紫色を帯びた灰色の粘土で厚く固められていた。蓋には数個の扁平石が用いられており、遺体の一部が発見されたのみで、副葬品は検出されなかった。

なお、南峰から西にのびている屋根上にあった石棺から、長さ三〇釐、幅二五釐の加工された枕石一個が出土している。

出土品

枕石一個（佐賀県教育委員会保管）

文献

木下・安本「東肥前考古界のあゆみ」（新郷土、昭和三九年一月号）

備考

昭和三八年五月二、四日に県・市教育委員会が応急調査を実施した。

四二、熊本山舟形石棺出土遺跡

種別

石棺出土遺跡

(湮滅)

所在地

佐賀市久保泉町大字川久保字熊本山

概要

この熊本山からは、開墾中に数基の箱式石棺が出土しているが、

南峰の楯現山と通称されているところから再度の地均し作業中に舟形石

棺一基が発見された。



第26図 熊本山舟形石棺

この石棺は、石室や石囲いなどの施設はなく、石棺の単独埋置であって、ほぼ北北西―南南東の方向に主軸をおいた長さ四米三〇におよぶ凝灰岩の刳抜である。蓋石は開墾の際相当に破壊されているが、身の部分は完構を保っている。身・蓋ともに一石で作られ、内部は三室に整然と区切られている。中央の一室が大きく、その北側には枕石が一個彫出されている

が、二体が差し合せに葬むられていた。

身と蓋との接着面には、粘土がつめられており、内部には鉄丹が一画に塗布されている。石棺の中央部に僅かばかりふくらみを持たせ、前後のともとへさきの部分は半円形となっていて、ともに一孔が穿たれている。

蓋には、左右に稜が設けられ、その稜の部分に左右各々二孔が穿たれている。

出土品

鉄剣二口、鉄製太刀一口（以上、中央室）四獣鏡一面、曲玉二個、管玉一八個、小玉一八二個、鉄甲一具、鉄剣一口、鉋一本、紡繰車二個（以上、北側室）（佐賀市教育委員会保管）

備考

昭和三八年十一月、県・市教育委員会が共同で調査に当り、舟形石棺は佐賀市赤松町の佐賀城跡の門の所に移管されている。

第27図 佐賀郡 佐賀市 歴史時代遺跡所在地



佐賀郡 佐賀市 歴史時代遺跡

- 一 佐賀市久保泉町川久保
- 二 佐賀市久保泉町川久保
- 三 佐賀市久保泉町川久保
- 四 佐賀市久保泉町上和泉
- 五 佐賀市金立町金立
- 六 佐賀市金立町金立
- 七 佐賀市金立町金立
- 八 佐賀市高木瀬町東高木
- 九 佐賀市水ヶ江町
- 一〇 大和町久池井
- 一一 大和町川上
- 一二 大和町尼寺
- 一三 大和町尼寺

- 布目瓦窯跡
- 狐隈土偶出土遺跡
- 皿山陶器古窯跡
- 竜田寺塚
- 三本黒木布目瓦出土遺跡
- 金立皿山古窯跡
- 大門石製釜出土遺跡
- 高木城跡
- 人面壘描土器出土遺跡
- 惣座遺跡
- 大願寺廃寺跡
- 肥前国分寺跡
- 肥前国分寺瓦窯跡

- 一四 大和町大願寺
- 一五 大和町川上
- 一六 佐賀市久保泉町上和泉
- 一七 佐賀市久保泉町川久保
- 一八 佐賀市赤松町
- 一九 大和町尼寺

- 川上真手山経塚
- 小隈蔵骨器出土遺跡
- 篠木野土塚
- 城山
- 佐賀城跡
- 肥前国分尼寺跡

一、布目瓦窯跡

種別

窯跡

(湮滅)

所在地

佐賀市久保泉町大字川久保字清兵衛山 (原野)

概要

帯隈山神籠石の西南端に当る清兵衛山の西南端、関行から岩田に通ずる道路の断面の所にあつて、道路建設のため相当に窯跡は破壊されている。布目瓦が出土しているが、窯跡の規模や構造などは明らかでない。

二、狐隈土偶出土遺跡

種別

土偶出土遺跡

所在地

佐賀市久保泉町大字川久保字狐隈 (畑)

概要

脊振山脈の南麓に接続する標高三〇米余りの狐隈低丘陵の南側台地一帯には、表土上に須恵器や土師器の破片が散布し、下層には縄文系の遺物が包蔵されている。ここから祭祀遺物と推定される土偶二個が発見されている。埋蔵状態や関係遺物などは明らかでない。

出土品

土偶二個（佐賀市久保泉公民館保管）

三、皿山陶器古窯跡

種別

古窯跡

所在地

佐賀市久保泉町大字川久保字皿山（畑）

概要

屋形山・皿山と二つ続いた低丘陵状の台地であって、以前は陶器片や陶枕が無数に散在していたが、今は藪の所にだけ残っている。ここは物原と推定され屋形山の西北麓に窯跡らしい遺構があるといわれている。

出土品

陶枕・陶器の破片・窯の側壁の破片

四、龍田寺塚

種別

盛土遺構

所在地

佐賀市久保泉町大字上和泉字上和泉（水田）

概要

山麓から相当に離れた平地にある竜田寺の所有地で、竜田と呼ばれている水田中にある盛り土である。

現在径一米五〇余りであるが、周囲をけずられて次第に小さくなったのである。古墳所在地からは離れすぎていたので、鎌倉時代に創建された竜田寺関係の遺構ではないかと考えられるが不明である。

五、三本黒木布目瓦出土遺跡

種別 布目瓦出土遺跡

所在地 佐賀市金立町大字金立字三本黒木開拓団地（畑）

概要 金立山の南山麓に近く、射撃場の東側にあたる傾斜面には古墳・石棺・甕棺・石器など各種の遺跡が存在している。この遺跡から布目瓦も出土しているが、出土地や出土状況も明らかでないため、布目瓦と

関係のある窯跡か寺院跡か明らかにできない。

六、金立皿山古窯跡

種別 古窯跡

所在地 佐賀市金立町大字金立字大門（畑）

概要 金毘羅山の南麓、観音庵寺境内の畑に窯跡があつて、焼土や陶器片が出土している。この付近を熊の山

といったので、ここできたものを「熊の山焼」と呼んでいる。江戸初期頃の窯跡と推定されるが、窯の構造その他明らかでない。

出土品 伝「熊の山焼」壺一個

七、大門石製釜出土遺跡

種別

遺物出土遺跡

(湮滅)

所在地

佐賀市金立町大字金立字大門

(畑)

概要

昭和二十四年、道路の大改修が行われた際、道路南側崖面をくずす作業中、出土したものである。出土地の状態や伴出遺物などは明らかでない。釜は滑石製で研磨されており、最大径一六厘五、高さ九厘二である。

出土品

石製釜一個(佐賀市金立町大門、広瀬種吉氏保管)

八、高木城跡

種別

城跡

所在地

佐賀市高木瀬町大字東高木字東高木

(水田・宅地)

概要

協楽園の北側の水田中にある、久安年中、高木越前守貞永の代に築成したものであると伝えられている。城跡は大部分改変されて往時のおもかげはないが、城跡の前には堀が残り、館(たち)、郷裏(ごうら)、などと今に伝えられている場所があり、近くに高木八幡宮や高木氏の墓地のある正法寺がある。

九、人面墨描土器出土遺跡

種別 遺物包含地

(湮滅)

所在地 佐賀市水ヶ江町県立病院好生館

(病院)

概要 数年前、県立病院好生館の病棟建設工事中、地下から人面墨描の土師埴一個が出土した。人面は胴部の

中央に二顔描画されている。埋蔵状態や共伴遺物等は明らかでない。この種の遺物は本県においてはこの一例のみである。

出土品 人面墨描土師埴一個(唐津市西唐津松岡史氏保管)

一〇、惣座遺跡

種別 遺物包含地

所在地 佐賀郡大和町大字久池井字惣座 (畑・水田)

概要 春日山の南麓、平野への漸移地帯のなだらかな階段状の畑・水田地帯にある遺跡で、肥前国庁所在地に

擬せられている一角である。耕作土の下層から布目瓦および土師質土器が出土し、その下層から弥生甕棺が発見されているが、遺跡の範囲は明らかでない。

出土品 布目瓦・土師質土品片(佐賀農芸高等学校保管)

一、大願寺廃寺跡

種別 寺 院 跡

所在地 佐賀郡大和町大字川上字大願寺 (畑・水田・宅地・神地)

概要 丘陵末端の低地に所在している廃寺跡で、その規模は明らかでない。五社明神の境内に柱座遺出しの

巨大な礎石が三〇個あまり現存していて、ここから多くの遺瓦が発見されており、また東方水田中には二孔の巨大礎石も残存している。この廃寺跡に関する古記録はないが、礎石や遺瓦の様式から考察して、奈良時代の創建になる廃寺跡であると推定されている。

出土品 重國文単弁瓦・忍冬文単弁瓦・複弁瓦・重弧文平瓦・忍冬唐草文平瓦 (小城高等学校・川上小学校保管)

文献 佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告第七輯 (昭和一五年四月、佐賀県)、佐賀県の文化財 (昭和三六年

三月三十一日、佐賀県教育委員会)

備考 佐賀県史跡

一二、肥前国分寺跡

種別 寺 院 跡

所在地 佐賀郡大和町大字尼寺字尼寺及び真島 (畑・宅地・寺院)

概要 山麓に近い低平な台地状を呈する広潤な平地にあつて、遺跡は破壊の度がひどく、現在寺跡の一角に建っている園分寺の境内に礎石が数個残存しているばかりである。遺瓦も各地の研究者の手に移って散失

してしまい、その一部が保存されている。この寺跡の東南方至近から最近瓦窯跡が発見された。

出土品

鬼瓦片・字瓦・鎧瓦（大和町教育委員会保管）

文献

「国分寺及尼寺跡」（昭和五年三月、佐賀県史跡名勝天然記念物調査報告第二輯）、松尾禎作「肥前国分寺及尼寺一」（昭和一三年七月三〇日、佐賀県史跡名勝天然記念物調査報告第六輯）

一三、肥前国分寺瓦窯跡

種別

瓦窯跡

（湮滅）

所在地

佐賀郡大和町大字尼寺字柿園一〇七六

ノ一番地（畑）

概要

肥前国分寺跡の東方約一五〇米の所にあって、約一米地下げをして水田化する



るための作業が昭和三五年から始まったが、その際に発見されたものである。県教育委員会は、昭和三六年に九州大学考古学教室の協力を得て、応急調査を実施した。一号は二米一〇×一米四〇の方形の平窯、二号は一米八〇×一米四〇の平窯、三号もほぼ相似たもので、ともに埴を用いて構築されている。調査前に一基破壊されているので、四基が築成されていたことが知られ、西方二五米の所には住居跡の存在が認められた。出土瓦より見て肥前国分寺瓦の窯跡であると推定される。

出土品 平瓦多数・丸瓦多数・土師器片・須恵器片・埴・唐草文軒先平瓦二（県教育委員会保管）

一四、川上真手山経塚

種別

経塚

（湮滅）

所在地

佐賀郡大和町大字大願寺字真手山共同墓地

（墓地）

概要

健福寺の西方、山麓の丘陵末端にあつて道路傍に展開する広い墓地の一端に遺跡がある。径約一五米、高さ三米の円墳上に松が生えていて、経松と称されていたが、そこに経塚が営まれていたという。明治二二年の発見で、経塚の構造など明らかでない。

出土品

滑石製経筒一（福岡県太宰府神社保管）

文献

松尾、木下、松岡「佐賀県下出土の経塚概観」（昭和三二年三月三十一日、佐賀県文化財調査報告書第六輯）、松尾禎作「経松経塚」昭和十五年四月、佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告第七輯）

一五、小隈藏骨器出土遺跡

種別

藏骨器出土地

(湮滅)

所在地

佐賀郡大和町大字川上字小隈 (畑)

概要

小隈山前方後円墳の西北、谷近い標高五〇米余りのみかん園から藏骨器が二個出土している。二個ともに土師質の甕であるが一個は蓋のツマミを欠失している。ツマミのある甕の底部外面に「大」の字の陰刻があるのが注目される。この一帯は、古墳をはじめ遺跡の多い所である。

出土品

藏骨器二個

文献

松尾禎作「東肥前出土藏骨器について」(昭和二九年三月三十一日、佐賀県文化財調査報告書第三輯)

一六、篠木野土塚

種別

信仰遺跡

(湮滅)

所在地

佐賀市久保泉町大字上和泉字篠木野

(畑)

概要

径二米六五、高さ九〇厘余りの半球形の土盛りで、ほぼ南北の線上に約三〇米間隔で二基存在していた。昭和三七年五月、ぶどう栽培のためその中の一基が破壊されたが、遺構や遺物は何も発見されなかった。この南北線上にかつては十三基余り同じ形式の土塚が同じ間隔で存在していたといわれ、地元では経塚と呼んでいるが、十三塚と呼ばれている信仰遺跡ではないかと推定される。

一七、城 山

種別

城 跡

所在地

佐賀市久保泉町大字川久保字上分 (山林)

概要

川久保扇状地の最基部に当たるところに標高一二〇米内外の尾根が北東から南西に約一〇〇米余り続いて独立峰に近い形状を呈しているが、その山を城山と呼んでいる。中世の山城跡で、頂上は平らであり、空濠や土塁の跡が階段状に残っている。

一八、佐賀城跡

種別

城 跡

所在地

佐賀市赤松町字城内 (宅地・その他)

概要

佐賀藩主鍋島氏三万七千石の居城で、竜造寺氏の村中城を拡張して、周囲九町四方、北を大手として慶長年間に完成した平城である。享保二年、天保六年および明治七年の三回にわたって炎上しており、学校・官衙が立ち並び、堀の一部も埋められて変貌してしまっている。現在、鯉の門および続櫓一棟・城堀・土塁・天守台跡とそれに続く石垣の一部などが僅かに残っている。

出土品

記石三個

文献

佐賀市史(昭和二〇年、佐賀市役所)、佐賀県下の文化財(昭和三十一年三月三十一日、佐賀県教育委員会)、佐賀県の文化財(昭和三十六年三月三十一日、佐賀県教育委員会)、佐賀市の文化財(昭和三十七年一

備考

一月三日、佐賀市教育委員会）
鯨の門および続櫓一棟は、重要文化財に指定されており、昭和三十六年から修理工事を施工、三八年に完成した。

一九、肥前国分尼寺跡

種別 寺院跡

所在地 佐賀郡大和町大字尼寺（畑・宅地・墓地）

概要 肥前国分寺跡の西方約三〇〇米の所が肥前国分尼寺跡と推定されている。この寺院跡も荒廃に帰してしま

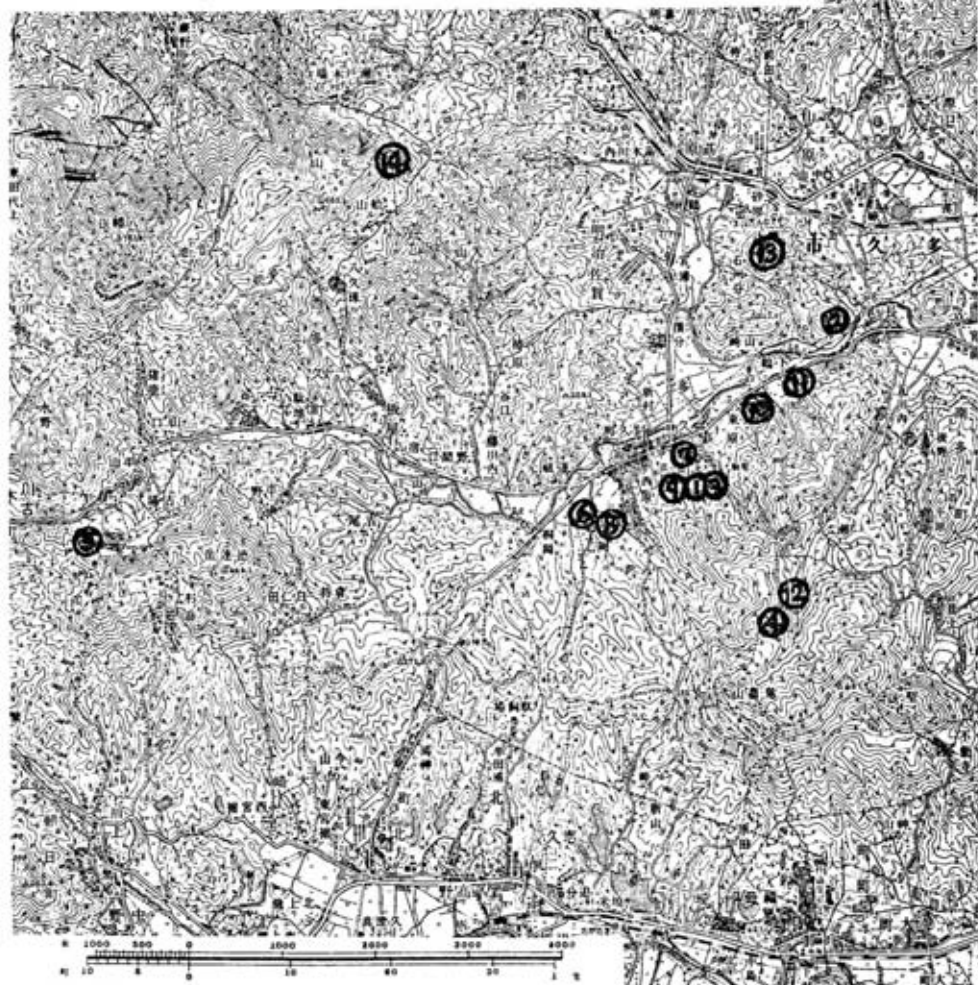
まい、付近の開墾等によって破壊されてしまっている。付近一帯に一〇数個の礎石が残存しているが、それは原位置かどうか不明であり、遺瓦も多く散失してしまっている。

文献 「国分寺及尼寺跡」（昭和五年三月、佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告第二輯）、松尾禎作「肥前国

分寺及尼寺」（昭和十三年七月三〇日、佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告第六輯）

小城郡・多久市

第29図 小城郡 先土器時代遺跡所在地
多久市



小城郡
多久市

先土器時代遺跡

- 一 多久市多久町東原
- 二 多久市南多久町長尾
- 三 多久市多久町唐堀
- 四 多久市多久町中野
- 五 多久市西多久町板屋
- 六 多久市多久町西の原
- 七 多久市多久町東の原
- 八 多久市多久町岡
- 九 多久市多久町西の原
- 一〇 多久市多久町茶園
- 一一 多久市多久町小谷
- 一二 多久市多久町宇土
- 一三 多久市北多久町砂原

- 三年山先土器遺跡
- 長尾開拓先土器遺跡
- 唐堀川先土器遺跡
- 中野開拓先土器遺跡
- 平古場先土器遺跡
- 西原先土器遺跡
- 御屋形先土器遺跡
- 岡先土器遺跡
- 梶峰社先土器遺跡
- 茶園原先土器遺跡
- 下鶴先土器遺跡
- 柳谷先土器遺跡
- 陣の辻先土器遺跡

一四 多久市西多久町板屋

綿打先土器遺跡

一、三年山先土器遺跡

種別 石器包含地

所在地 多久市多久町字東原一八一ノ三（荒地）

概要

東側はぶどう畑、西側は谷川にはさまれた低丘陵地で、表土層及びその下層の赤土層中に多数のポイントとフレイクを包含している。この遺跡は、多久地方の尖頭器文化遺跡としては、最初に発見されたものである。

出土品 ポイント・ブレイド・コアー・フレイク（多久市立図書館・明治大学保管）

備考 昭和三五年に日本考古学協会西北九州総合調査特別委員会が発掘調査を実施した。

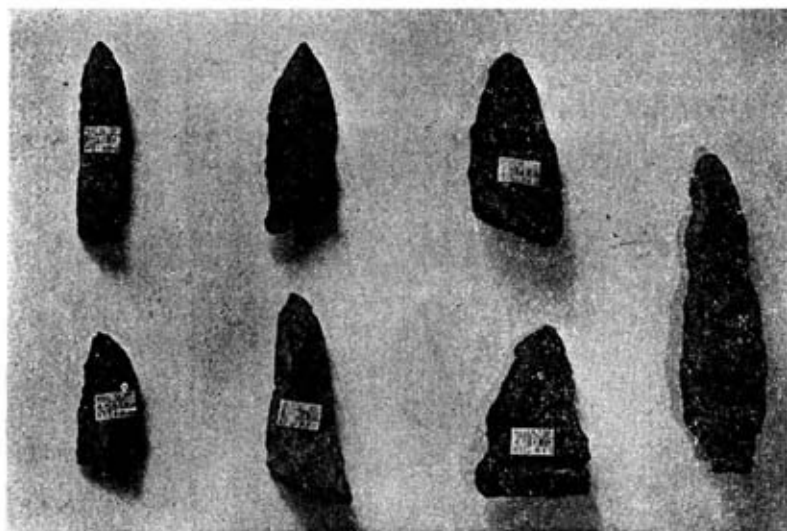
二、長尾開拓先土器遺跡

種別 石器包含地

所在地 多久市南多久町大字長尾字長尾

概要

山崎山の東山麓の開拓地で、開拓の際サヌカイドの尖頭器・剝片・石核が多数出土している。付近の畑や道路などにも遺物は散布しており、またこれらと性格の異なる黒曜石の石鏃・剝片なども散布しているが、まだ土器類は発見されていない。



第30図 長尾開拓先土器遺跡出土の尖頭器

出土品

サヌカイド製の尖頭器・剣片・石核
(多久市北部中学校保管)

三、唐堀川先土器遺跡

石器散布地

多久市多久町字唐堀 (川)

三年山遺跡の東側を流れる幅五米の川にポイントやブレイドが相当数散布している。これらの遺物は、兩岸の浸蝕や上流からの流水によるものであらうと推定される。

ポイント・ブレイド (多久市立図書館保管)

四、中野開拓先土器遺跡

石器包含地

多久市多久町字中野一八八七ノ八 (畑)

鬼ノ鼻山の頂上の急傾斜が平坦な台地に移る標高約三〇〇米の地点に開拓地があり、その

種別
所在地
概要

種別
所在地
概要

出土品

畑中一帯にわたって石器が散布している。遺物の包含層は明らかでないが、第二層の砂混りの赤土層に含まれている遺物が露出したのではないかと推定される。

出土品
ポイント・ブレイド（多久市立図書館保管）

五、平古場先土器遺跡

種別
石器散布地

所在地
多久市西多久町大字板屋小字上古場四一〇一ノ二（畑）

概要
標高約二二〇米の台地で、背後は標高四四四米の徳連岳に続き、前方は急傾斜をなして一〇〇米等高線

となっている。この台地にある溜池付近の畑に黒曜石やサヌカイドの剝片が散布しているが、時にポイントも見られる。

出土品
ポイント二個（多久市立図書館保管）

六、西原先土器遺跡

種別
石器散布地

所在地
多久市多久町大字西ノ原小字山王三八五七ノ一（畑）

概要
水田に接した標高約四〇米の丘陵の端にある畑中に遺物が散布している。遺跡に剝片がほとんど見当たらない点から見て、この遺物は近くの低丘陵にある三年山遺跡や茶園原遺跡から搬出されたものではない

かと推定される。

出土品

ポイント五個

七、御屋形先土器遺跡

種別

石器散布地

所在地

多久市多久町大字東ノ原字御屋形一七七四ノ一番地（畑）

概要

三年山遺跡の西北約一〇〇米、標高約三八米の山麓にある畑に遺物が散布している。この遺跡からは、フレイクやコアー等はほとんど発見されていない。

出土品

ポイント六個（多久市立図書館保管）

八、岡先土器遺跡

種別

石器散布地

所在地

多久市多久町字岡三一七〇番地（畑・道路）

概要

東と西の両側を舌状丘陵ではさまれた標高約四〇米の低地にある遺跡である。畑や道路上に遺物は散布しているが、恐らく近くの低丘陵上にある三年山遺跡や茶園原遺跡から流出したものであろうと推定される。しかし、この遺跡の石器は、剝離が精巧で優美な点注目値する。

出土品

ポイント一〇個（多久市立図書館保管）

九、梶峰社先土器遺跡

種別	石器散布地
所在地	多久市多久町字西ノ原一九七〇番地（山林）
概要	山麓にある西溪公園横の梶峰社の境内から遺物は発見されている。三年山遺跡や茶園原遺跡と同一等高線上にあるが石器の数も少なく、剥片も少ない所から見て、他の遺跡からの搬入と思われる。
出土品	ポイント三個（多久市立図書館保管）

一〇、茶園原先土器遺跡

種別	石器包含地
所在地	多久市多久町字茶園五八〇番地（山林・畑）
概要	標高四〇米の茶園原開墾地及びその周囲の雑木林一帯の広範囲から尖頭器及び剥片を主とした石器類が出土している。この地層は表土、赤土と堆砂、砂礫、砂岩と四層からなっていて、遺物は第二層の「赤土と堆砂」及び表土から出土しているが、この地が傾斜地のため地層は不明な点が多い。
出土品	ポイント・ブレイド・コアー多数（明治大学・多久市立図書館保管）
備考	昭和三五年、日本考古学協会西北九州総合調査特別委員会が発掘調査を実施した。

一一、下鶴先土器遺跡

種別 石器包含地

所在地 多久市多久町字小谷三〇三番地 (山林・川)

概要

多久、南多久間の道路が多久川と併行する地点の南側の雑木林一帯が遺跡であって、特に採石場となっている西ノ谷に遺物は集中している。表土から三米は、サヌカイドの礫層で、その下層は砂礫層となっている。地層の攪乱が著るしい所からみて上方からの流出によるものではないかと推定されている。

出土品 ポイント・ブレイド (明治大学・多久市立図書館保管)

備考 昭和三五年に日本考古学協会西北九州総合調査特別委員会が発掘調査を実施した。

一二、柳谷先土器遺跡

種別 石器包含地

所在地 多久市多久町字宇土一八八三番地 (畑)

概要

鬼ノ鼻山の東北斜面、標高約二〇〇米の所にある遺跡であって、密柑園中に遺物が散布している。遺物の包含されている地層は明らかでなく、石器に比してフイレクが少ない。

出土品 ポイント・ブレイド (多久市立図書館保管)

一三、陣の辻先土器遺跡

種別

石器包含地

所在地

多久市北多久町字砂原陣の辻（畑）

概要

山崎山の北側山麓を開墾中発見されたもので、この付近一帯にフレイクが多数散乱している。遺跡の層位などは不明である。

出土品

ポイント（多久市立図書館保管）

一四、綿打先土器遺跡

種別

石器包含地

所在地

多久市西多久町大字板屋字中桁一〇五七二・一〇五七三番地（山林・畑）

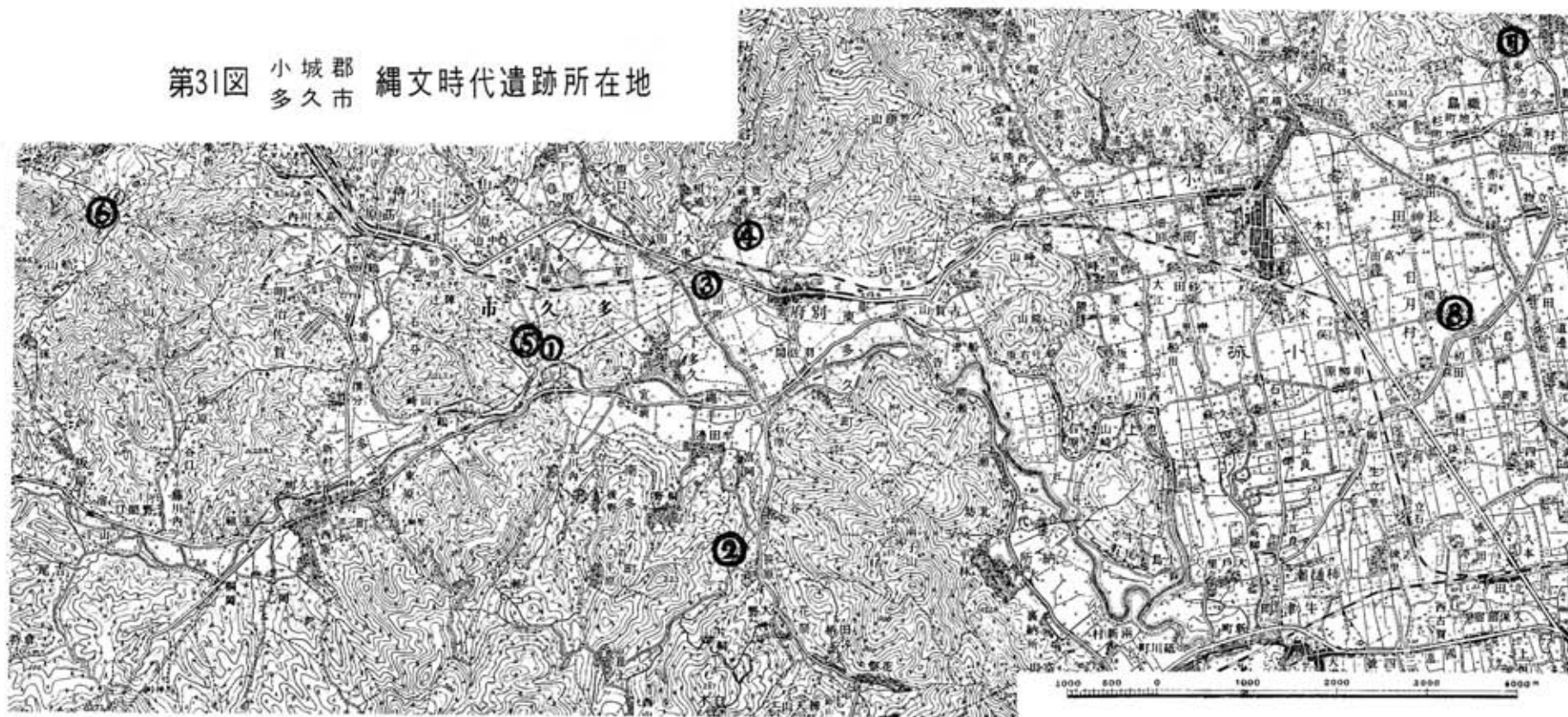
概要

標高六八五米余りの船山岳の急傾斜が尽きて、なだらかな高原状の丘陵となっている。東北側の中腹にある溜池のそばが遺跡である。以前は、茶畑であったが、現在は放置されて原野となっている。遺物を層序的に包含していて、県内では層位的調査のできる数少ない遺跡の一つであって、最下層の純粹ローム層に細石器を包含している。

出土品

ブレイド・トラピーズ・スクレイパー（多久市西部中学校保管）

第31図 小城郡 縄文時代遺跡所在地
多久市



小城郡
多 久 市
縄文時代遺跡

一	多 久 市 南 多 久 町 長 尾	上ノ原石器遺跡
二	多 久 市 南 多 久 町 下 多 久	笹原遺跡
三	多 久 市 北 多 久 町 多 久 原	大工田遺跡
四	多 久 市 東 多 久 町 別 府	宝蔵寺遺跡
五	多 久 市 南 多 久 町 長 尾	長尾松隈遺跡
六	多 久 市 西 多 久 町 板 屋	綿打縄文遺跡
七	三 日 月 村 織 島	竜王縄文遺跡
八	三 日 月 村 長 神 田	三日月中学校縄文晩期遺跡

一、上ノ原石器遺跡

種 別
遺物散布地

所在地
多 久 市 多 久 町 大 字 長 尾 字 上ノ原 (畑)

概要

上ノ原から長尾に通ずるバス道路の東側の台地の一帯から黒耀石の石鏃や剝片が多数採集されている。この地は、雑木林であつたのが、開墾されて畑となつたもので、土器片は発見されておらず、遺跡の性格は明らかでない。

出土品

黒耀石の石鏃・剝片（多久市北部中学校保管）

二、笹原遺跡

種別

遺物散布地

所在地

多久市南多久町大字下多久字笹原五〇六五ノ一番地（畑）

概要

笹原部落へ通ずる道路西側の舌状台地の北端に近い畑に黒耀石の石鏃および剝片が散在している。なお付近の道路の断面から弥生式土器片一個が発見されているが、遺跡の性格は不明である。

出土品

黒耀石の石鏃・剝片（多久市北部中学校保管）

三、大工田遺跡

種別

遺物散布地

所在地

多久市北多久町大字多久原字大工田（水田）

概要

佐賀・唐津間の国道沿線にある大工田から上田町へ通ずる農道の左右にある水田地帯に、黒耀石のブレイド・石鏃・剝片及び縄文式土器片や弥生式土器片が散在している。遺跡の性格は不明であるが、縄文

時代から弥生時代に及ぶものである。

出土品 黒耀石のブレイド・石鏃・剣片、縄文式土器片、弥生式土器片（多久市北部中学校保管）

四、宝蔵寺遺跡

種別 遺物包含地

所在地 多久市東多久町大字別府小字宝蔵寺五一二六番地（山林・畑）

概要 宝蔵寺部落に至る道路の東側の舌状台地一帯が遺跡で、雑木林を果樹にするため開墾中多数の遺物が出

土した。黒耀石のブレイド・石鏃・剣片それに石匙等の石器類を始め、縄文式土器片や弥生式土器及び須恵器・土師器片等であつて、縄文時代から古墳時代に及ぶ長期間に亘る遺跡と推定されるが、遺跡の性格や遺物の層位などは、偶然発見のため、明らかにされていない。

出土品 黒耀石ブレイド・石鏃・剣片・石匙一・サヌカイト製小型ポイント二・磨製石斧一、縄文式土器片・弥

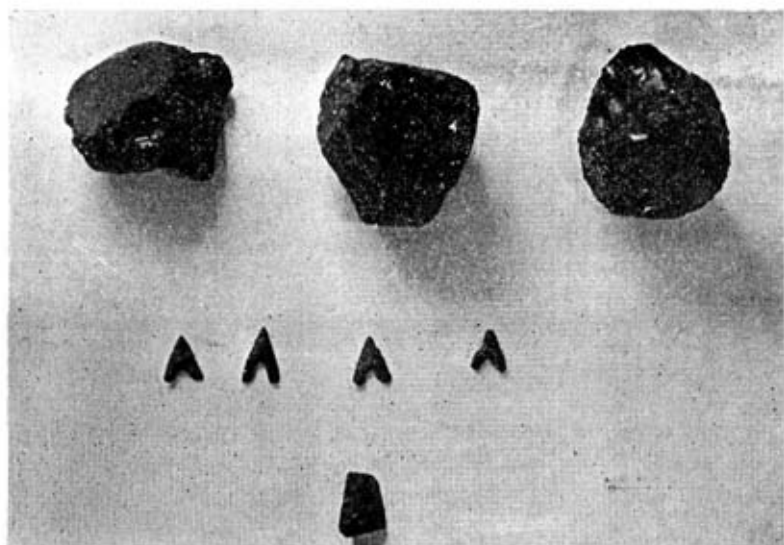
生式土器片・須恵器片及び土師器片、滑石製器物片（多久市北部中学校保管）

五、長尾松隈遺跡

種別 石器包含地

所在地 多久市南多久町大字長尾字長尾（山林・畑）

概要 上の原台地南端部の東斜面及び北斜面で標高四〇米の地（長尾より上原に至るバス道路の途中西側）、



第32図 長尾松隈遺跡出土品（石核と石鉄）

出土品

雑木林を開墾中表土下一〇～二〇厘の所から尖頭器・剝片・石核などが多数出土している。なおこの地帯には、これらと性格の異なる黒曜石の石鉄・石核・剝片なども相当に散布しているが、まだ、土器は発見されていない。

サヌカイド製の尖頭器・石核・剝片、黒曜石製の石鉄・石核・剝片、石斧（多久市北部中学校保管）

六、綿打縄文遺跡

種別 遺物包含地

所在地 多久市西多久町大字板屋字中桁一〇五七二・一

〇五七三番地（山林・畑）

概要

標高六八五米余りの船山岳の急傾斜が尽きて、なだらかな高原状の丘陵となっている東北側の中腹、溜池のそばが遺跡である。現在原野となっているが、遺跡を層序的に包含している県内

出土品
では数少ない遺跡の一つである。表土層から御領式、その下層から押型文土器が検出され、最下層には細石器を包含している。
御領式土器・押型文土器・石鏃（多久市西部中学校保管）

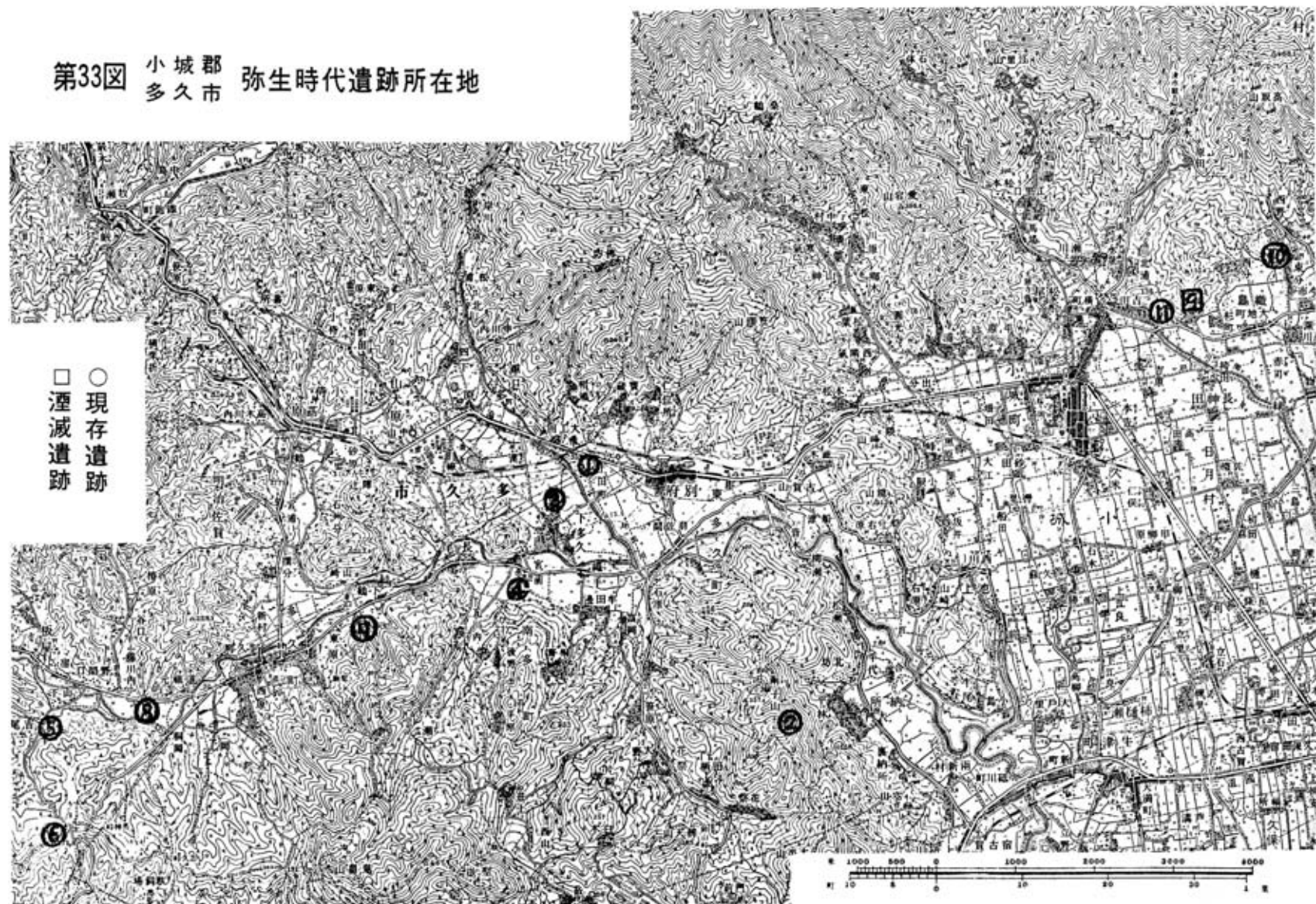
七、竜王縄文遺跡

種別	遺物包含地
所在地	小城郡三日月村大字織島字東分竜王（畑）
概要	脊振山系の南麓、低丘陵が平地に没しようとする漸移地帯の平地に近い緩傾斜地にある遺跡で、織島社の北側にある貯水池付近を中心に広範囲に及んでいると推定される。縄文早期から晩期に及ぶ遺跡が層位的に研究できる県内では数少ない遺跡である。
出土品	酋畑・阿高・御領等の縄文式土器片、石鏃・石斧・石匙・スクレイパー・ドリル等の石器類（県文化館・慶応大学保管）
文献	松尾禎作「佐賀の文化史を三日月に掘る」（昭和三三年八月号、新郷土、佐賀県文化館発行）
備考	昭和三三年六月松尾禎作氏が責任者となって、第一次発掘調査を実施し、昭和三四年三月、慶応大学江坂輝弥氏が責任者となって、第二次発掘調査を実施した。

八、三日月中学校縄文晩期遺跡

種別	遺物包含地
所在地	小城郡三日月村大字長神田 三日月中学校 (校地)
概要	三日月中学校運動場の地表下五〇㎝程の所から夜日式土器一個体分と石斧・石鏃などが出土した。この地は沖積層の平地であり、その遺物の出土状況は明らかでない。
出土品	夜日式土器一個体分(大和中学校保管)・磨製石斧・石鏃

第33図 小城郡 弥生時代遺跡所在地
多久市



小城郡
多久市

弥生時代遺跡

- 一 多久市南多久町下多久
二 多久市東多久町納所
三 多久市南多久町下多久
四 多久市南多久町長尾
五 多久市西多久町板屋
六 多久市西多久町板屋
七 多久市多久町茶園
八 多久市多久町刃金
九 三日月村織島
一〇 三日月村織島
一一 小城町松尾

- 上田町弥生遺跡
双児山飛石開拓遺跡
中小路弥生遺跡
瓦川内弥生遺跡
吉野尾弥生遺跡
名草山弥生遺跡
茶園原弥生遺跡
保四郎弥生遺跡
玉毫寺裏弥生遺跡
東分弥生甕棺遺跡
吉田弥生遺跡

一、上田町弥生遺跡

種別 遺物散布地

所在地 多久市南多久町大字下多久字上田町四三二番地（宅地）

概要 佐賀、唐津間の国道沿線にある大工田部落から上田町部落に入ったところの住宅跡の畑に弥生式土器片

が散在している。その分布範囲は余り広くなく、遺跡は既に破壊されていると考えられる。

出土品 弥生式土器片（多久市北部中学校保管）

二、双児山飛石開拓遺跡

種別 遺物包含地

所在地 多久市東多久町大字納所字飛石（山林）

概要 双児山南麓の標高二〇〇米の三宝山周辺の開拓地から、サヌカイドの尖頭器・剝片及び黒曜石のブレイ

ド・石核・剝片、また、石鏃や弥生式土器片も発見されている。これらの遺物は相当広範囲にわたって

分布しており、その埋藏されている層位などの状態は明らかでないが、尖頭器・細石器の文化から弥生

文化に及ぶ長期間の遺跡として注目される。

出土品 サヌカイド製の尖頭器・剝片、黒曜石製のブレイド・石核・剝片及び石鏃、弥生式土器片（多久市北部

中学校保管）

三、中小路弥生遺跡

種別 遺物散布地

所在地 多久市南多久町大字下多久 字中小路 (畑)

概要 中小路部落の北端に位置する舌状台地の畑一帯に、黒曜石の石鏃・剝片および弥生式土器片が散在して

いる。遺跡は既に擾乱されてしまっていると推定され、その性格も明らかでない。

出土品 黒曜石の石鏃・剝片、弥生式土器片(多久市北部中学校保管)

四、瓦川内弥生遺跡

種別 遺物散布地

所在地 多久市南多久町大字長尾字瓦川内 (畑・水田)

概要 鬼塚古墳跡の東方至近の水田および畑に弥生式土器片が散在している。耕地整理の際に多数の土器片が

出土したといわれるが、遺跡の性格は明らかでない。須玖式の口縁部一個も混っているので、弥生時代中期の遺跡であろうと推定される。

出土品 弥生式土器片(多久市北部中学校保管)

五、吉野尾弥生遺跡

種別 遺物散布地

所在地

多久市西多久町大字板屋字大藪五〇五番地（畑）

概要

西多久川の東、水田に接続する河岸段丘一帯に黒耀石やサヌカイドの剝片が散布しており、弥生式に属すると推定される石斧が発見されている。遺跡の範囲は明らかでなく、また土器片も検出されていない。

出土品

磨製石斧三個（多久市西部中学校保管）

六、名草山弥生遺跡

種別

遺物散布地

所在地

多久市西多久町大字板屋字黒牟田（畑）

概要

標高約二〇〇米の名草山の頂上付近の東北斜面から弥生式土器片が発見されている。この遺跡の範囲や包含状態などは明らかでない。

出土品

弥生式土器片（多久市西部中学校保管）

七、茶園原弥生遺跡

種別

遺物包含地

所在地

多久市多久町字茶園五八〇番地（畑）

概要

標高約四〇米の低丘陵地にある茶園原の開墾地一帯から弥生式遺物が発見されている。この遺跡の性格や範囲は明らかでなく、また、この遺跡からは先土器時代の尖頭器が多数発見されている。

出土品 弥生式土器片・石斧・石釜破片（多久市北部中学校保管）

八、保四郎弥生遺跡

種別 遺物散布地

所在地 多久市多久町字刃金（水田）

概要 多久川のほとりにある水田中から弥生時代に属すると思われる石斧が出土している。この水田が遺跡であるのか、上流からの流出であるのかは不明である。

出土品 磨製石斧（多久市立図書館保管）

九、玉毫寺裏弥生遺跡

種別 石棺及び甕棺埋藏遺跡（湮滅）

所在地 小城郡三日月村大字織島字岡三坪（畑）

概要 城山南麓の洪積層の低丘陵地をみかん園となすために開墾中、箱式石棺および須玖式甕棺が発見されたといわれ、石棺は二基で内部に鉄丹が施されていた。しかし、ともに破壊されてその跡をとどめない。

出土品 甕棺破片

一〇、東分弥生甕棺遺跡

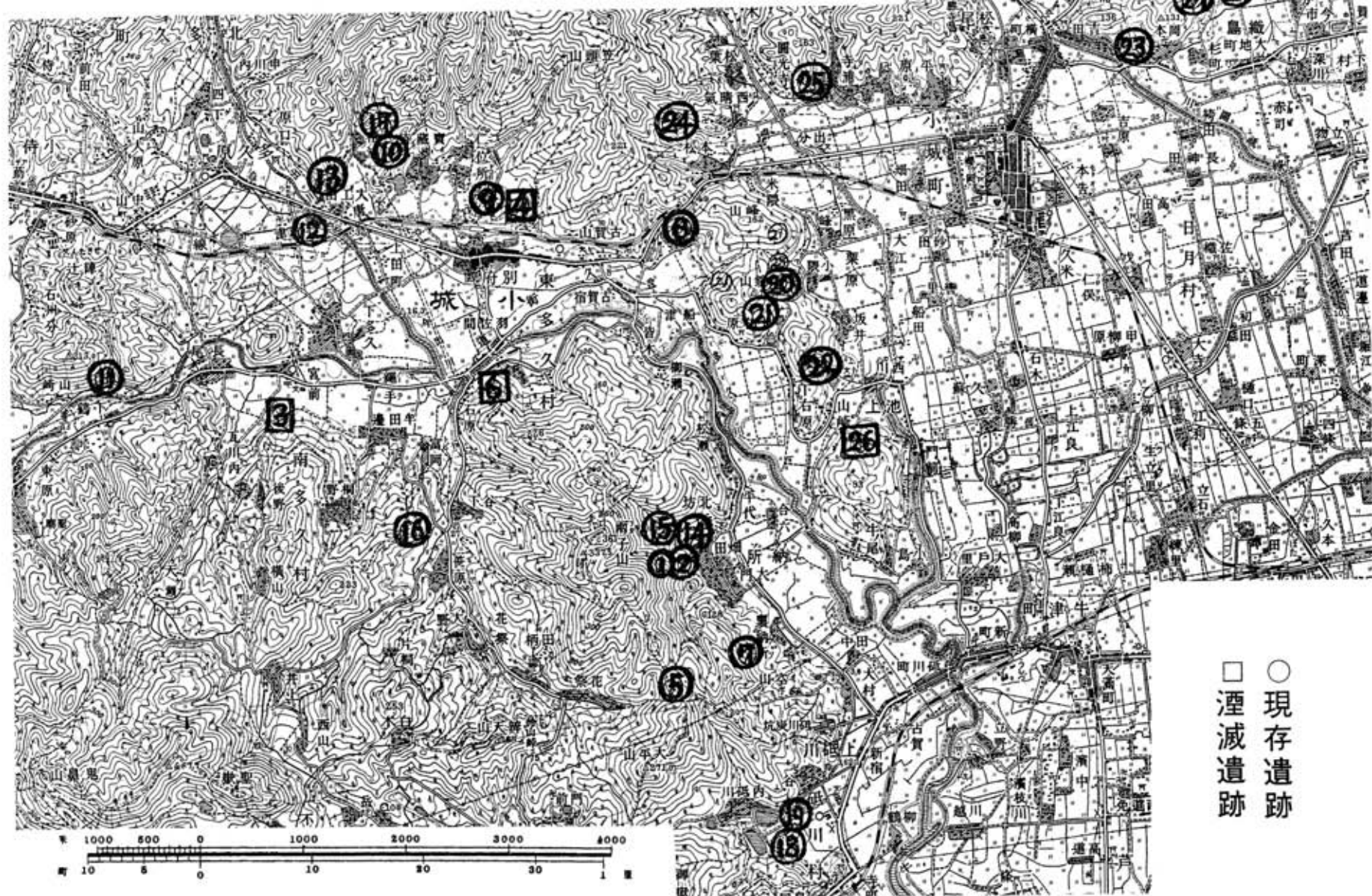
種別 甕棺埋藏遺跡

所在地 概要	小城郡三日月村大字織島字東分（山林・宅地・道路） 低丘陵端にある道路そばに甕棺が露出し、道路付近にも甕棺破片の散在しているのが見られる。道路建設中に相当数のものが出土したといわれる。すべて須玖式甕棺であって、副葬品の発見はなく埋藏地の範囲も不明である。
出土品	須玖式甕棺一個（県教育委員会保管）

一一、吉田弥生遺跡

種別	甕棺埋藏遺跡
所在地	小城郡小城町大字松尾字明限五二一番地（畑）
概要	城山から南に延びた低丘陵に横穴式石室を内部主体とする小円墳の破壊されたものが存在している。その南下部から箱式石棺が出土しており、遺物は発見されていないが、同地域からは須玖式土器の破片が出土しているので、弥生時代に墓地が形成されていたことが知られる。
備考	箱式石棺は小城高等学校に保管復原されている。

第34図 小城郡 古墳時代遺跡所在地
多久市



○ 現存遺跡
□ 湮滅遺跡

小城郡
多
久
市
古墳時代遺跡

- | | | |
|----|--|---------------------------------|
| 一 | 多
久
市
東
多
久
町
納
所 | 北
平
第
一
号
古
墳 |
| 二 | 多
久
市
東
多
久
町
納
所 | 北
平
第
二
号
古
墳 |
| 三 | 多
久
市
南
多
久
町
長
尾 | 瓦
川
内
古
墳
群 |
| 四 | 多
久
市
東
多
久
町
別
府 | 射
場
谷
古
墳 |
| 五 | 多
久
市
東
多
久
町
納
所 | 三
宝
山
古
墳
群 |
| 六 | 多
久
市
東
多
久
町
納
所 | 羽
佐
間
古
墳
群 |
| 七 | 多
久
市
東
多
久
町
納
所 | 觀
音
山
古
墳 |
| 八 | 多
久
市
東
多
久
町
別
府 | 渡
木
古
墳
群 |
| 九 | 多
久
市
東
多
久
町
別
府 | 小
城
炭
鉾
古
墳 |
| 一〇 | 多
久
市
北
多
久
町
多
久
原 | 相
浦
古
墳 |
| 一一 | 多
久
市
多
久
町
山
崎 | 山
崎
古
墳
群 |
| 一二 | 多
久
市
北
多
久
町
多
久
原 | 野
田
姫
塚 |
| 一三 | 多
久
市
北
多
久
町
多
久
原 | 大
工
田
古
墳 |

二九	三	日	月	村	西	分
二八	三	日	月	村	織	島
二七	三	日	月	村	西	分
二六	小	城	町	池	ノ	上
二五	小	城	町	寺	浦	
二四	小	城	町	畑	田	
二三	小	城	町	松	尾	
二二	小	城	町	三	里	
二一	小	城	町	池	ノ	上
二〇	小	城	町	池	ノ	上
一九	牛	津	町	上	砥	川
一八	牛	津	町	上	砥	川
一七	多	久	市	北	多	久
一六	多	久	市	南	多	久
一五	多	久	市	東	多	久
一四	多	久	市	東	多	久

納所

納所

納所

納所

納所

納所

納所

納所

納所

納所

納所

納所

納所

納所

納所

納所

納所

納所

納所

納所

平林	第一号	古墳
平林	第二号	古墳
牟田	山須恵	器窯跡
相浦	須恵	器窯跡
赤佐	古	第一号
赤佐	古	第一号
鏡山	古墳群	姫塚
鏡山	古墳群	
三里	古墳群	
城側	(ジョウソク)	山古墳
一本	松	古墳群
コウザン	山	古墳群
深底	籠	古墳
地藏	山前方	後円墳
姫塚		
円山	古墳	

一、北平第一号古墳

種別 古墳群

所在地 多久市東多久町大字納所字平林 (畑)

概要

双児山の東山麓の傾斜面のヒワ畑の中に存在している。封土の径八米、高さ二米二五の円墳で、内部主体は南西に開口する横穴式石室である。石室の全長四米二〇、玄室の幅一米八〇、奥行二米で、玄室の壁は穹隆状に持送られている。早く開口されて、遺物は存在しないが、封土の周りは石垣を築き保存されている。

二、北平第二号古墳

種別 古墳群

所在地 多久市東多久町大字納所字平林 (畑)

概要

第一号古墳の西方約一四米のヒワ畑の中にある横穴式石室を有する円墳であるが、封土は削平されて石室の一部が露出している。石室は、南西に開口していて、全長五米八〇、玄室は幅一米七〇、奥行二米で、早く開口され遺物は保存しない。この付近一帯には、破壊された古墳の巨石が散在していて、かつて古墳群を形成していたことを物語っている。

三、瓦川内古墳群

種別

古墳群

(湮滅)

所在地

多久市南多久町大字長尾字瓦川内 (畑・水田)

概要

南多久支所から五〇〇米余り平原山麓へ行つた所の水田および畑一帯の地で、三六基の古墳が存在したと推定されるが、すべて破壊されてしまつてゐる。昭和二九年五月、耕地整理の際発見された一基は奥行四米、幅三米、高さ一米の石室墳であつたといわれる。

出土品

金張り耳環一・玉類数個

四、射場谷古墳

種別

古墳

(湮滅)

所在地

多久市東多久町大字別府字別府一区二〇〇九番地 (畑)

概要

東多久駅の北東方五〇〇米の丘陵地にあつて、昭和三五年五月開墾中に発見された。古墳は破壊され、石室の石はみかん畑の石垣に利用されている。発見者の言によると、封土の径六米余りの小円墳で、内部主体は南東に開口し、玄室の広さ約二米四方の横穴式石室であつたらしい。この古墳の所在地付近には、以前多くの古墳が存在して、古墳群を形成していたらしく石室の石らしいものが今も多く散在している。

出土品

紡錘車二・須恵器長頸壺一・須恵器横盆一 (小城高校多久分校・西部中学校保管)

文献

木下之治「佐賀県における埋蔵文化財の発掘・発見の覚書」(郷土研究第一〇号、佐賀県郷土研究会)

五、三宝山古墳群

種別
所在地
概要

古墳群

多久市東多久町大字納所字飛石（畑）

双児山の南端、三宝山の一角、標高二〇〇米余りのところにあり、以前は一〇数基のものが存在して、古墳群を形成していたといわれるが、破壊されて現在三基のものが確認される。一号墳は径九米五〇、高さ三米五〇の封土を有する円墳で、内部主体は全長八米八五の複室を有する横穴式石室である。二号墳も複室を有する横穴式石室であるが、封土や石室天井石は破壊されている。早く盗掘にあい遺物は保存されていない。

出土品
数一〇年前に須恵器が出土したと伝えられている。



第35図 三宝山古墳群

六、羽佐間古墳群

種別

古墳群

(湮滅)

所在地

多久市東多久町大字納所字羽佐間 (宝満山) (畑)

概要

双児山北端の山麓にある宝満山の北斜面、標高二〇米から六〇米の所に、一〇数基の古墳群が形成されていたといわれるが、昭和三二年みかん畑として開墾された際、古墳は全て破壊されてしまった。古墳の構造や大きさなど明らかでない。

出土品

鉄製太刀二・鉾先二

七、観音山古墳

種別

古墳

所在地

多久市東多久町大字納所字裏納所三九五一番地 (畑)

概要

双児山東山麓の観音山山頂の畑の中にある。以前雑木林であったのを梨畑に開くとき、側壁だけをのこして他の部分は破壊された。昭和三二年再びみかん園としたときに、玄室の一部を残し、他の部分が破壊され、副葬品が出土した。残存している玄室の構造から見ても、南西に開口した横穴式石室で、玄室の幅一米八〇、奥行約二米と推定されるが、封土の大きさは不明である。

出土品

鉄製太刀一口・ガラス小玉一個

八、渋木古墳群

種別 古墳群

所在地 多久市東多久町大字別府字渋木 (山林)

概要 峰山山麓の西斜面にある封土の径一・三米、高さ三米八〇の円墳で、内部主体は南西に開口した複室を有する横穴式石室である。石室の全長は八米八五で、この円墳の傍が採土場となっているため、昭和三四年築道部の一部が破壊され、副葬品が発見された。この円墳の近くには、一部が破壊された小円墳が二基存在している。

出土品 鉄製太刀一・須恵器横盆二・須恵器提瓶一・須恵器高坏片・鉄製馬具片(多久市立図書館・多久市北部中学校保管)

文献 木下之治「佐賀県における埋蔵文化財の発掘・発見の覚書」(郷土研究第一〇号、佐賀県郷土研究会)

九、小城炭鋳古墳

種別 古墳

所在地 多久市東多久町大字別府字山ノ手 (宅地)

概要 笠頭山の山麓、標高約六〇米の所にあつて、小城炭鋳労働組合の裏側に位置している。封土の径一・三米、高さ二米八〇の円墳で、内部主体は複室を有する横穴式石室で、東北に開口している。石室の全長五米二〇、奥室は幅一米七〇、奥行一米三〇、高さ一米五〇である。封土の一部は切り崩され、石室の

一部が露出している。早く盗掘にあい遺物は保存されていない。

一〇、相浦古墳

種別 古墳

所在地 多久市北多久町大字多久原字相浦（畑）
概要 相浦山麓南斜面の標高約六〇米の雑木林と畑の境にある。南東に開口した横穴式石室を有する円墳で、

封土も石室も相当に破壊されている。玄室は幅一米八〇、奥行一米三〇、高さ一米八五で、穹窿状に持送って築かれている。鉄製太刀や多数の玉類が出土したといわれるが、その所在は不明である。付近には、破壊された古墳が二、三基あり、群集墳ではなかったかと考えられる。

出土品 勾玉一個（多久市北部中学校保管）

一一、山崎古墳群

種別 古墳群

所在地 多久市多久町字山崎（山林）

概要

山崎山の山麓に近い南斜面の標高二〇米余りの雑木林の中にある。径八米五〇、高さ一米六〇の円墳で内部主体は、南に開口した複室を有する横穴式石室である。石室の全長四米六〇、奥室は幅一米三〇、奥行き一米七〇であって、封土上に稻荷明神の石祠がある。大正年間に鉄製太刀が出土したといわれる

が、所在不明。付近に三基の破壊された小円墳があり、外にも多くの古墳が築成されていたらしい形跡があるので、この地には古墳群が形成されていたと考えられる。

一二、野田姫塚

種別

古墳

所在地

多久市北多久町大字多久原字両原（畑）

概要

多久原丘陵地の一端にあつて、盗掘破壊され、石室の石が付近に散在している。封土の一部が残っており、残存する石等によつて推定すると、封土の径六米、高さ二米余りの円墳で、内部主体は東に開口する約一米六〇四方の玄室を有する横穴式石室であつたと思われる。

一三、大工田古墳

種別

古墳

（湮滅）

所在地

多久市北多久町大字多久原字大工田七五三番地（宅地）

概要

封土は剝奪され、石室も破壊されて、石垣の役目を果して存在している。封土の径六米余りの横穴式石室を有する円墳であつたと推定されるが、石室の構造や大きさ、および出土品などは明らかでない。なお、近くに小円墳であつたと思われる小高い所がある。

一四、平林第一号古墳

種別 古墳

所在地 多久市東多久町大字納所字平林二五五八番地（宅地）

概要 山麓に近い斜面の宅地内にある封土の径八米、高さ三米六〇余りの円墳で、内部主体は南西に開口した

複室を有する横穴式石室である。前室の一部と羨道が破壊されており、奥室は幅一米九〇、奥行三米である。現在物置として利用されていて、早く開口されているため副葬品は保存されていない。

一五、平林第二号古墳

種別 古墳

所在地 多久市東多久町大字納所字平林二五五五番地（山林）

概要 第一号古墳の西方約一〇米の竹林の中にあつて、封土の径約一二米、高さ約三米の円墳である。内部主

体は南西に開口する複室を有する横穴式石室で、石室の全長は八米九〇である。奥室の幅二米五〇、奥行二米二〇、高さ二米五〇で、早く開口され副葬品は保存されていないが、石室は完全に保たれている。

一六、牟田辺山須恵器窯跡

種別 須恵器窯跡

所在地 多久市南多久町大字下多久字牟田辺山（山林）

概要

牟田辺山東斜面の中復、標高一〇〇米の所にあつて、自然の地形を利用した登り窯であると推定される。昭和二八年の開墾作業の際、多数の須恵器および黒色の焼土が出土したと伝えられるが、現在は荒地となつていて、窯の構造や大きさなど明らかでない。

出土品

須恵器破片・焼土（多久市北部中学校保管）

一七、相浦須恵器窯跡

種別

須恵器窯跡

所在地

多久市北多久町大字多久原字相浦（山林）

概要

城山の山麓に近い傾斜面、標高六〇米の所にあつて、荒地とその下の水田との境が高き一、五米～二米の断崖をなしているが、この断崖の所から須恵器片や焼土などが層をなして出土したという。断崖の所には現在も須恵器片が包含されているが、窯の構造や大きさなどは明らかでない。

出土品

須恵器片（多久市北部中学校保管）

一八、赤佐古古墳群

種別

古墳群

所在地

小城郡牛津町大字上砥川字赤佐古一七一〇番地（畑）

概要

御嶽山の東山麓の傾斜面、標高二〇米から四〇米の所にある横穴式石室を有する古墳群で、みかん園となつてゐるため第一号古墳を除き他は殆んど破壊されており、築石が諸処に残存している。この古墳群

出土品
直刀二口
の中の一基から直刀二口と人骨が検出されている。

一九、赤佐古矛一号古墳

種別
古墳

所在地
小城郡牛津町大字上砥川字赤佐古一七〇七番地（畑）

概要
御嶽山の東山麓の斜面、赤佐古のみかん園にあり、封土の周囲は切取られて変形している。この一帯に

ある赤佐古古墳群の中の一基で、内部主体は横穴式石室であるが、まだ開口していないため、石室内の規模などは不明である。

二〇、鏡山古墳群姫塚

種別
古墳

所在地
小城郡小城町大字池ノ上字鏡山（山林）

概要
標高一三五米余りの鏡山は、古墳群地帯であつて、多くの円墳が群在している。その中で、鏡山山頂近

くの屋根上にある姫塚は、この古墳群中最大のものである。横穴式石室を有する円墳であるが、一種の巨石墳で、羨道は著るしく発達し、石室の豪壮な点において県下屈指の古墳である。早くより開口し、遺物は伝存されていない。

二一、鏡山古墳群

種別 古墳群

所在地 小城郡小城町大字池ノ上字鏡山（山林・畑）

概要 天山山系から南に延びる舌状丘陵の峰山、鏡山および山崎山には古墳が群集している。山頂から山麓にかけて群在しているが、全て横穴式石室を有する小円墳であつて、みかん園造成のため開墾が進み、破壊されつつある。昭和三十六年七月鏡山山頂の第一号・第二号が破壊されるに際し、小城高校で調査を実施した。

出土品 一号墳―須恵器・土師器・管玉・鉄鏃、二号墳―須恵器・土師器・雲珠・杏葉・鉄鏃・刀子・直刀（小城高等学校保管）

一二、三里古墳群

種別 古墳群

所在地 小城郡小城町大字三里（畑）

概要 峰山・鏡山と南にのびた舌状の半独立丘陵の最南端に位置していて、丘陵の東南斜面、三里小学校西北方に当っている。一〇数基の古墳が築成されていたが、みかん園造成で殆んど破壊してしまっている。

出土品 横穴式石室を有する小円墳であつて、遺物も多くは散失してしまっている。

管玉・鉄鏃・土師器片・須恵器（祐徳博物館保管）

備考

昭和三〇年一月四日～六日、県教育委員会が応急調査を実施

二三、城側（ジョウソク）山古墳

種別

古墳

所在地

小城郡小城町大字松尾字明限四三二番地（畑）

概要

城山の形成する南にのびた洪積台地末端の頂に存在している。本来は円墳であるが、開墾のため方形を呈している。内部主体は横穴式石室であつて、羨道部は塊石をもつて積上げられており、幅一米五〇、奥行三米である。羨道部の西端は破壊されているが、扉石は原位置を保ち玄室内部は荒されていない処女墳であると推定される。開墾の際東北隅より南斜面にかけて塊石の二段の列石が発見されたという。

二四、一本松古墳群

種別

古墳群

所在地

小城郡小城町大字畑田小字一本松五二二ノ九（山林）

概要

天江山系の中の城山の南斜面に現在一五基余りの小円墳が存在する。それから台地にのび東斜面にかけて同様の円墳が多く開墾の際発見されたという。その中の一号古墳は、昭和二八年に破壊され、多数の遺物が発見された。これらの古墳の内部構造は横穴式石室である。現存する古墳の中のいくつかは処女墳と推定される。

出土品

金環八個・鏡三面・銅釧二・巴形銅器二個・須恵器破片（小城高等学校保管）

二五、コウザン山古墳群

種別 古墳群

所在地 小城郡小城町大字寺浦三四〇七 (畑)

概要 天江山麓の洪積台地の末端に存在していたもので、小台地の中央部にある一基を中心に、東西南北の方向に四基が配置されていたといわれる。その石室は、小口石積の竪穴式石室で二・三枚の板石を天井石としたものであった。石室は洪積層の地山を穿って築かれており、封土の存在は認められなかった。この遺跡の南斜面に横穴式石室墳の破壊された跡があり、西側の頂部に箱式石棺一基が露出している。

二六、深底籠古墳

種別 古墳 (湮滅)

所在地 小城郡小城町大字池ノ上字深底籠四三四九番地 (畑)

概要 南に長くのびた舌状半独立山丘の南端近くに位置する古墳群の中の一基で、付近に数基の半壊古墳が散在している。この古墳は、昭和三十七年五月に開掘によって破壊されたもので、構造や規模など明らかでないが、恐らく横穴式石室を有する小円墳であろうと推定される。

出土品 鉄刀・鉄鏃・馬具・土師器・須恵器 (県教育委員会保管)

二七、地藏山前方後円墳

種別 古墳

所在地 小城郡三日月村大字西分字地藏山（畑）

概要

山麓の南端に近い低丘陵に築成されていた古墳で、主軸の長さ四三米、後円部径二三米、高さ五米、前方部幅一五米、高さ四米の前方後円墳である。後円部にある石室は、明治年間に既に石材が運び出されたと伝えられ、天井石ばかりでなく、石室の石材は相当欠失している。遺物は、羨道部から土師器および須恵器が発見されている。

文献

松尾嶺作著「佐賀県考古大観——前方後円墳概覧」（昭和三年三月一〇日、祐徳博物館）、木下之治「佐賀県における埋蔵文化財の発掘・発見の覚書」（昭和三五年一〇月一日、郷土研究第一〇号）

二八、姫塚

種別 古墳

所在地 小城郡三日月村大字織島字東分（山林・畑）

概要

山麓に接続する低平な台地に築かれている前方後円墳で、主軸の長さ三〇米、後円部径八米、高さ四米、前方部幅九米、高さ二米、前方部は西に向いている。かつては、近くに陪塚らしい小円墳があったが、破壊されてしまった。この古墳は、土取りのため封土は相当に変形し、昭和三七年三月、ついに石室の一部が破壊されるに至った。内部主体は横穴式石室で、羨門は東を向き、完全な処女墳である。

備考

石室の破壊口を閉鎖して、内部はもとのままに保存している。

二九、円山古墳

種別

古墳

所在地

小城郡三日月村字西分

概要

山麓の低地に築かれた径四〇米、高さ八米の封土を有する円墳で、内部主体は封土の上部に築かれた羨道部の短かい只字式の横穴式石室である。封土上には葺石があり象形埴輪片が発見されている。玄室内には玄室の広さ一杯に長さ二米八五、幅二米八〇と二米二六の凝灰岩製の切石の巨大な柳障が設けられていて、その柳障内は更に二枚の切石によって三室に区分されている。この古墳は早く盗掘にあい、中央室の遺物は持去られており、玄室の上部は破壊されていた。

出土品

厩庇付冑・短甲・斧頭・鉄剣・鉄刀・鉄鏃・勾玉・管玉（祐徳博物館保管）

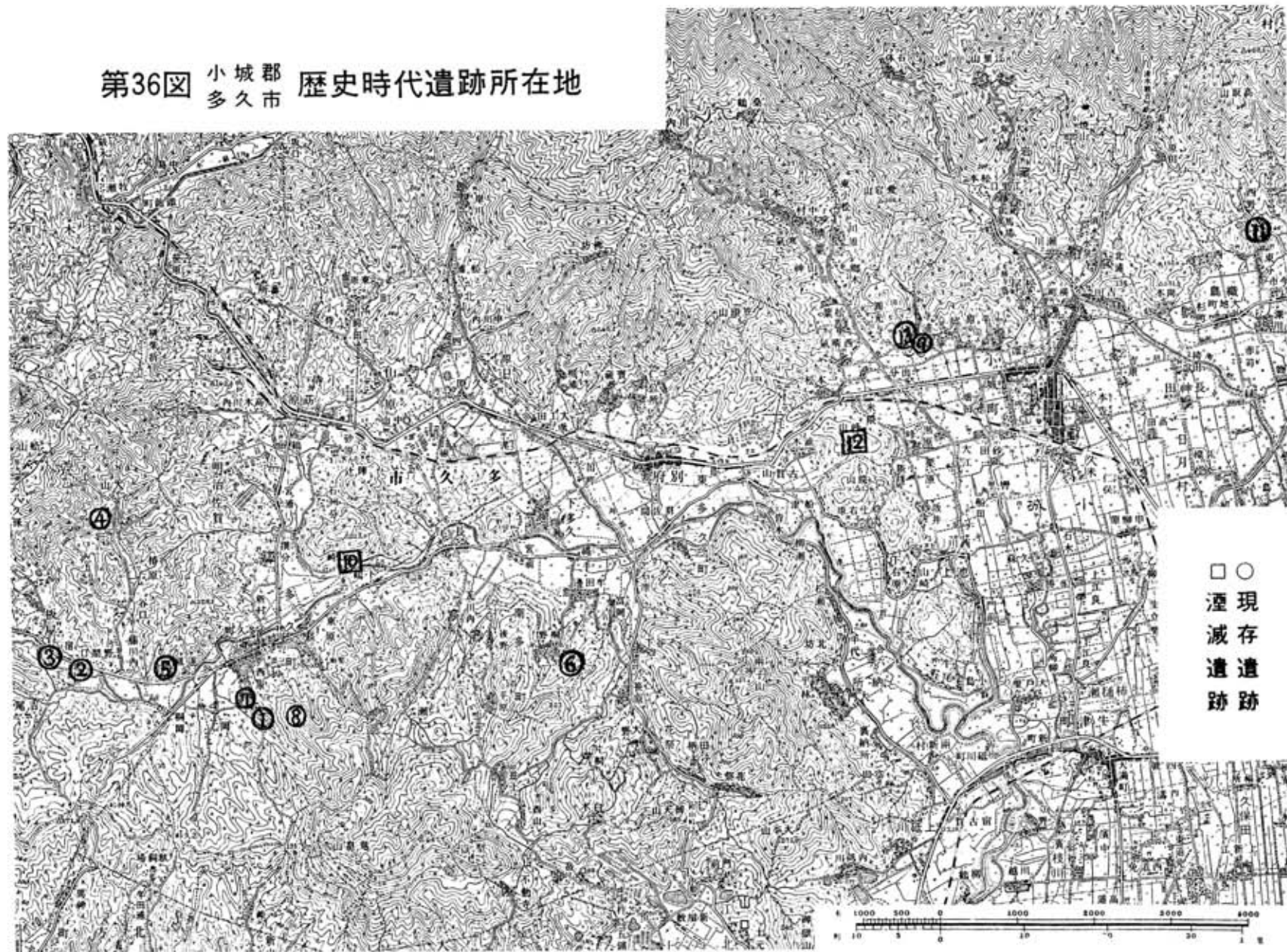
文献

松尾頼作「佐賀県考古大観」（昭和三十二年三月一〇日、祐徳博物館）木下之治「円山古墳」（昭和三十一年二月二五日、社会教育さが）

備考

昭和三十一年二月八日、佐賀県教育委員会と三日月村公民館が共催にて調査を実施した。

第36図 小城郡 歴史時代遺跡所在地
多久市



小城郡 多久市 歴史時代遺跡

- 一 多久市多久町の原
- 二 多久市西多町板屋
- 三 多久市西多町板屋
- 四 多久市西多町板屋
- 五 多久市多町保四郎
- 六 多久市南多町下多
- 七 多久市多町西の原
- 八 多久市多町西の原
- 九 小城町晴気
- 一〇 多久市多町山崎
- 一一 三日月村織島
- 一二 小城町栗原
- 一三 小城町晴気

- 尾越古窯跡
 大山旧窯跡
 皿屋古窯跡
 大山新窯跡
 道祖元古窯跡
 妙覚寺皇塔
 西原大明神経塚
 梶峰城跡
 晴気廃寺跡
 山崎経塚
 東分蔵骨器出土遺跡
 峰山蔵骨器出土遺跡
 晴気土製犬出土遺跡

一、尾越古窯跡

種別 古窯跡

所在地 多久市多久町小字西ノ原大明神墓地（墓地）

概要 この窯跡は、李參平の窯跡と伝えられ、松林の中にあつたといわれているが、現在は墓地となり、その

窯跡は破壊されてしまつて、僅かに窯壁片が散在しているのみである。

出土品 焼物片

文献 古伊万里（昭和三四年六月一日、金華堂）肥前陶磁史（昭和三〇年六月一日、肥前陶磁史刊行会）

二、大山旧窯跡

種別 古窯跡

所在地 多久市西多久町大字板屋字神山一一五三一番地（荒地）

概要 小道の土手の所に窯壁が崩壊したまま、土砂に埋もれて残存している。この窯跡も李參平が築成したも

のと伝えられているが、窯の大半は破壊されて水田となっており、その全貌を知ることとはできない。付

近には陶片が散在している。

出土品 陶片（多久市立図書館保管）

三、皿屋古窯跡

種別

古窯跡

(湮滅)

所在地

多久市西多久町大字板屋字山口

(畑)

概要

李參平の窯跡と伝えられているが、窯跡付近はみかん園となり、現在では陶片や窯壁片もほとんど発見することができないほど破壊されている。

四、大山新窯跡

種別

窯跡

所在地

多久市西多久町大字板屋字神山一二七八番地

(畑)

概要

畑の中に雑草に覆われて窯壁が残存している。この窯跡は、李參平の窯跡と伝えられている。

出土品

陶片(多久市立図書館保管)

五、道祖元古窯跡

種別

古窯跡

(湮滅)

所在地

多久市多久町字保四郎四九八ノ一番地

(畑)

概要

道祖元にある溜池の東側、丘陵端の標高約八〇米の所にあった李參平の窯跡と伝えられている遺跡である。現在みかん園となっていて、窯跡は破壊され、その構造や規模は明らかでないが、付近の畑に陶片

が散在している。

出土品 陶片（多久市立図書館保管）

文献 古伊万里（昭和三四年六月一日、金華堂）肥前陶磁史（昭和三〇年六月一日、肥前陶磁史刊行会）

六、妙覚寺皇塔

種別 寺院跡

所在地 多久市南多久町大字下多久字桐野五六九八番地（宅地・墓地）

概要 桐野山の中腹、標高約一四〇米の南斜面にあって、天台宗桐野山妙覚寺の寺領となつてゐる。山岳寺院

跡であるが、その遺構は明らかでなく、鎌倉時代と推定される五輪塔五基が立つてゐる。

七、西原大明神経塚

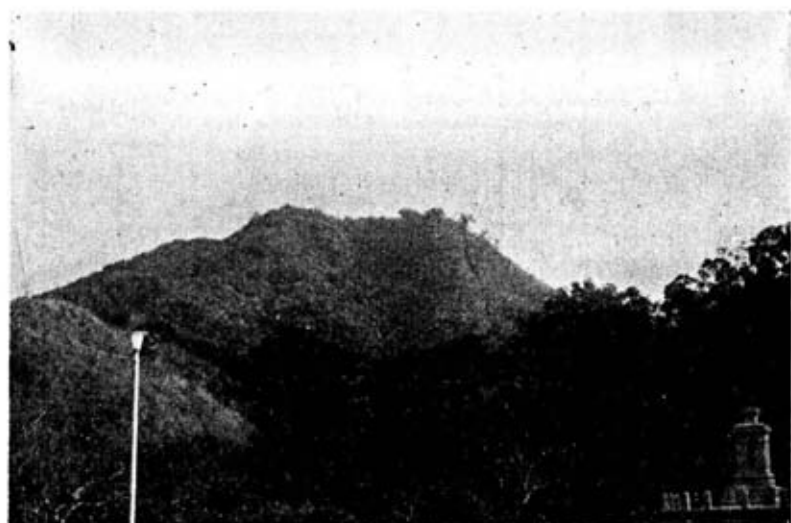
種別 経塚

所在地 多久市多久町大字西の原二六三八番地（宅地）

概要 西原大明神の社殿の内陣の地中、地表下六〇厘余りの深さの所から甕が出土し、甕の内部および周囲から

一字一石の経文を書いた小石が六九三八四個出土している。甕の蓋に天保八年四月一日の銘が入つており、今も当時のままにその位置に保存されている。

出土品 甕・一字一石経



第37図 梶峰城跡（遠望）

八、梶峰城跡

種別 城跡

所在地 多久市多久町大字西の原字宮城（山林）

概要 標高二〇〇米の山頂にある山城跡であって、鎌倉時代

に多久の地頭となつて当地に下向した多久氏の築城であると伝えられている。現在その遺構として頂上に石垣を残すのみであつて、城跡一帯は雑木林となつている。平瓦やかまど石がかつて出土したといわれるが、所在不明である。

文献 水江事略・丹郎邑史

九、晴氣廃寺跡

種別 廃寺跡

所在地 小城郡小城町大字晴氣字寺浦二五四番地（畑）

概要 愛宕山の南山麓水田地帯との接触点に位置している、塔心礎および柱座遺出礎石一〇数個余りが残存しているが、遺構はほとんど壊滅し、原状を知ること

出土品
 文 献
 ができない。遺瓦も相当出土しており、礎石や遺瓦によって奈良朝の廃寺跡と推定されている。
 唐草文字瓦・布目平瓦・単弁鐙瓦（小城高等学校保管）
 松尾楨作「寺浦廃寺址の調査」（昭和十三年七月三〇日、佐賀県史跡名勝天然記念物調査報告第六輯）

一〇、山崎 経 塚

種 別 経 塚 （湮滅）

所在地 多久市多久町字山崎 （畑）

概 要 標高二・三米の山崎丘陵の中腹にあって、昭和三二年開墾中に発見されたものである。現地表下約九〇

厘の所にある岩磐を深さ三〇厘、径三九〜四六厘に彫り凹め、底に台石をおき、経筒をのせ、外筒をか
 ぶせて、木炭を充填し、その上に塊石を推積して構築されていた。遺物は、銅製経筒、陶製外筒、ガラ
 ス小玉八五個からなっていて、経筒に「天治元年十月一日」の線刻銘がある。

出土品 銅製経筒一個・陶製外筒一個・ガラス小玉八五個（佐賀県文化館保管）

文 献 木下之治「多久市多久町山崎経塚」（昭和三三年一〇月号、新郷土）佐賀県文化財（昭和三六年三月

三十一日、佐賀県教育委員会）

備 考 山崎経塚出土品は佐賀県重要文化財に指定。

一一、東分蔵骨器出土遺跡

種 別 蔵骨器出土遺跡 （湮滅）

所在地 小城郡三日月村大字織島字東分 (山林)

概要 南山麓の丘陵端から出土した蔵骨器で、付近には木炭と陶器が堆積していたといわれ、他にも一個出土したということである。須恵質のものであるが、高台を打欠き、底に円孔があり、蓋を欠失している。

この出土地は、縄文から古墳までの遺跡が多い処である。

出土品 蔵骨器一個

文献 松尾禎作「東肥前出土蔵骨器について」(昭和二年三月三十一日、佐賀県文化財調査報告書第三輯)

一二、峰山蔵骨器出土遺跡

種別 蔵骨器出土遺跡 (湮滅)

所在地 小城郡小城町大字栗原字峰八二四番地 (畑)

概要 峰山の南斜面標高二一〇米から一三〇米の所にあつて、この地には多くの古墳が築成されている。昭和

三二年四月、みかん園造成中、現地表下三〇厘の所から発見されたもので、一五米四〇×一〇米の範囲から五個出土したといわれる。すべて須恵質の土器で頸部から上を欠ぎとった、徳利形の壺である。

出土品 須恵質の蔵骨器五個 (小城高等学校保管)

文献 小城高等学校郷土研究部「佐賀県小城郡小城町出土の蔵骨器」(九州考古学三号・四号)

一三、晴気土製犬出土遺跡



第38図 晴氣出土土製犬

種別 祭祀遺跡

所在地 小城郡小城町大字晴氣字寺浦（山林）

概要 南山麓に近い晴氣廃寺跡付近の箱式石棺

の上方近くから土製犬一個が発見されている。出土状況は明らかでないが、土師

系統の皿形土器が伴出したといわれる。

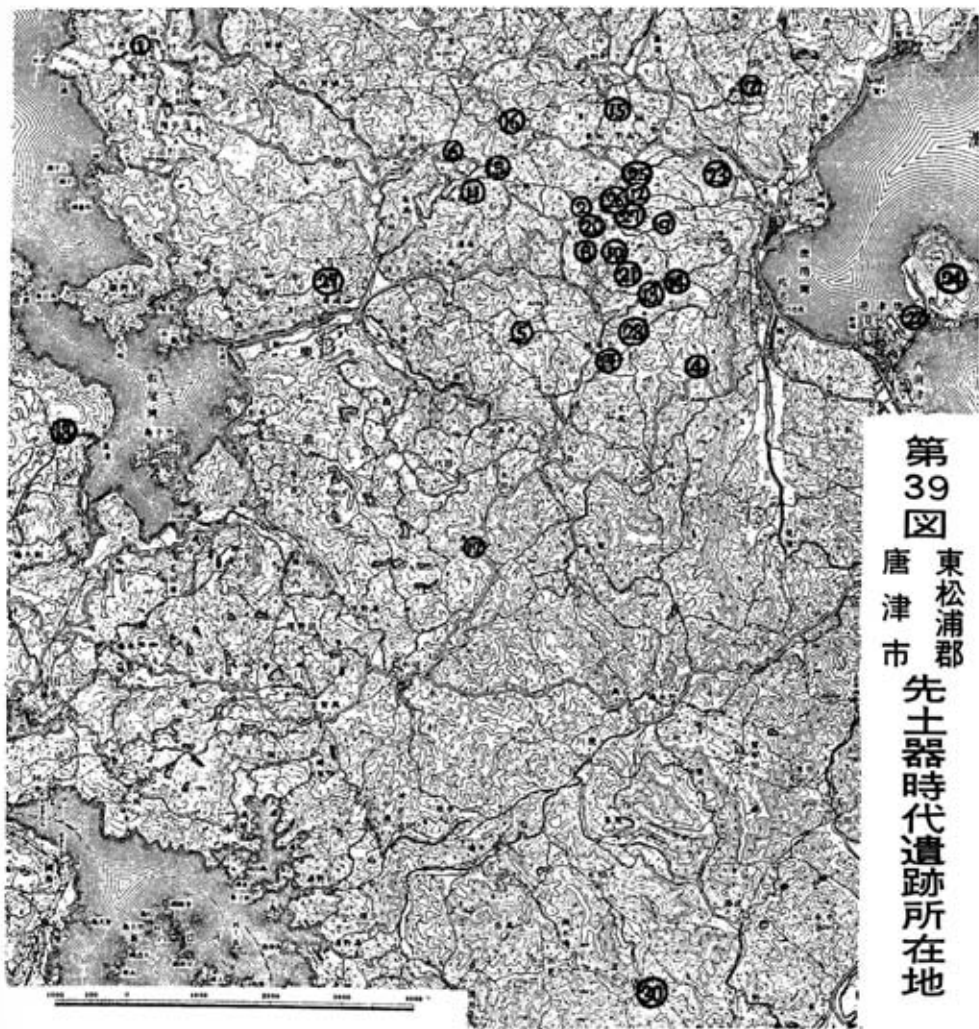
高さ六厘八、全長八厘、手づくねの土師系統のものである。

出土品 土製犬一点（小城高等学校保管）

文献 木下之治「佐賀県における埋蔵文化財の

発掘発見の覚書」（昭和三四年三月二五日、郷土研究第九号）

東松浦郡・唐津市



第39図

東松浦郡
唐津市

先土器時代遺跡所在地

東松浦郡
唐津市

先土器時代遺跡

- 一 玄海町 値賀
二 唐津市 枝去木馬部
三 唐津市 枝去木野中
四 唐津市 佐志町
五 玄海町 上村
六 玄海町 牟田
七 鎮西町 八床
八 唐津市 枝去木牟田辻
九 唐津市 枝去木馬部
一〇 唐津市 枝去木
一一 玄海町 白畑
一二 鎮西町 打上加倉
一三 唐津市 佐志町

- 敷田 先土器遺跡
分校入口 先土器遺跡
兎田 先土器遺跡
タワタシ 先土器遺跡
日の出松 先土器遺跡
牟田 先土器遺跡
赤川 原 先土器遺跡
牟田 辻 先土器遺跡
女山 先土器遺跡
辻 先土器遺跡
白畑西 先土器遺跡
原 先土器遺跡
佐志田 先土器遺跡

- 一四 唐津市佐志町
- 一五 鎮西町打上早田
- 一六 鎮西町打上早田
- 一七 唐津市大良
- 一八 肥前町納所
- 一九 唐津市枝去木
- 二〇 唐津市枝去木馬部
- 二一 唐津市佐志町
- 二二 唐津市西唐津
- 二三 唐津市浦
- 二四 唐津市大島
- 二五 唐津市枝去木馬部
- 二六 唐津市枝去木馬部
- 二七 唐津市枝去木馬部
- 二八 唐津市佐志町
- 二九 玄海町花の木
- 三〇 北波多村下平野

- 吉田 先土器遺跡
- ダイラ 先土器遺跡
- 畑地營農指導所先土器遺跡
- 竹迫 先土器遺跡
- 七津江 先土器遺跡
- 名場越 先土器遺跡
- 五反田 先土器遺跡
- 笹の尾 先土器遺跡
- 西唐津海底先土器遺跡
- 野原 先土器遺跡
- 大島山頂先土器遺跡
- 猿口 先土器遺跡
- 枝去木 伍町第一先土器遺跡
- 枝去木 伍町第二先土器遺跡
- 一本松 先土器遺跡
- 花の木 先土器遺跡
- 下千田 先土器遺跡

一、敷田先土器遺跡

種別 石器包含地

所在地 東松浦郡玄海町大字値賀字敷田 (畑)

概要

玄海町値賀中学校の校門前の遺跡であつて、海岸線から約二〇〇米余り距つた標高五〇～六〇米余りの段丘に所在している。畑地一帯からナイフブレイドその他の石器が出土していて、遺跡は相当広範囲に及んでゐると推定される。この遺跡からは縄文系の石鏃も発見されている。

出土品

ナイフ形石器・トラピーズ様石器・サイドスクレーパー (唐津市富樹憲次氏保管)

二、分校入口先土器遺跡

種別 石器包含地

所在地 唐津市枝去木大字馬部分校入口 (畑)

概要

枝去木分校入口のバス停留所横にある遺跡であつて、陶土の採土中にナイフブレイドその他の石器が発見された。遺跡は大半破壊されたが、まだ三畝あまり畑として包含地が残っている。なおこの遺跡からは、縄文系の遺物も出土している。

出土品

ナイフ形石器・キールド・コア・台形様石器・その他 (唐津市富樹憲次氏保管)

文献

唐津市史 (昭和三十七年八月一八日、唐津市)

三、兔田先土器遺跡

種別	石器散布地
所在地	唐津市枝去木大字野中字兔田（畑）
概要	値賀行の石原停留所から約五〇〇米余り値賀の方へ行つた道路南側の丘陵地にある畑が遺跡であつて、ナイフブレイドその他の石器が発見されている。
出土品	ナイフ形石器・細石刃（唐津市松岡史・富井憲次氏保管）
文献	唐津市史（昭和三十七年八月一八日、唐津市）

四、タワタシ先土器遺跡

種別	石器散布地
所在地	唐津市佐志町字タワタシ（水田）
概要	佐志より、後川内に向う坂道を登りつめた上場台地の西端にある遺跡であつて、水田中からナイフブレイドその他の石器が発見されている。なお、この遺跡からは縄文時代晩期の遺物も出土している。
出土品	ナイフ形石器・台形石器・石刃剣片（唐津市松岡史氏保管）
文献	唐津市史（昭和三十七年八月一八日・唐津市）

五、日の出松先土器遺跡

種別

石器散布地

所在地

東松浦郡玄海町大字上村字日の出松（畑）

概要

日の出松横に地図上に記載もれの多い溜池があり、その溜池の東部に当る傾斜面に先土器時代の遺物が散在している。この地は有浦川支流の水源地をなしていて、地形は凹地状である。

出土品

舟底型石器・ナイフ等の石器約三〇点（唐津市富樹憲次氏保管）

六、牟田先土器遺跡

種別

石器包含地

所在地

東松浦郡玄海町字牟田（畑）

概要

値賀行のバスに乗り、白畑停留所で下車し、約四〇〇米余り先へ進むと右側に湿田をはさんだ段丘がある。その段丘一帯からナイフブレードその他の石器とともに、縄文時代の遺物も発見されている。遺物は相当広範囲にわたっているが、県道下の畑がその中心をなしていると推定される。

出土品

ナイフ形石器・その他（唐津市富樹憲次氏保管）

七、赤川原先土器遺跡

種別

石器散布地

所在地

東松浦郡鎮西町大字八床字赤川原（畑）

概要

昭和バス呼子線の岩野停留所と山口茶屋停留所との中間に八床入口がある。ここから一、〇〇〇米ばかり

りの所に部落があるが、この部落の入口から左方へ進むと神社がある。神社の北東部にある丘陵の北斜面が遺跡であつて、ナイフブレード等の石器が発見される。なお、この遺跡からは縄文系の石鏃も発見されている。

出土品 ナイフ形石器・フレーク（唐津市富樹憲次氏保管）

八、牟田辻先土器遺跡

種別 石器包含地

所在地 唐津市枝去木大字牟田辻（畑）

概要

枝去木分校の西方、直線距離で約二〇〇米のところに谷間をかかえた低丘陵がある。この低丘陵の中央部を中心にナイフブレードその他の石器が発見される。なおこの遺跡の南傾斜地からは縄文系の遺物が出土している。

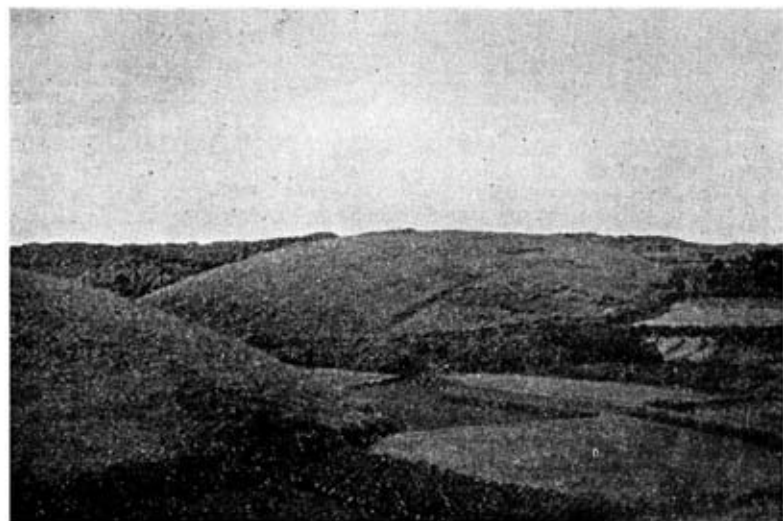
出土品 ナイフ型石器・スモールブレード・トラピーズ様石器・その他（唐津市富樹憲次氏保管）

文献 唐津市史（昭和三十七年八月一八日、唐津市）

九、女山先土器遺跡

種別 石器包含地

所在地 唐津市枝去木大字馬部字女山（畑・原野）



第40図 女山先土器遺跡

概要 馬部溜池を見下す低丘陵斜面一帯から石器類が発見

されている。昭和三十六年に、この遺跡の一部が西北九州総合調査特別委員会の縄文晩期の遺跡調査の一環として発掘調査された。この遺跡は、先土器時代から縄文時代にわたる遺跡と推定される。

出土品 ナイフ型石器・スモールブレイド（唐津市富樹憲次

氏保管）

文献 唐津市史（昭和三十七年八月一八日、唐津市）

一〇、辻先土器遺跡

種別 石器包含地

所在地 唐津市枝去木（畑）

概要 枝去木分校の運動場を出て東方に約一五〇米行くと

十字路になっているが、その右側が遺跡であつて、各種の石器が発見されている。遺物の包含地は約五〇平方米余りと推定される。

出土品 スモールブレイド・ナイフブレイド・マイクロコア

・ブレイド（唐津市富樫憲次氏保管）

一、白畑西先土器遺跡

種別 石器散布地

所在地 東松浦郡玄海町字白畑

概要 唐津市枝去木野中兎田遺跡に近接した遺跡であつて、玄海町に位置している。低丘陵の鞍部から先土器

時代の石器が発見される。

出土品 ナイフブレイド・トラビーズ・ブレイド（唐津市松岡史氏・富樫憲次氏保管）

一二、原先土器遺跡

種別 石器包含地

所在地 東松浦郡鎮西町大字打上加倉字原（畑）

概要 標高一五〇米、有浦方面行加倉停留所の左側の河岸段丘上の低丘陵である。遺跡は約一五〇平方米と推

定され、ナイフブレイドを主体とする石器類が多数包蔵されている。

出土品 ナイフブレイド・他各種の石器（唐津市富樫憲次氏保管）

一三、佐志田先土器遺跡

種別 石器包含地

所在地 唐津市佐志町字笹の尾（佐志田）（畑）

概要 佐志より名場越に通じる道（朝鮮出兵時の道路）を登りつめた所より眼下に見渡せる所の低丘陵にあつて、この遺跡の傍は凹地の湿田となつてゐる。遺跡の広さは、大体五〇米×一〇〇米位と推定され、石器類が出土してゐる。また、この遺跡からは縄文系の石器類も発見されてゐる。

出土品 石器約三〇点余（唐津市富樫憲次氏保管）

文献 唐津市史（昭和三十七年八月一八日、唐津市）

一四、吉田先土器遺跡

種別 石器散布地

所在地 唐津市佐志町字吉田（畑）

概要 唐津から名護屋に向う太閤道を通り、馬部部落に通ずる途中にこの遺跡はあつて、八幡溜の西南方約六〇〇米の所にある台地の斜面一帯である。ナイフフレイドその他の石器が畑の地表から発見されてゐる。また、この遺跡からは縄文系の石鏃も出土してゐる。

出土品 ナイフ形石器・フレイク（唐津市松岡史氏・富樫憲次氏保管）

文献 唐津市史（昭和三十七年八月一八日、唐津市）

一五、ダイラ先土器遺跡

種別 石器散布地

所在地 東松浦郡鎮西町大字打上早田字ダイラ (畑)

概要 呼子行のバスに乗り、山口茶屋停留所であり、左折すると早田部落につく。部落の前方は水田で、右側

が低丘陵となっている。この丘陵の畑にブレイドなどの石器が散布している。なお、この遺跡からは縄文系石鏃も発見されている。

出土品 ブレイド・コア (唐津市富樫憲次氏保管)

一六、畑地営農指導所先土器遺跡

種別 石器散布地

所在地 東松浦郡鎮西町大字打上早田畑地営農指導所 (畑)

概要 石原から名護屋に通ずるバス道路東側に畑地営農指導所がある。遺跡は、この指導所の湿田を前にした

狭小な台地付近であつて、ナイフブレイド等の石器が発見されており、遺跡は唐津市にもまたがっている。

出土品 ナイフブレイド・ポイント・その他 (唐津市富樫憲次氏保管)

一七、竹迫先土器遺跡

種別 石器包含地

所在地 唐津市大良字竹迫 (畑)

概要

野高山東斜面、海拔二〇〇米の所に平坦面があつて、河岸段丘であると推定されるが、この中央部に湧水池がある。この湧水池一帯からナイフブレイド等の先土器時代石器とともに縄文時代石器も発見されている。

出土品
文献

石刃・ナイフ形石器（唐津市富樹憲次氏・松岡史氏保管）
唐津市史（昭和三七年八月一八日、唐津市）

一八、七津江先土器遺跡

種別

石器包含地

所在地

東松浦郡肥前町大字納所字七津江（畑）

概要

肥前町の納所と鶴牧とのちょうど境目付近にあつて、納所・鶴牧の道路の南側が遺跡である。仮屋湾を眺めできる丘陵台地の頂上付近からナイフブレイド、その他の石器が発見されるが、遺跡は相当広範囲にわたっていると推定される。なおこの遺跡からは縄文系の石鏃も発見されている。

出土品

ナイフ形石器・フレイク・その他の不明石器（肥前中学校・唐津市富樹憲次氏保管）

一九、名場越先土器遺跡

種別

石器包含地

所在地

唐津市枝去木大字名場越（畑）

概要

名場越部落の一隅にあつて、湿田を前にひかえた低丘陵の斜面にある。一本松遺跡に隣接していて、ナイフブレイク等の石器が発見されるが、数は少なく小規模な遺跡と推定される。

出土品

ナイフ形石器、外数点（唐津市富樫憲次氏保管）

文献

唐津市史（昭和三十七年八月一日、唐津市）

二〇、五反田先土器遺跡

種別

石器包含地

所在地

唐津市枝去木大字馬部字五反田（畑）

概要

馬部部落の西側、枝去木分校入口バス停留所より馬部部落に向う道路がやや高くなり、丘陵鞍部を通過した右側に遺物の散布をみる。この段丘の中段位が遺物包蔵地と推定され、ナイフブレイド、その他の石器が出土している。

出土品

ナイフ形石器・スクレーパー・ブレイド（唐津市富樫憲次氏保管）

文献

唐津市史（昭和三十七年八月一日、唐津市）

二一、笹の尾先土器遺跡

種別

石器包含地

所在地

唐津市佐志町字笹ノ尾（畑）

概要

標高約一五〇米の舌状台地にあつて、前面の低地は湿田となつてゐる。遺跡は七〇〜一〇〇平方メートルの広さにおよんでゐると推定され、石器は風化礫層中に包含されている。遺物包含層は厚い所で一米五〇、浅い所で五〇釐の層をなしていると推定される。なお、この遺跡からは縄文・弥生の遺物も発見されている。

出土品
文献

ナイフ形石器・搔器・ポイント・その他（唐津市富樫憲次氏・河見哲司氏保管）
唐津市史（昭和三十七年八月一八日、唐津市）

一二、西唐津海底先土器遺跡

種別

石器散布地

所在地

唐津市西唐津築港（海底）

概要

流入、沈下両説で有名な海底遺跡で、唐津港中にある防波堤の東方約一五〇米位の地点から多数の縄文式土器片とともにナイフブレイドが発見されている。

出土品

ナイフブレイド一個（唐津市松岡史氏保管）

文献

唐津市史（昭和三十七年八月一八日、唐津市）

二三、野原先土器遺跡

種別

石器散布地

所在地

唐津市浦字野原 (畑)

概要

唐津より呼子に向う道路に浦停留所があり、そりより一五〇米の地点に暗渠がある。呼子を向いて左に登ると暗渠の源流となっている三方をかこまれた凹地状の台地がある。ここから先土器系の石器が出土している。

出土品

ポイント、彫器 (唐津市富樹憲次氏保管)

二四、大島山頂先土器遺跡

種別

石器散布地

所在地

唐津市大島 (畑)

概要

唐津港の北にあつて、防波堤の役目を果している大島の山頂、標高約一七六米の平坦部が遺跡であつて、ナイフブレイドが出土しているが、縄文・弥生におよぶ遺物も発見されている。

出土品

蛋白石製ナイフ形石器 (唐津市松岡史氏保管)

文献

唐津市史 (昭和三七年八月一八日、唐津市)

二五、猿口先土器遺跡

種別

石器散布地

所在地

唐津市枝去木大字馬部字猿口 (畑)

概要

鎮西町に属する原先土器遺跡の下にある段丘にこの遺跡は所在している。ナイフブレイド、その他の石器類が散布している。

出土品

ナイフブレイド・スモールブレイド・その他（唐津市富樫憲次氏保管）

二六、枝去木伍町才一先土器遺跡

種別

石器散布地

所在地

唐津市枝去木大字馬部字伍町一九八〇番地（畑）

概要

村山牧場と県場をへだてて、南側に位置する低丘陵斜面の水田に面した部分が遺跡であつて、先土器時代の石器が出土している。

出土品

コア・フレーク（唐津市松岡史氏保管）

二七、枝去木伍町才二先土器遺跡

種別

石器散布地

所在地

唐津市枝去木大字馬部字伍町一九一五番地（畑）

概要

加倉停留所から南に市道を行くと、馬部部落に入る。部落の中央部に堀田長蔵氏宅があり、その前の畑地が遺跡であつて、先土器時代の石器類が散布している。

出土品

ナイフ形石器・スモールブレイド・その他（唐津市富樫憲次氏保管）

二八、一本松先土遺跡

種別 遺物包含地

所在地 唐津市佐志町字一本松（畑）

概要

佐志より名場越に向う最高所の丘陵台地であつて、笹尾遺跡や佐志田遺跡等から約五〇〇米離れた所にある。ナイフブレード等の石器が広範囲から発見され、その遺跡は大体五メートル以上の広さに及んでいると推定される。この遺跡からは、石鏃・石匙などの縄文系石器も出土している。

出土品 コア・ナイフ型石器等数十点（唐津市富樹憲次氏保管）

文献 唐津市史（昭和三十七年八月一八日、唐津市）

二九、花の木先土器遺跡

種別 石器散布地

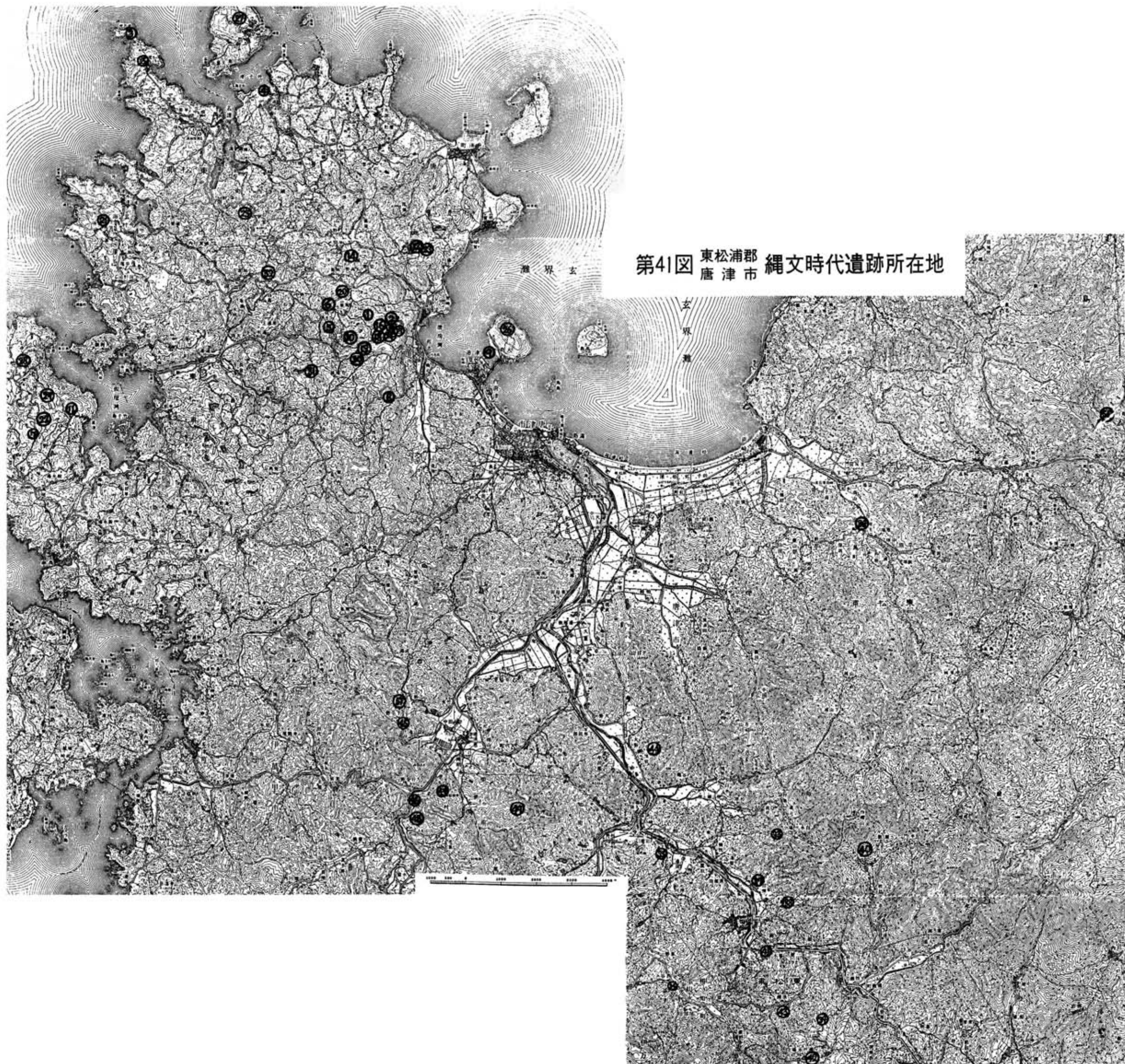
所在地 東松浦郡玄海町字花の木

概要 遺跡は低丘陵地をなしており、花の木開拓団が入植している畑から石器類が発見される。

出土品 フレイク・ナイフブレード（唐津市松岡史氏保管）

三〇 下千田先土器遺跡

種別	石器散布地
所在地	東松浦郡北波多村大字下平野字下千田三九九七番地（山林）
概要	切木台地の東端に当る下平野、通称梨山と呼ばれている所にある山林・原野・茶畑等の諸所にサヌカイトまたは黒曜石製のナイフブレイドが散布している。時には縄文系の石匙も発見されているが、この散布地の遺構は明らかにされていない。
出土品	石匙・ナイフブレイド等（北波多村山崎猛夫氏保管）
文献	北波多村史（昭和三六年九月、北波多村）



第41図 東松浦郡 唐津市 縄文時代遺跡所在地

玄界灘

玄界灘

東松浦郡
唐津市
縄文時代遺跡

- 一 唐津市枝去木馬部
- 二 唐津市佐志町
- 三 鎮西町名護屋波戸
- 四 呼子町殿の浦西
- 五 唐津市枝去木
- 六 唐津市枝去木
- 七 肥前町入野
- 八 唐津市佐志町
- 九 唐津市西唐津
- 一〇 唐津市佐志町笹の尾
- 一一 肥前町納所
- 一二 鎮西町八床
- 一三 唐津市佐志町笹の尾

- | | | | | | | | | | | | | |
|---------|---------|---------|---------|-----------|----------|--------|----------|---------|----------|----------|--------|--------|
| 佐志田縄文遺跡 | 赤川原縄文遺跡 | 七津江縄文遺跡 | 笹の尾縄文遺跡 | 西唐津海底縄文遺跡 | タワタシ縄文遺跡 | 深田縄文遺跡 | 分校入口縄文遺跡 | 牟田辻縄文遺跡 | 殿の浦西縄文遺跡 | 波戸大平縄文遺跡 | 黒竜縄文遺跡 | 女山縄文遺跡 |
|---------|---------|---------|---------|-----------|----------|--------|----------|---------|----------|----------|--------|--------|

- 一四 鎮西町 打上 早田
 一五 鎮西町 名護屋 菅牟田
 一六 唐津市 佐志町
 一七 唐津市 佐志町
 一八 唐津市 佐志町
 一九 唐津市 佐志町
 二〇 鎮西町 加倉 中川 原
 二一 玄海町 値賀 敷田
 二二 肥前町 納所 おしごう
 二三 唐津市 湊町 十連 溜
 二四 唐津市 佐志町 吉田
 二五 鎮西町 石室 分校 東
 二六 唐津市 大島
 二七 呼子町 加部 島
 二八 肥前町 納所
 二九 肥前町 納所
 三〇 唐津市 佐志町 一本松
 三一 玄海町 上村 日の出松

- ダイラ 縄文遺跡
 菅牟田 縄文遺跡
 八幡 第一 縄文遺跡
 八幡 第二 縄文遺跡
 八幡 第三 縄文遺跡
 松尾 縄文遺跡
 中川 原 縄文遺跡
 敷田 縄文遺跡
 おしごう 縄文遺跡
 十連 溜 縄文遺跡
 吉田 縄文遺跡
 石室 縄文遺跡
 大島 山頂 縄文遺跡
 大久保 縄文遺跡
 松の木 縄文遺跡
 竜田 縄文遺跡
 一本松 縄文遺跡
 日の出松 縄文遺跡

四九	四八	四七	四六	四五	四四	四三	四二	四一	四〇	三九	三八	三七	三六	三五	三四	三三	三二
北波多村稗田	北波多村志気	北波多村稗田	北波多村行合野	北波多村下平野	相知町黒岩	巖木町浪瀬	巖木町瀬戸木場	相知町切	巖木町平之	巖木町浪瀬	相知町楠	相知町田頭	浜崎玉島町平原	相知町相知	相知町平山	相知町千束	玄海町牟田

帆柱縄文遺跡	中の瀬縄文遺跡	甲城縄文遺跡	土元縄文遺跡	前田縄文遺跡	医王寺前縄文遺跡	披公さん縄文遺跡	瀬戸木場縄文遺跡	町切縄文遺跡	平之縄文遺跡	堂地縄文遺跡	楠縄文遺跡	田頭縄文遺跡	平原縄文遺跡	天徳山縄文遺跡	平山小学校東南方縄文遺跡	千束縄文遺跡	牟田縄文遺跡
--------	---------	--------	--------	--------	----------	----------	----------	--------	--------	--------	-------	--------	--------	---------	--------------	--------	--------

五〇 七山村荒川
五一 北波多村上平野

荒川縄文遺跡
蔵谷縄文遺跡

一、女山縄文遺跡

種別 遺物包含地

所在地 唐津市枝去木大字馬部字女山（畑・原野）

概要 馬部溜池を見下す低丘陵にあつて、昭和三六年に西北九州総合調査特別委員会の縄文晩期の遺跡調査の一環として発掘調査が実施された。平地住居跡とともに布痕土器・精製土器・条痕土器の破片や石鏃が見えられた。なお、この遺跡からは先土器系の石器も出土している。

出土品 石鏃・布痕土器片・黒川式精製土器片・条痕土器片（九州大学考古学教室および唐津市富樹靈次氏保管）

文献 唐津市史（昭和三七年八月一八日、唐津市）、島原半島（原山・山の寺・磯石原）及び唐津市（女山）

備考 の考古学的調査——一九六〇年、日本考古学協会西北九州総合調査特別委員会

昭和三六年、西北九州総合調査特別委員会が発掘調査を実施す。

二、黒龍縄文遺跡

種別 遺物包含地

所在地 唐津市佐志町字黒竜（畑）

概要

佐志より枝去木に行く途中に八幡溜があり、その西方約二〇〇米の所に凹地がある。その凹地の東斜面が遺物の包含地であると推定され、縄文系の石鏃や石匙等が出土している。

出土品

土埴一個・石鏃・石匙（唐津市富樹恵次氏保管）

三、波戸大平縄文遺跡

種別

遺物散布地

所在地

東松浦郡鎮西町大字名護屋波戸字大平（原野）

概要

波戸岬の突端に灯台があるが、その灯台の手前は、なだらかな低丘陵の半島となっている。この半島は牛の放牧場となっているが、ここに縄文系の石鏃が散布している。

出土品

石鏃（唐津西高等学校保管）

四、殿の浦西縄文遺跡

種別

遺物散布地

所在地

東松浦郡呼子町殿の浦西（畑）

概要

殿の浦の突端近く、呼子湾に面した低丘陵斜面の末端近くから、耕作中に縄文系石斧が出土している。他の関係遺物は現在発見されていない。

出土品

石斧（唐津市立図書館保管）

五、牟田辻縄文遺跡

種別	遺物包含地
所在地	唐津市枝去木小字牟田辻（畑）
概要	枝去木分校の西方約二〇〇米の所にある標高約一六〇米の低丘陵の南傾斜地付近から、縄文式の曽畑式や網目文の土器とともに石器類が出土する。包含地は約三アールに及んでいると推定される。なお、この丘陵の中央部付近からは先土器系の石器が発見されている。
出土品	石鏃相当数・磨製石斧三・打製石斧一・曽畑式および網目文の土器片（唐津市富樹憲次氏保管）

六、分校入口縄文遺跡

種別	遺物包含地
所在地	唐津市枝去木分校入口（畑）
概要	枝去木分校入口のバス停留所横にある遺跡であつて、採土中に縄文系の土器片や石鏃が出土した。遺跡は大半破壊されたが、包含地が幾分残されている。なお、この遺跡からは先土器系の石器も発見されている。
出土品	押型文土器片・石鏃（唐津市富樹憲次氏保管）

七、深田縄文遺跡

種別 遺物散布地

所在地 東松浦郡肥前町大字入野字深田 (畑)

概要 肥前町役場から納所へ行く途中に柳田橋というのがある。この橋から約二〇〇米の肥前町役場よりの水田のまわりの畑地や低丘陵端に縄文系石鏃が散布している。

出土品 石鏃(唐津市富井憲次氏保管)

八、タワタシ縄文遺跡

種別 遺物散布地

所在地 唐津市佐志町字タワタシ (畑)

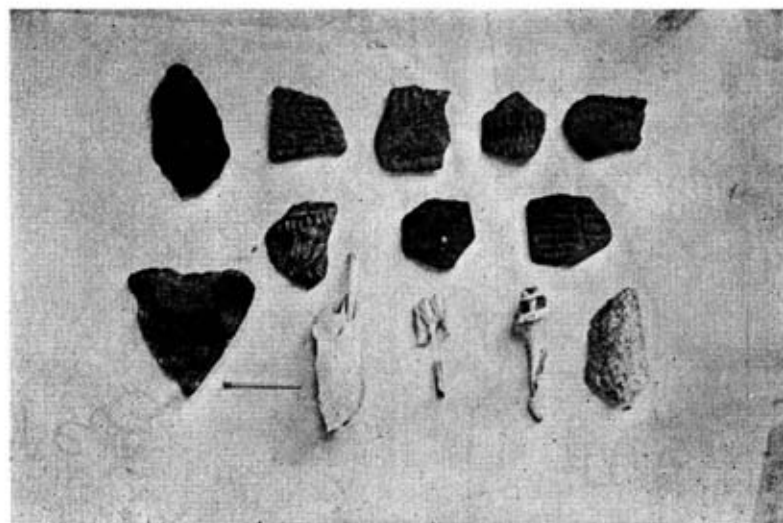
概要 佐志から後川内に向う坂道を登りつめた台地の西端にある遺跡であって、畑地から縄文系の石鏃が発見されている。この遺跡からは先土器系の石器も出土している。

出土品 石 鏃

九、西唐津海底縄文遺跡

種別 遺物包含地

所在地 唐津市西唐津築港 (海底)



第42図 西唐津海底縄文遺跡出土品

概要

唐津港中にある防波堤の東方約一五〇米位の地点にある海底遺跡であつて、縄文式土器をはじめ多くの遺物が発見され、流水、沈下の両説が行なわれている。

出土品

爪形文土器・曾畑式土器・隆帯文土器・阿高式土器、石器、骨器、クルミ・シイなどの果実、獣骨（唐津市松岡史氏・河見哲司氏保管）

文献

唐津市史（昭和三七年八月一八日、唐津市）

一〇、笹の尾縄文遺跡

種別 遺物包含地

所在地 唐津市佐志町字笹の尾（畑）

概要

標高約一五〇米の舌状台地にあつて、戦時中に開墾された所である。縄文式の後、晩期の土器片とともに曾畑式土器片や石器類が、相当数出土している。なお、この遺跡からは先土器系の石器も発見されている。

出土品

石鏃多数・石匙・石斧・装身具破片二点、押型文土器・曾畑式土器・黒川式土器・山の寺式土器（唐津市富栢恵次氏・松岡史氏保管）

文献

唐津市史（昭和三十七年八月一八日、唐津市）

一一、七津江縄文遺跡

種別

遺物包含地

所在地

東松浦郡肥前町大字納所字七津江（畑）

概要

納所と鶴牧との境目付近の道路南側、飯屋湾を眺めできる丘陵台地の頂上付近一帯が遺跡であって、縄文系の石鏃が出土している。この遺跡からは、先土器系のナイフブレイドその他の石器も発見されている。

出土品

石鏃（肥前中学校・唐津市富栢恵次氏保管）

一二、赤川原縄文遺跡

種別

遺物散布地

所在地

東松浦郡鎮西町大字八床字赤川原（畑）

概要

唐津・呼子間にある岩野停留所と山口茶屋停留所との中間、八床入口から一〇〇米あまりの所に部落がある。この部落入口から左方へ進むと神社がある。この神社の北東部にある丘陵の北斜面が遺跡であつ

て、ここから縄文系の石鏃が発見されている。なおこの遺跡からは先土器系石器も出土している。

出土品 石鏃（唐津市富樹憲次氏保管）

一三、佐志田縄文遺跡

種別 遺物包含地

所在地 唐津市佐志町字笹の尾（畑）

概要 唐津より秀吉の朝鮮征伐時における名護屋道の旧道を通り、佐志より登頂したところが凹地状になっ

て、横に湿田をかかえた付近一帯が広範囲の遺跡である。この遺跡からは石鏃・石匙などの縄文系の石器が出土しているが、また、先土器系の石器も発見されている。

出土品 石鏃・石匙・石埴・その他不明石器（唐津市富樹憲次氏保管）

一四、ダイラ縄文遺跡

種別 遺物散布地

所在地 東松浦郡鎮西町大字打上早田字ダイラ（畑）

概要 唐津・呼子間にある山口茶屋停留所から左折して進むと早田部落につく。部落の前方は水田で、右側が

低丘陵となっている。この丘陵の畑地から縄文系の石鏃が発見されている。なお、この遺跡からは先土器系の石器の出土も見えている。

出土品 石 鏃

一五、菅牟田縄文遺跡

種別 遺物散布地

所在地 東松浦郡鎮西町大字名護屋字菅牟田五八三九・六二九〇番地（畑）

概要 特別史跡名護屋城跡と波戸岬との中間、波戸部落の南側の畑地を中心に、広範囲から多数の縄文系石鏃

が発見されている。土器の発見はまだなく、遺跡の性格は明らかでない。

出土品 石 鏃（唐津西高等学校保管）

一六、八幡才一縄文遺跡

種別 遺物散布地

所在地 唐津市佐志町字八幡第一（畑）

概要 市内バス終点より、八幡溜に行く道がある。八幡溜の西方約二五〇米位のところに一五米×五〇米位の

小さな溜池があり、その南側に隣接した畑地がある。これが八幡第一遺跡であって、縄文系の石鏃が散布している。

出土品 石 鏃（唐津市富樹憲次氏保管）

一七、八幡才二縄文遺跡

種別 遺物散布地

所在地 唐津市佐志町小字八幡第二 (畑)

概要 市内バス唐房入口停留所より八幡溜に行く路がある。八幡溜の湿田を前にした低丘陵があり、その傾斜

地から縄文系の石鏃が出土している。

出土品 石 鏃 (唐津市富樫憲次氏保管)

一八、八幡才三縄文遺跡

種別 遺物散布地

所在地 唐津市佐志町字八幡第三 (畑)

概要 八幡第一遺跡の南方約一五〇米、八幡第二遺跡の西方約三〇〇米のところに八幡第三遺跡がある。この

遺跡は、佐志・有浦間の道路至近に位置しており、縄文系石鏃の散布が見られる。

出土品 石 鏃 (唐津市富樫憲次氏保管)

一九、松尾縄文遺跡

種別 遺物散布地

所在地 唐津市佐志町字松尾 (畑)

八幡溜西側の丘陵斜面一帯が遺跡であって、縄文系の石鏃が発見されている。この遺跡からは、先土器系のナイフブレードその他の石器も出土しており、また弥生時代後期の土器片も発見されている。

文献

唐津市史（昭和三十七年八月一八日、唐津市）

二〇、中川原縄文遺跡

種別

遺物散布地

所在地

東松浦郡鎮西町大字加倉字中川原（畑）

概要

唐津市枝去木との境界近くに位置していて、村山牧場の裏側に当る台地一帯である。ここから縄文系の石鏃が発見されている。

出土品

石鏃（唐津市富樹憲次氏保管）

二一、敷田縄文遺跡

種別

遺物包含地

所在地

東松浦郡玄海町大字値賀字敷田（畑）

概要

値賀中学校の校門前にある遺跡であって、海岸線から約二〇〇米余り距って、標高五〇～六〇米余りの段丘となっている。この段丘の畑地一帯から縄文系の石鏃が出土しているが、また、先土器系の石器類も発見されている。

出土品

石鏃（唐津市富樹憲次氏保管）

一二、おしごう縄文遺跡

種別 遺物散布地

所在地 東松浦郡肥前町大字納所字おしごう (畑)

概要 入野から納所へ行く途中に、柳田橋というバス停留所がある。その一五〇米余り東側の丘陵斜面が遺跡であつて、石鏃が散布している。なおここからは先土器時代に属するかと思われる剝片も発見されている。

出土品 石鏃 (肥前中学校・唐津市富樹憲次氏保管)

一三、十連溜縄文遺跡

種別 遺物散布地

所在地 唐津市湊町字十連溜 (畑)

概要 八床赤川原から湊へ行く山道の途中にかなり大きな溜池がある。この溜池周辺の丘陵地の一帯に石鏃が

散在している。しかし遺跡の遺構は明らかでない。

出土品 石鏃 (唐津西高等学校保管)

二四、吉田縄文遺跡

種別 遺物散布地

所在地 唐津市佐志町字吉田 (畑)

概要

唐津から名護屋に向う太閤道を通り、馬部部落に通ずる途中にこの遺跡はあって、八幡溜の西南方約六〇〇米の所にある台地の斜面一帯である。この遺跡からは、縄文系の石鏃の他に、先土器系の石器も見されている。

出土品

石鏃（唐津市富樹恵次氏保管）

二五、石室縄文遺跡

種別

遺物散布地

所在地

東松浦郡鎮西町石室分校東（畑）

概要

石室分校と道路をへだてた東側に、湿田を横にひかえた低丘陵があるが、ここから半磨製石斧や石鏃などの縄文系遺物が発見されている。

出土品

半磨製石斧・石鏃

二六、大島山頂縄文遺跡

種別

遺物散布地

所在地

唐津市大島（山林・畑）

概要

唐津港の北にあって、防波堤の役目をなす大島は、現在陸橋により陸続きとなっている。この大島の山頂標高約一七六米の頂上部が遺跡であって、畑地や山林中から縄文系の石鏃が発見される。なお、この遺跡からは先土器系の石器も出土している。

出土品

石鏃（唐津市松岡史氏保管）

二七、大久保縄文遺跡

種別

遺物散布地

所在地

東松浦郡呼子町大字加部島字大久保（畑）

概要

田島神社への参道を通して約二五〇米位行った所が、加部島で一番耕地の広い場所である。この中央部が水田で、周囲が畑地となっている耕地一帯が遺跡であつて、石鏃や石斧などの縄文系石器が散布している。

出土品

石斧・石鏃（呼子町田島神社保管）

二八、松の木縄文遺跡

種別

遺物散布地

所在地

東松浦郡肥前町大字納所字松の木（畑）

概要

納所から鶴牧への道路に沿う納所部落の出はずれの左側に、ゆるやかなスロープの傾斜地がある。ここから縄文系の石鏃が発見されているが、遺跡の範囲は明らかでない。

出土品

石鏃（肥前中学校保管）

二九、龍田縄文遺跡

種別 遺物散布地

所在地 東松浦郡肥前町大字納所字竜田 (畑)

概要 納所と鶴牧のはば中間付近、道路の西側にある舌状の台地が遺跡であって、この台地の鞍部から台地端

の湿田近くまでの付近一帯から縄文系の石器が出土している。この遺跡の南方約五〇〇米の所に七津江遺跡がある。

三〇、一本松縄文遺跡

種別 遺物包含地

所在地 唐津市佐志町字一本松 (畑)

概要 佐志町と枝去木の境界付近で、戦時中開拓したところから縄文系の石器類が出土している。遺跡は広範

囲にわたっており、また、この遺跡からは先土器系の石器も発見されている。

出土品 石鏃・石斧・石匙 (唐津市富樹郷次氏保管)

三一、日の出松縄文遺跡

種別 遺物散布地

所在地 東松浦郡玄海町大字上村字日の出松 (畑)

概要

日の出松に溜池があり、その溜池の東側の傾斜面が遺跡であって、石鏃その他の石器類が散布している。この遺跡からは、先土器時代の石器類も多数発見されている。

出土品

石鏃・石斧・石匙・その他（唐津市富樹憲次氏保管）

三二、牟田縄文遺跡

種別

遺物包含地

所在地

東松浦郡玄海町字牟田（畑）

概要

値賀行バスの白畑停留所より約四〇〇米先に右側に湿田をはさんだ段丘がある。この段丘の柑橘園を中心に相当広範囲にわたって、縄文系の石鏃や土器片が出土している。なお、この遺跡からは先土器系の石器も発見されている。

出土品

石鏃・土器片（唐津市富樹憲次氏保管）

三三、千束縄文遺跡

種別

住居跡

所在地

東松浦郡相知町大字千束字新田（畑）

概要

標高八八七米の作礼山の西麓に近い標高約一〇〇米の所にあつて、谷の河岸段丘上に営まれた遺跡である。この遺跡には石器の剝片が散布している。昭和二四年に円形の竪穴住居跡が発見され、これにとも

なう遺物も出土した。

出土品
文献

石鏃・石斧・搔器・石鍋、曾畑式土器・押型文土器（相知町公民館保管）
松尾禎作・七田忠志「千束石器時代遺蹟調査報告」（昭和二六年三月、佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告第十輯）

備考

竅穴住居跡は調査後、土を埋めもどして原状のまま保存してある。

三四、平山小学校東南方縄文遺跡

種別

遺物散布地

所在地

東松浦郡相知町大字平山字立畑（畑）

概要

平山小学校の東南方至近、山麓の台地にあつて、現在ブドウ園や畑地となっている。地表に黒曜石やサヌカイトの剝片が散布している。

土器の発見はなく遺跡の性格などは明らかでない。

三五、天徳山縄文遺跡

種別

遺物散布地

所在地

東松浦郡相知町大字相知字天徳山（山林・畑）

概要

唐津線相知駅の西方約一杆の所にある山麓の台地上に縄文系の石器が散布している。土器はまだ発見さ

れず遺跡の性格は明らかでない。

出土品 石鏃・石匙（相知町公民館保管）

三六、平原縄文遺跡

種別 遺物包含地

所在地 東松浦郡浜崎玉島町大字平原字座主（畑）

概要 座主川上神社の西方にある山丘の山麓がみかん園となっている。このみかん園から石鏃や条痕文土器が

出土した。また、この遺跡から先年平安時代末期のものと推定される経塚が発見されている。

三七、田頭縄文遺跡

種別 遺物散布地

所在地 東松浦郡相知町大字田頭（畑）

概要 唐津線岩屋駅の北方にある田頭小学校の背後の台地上に黒耀石やサヌカイトの剝片が散布しており、石

鏃や石斧などが発見されている。

出土品 磨製石斧一個・石鏃（相知町公民館保管）

三八、楠縄文遺跡

種別 遺物散布地

所在地 東松浦郡相知町大字楠 (畑)

概要 唐津線岩屋駅の東北方約一軒、山麓の西面する谷あいの台地が遺跡であって、縄文系の石鏃が散布して

いるが、まだ土器は発見されていない。この遺跡の西北方約二・二軒の所に千束竪穴住居跡がある。

出土品 石鏃(相知町公民館保管)

三九、堂地縄文遺跡

種別 遺物包含地

所在地 東松浦郡厳木町大字浪瀬字堂地 (畑)

概要 標高六八五米の船山は北側の瀬戸木場に崩落台地を造っているが、それが厳木の方へ裾をひいている。

その瀬戸木場と厳木とのほぼ中間、海拔約二五〇米の平坦部に遺跡がある。土器は不明であるが、黒耀

石およびサヌカイトの碎片と共に、石鏃・石匙などが多数発見されている。

出土品 柳葉状石匙・石鏃(厳木中学校保管)

四〇、平之縄文遺跡

種別 遺物散布地

所在地 東松浦郡厳木町大字平之字栗ノ木 (畑)

概要 標高八八七米の作礼山の南中腹、標高四〇〇～五〇〇米の所に平之部落がある。その部落近くの段丘上

に黒曜石片が散布しており、縄文系の土器や石器が発見されている。

出土品 石鏃・搔器・条痕文土器片（相知町志佐郷彦氏保管）

四一、町切縄文遺跡

種別 遺物散布地

所在地 東松浦郡相知町大字町切（畑）

概要 唐津線山本駅の東南約八〇〇米、山麓の波状台地上にあつて、前面は水田となつている河岸段丘へ続いている。土器は不明であるが黒曜石やサヌカイトの破片が散布しており、近くの遺跡とあわせ縄文時代に比定されている。

出土品 石鏃・石錐・搔器（厳木中学校保管）

四二、瀬戸木場縄文遺跡

種別 遺物包含地

所在地 東松浦郡厳木町大字瀬戸木場（畑）

概要 標高六八五米の船山の北方にある瀬戸木場は、船山の崩落によつて高原状の台地を形成している。この標高四〇〇米の瀬戸木場の台地に遺跡はあつて、縄文系の遺物が相当豊富に出土している。当時の遺跡としては、この地方では最高所の地であり、厳木盆地をはさんで平之縄文遺跡が、北方に对象的に位置している。

出土品

石鏃・石槍・石斧・搔器・条痕文土器（厳木中学校保管）

四三、披公さん縄文遺跡

種別

遺物包含地

所在地

東松浦郡厳木町大字浪瀬字下

概要

厳木川の支流浪瀬川に向い山麓が漸移しているところに、この遺跡がある。近くには石器が多く出土する瀬戸木場の遺跡がある。しかし一般に榊木・榊の木遺跡などのように石器の散布地にしかすぎぬ遺跡が多いが、本遺跡はその点からすると出土遺物も多く、当厳木地方では重要な遺跡である。

出土品

石鏃・石斧・搔器・縄文土器（厳木中学校保管）

四四、医王寺前縄文遺跡

種別

遺物散布地

所在地

東松浦郡相知町大字黒岩字宇土（畑）

概要

陣の山の山麓に近い谷間に医王寺がある。その前方にある畑地に石鏃が散布している。この遺跡の近くにある台地からは、古墳時代と推定される箱式石棺が出土しており、また、近くの大野には弥生遺跡がある。

出土品

石鏃（相知町志佐輝彦氏保管）

四五、前田縄文遺跡

種別 遺物散布地

所在地 東松浦郡北波多村大字下平野字前田（水田）

概要 下平野の南東、山彦との境付近、田中川に近い水田の中から黒耀石の石鏃と剝片がおびただしく出土している。土器類是一片も発見されておらず、遺物の出土状況からみて石鏃の製造場跡ではないかとも考

えられる。耕作のため次第に遺跡は破壊されている。

出土品 黒耀石の石鏃・黒耀石の原石・石匙（北波多中学校保管）

文献 北波多村史（昭和三六年九月、北波多村）

四六、土元縄文遺跡

種別 遺物散布地

所在地 東松浦郡北波多村大字行合野字土元（社地）

概要 南北にのびている峡谷平野に行合野天満宮がある。この天満宮の境内に黒耀石の石鏃が多数散布している。この遺跡から土器片は発見されていない。

出土品 石鏃（北波多中学校保管）

四七、甲城縄文遺跡

種別 遺物散布地

所在地 東松浦郡北波多村大字稗田（畑）

概要 甲城頂上にある茶園から縄文系の石鏃や石匙が発見されている。甲城の諸所に石鏃は散布しているので、

遺跡は相当広範囲に及ぶものと推定されるが、編年の資料になるような土器はまだ発見されていない。

出土品 石匙・石鏃・きわめて小さい土器の破片若干（北波多小学校保管）

四八、中の瀬縄文遺跡

種別 遺物散布地

所在地 東松浦郡北波多村大字志気の中中の瀬

概要 甲城の南東麓に当る傾斜地の原野から、縄文系の石匙や石鏃が発見されている。土器はまだ発見されて

おらず、この遺跡の性格は明らかでない。

出土品 石匙・石鏃数個（北波多小学校保管）

文献 北波多村史（昭和三十六年一月、北波田村）

四九、帆柱縄文遺跡

種別 遺物散布地

所在地 東松浦郡北波多村大字稗田字帆桂 (山林)

概要 岸岳の山麓、西斜面の地から、縄文系の石鏃・石斧・石匙などが発見されている。土器はまだ発見され

ておらず、遺跡の性格も明らかでない。この近くに唐津古窯跡がある。

出土品 石斧・石鏃・石匙 (北波多小学校保管)

五〇、荒川縄文遺跡

種別 遺物包含地

所在地 東松浦郡七山村大字荒川字上荒川 (山林・畑)

概要 標高四〇〇～五〇〇米の峠付近を中心とする遺跡であつて、縄文式土器をはじめ石器類が発見されてい

る。遺跡の遺構やその範囲はまだ明らかでない。

出土品 縄文式土器・石鏃・石匙・ブレイド (七山村古川梅夫・富士村右近法真・神埼町七田忠志の諸氏保管)

五一、蔵谷縄文遺跡

種別 遺物散布地

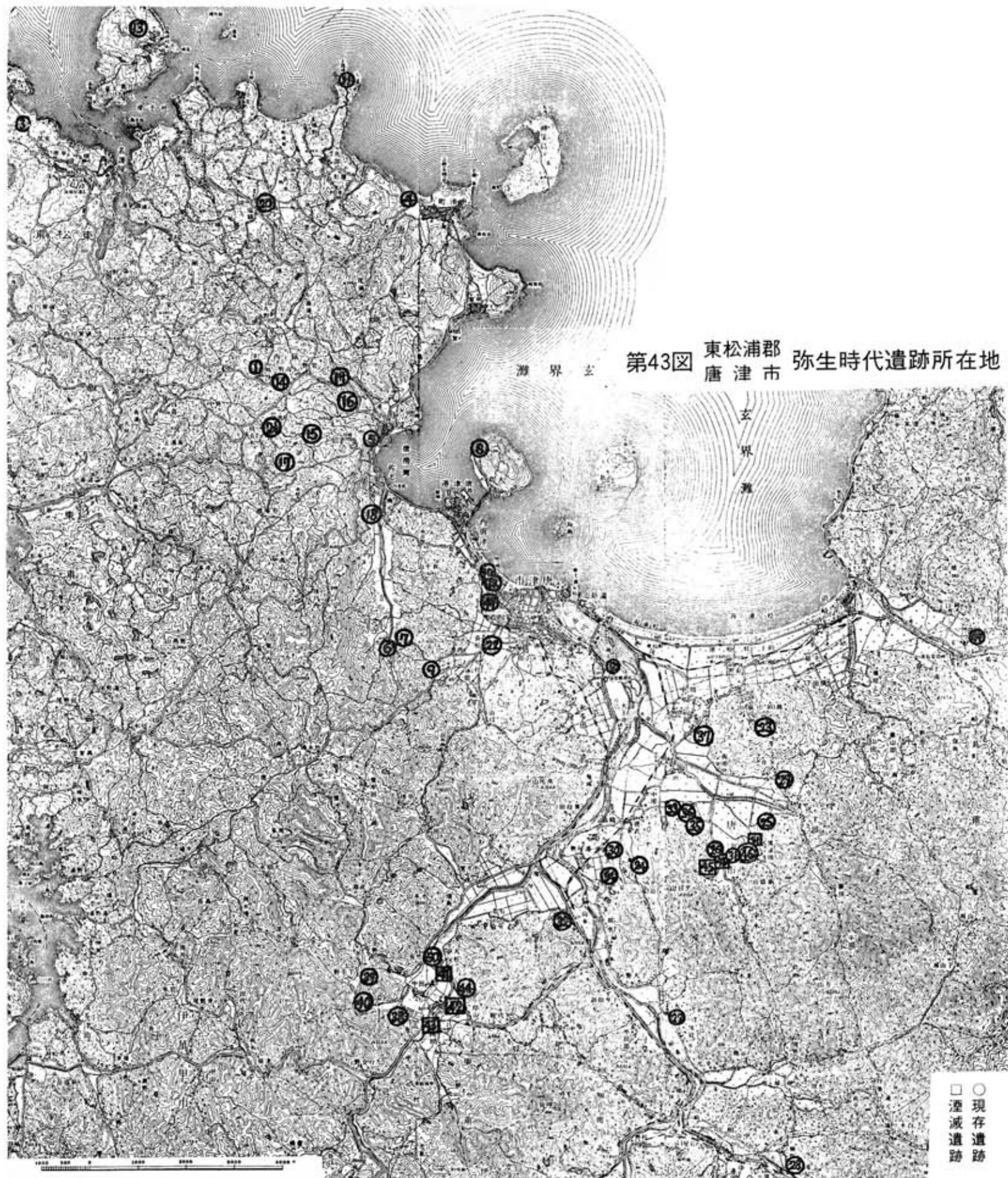
所在地 東松浦郡北波多村大字上平野小字蔵谷 (社地)

概要 山麓に接した盆地に位置している上平野天満社の境内が遺跡である。発見される遺物は黒曜石の石鏃の

みで、土器はまだ発見されていない。

出土品 石鏃十数個 (北波多村中学校保管)

文献 北波多村史 (昭和三十七年九月、北波多村)



東松浦郡
唐津市

弥生時代遺跡

- 一 鎮西町打上
- 二 唐津市百人町
- 三 鎮西町名護屋
- 四 唐津市湊町岡
- 五 唐津市八幡町
- 六 唐津市見借
- 七 唐津市見借
- 八 唐津市大島
- 九 唐津市神田町
- 一〇 唐津市山下町
- 一一 唐津市湊町屋形石
- 一二 唐津市平野町
- 一三 唐津市加部島

- 中河原弥生遺跡
松浦川下流弥生遺跡
鳥の巣弥生遺跡
鼓弥生遺跡
唐津第二中学校弥生遺跡
見借第一号弥生遺跡
見借第二号弥生遺跡
三号地弥生遺跡
寺崎弥生遺跡
山下町弥生遺跡
神崎弥生遺跡
平野町弥生遺跡
加部島弥生遺跡

一四	唐	津市	枝去	木馬部
一五	唐	津市	枝去	木馬部
一六	唐	津市	浦野	原
一七	唐	津市	佐志	町
一八	唐	津市	佐志	町
一九	唐	津市	浦町	
二〇	鎮	西町	塩鶴	
二一	唐	津市	枝去	木馬部
二二	唐	津市	町田	
二三	唐	津市	鏡	
二四	唐	津市	久里	
二五	唐	津市	宇木	
二六	唐	津市	宇木	
二七	相	知町	大野	
二八	相	知町	横枕	
二九	唐	津市	半田	
三〇	唐	津市	久里	
三一	唐	津市	宇木	

猿口	弥生	遺跡
女山	弥生	遺跡
雨溜	弥生	遺跡
笹の尾	弥生	遺跡
経塚山	弥生	遺跡
赤太郎茶屋	弥生	遺跡
塩鶴	弥生	遺跡
伍町	弥生	遺跡
潮の先	弥生	遺跡
鏡山	山頂	弥生
広首	弥生	遺跡
鶴崎	弥生	遺跡
宇木	汲田	弥生
大野	上	弥生
横枕	弥生	遺跡
矢作	弥生	遺跡
久里	小学校	弥生
森ノ下	弥生	遺跡

四九	四八	四七	四六	四五	四四	四三	四二	四一	四〇	三九	三八	三七	三六	三五	三四	三三	三二
唐	唐	浜	唐	唐	北	北	北	北	北	北	北	唐	唐	唐	唐	唐	唐
津	津	崎	津	津	波	波	波	波	波	波	波	津	津	津	津	津	津
市	市	玉	市	市	多	多	多	多	多	多	多	市	市	市	市	市	市
桜	宇	島	半	宇	村	村	村	村	村	村	村	鏡	柏	柏	久	中	山
馬	木	町	田	木	大	德	德	大	山	山	德		崎	崎	里	原	本
場		五			杉	須	須	杉	彦	彦	須						
		反				惠	惠				惠						
		田															

桜	宇	五	葉	瀬	正	馬	德	溝	座	桑	立	山	柏	長	城	中	中
馬	木	反	山	戸	福	場	須	添	主	原	藺	添	崎	崎	弥	原	尾
場	汲	田	尻	口	寺	川	惠	弥	弥	薨	薨	弥	弥	山	生	弥	弥
弥	田	支	支	支	石	弥	支	生	生	棺	棺	生	生	弥	遺	生	生
生	弥	石	石	石	棺	生	石	遺	遺	遺	遺	遺	遺	生	跡	遺	遺
遺	生	墓	墓	墓	遺	遺	墓	跡	跡	跡	跡	跡	跡	遺		跡	跡
跡	遺				跡	跡								跡			
	跡																

五〇 北波多村 竹有

びわのくび 弥生遺跡

五一 唐津市 半田

岸高支石墓

一、中河原弥生遺跡

種別 遺物散布地

所在地 東松浦郡鎮西町大字打上字中河原（草地）

概要 名護屋・有浦両方面行バスの分岐点に当る加倉停留所の西方にある低丘陵に、弥生式土器片の散布して

いる所が二個所ある。遺跡の性格やその範囲などは明らかでない。

出土品 磨製石鎌・弥生式中期土器片（唐津市富井恵次氏保管）

二、松浦川下流弥生遺跡

種別 遺物出土地

所在地 唐津市百人町松浦川下流佐用姫岩付近（河川）

概要 松浦川下流、新松浦橋の上流約三〇〇米の南側、河岸近くで砂利採取中に石器が発見された。他の遺物

については明らかでなく、また、この場所が遺跡であるのか、遺物の流入したものにすぎないのかという点も明らかでない。

出土品 石庖丁（唐津市西高等学校保管）

三、鳥の巢弥生遺跡

種別 遺物散布地

所在地 東松浦郡鎮西町大字名護屋字菅牟田（畑）

概要

特別史跡名護屋城跡と波戸岬のはば中間に位置していて、遺跡一帯は海へ突出したなだらかな舌状台地をなしている。この台地に弥生式土器片が散布しているが、付近からは縄文期の遺物も数多く発見されているので、長期間にわたる生活の場であったと推定される。

出土品 弥生式土器片

四、鼓弥生遺跡

種別 遺物散布地

所在地 唐津市湊町大字岡字鼓九五八番地（畑）

概要

湊町から屋形石部落へ通ずる道路の西側舌状台地一帯に築成されている古墳群と同一地域に、弥生期の遺跡があったことが認められる。弥生早期の夜臼式の甕棺が第二号古墳の側壁近くより出土し、また付近一帯に弥生中期の須玖式土器の破片が散在している。

出土品 弥生式初期の小形甕棺・弥生式中期の土器破片（湊小学校保管）

五、唐津第二中学校弥生遺跡

種別	遺物包含地
所在地	唐津市八幡町唐津第二中学校（畑）
概要	唐津第二中学校の一角、使丁部屋の南面の段丘一帯で、当時の海岸線近くの位置と思われ、海拔六〇七米の所である。弥生時代前期から中期にかけての土器の包含層であって、建築のさいけずり取った崖の断面の一部に炬址が露出しているので、この地が当時における住居跡であったことを物語っている。
出土品	遠賀川式・須玖式土器片（唐津第二中学校保管）

六、見借第一号弥生遺跡

種別	遺物包含地
所在地	唐津市見借大字松ノ木字天神山三九八〇番地（宅地）
概要	佐志川の上流、見借部落のほぼ中央部に位置している。この地は四年前まで小丘がのびていたが、現在は切りくずされて、その跡に部落公民館が建てられている。段丘と水田との交わる地域に多くの弥生式土器破片が包含されており、佐志川上流における稲作の年代などを推定するのに大切な遺跡である。
出土品	弥生式土品破片（後期が主体をなしているが、前期・中期のものも多少含まれている）（唐津第二中学校保管）

七、見借第二号弥生遺跡

種別 遺物散布地

所在地 唐津市見借大字谷口（畑）

概要

佐志川の上流、見借部落の中央部と川をへだてた地点である。小丘が低地にのびるゆるやかな斜面の畑地に弥生式土器片が散布している。佐志平野の基部に当たっていて、次の古墳時代に開拓が進み、集落がさらに前進する一つの拠点をなす重要な意義を有する遺跡ではないかと推定される。

出土品 弥生時代中期、後期の土器片（唐津第二中学校保管）

八、三号地弥生遺跡

種別 遺物包含地

所在地 唐津市大島大字西字貯炭場三号地（畑）

概要

唐津港石炭集積地の北端、大島の西北端の地域で、海岸に面する丘陵斜面に弥生時代の中期・後期の土器が包蔵されているが、遺跡の範囲や性格等は明らかでない。

出土品 弥生時代中期・後期の土器片（唐津第二中学校保管）

九、寺崎弥生遺跡

種別 遺物包含地

所在地

唐津市神田町大字西浦字六反田二四六九番地（畑・水田）

概要

旧海岸段丘の一つで、神田より見借に通ずる西浦部落前面の小丘にあつて、水田から畑地にかけて、主として弥生時代中期・後期の土器が包含されている。その中に一部須恵器の破片なども散見され、山下町・桜馬場などの甕棺群を残した当時の人々の居住地ではなかつたかと推定され、長期間にわたる住居遺跡である。

出土品

弥生式中期・後期の土品片、須恵器片（唐津第二中学校保管）

文献

唐津市史（昭和三七年八月一八日、唐津市）

一〇、山下町弥生遺跡

種別

甕棺埋藏遺跡

所在地

唐津市山下町大字五丁目一二二の一番地（宅地・道路）

概要

山下町、桜馬場、平野町と続く往時の海岸線砂丘に形成された甕棺遺跡群の一つである。唐津線二タ子踏切より南方約二〇〇米、海拔一〇米前後の所にあつて、宅地と道路にまたがつて数基の須玖式甕棺の出土を見ている。しかし副葬品は何も発見されていない。

出土品

須玖式甕棺（唐津第二中学校保管）

一一、神崎弥生遺跡

種別

遺物散布地

所在地 唐津市湊町大字屋形石字神崎 (山林)

概要 屋形石部落内の北端に位置し、天然記念物に指定されている七つ釜に連なる台地が遺跡である。ここに

ある神社付近を中心に弥生後期の土器片が発見されている。現在この遺跡付近は植樹により松の木が繁茂している。

出土品 弥生時代後期の土器片

一二、平野町弥生遺跡

種別 甕棺埋蔵遺跡

所在地 唐津市平野町一四五一番地 (宅地)

概要 唐津市街の西北端、標高一〇米前後の所に位置しているが、この地は海岸線に発達した砂丘で、山下町

↓桜馬場↓平野町と連続している甕棺遺跡の一つである。この地から甕棺が発見されたのは、相当以前のことである。遺跡は破壊の度がひどい。

出土品 須玖式甕棺・銅剣

一三、加部島弥生遺跡

種別 遺物包含地

所在地 東松浦郡呼子町大字加部島字大久保 (畑・水田)

概要

加部島のはば中央部、低地となっている地域からゆるやかな畑地の斜面にかけて、弥生時代の中期から後期の土器片が散布している。遺跡の性格やその範囲は明らかでない。

出土品

弥生時代中期・後期の土器

一四、猿口弥生遺跡

種別

遺物散布地

所在地

唐津市枝去木大字馬部字猿口（畑）

概要

唐津、有浦間の加倉停泊所の南側にある台地の北斜面の畑に弥生式土器片が散布している。遺跡の性格などは明らかでないが、土器片は弥生時代中期のものである。

出土品

弥生時代中期土器片

一五、女山弥生遺跡

種別

遺物包含地

所在地

唐津市枝去木大字馬部字女山（畑）

概要

馬部溜池の東側に当る低丘陵斜面から、弥生時代の土器片が出土している。この地は、昭和三六年西北九州総合調査特別委員会によって、縄文晩期の遺跡として発掘調査が実施された所であって、先土器時代の石器から縄文・弥生へかけての遺物が発見されており、遺跡は広範囲にわたっている。

出土品

弥生時代中期・後期の土器片

一六、雨溜弥生遺跡

種別

遺物包含地

所在地

唐津市浦大字野原字雨溜（畑）

概要

上場台地の一番東北部の突端に浦部落に属する原野がある。この原野の中に水田が数アール営なまれているが、この水田に臨む標高八〇～一〇〇米の舌状台地に弥生式土器が多く包含されている。この遺跡は土器の包含が濃密な点から見て、住居跡ではないかと推定される。

出土品

弥生時代前期・中期の土器、石器（唐津第二中学校保管）

一七、笹の尾弥生遺跡

種別

遺物散布地

所在地

唐津市佐志町字笹ノ尾（畑）

概要

上場台地上に形成された小さな集落跡と推定され、畑中に多くの弥生時代中期の土器破片が散乱している。なお、この地は先土器時代の石器や縄文時代の遺物も包蔵していて、長期間にわたる遺跡である。

出土品

弥生時代中期の土器破片（唐津第二中学校保管）

一八、経塚山弥生遺跡

種別 遺物散布地

所在地 唐津市佐志町大字佐志南字経塚山三七四二番地（墓地）

概要 佐志の南方、市営住宅の西側の段丘の間に現在元明寺が建てられているが、この地域に道路や宅地が建設された時、弥生式土器の破片が発見されている。この遺跡の性格などは明らかでない。

出土品 弥生時代中期・後期の土器、石器（唐津第二中学校保管）

一九、赤太郎茶屋弥生遺跡

種別 遺物包含地

所在地 唐津市浦町字赤太郎茶屋六二二七番地（山林・宅地）

概要 呼子県道の浦停留所から約五〇〇米呼子の方に進むと採石場があるが、その採石場と県道をへだてた所に遺跡はある。この地は標高約五〇米、上場台地が浦部落の田園地帯へ傾斜するゆるやかな斜面にあつて、弥生式の土器や石器が発見されているが、遺跡一帯は砂岩で覆われている。

出土品 弥生時代中期・後期の土器、石器（唐津第二中学校保管）

二〇、塩鶴弥生遺跡

種別 遺物包含地

所在地 東松浦郡鎮西町字塩鶴

概要

昭和バス呼子線の塩鶴停留所東方約一〇〇米余りのところにある低丘陵から弥生中期の遺物が出土している。現場は南向きのなだらかな斜面で好適の生活の場であった所と推定される。

出土品

石斧、弥生時代中期の土器片（打上中学校保管）

二一、伍町弥生遺跡

種別

遺物散布地

所在地 唐津市枝去木大字馬部字伍町（畑）

概要

馬部の部落西南の端に当る南向きの畑のゆるやかな斜面に弥生式の土器の破片が散在している。遺跡の規模や性格などは明らかでない。

出土品

弥生時代中期土器破片

二二、潮の先弥生遺跡

種別

遺物包含地

所在地 唐津市町田町大字潮の先五〇三番地（畑・宅地）

概要

唐津第一中学校前面の標高二〇米ほどの旧海岸段丘に弥生前期以降の各期の遺物が包含されている。遺物が生活関係のものに限られているところからみて、当時の集落跡であったと推定される。地理的に見

て桜馬場や山下町などの砂丘上の甕棺墓地を形成した住民の居住地の一つだと断定される。
出土品 土器片（唐津第二中学校保管）
文献 唐津市史（昭和三十七年八月一八日、唐津市）

一三三、鏡山山頂弥生遺跡

種別 遺物包含地
所在地 唐津市鏡字鏡山
概要 標高二八三米の鏡山の山頂にある遺跡であつて、弥生時代の遺物が散布している。また、この遺跡からは弥生期から奈良朝頃までの各時代の遺物も出土している。
出土品 扶人石斧・石のみ・土すい・弥生時代後晩期の土器（厳木中学校、唐津市松岡史氏保管）
文献 唐津市史（昭和三十七年八月一八日、唐津市）

二四、広首弥生遺跡

種別 遺物包含地
所在地 唐津市久里字広首
概要 久里小学校弥生甕棺遺跡の東方山麓の低丘陵にある遺跡で、弥生中・後期の土器片が多数畑中に散布している。おそらく当時の集落跡であると推定される。なお近くにカケ塚古墳がある。

出土品

器台・つば・甕棺の破片、黒耀石剝片

二五、鶴崎弥生遺跡

種別

遺物包含地

所在地

唐津市大字宇木字鶴崎（畑）

概要

飯盛山麓が北に長い低丘陵となつてのびているその低丘陵地が遺跡である。かつて須玖Ⅰ式の甕棺の調査が行われただけで、他は未調査のままであるが、遺跡は深耕作業のため破壊にひんしている。この低丘陵の鶴崎側には貝塚も残り、カキ、ハマグリ、赤貝他多数の貝殻を含み縄文晩期より弥生に至る土器が出土している。

出土品

須玖式土器・後晩期土器・石器・カメ棺

文献

唐津市史（昭和三十七年八月一日、唐津市）

二六、宇木汲田弥生貝塚

種別

貝塚

所在地

唐津市大字宇木字汲田（水田）

概要

夕日山の東北山麓に接続する低位河岸段丘上にある貝塚であつて、銅剣、銅鉾等の出土地として知られている宇木汲田遺跡と接続していて、一環をなす遺跡である。柏崎寄りの所から貝塚が発見され、夜臼・

遠賀川式の土器を始め石器、その他の遺物が発見されている。現在水田となり、貝塚の所在も明らかにされないほどに破壊されてしまっている。

出土品 夜臼式・遠賀川式・須玖式の土器、石器、土製紡錘車

文献 唐津市史（昭和三十七年八月一八日、唐津市）

二七、大野上弥生遺跡

種別 甕棺埋蔵遺跡

所在地 東松浦郡相知町大字大野（水田）

概要 陣の山が平野に漸移し水田と合する松浦川東側の台地にこの遺跡がある。道路補修の採土中、甕棺が出

土し、遺物を内蔵する合口甕棺も発見された。なお付近から弥生期の石器も発見されている。

出土品 管玉・小玉・細型銅戈・石鏃・石斧・弥生中、後期の甕棺（相知町公民館保管）

二八、横枕弥生遺跡

種別 遺物包含地

所在地 東松浦郡相知町大字横枕（畑）

概要 唐津線相知駅の東方約八〇〇米、松浦川北岸、作礼の支脈が平野へ漸移する台地に本遺跡がある。ここ

からは弥生後、晩期の壺が開壺中に出土し、近くから数片の土器が出土している。密度はうすが、松

川上流の弥生時代遺跡の限界地として注目される遺跡である。
弥生式壺（相知町公民館保管）

二九、矢作弥生遺跡

種別 甕棺埋藏遺跡

所在地 唐津市大字半田字矢作（畑）

概要 鏡山南麓の平野に突出する台地の末端にある遺跡で、道路拡張のための排水工事中に弥生式甕棺および

黒曜石の剝片が出土している。この遺物の埋藏状態や遺物の範囲等は明らかでない。

出土品 甕棺（半田小学校保管）

三〇、久里小学校弥生遺跡

種別 甕棺埋藏遺跡

所在地 唐津市大字久里字下久里（校地）

概要 筑肥線久里駅の東方水田地帯に、周囲よりやや高くなった低台地があつて、久里小学校が建てられてい

る。この地は弥生式甕棺の密集地で、昭和二十七年校地拡張工事中にも多数の甕棺が出土した。昭和三四年三月、プール建設中六組の甕棺と銅剣等が出土した。甕棺はほとんど須玖式の合口であつて、現在遺跡の大半は破壊されていると推定される。

出土品

銅剣先（所在不明）・甕棺（ほとんど破壊滅失）、狭鋒銅鉾一・クリス形銅戈一・碧玉製管玉一三・甕棺一（文化財保護委員会所蔵）

三一、森の下弥生遺跡

種別

遺物包含地

所在地 唐津市大字宇木字森の下（水田）

概要

飯盛山の西北山麓、追頭低丘陵北側の水田中に弥生時代の遺物の包含層があつて、弥生中期以降の遺物が出土している。包含地の範囲などは明らかでない。

出土品

弥生時代中期・後期の土器、石廬丁（唐津市松岡史氏保管）

文献

唐津市史（昭和三十七年八月一八日、唐津市）

三二、中尾弥生遺跡

種別

遺物包含地

所在地 唐津市大字山本字中尾（畑）

概要

唐津線山本駅の北西方至近、山麓の北東端の斜面から副葬品を内蔵した甕棺が出土している。なお付近には弥生時代中・後期の遺物の包含層が見られる。

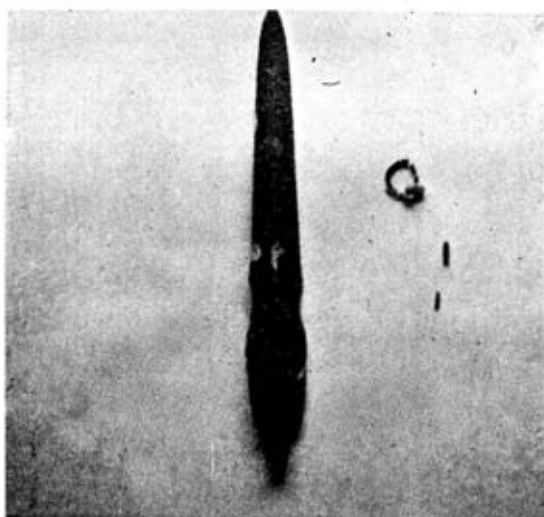
種別

甕棺埋藏遺跡

出土品
文献

弥生前期カメ棺・弥生中期土器
唐津市史（昭和三十七年八月一八日、唐津市）

三四、城弥生遺跡



第44図 中尾弥生遺跡出土品

出土品 勾玉・管玉・細形銅剣一口（唐津市山本、中尾勇氏

保管）

文献 唐津市史（昭和三十七年八月一八日、唐津市）

三三、中原弥生遺跡

種別 遺物包含地

所在地 唐津市大字中原（畑・宅地）

概要 夕日山の北麓に続いて、大規模な低砂丘地が構成さ

れている。ここから弥生時代の甕棺が発見されていて、弥生甕棺埋藏地として知られていた。しかるに生活用具である土器類も散布していることが判明したので、この地は弥生時代の集落址であると推定されるに至った。

所在地 唐津市久里字城

概要

唐津線山本駅の北東方約一杆、松浦川岸の山麓に近い所に小独立丘がある。この丘頂に至る小径にはカメ棺がその断面に露出している。弥生中期の甕棺と推定されるが、副葬品等は判明していない。また、この地には、古墳が三基ほどあったようだが、現在はその名残りをとどめるその石材が存するのみである。

三五、長崎山弥生遺跡

種別

甕棺埋藏遺跡

所在地

唐津市柏崎小字長崎山

概要

夕日山の東北方に、夕日山から派生した長崎山がある。この長崎山の丘陵に弥生時代早期から中期におよぶ甕棺が埋藏されている。この地は長崎山古墳群地帯であるとともに、柏崎・宇木汲田・瀬戸口の各遺跡と一連をなす弥生時代の遺跡群である。

出土品

カメ棺（唐津市第二中学校保管）

文献

唐津市史（昭和三十七年八月一八日、唐津市）

三六、柏崎弥生遺跡

種別

貝塚

所在地

唐津市大字柏崎字石蔵 (畑)

概要

夕日山北麓の低丘陵上に形成された弥生集落跡である。従来柏崎貝塚の名称で知られている遺跡であつて、石蔵から田島・外園にまでわたっている住居跡・貝塚・遺物包含層等からなる弥生時代の集落跡である。この遺跡の至近からは、有名な触角式銅剣が、かつて出土している。

出土品

カメ棺、弥生前期・中期・後期土器、石器

文献

唐津市史(昭和三十七年八月一八日、唐津市)、鏡山猛「柏崎貝塚」(昭和二十七年三月三十一日、佐賀県文化財調査報告書第一輯)、「久里の貝塚」(昭和五年三月、佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告第二輯)

備考

昭和二十六年八月、九州文化総合研究所、九州考古学会、日本考古学会、佐賀県教育委員会によつて柏崎貝塚の発掘調査が実施された。

三七、山添弥生遺跡

種別

遺物散布地

所在地

唐津市大字鏡字山添 (畑)

概要

鏡山の西麓、溜池の近くにある砂地一帯に遺物が散布している。主に弥生式土器片とサヌカイト、黒曜石の剣片であつて遺構は明らかでない。

出土品

須玖式土器・挟入石斧(唐津市松岡史氏保管)

文献

唐津市史(昭和三十七年八月一八日、唐津市)

三八、立蘭甕棺遺跡

種別

甕棺埋藏遺跡

所在地

東松浦郡北波多村大字徳須恵字立蘭（宅地）

概要

盆地に臨む南山麓にある弥生時代の甕棺埋藏遺跡である。炭鉾社宅建設のさい大部分が破壊湮滅してしまつたが、まだいくらか残存していて、露出しているものもある。甕棺はほとんどが合口または差合甕棺であつた。またこの地には古墳も築成されていた。

文献

北波多村史（昭和三十七年九月、北波多村発行）

三九、桑原甕棺遺跡

種別

甕棺埋藏遺跡

所在地

東松浦郡北波多村大字山彦字桑原（社地）

概要

鎌倉山の南東麓にある白山神社境内の南面する通路上に一組の甕棺が露出していた。昭和三〇年頃発掘されたが、水平埋置の差合甕棺であつた。副葬品はなく、この地に他にも埋置されているかどうかは不明である。

出土品

差合甕棺一組（北波多中学校保管）

文献

北波多村史（昭和三十七年九月、北波多村）

四〇、座主弥生遺跡

種別 遺物包含地

所在地 東松浦郡北波多村大字山彦字座主（水田・畑）

概要 鎌倉山の東南麓の低地およびこの川西流域の一带から、弥生時代・古墳時代の遺物を始め、白磁片なども出土していた。しかし、耕作のため遺跡は破壊され、出土遺物も非常に少なくなってしまった。この地は寺屋敷と呼ばれ、寺院跡であると伝えられているが、その遺構は何等残っていない。

出土品 弥生式土器・滑石製石鍋破片・差合甕棺、土師器と須恵器の破片多数、白磁破片多数（北波多中学校保管）

文献 北波多村史（昭和三十七年九月、北波多村）

四一、溝添弥生遺跡

種別 遺物包含地（湮滅）

所在地 東松浦郡北波多村大字大杉字溝添一五三番地（河川）

概要 徳須恵川下流の河畔、大杉神社裏付近に昭和二九年河川改修のおり発見された遺跡で、弥生時代より奈良時代頃までの農耕集落遺跡である。しかし河川改修の結果ほとんど地形が一変し遺跡は湮滅して、い

までは遺物を発見するのさえ困難な状態である。

出土品 弥生式の甕棺・埴、土師の甕、甗、土鍾（北波多中学校保管）

文献

北波多村史（昭和三十六年九月、北波多村）

四二、徳須恵支石墓

種別

支石墓

（湮滅）

所在地

東松浦郡北波多村大字徳須恵字瀬戸口（河川）

概要

現在の徳須恵川の東岸、徳須恵橋より下流地域一帯であり、昭和一三年二月河川改修の際十数基の支石墓が発見されたものである。現在は河底となり、若干の弥生式甕棺破片を見る程度であり、年々の洪水とともに次第に遺物も減少しつつある。

出土品

狭鋒銅鉾・弥生式甕棺・瓶・石斧・井戸わく・石錘・石庖丁（特大）・石槌・甕・土師・須恵器多数（北波多中学校保管）

文献

北波多村史（昭和三十六年九月、北波多村）、松尾禎作「佐賀県下の支石墓」（昭和三〇年一月一日、佐賀県文化財調査報告書第四輯）、吉村茂三郎「徳須恵の甕棺地帯について」（昭和一五年四月、佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告第七輯）

備考

狭鋒銅鉾は当時重要美術品に認定されていた。

四三、馬場川弥生遺跡

種別

遺物散布地

（湮滅）

所在地

東松浦郡北波多村大字徳須恵及び大字稗田一八二九番地（河川）

概要

徳須恵橋付近から上流へかけての河畔約四〇〇米の間に、縄文時代から古墳時代におよぶ石器や土器が多く発見されているが、特に左岸に遺物は多かった。出土遺物から見ても、単なる住居跡ではなく各種の遺跡が複合されているものと推定されたが、水田化されたため遺跡は破壊されてしまった。

出土品

御領式土器・合口甕棺・弥生式高杯・須恵器の甕・埴・瓶類多数・甕・甕等、石匙・石庖丁・礫器・石のみ・石鏃・土彈・土鏝・土製小玉・滑石製小玉・鉄斧（北波多中学校保管）

文献

北波多村史（昭和三六年十一月、北波多村）

四四、正福寺石棺遺跡

種別

石棺埋蔵遺跡

所在地

東松浦郡北波多村大字大杉字竹之下八四〇イ番地（山林）

概要

霧差山の南斜面にある正福寺の裏山を、昭和三一年一月公園化のため開墾中、偶然発見された箱式石棺である。一五米の間隔を置いて二個発見されている。板石を用いた組合式石棺で内部には鉄丹が塗布されており、上方にある一棺は、小石床となっている。下方の石棺には遺体が残っていたが、二棺ともに副葬品は発見されていない。

文献

北波多村史（昭和三六年九月、北波多村）

四五、瀬戸口支石墓

種別

支石墓

(湮滅)

所在地

唐津市大字宇木字瀬戸口

(畑)

概要

夕日山の東山麓の台地にあつた一三基の支石墓群である。開墾のためすでに上石は破壊されてしまつていた。内部主体は箱式石棺・遠賀川甕棺・土壙からなつていて、比較的古い時期に属する支石墓群であつて、副葬品等は、何も発見されなかつた。なお、この支石墓と水田地帯をへだてて、葉山尻支石墓群がある。

出土品

遠賀川式甕棺（県教育委員会保管）

備考

昭和三年一〇月八日、一二日、県教育委員会が九州大学の援助を得て、応急調査を実施した。

四六、葉山尻支石墓

種別

支石墓

所在地

唐津市大字半田字葉山尻一五四二番地

(畑)

概要

標高約二〇〇米の飯盛山の山麓に近い斜面に五基現存していて、支石墓としてわが国で学術的調査が実施された嚆矢として記念すべき遺跡である。弥生時代の墓制の様式であつて、長さ一米二〇～二米五〇の不整形の長方形に近い上石と数個の下石からなる葺盤式支石墓で、内部主体は甕棺または土壙となつてゐる。副葬品としては、第四号土壙内から石鏃一個、第五号から遠賀川式埴一個が発見された。



第45図 葉山尻支石墓

出土品 甕棺多数・打製石鏃一個・遠賀川式埴一個（県教育

委員会・松浦文化連盟保管）

文 献

松尾禎作「葉山尻支石墓第二次調査概報」（考古学雑誌第四〇巻第二号）、松尾禎作「佐賀県下の支石

墓」（昭和三〇年一月一五日、佐賀県教育委員会）、

松尾禎作「北九州支石墓の研究」（昭和三二年六月

一日、松尾禎作先生還暦記念事業会）、佐賀県の文

化財（昭和三六年三月三十一日、佐賀県教育委員会）

備 考

佐賀県史跡、昭和二七年及び二八年に発掘調査が実施された。

四七、五反田支石墓

種 別 支 石 墓

所在地 東松浦郡浜崎玉島町大字五反田二八〇番地

（畑・宅地・道路）

概 要 山麓傾斜面にあって、昭和二九年四月、道路拡張工事中に発見されたものである。六基の支石墓が発見

されたが、内部は主として土堀であり、二基は土堀内に遠賀川式埴を内蔵し、一基は遠賀川式の小形差合甕棺を内蔵していた。また支石墓間の土中から土師埴一個が出土しており、遺構の全貌は明らかでない。

出土品

土師丸底埴一・遠賀川式埴二・遠賀川式差合甕棺一組（祐徳博物館保管）

文献

松尾禎作「佐賀県下の支石墓」（昭和三〇年一月一五日、佐賀県文化財調査報告書第五編）

備考

支石墓は道路下に原状のまま保存されている。

四八、字木汲田弥生遺跡

種別

甕棺遺跡

（湮滅）

所在地

唐津市大字字木汲田三六八〇番地（水田）

概要

葉山尻支石墓・さこがしら古墳群・小長崎山石室墳等の所在する低丘陵地帯の間に、南に向かって開けた帯状低地の水田中に遺跡は存在している。水田耕作のため遺跡は相当に破壊されているが、須玖式甕棺が群在し、相当数の甕棺内蔵の遺物が発見されている。昭和三二年一月には、東亜考古学会によって発掘調査が実施され、多数の甕棺と貴重な遺物が数多く発見されて学界の注目するところとなった。

出土品

細形銅剣二・狭鋒銅鉾二・硬玉勾玉二・碧玉管玉二〇（以上、唐津市字木区で所蔵）、甕棺五四・細形銅剣五・狭鋒銅鉾二・銅戈一・多鈕細文鏡一・銅釧五・硬玉勾玉七・管玉一四五・大形管玉一・玻璃玉二・石斧五（京都大学人文科学研究所保管）

文 献

木下之治「唐津周辺の考古学的調査」(新郷土、昭和三二年四月号)、佐賀県の文化財(昭和三十一年三月三日、佐賀県教育委員会)

備 考

唐津市宇木区所蔵の細形銅剣二・狭鋒銅鉞二・硬玉勾玉二・碧玉管玉二〇は重要文化財指定。

四九、櫻馬場弥生遺跡

種 別

甕 棺 遺 跡

所 在 地

唐津市桜馬場四丁目

概 要

遺跡は低平な台地にあつて、地層は深い砂質土壌をなし、遺跡一帯は住宅地となっている。昭和一九年に白銅鏡二面他多数の副葬品を内蔵する甕棺一個が発見されて注目をあび、昭和三〇年に学術調査が実施された弥生時代甕棺遺跡であり、古代末盧国の文化を究明する上からも重要な遺跡である。最近この遺跡から内行花文鏡一面が発見されたという。

出土品

方格四神鏡一面・方格渦文鏡一面・有鈎釧形銅製品二六個・巴形銅器三個・ガラス小玉一個・鉄刀残片一個(以上唐津市西岡広志氏保管)、弥生式甕棺一組・甕棺片・管玉一個(以上明治大学考古学教室保管)、内行花文鏡一面

文 献

梅原末治「肥前唐津市発見の甕棺遺物」(考古学雑誌)、吉村茂三郎・松尾禎作「唐津桜馬場遺跡」(昭和三四年五月三十一日、佐賀県史跡名勝天然記念物調査報告第八輯)、杉原莊介「唐津桜馬場遺跡」(昭和三〇年八月二十九日、唐津新聞)、佐賀県の文化財(昭和三十六年三月三十一日、佐賀県教育委員会)

備 考

重要文化財(肥前唐津市桜馬場出土甕棺遺物、昭和一九年発見の一括遺物)

五〇、びわのくび弥生遺跡

種別 遺物包含地

所在地 東松浦郡北波多村大字竹有字びわのくび (水田)

概要 徳須恵川、田中川の合流点及びその付近一帯の地から、主として須恵器破片が発見されている。完器はなく、破片ばかりであって、一・二連賀川式の口縁部も見られたが、これは他から持ちこまれたもの

と思われる。付近の各所から木炭層が発見され、土中に須恵器片のまじっているところもある。この遺跡中には、水田となっている処もある。

出土品 連賀川式土器口縁部・須恵器破片

文献 北波多村史(昭和三十六年九月、北波多村)

五一、岸高支石墓

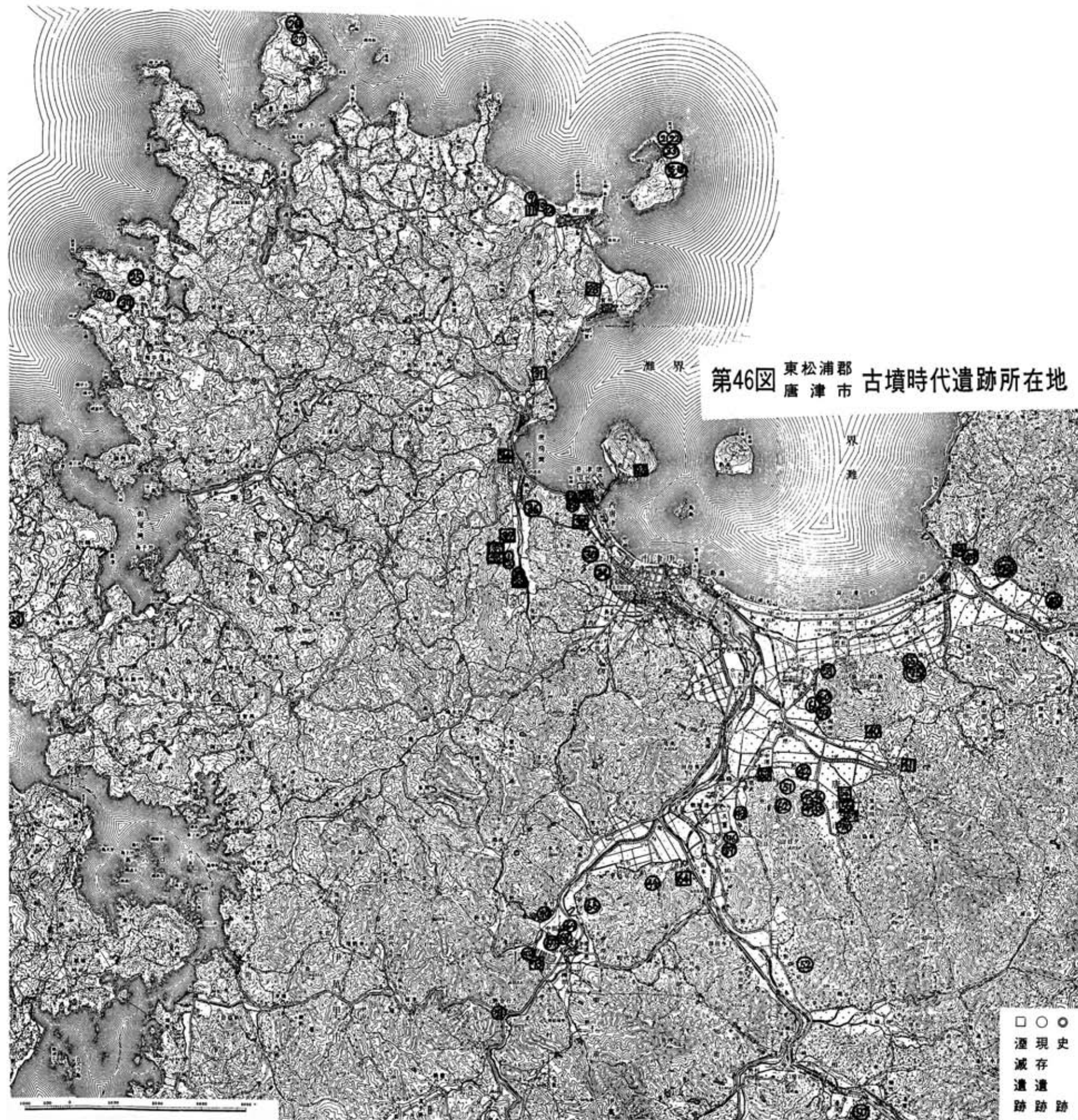
種別 支石墓

(湮滅)

所在地 唐津市半田字岸高

概要 飯盛山の北麓に近い丘陵斜面に六基の支石墓が存在していたが、昭和三八年、開墾作業によって破壊さ

れた。破壊前、付近には弥生式後期の土器片が散在していたといわれる。規模や内部主体の構造など詳細は明らかでないが、内部主体は甕棺と土壙からなっていたのではないかと推定される。



東松浦郡
唐津市

古墳時代遺跡

一	唐津市佐志町惣原
二	唐津市佐志町惣原
三	唐津市佐志町惣原
四	唐津市佐志町惣原
五	唐津市佐志町惣原
六	唐津市佐志町惣原
七	玄海町値賀古節木
八	玄海町値賀古節木
九	唐津市湊町岡
一〇	唐津市湊町岡
一一	唐津市湊町岡
一二	唐津市湊町岡
一三	唐津市佐志町の瀬

惣原南第一号古墳	惣原南第二号古墳	惣原北第一号古墳	惣原北第二号古墳	惣原北第三号古墳	惣原北第四号古墳	岩盛第一号古墳	岩盛第二号古墳	鼓第一号古墳	鼓第二号古墳	鼓第三号古墳	鼓第四号古墳	中の瀬第一号古墳
----------	----------	----------	----------	----------	----------	---------	---------	--------	--------	--------	--------	----------

一四	唐津市佐志町中の瀬
一五	唐津市湊町神集島
一六	唐津市湊町神集島
一七	唐津市湊町神集島
一八	唐津市湊町神集島
一九	唐津市佐志町井尻
二〇	唐津市佐志町井尻
二一	唐津市湊町神集島
二二	唐津市湊町神集島
二三	唐津市大島町
二四	唐津市佐志町佐志南
二五	玄海町値賀外津
二六	呼子町加部島
二七	呼子町加部島
二八	唐津市湊町相賀
二九	唐津市妙見西町妙見山
三〇	唐津市二タ子町
三一	唐津市浦町門前

四九	四八	四七	四六	四五	四四	四三	四二	四一	四〇	三九	三八	三七	三六	三五	三四	三三	三二
浜	唐	唐	唐	唐	唐	唐	唐	唐	唐	唐	肥	玄	唐	唐	唐	唐	唐
崎	津	津	津	津	津	津	津	津	津	津	前	海	津	津	津	津	津
玉	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	町	町	市	市	市	市	市
島	柏	柏	柏	柏	石	久	柏	半	半	久	入	値	八	西	葉	湊	佐
町	崎	崎	崎	崎	志	里	崎	田	田	里	野	賀	幡	唐	畑	町	志
淵												普	町	津	巡	神	町
上												恩		町	見	集	下
												寺			道	島	戸

淵	大	大	小	小	下	カ	外	宮	杉	池	深	普	中	権	温	か	下
上	長	長	長	長	柳	ケ	國	の	殿	の	田	恩	山	現	泉	ぐ	戸
古	崎	崎	崎	崎	谷	塚	古	上	古	内	古	寺	古	谷	山	め	古
墳	山	山	山	山	石		墳	古	墳	古	墳	古	墳	古	古	じ	墳
	第	第	第	第	棺			墳						墳	墳	古	
	二	一	二	一	遺								群			墳	
	号	号	号	号	跡												
	古	古	古	古													
	墳	墳	墳	墳													

六 七	六 六	六 五	六 四	六 三	六 二	六 一	六 〇	五 九	五 八	五 七	五 六	五 五	五 四	五 三	五 二	五 一	五 〇
北	北	浜	唐	浜	唐	唐	唐	唐	唐	唐	唐	唐	浜	唐	相	唐	相
波	波	崎	津	崎	津	津	津	津	津	津	津	津	崎	津	知	津	知
多	多	玉	市	玉	市	市	市	市	市	市	市	市	玉	市	町	市	町
村	村	島	山	島	柏	鏡	鏡	鏡	鏡	字	字	字	島	中	黒	柏	梶
田	大	町	本	町	崎					木	木	木	町	原	岩	崎	山
中	杉												淵				
													上				

親	立	横	金	五	小	樋	御	玉	島	迫	迫	ツ	黒	部	黒	割	梶
王	山	田	谷	反	振	の	灯	葛	田	頭	頭	カ	田	田	岩	石	山
塚	古	下	古	田	塚	口	坊	窟	塚	第	古	サ	石	古	石	公	
	墳	古	墳	古		古	古	古		一	墳	マ	棺	墳	棺	園	
	群	墳		墳		墳	墳	墳		四	群	古	遺	遺	群	石	
		群								号		墳	跡	跡		棺	
										古		墳				遺	
										墳						跡	

六八	北波多村田中
六九	北波多村田中
七〇	北波多村竹有
七一	北波多村行合野
七二	北波多村田中
七三	北波多村徳須恵
七四	浜崎玉島町谷口
七五	浜崎玉島町横田下
七七	唐津市東字木

島古墳
薬師堂古墳群
竹有古墳
谷口遺跡
峯ノ辻古墳群
立蘭古墳群
谷口古墳
横田下古墳
釜太郎山古墳

一、惣原南第一号古墳

種別 古墳

所在地 唐津市佐志町大字惣原一六四三番地 (畑)

概要

佐志川の中流西側の段丘上に築かれており、開鑿によって第二号古墳と共に発見された。わずかの封土を有した小型竪穴式石室墳で、側壁は平石の小口積となっており、天井部は四枚の板石よりなり、粘土によって密閉されていた形跡がある。石室の長さ二米二五、幅六三釐、深さ七二釐で、内部には鉄丹が

一面に塗布されており、丘陵の頂上部に位置していたため遺物の保存は良好である。
出土品 勾玉・管玉・ガラス小玉・鉄剣・刀子・鉄鏃・鉄斧・鉈（唐津第二中学校保管）
文献 唐津市史（昭和三十七年八月一日、唐津市）

二、惣原南第二号古墳

種別 古墳

所在地 唐津市佐志町大字惣原一六四二番地（畑）

概要 第一号古墳の南万約一〇米の所にある。形式は第一号古墳と同様に小型の竪穴式石室墳であって、主軸

も同じ方向である。石室は長さ二米・幅八五厘・深さ一米一〇で、第一号古墳よりやや大きい。構造は第一号より粗雑であって、副葬品も埋藏されていなかった。

文献 唐津市史（昭和三十七年八月一日、唐津市）

三、惣原北第一号古墳

種別 古墳群（湮滅）

所在地 唐津市佐志町大字惣原一六二二番地（畑）

概要 佐志古墳群の中の一基であって、佐志川沖積平野の西側、標高約二〇米の段丘に営まれた小形竪穴式石

室墳である。戦前の開墾により破壊されたもので、地主の語るところによると、惣原南第一号古墳に相

似たもので、石室内には鉄丹が塗布されていたという。

出土品 倣製珠文鏡一面・管玉・小玉・直刀・刀子（唐津市正円寺保管）

文献 唐津市史（昭和三十七年八月一日、唐津市）、吉村茂三郎「佐志町惣原古墳」（昭和一五年四月、佐賀

県史蹟名勝天然記念物調査報告第七輯）、松尾禎作「佐賀県考古大観」（昭和三三年三月一〇日、祐徳博物館）

四、惣原北第二号古墳

種別 古墳群（湮滅）

所在地 唐津市佐志町大字惣原一六二一番地（畑）

概要 惣原北第一号古墳から約二〇米距った東側の斜面に営まれていた古墳で、戦後間もない頃に開墾によつて破壊され、石室の石材が畑の石垣に転用されている。形式や大きさなどは、第一号古墳とほぼ同様であつて、古墳時代中期の小形竪穴式石室墳であると推定される。

出土品 刀子、鉄鏃（唐津市松岡史氏保管）

文献 唐津市史（昭和三十七年八月一日、唐津市）

五、惣原北第三号古墳

種別 古墳群（湮滅）

所在地 唐津市佐志町大字惣原一六二一番地 (畑)

概要 第一号古墳と第二号古墳との中間に築成された箱式石棺で、内部の大きさは、長さ一四〇㎝・幅六〇㎝

・深さ四〇㎝であった。側壁は大小九個の玄武岩の板石で囲まれており、蓋石はなかった。開壟のため破壊されて痕跡を残していない。

出土品 ガラス玉一個 (唐津市松岡史氏保管)

文献 唐津市史 (昭和三十七年八月一日、唐津市)

六、惣原北第四号古墳

種別 古墳群 (湮滅)

所在地 唐津市佐志町大字惣原一六二一番地 (畑)

概要 第三号古墳の東方約一〇米の斜面に築かれていた小型竪穴式石室墳で開壟中に発見されたものである。

石室は長さ一米九〇、幅六〇㎝、深さ五〇㎝で鉄丹が一面に塗布されていた。斜面に土壙を掘り、北壁は玄武岩の小口積、南壁は土壙壁が低く認められるものであった。

出土品 須恵器・土師高杯 (封土近くから出土) (唐津第二中学校保管)

文献 唐津市史 (昭和三十七年八月一日、唐津市)

七、岩盛第一号古墳

種別 古墳

所在地

東松浦郡玄海町値賀古節木字岩盛（山林）

概要

耕地整理記念碑の北方約三〇〇米、海を臨む低丘陵地に築成されている。内部主体は、横穴式石室で、玄室の広さは二米平方、高さ一米五〇釐位である。柑橘園造成中に発見されたものであるが、現在石室は崩壊している。

出土品

須恵器（値賀中学校保管）

八、岩盛第二号古墳

種別

古墳

所在地

東松浦郡玄海町値賀古節木字岩盛（山林）

概要

第一号古墳の東方約二〇米の所にあつて、その規模は第一号古墳に相似ている。未発掘の古墳であるため、内部の構造等不明である。

九、鼓第一号古墳

種別

古墳群

所在地

唐津市湊町大字岡字鼓四六三三番地

概要

湊・屋形石間の海岸道路が鼓平地から台地斜面にさしかかる地域に数基の古墳がある。第一号古墳は段丘の基部に築成された円墳で、内部主体は横穴式石室である。封土は径二〇米、高さ四米で、西半は削

除されている。石室は西側壁だけが残存し、縦横二米・深さ六〇厘余りの土牆と化している。早く盗掘にあったものと推定され、副葬品等は明らかでない。

唐津市史（昭和三十七年八月一日、唐津市）

文 献

一〇、鼓第二号古墳

種 別 古 墳 群

所在地 唐津市湊町大字岡字鼓九五八番地（畑）

概 要

鼓段丘の中央部の南斜面畑中、第一号古墳の南方約五〇米の所にある。地山を掘り下げて構築された長さ二米五〇、幅二米、高さ一米三〇余りの石室を有する横穴式石室墳であったと推定される。羨道は破壊され、石室も露出していて副葬品は明らかでない。側壁の近くから小形甕棺が出土している。

出土品

小形甕棺（湊中学校保管）

一一、鼓第三号古墳

種 別 古 墳 群

（湮滅）

所在地 唐津市湊町大字岡字鼓

概 要

第二号古墳の西側一〇米の所に横穴式石室墳が第二号古墳と併列して残存していたが、開墾によって消滅した。これに使用されていた石材は付近の段々畑の積石に使用されているようである。その規模は第

二号古墳とはほぼ同様であつたと推定される。

出土品

金貼耳環・鉄斧・須恵器

文献

唐津市史（昭和三十七年八月一日、唐津市）

一二、鼓第四号古墳

種別

古墳群

所在地

唐津市湊町大字岡字鼓四六六一番地（山林）

概要

鼓段丘の東端に位置していて、湊・屋形石間の道路に東側大半を削除されて残っている。封土の径三〇米、高さ約六米の円墳と推定される。鼓古墳群中最大の規模を有するものであるが、内部主体は破壊しつくされ、遺物も大部分なくなっている。

出土品

須恵器・その他

文献

唐津市史（昭和三十七年八月一日、唐津市）

一三、中の瀬第一号古墳

種別

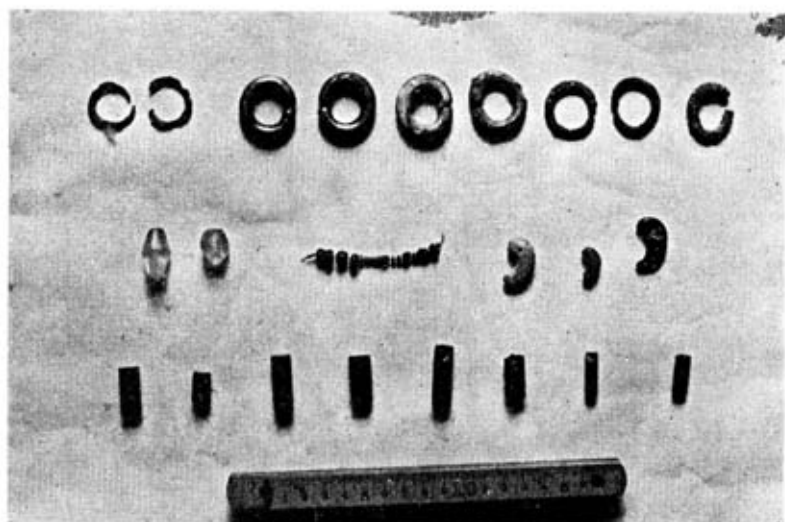
古墳

所在地

唐津市佐志町大字中の瀬六七七八七番地（畑）

概要

バス市内錦藤崎停留所の南方約一〇〇米のところにある標高四〇米余りの段丘に築かれている。古墳時



第47図 中の瀬第一号古墳出土品

代後期の横穴式石室を有する円墳であって、封土は流出し、天井部は崩壊しているが、側壁と羨道部は残存している。玄室は奥行・幅共に二米・羨道は一方に偏して設けられていて、長さ五米・幅一米である。なお隣接する畑から墓前祭用と推定される遺物が多く発見されている。

出土品

勾玉・管玉・ガラス小玉・耳環・直刀・刀子・鉄鏃・鉋・磯金・鎌・鋤先・須恵器・土師器類（唐津第

二中学校保管）

文献

唐津市史（昭和三十七年八月一八日、唐津市）

一四、中の瀬第二号古墳

種別 古墳

所在地 唐津市佐志町大字中の瀬（畑）

概要

中の瀬第一号古墳の北方約一〇〇米、海岸に突出した丘陵の先端部標高二五米の所にある。古墳時代後期の横穴式石室を有する円墳で、規模や形態は第一

号古墳に相似ている。戦時中軍の対空監視所建設中に発見されたもので、半壊して羨道部と側壁の一部が残っている。石室の内外から多数の遺物が出土したといわれるが所在は明らかでない。

出土品 須恵器（唐津第二中学校保管）

一五、鬼塚第一号古墳

種別 古墳群

所在地 唐津市湊町大字神集島字鬼塚（山林）

概要

神集島の湾入部西側の台地に鬼塚とよばれる封土を失った古墳群がある。第一号古墳は南に開口した横穴式石室墳で羨道部は欠失している。玄室の奥行き二米三五、幅三米、高さ一米五〇で、側壁も天井も巨岩一個で築成されている特色あるものであるため、従来「神集島のドルメン」と誤報されていた古墳である。

出土品 須恵器・鉄器類・玉類（神集島中学校保管）

一六、鬼塚第二号古墳

種別 古墳群

所在地 唐津市湊町大字神集島字寺畑・鬼塚（畑）

概要

第一号古墳の東方約一〇米の畑の隅に、横穴式石室の基部が残存している。破損の度が著るしく石室の

規模は明らかでないが、玄室は奥行三米、幅二米五〇、高さ七〇釐であつたと推定され、羨道は南方に開口していたと思われる。

出土品 鉄器及び須恵器（神集島中学校保管）

一七、鬼塚第三号古墳

種別 古墳群

所在地 唐津市湊町大字神集島字寺畑・鬼塚（畑）

概要 第二号古墳の東方約二〇米の所に築成されている横穴式石室墳である。破壊の度がひどく、第二号古墳

と同様に石室の基部だけが残存している。第二号および第三号の古墳付近に須恵器の破片や鉄器破片が散布している。

出土品 須恵器（神集島中学校保管）

一八、鬼塚第四号古墳

種別 古墳群

所在地 唐津市湊町大字神集島字寺畑・鬼塚

概要 第三号古墳の東方約一〇米の所に築成されている横穴式石室墳であつて、破壊の度がひどく、石室の基部の一部のみが残存しているに過ぎない。

出土品 須恵器（神集島中学校保管）

一九、女山第一号古墳

種別 古墳

所在地 唐津市佐志町字井尻一七四三ノ三番地（山林）

概要 惣原丘陵の南、見借部落寄り二五〇米余りの所にある高さ一五米余りの独立丘陵の頂上部にある。古墳

時代中期と推定される小型の竪穴式石室墳で、内部は長さ二米、幅六〇釐、深さ八〇釐、全面に鉄丹が塗布されている。昭和初期に発掘されたもので、現在は天井石が露出している。

出土品 倣製四獣鏡・管玉・ガラス小玉（唐津市正円寺保管）

文献 唐津市史（昭和三十七年八月一八日、唐津市）、吉村茂三郎「佐志町惣原古墳」（昭和一五年四月、佐賀

県史蹟名勝天然記念物調査報告第七輯）

二〇、女山第二号古墳

種別 古墳（湮滅）

所在地 唐津市佐志町字井尻一七四四ノ三番地（山林）

概要 女山独立丘陵の頂上部の東端、第一号から約三〇米離れた所にあつて、第一号古墳と同様中期の小型竪

穴式石室墳である。昭和初期に盗掘にあい破壊され、現在は石室の側壁に使用されていたと思われる花

崗岩の一部が小積まれている。

二一、学校東第一号古墳

種別 古墳

所在地 唐津市湊町大字神集島字宮崎二七七九番地 (草地)

概要

神集島の北部、宮崎の磯浜に連なる段丘の尾根の中央部に築成された封土の径三〇米、高さ一〇米の円墳である。封土の北側は崩壊して、内部主体の箱式石棺が露出している。東西を主軸にして、二個の石棺が並列して埋蔵されており、南石棺は小口を露出している。玄武岩の板石で構築され、内部には鉄丹が塗布されていて、両石棺共に人骨の存在が認められるが、未発掘のため副葬品は不明である。

文献

唐津市史(昭和三十七年八月一八日、唐津市)

二二、学校東第二号古墳

種別 古墳

所在地 唐津市湊町大字神集島字宮崎二七八〇番地 (墓地)

概要

第一号古墳の西側斜面に築成されている封土の径二〇米、高さ五米の円墳である。石室は玄武岩の小口積みで少し崩壊しかかっており、竪穴式石室か横穴式石室かは不明であるが、内部の遺物は盗掘にあっているのではないかと推定される。

文 献

唐津市史（昭和三十七年八月一八日、唐津市）

二三、大 島 古 墳

種 別

古 墳

（湮滅）

所在地

唐津市大島町大字東七四三七番地

概 要

大島の中の瀬から妙見山・大島山に至る線に形成された古墳群の中の一基であつて、八坂神社の境内標高一五米余りの所にある。相当以前に破壊されてしまったといわれているが、古墳時代後期の横穴式石室を有する円墳であつたと推定される。石室内からの出土品は明らかでなく、付近から須恵器片が発見されたといわれている。

出土品

須 恵 器

二四、経塚山古墳

種 別

古 墳

（湮滅）

所在地

唐津市佐志町大字佐志南字経塚山三七四二番地（墓地）

概 要

佐志南市営住宅の西側の段丘と段丘との間の奥まった所に元明寺が建てられている。この建築の地ならし中に花崗岩を用いた古墳時代後期の横穴式石室墳が発見されたといわれる。工事のため破壊されその跡をとどめていない。

出土品

須恵器（唐津第二中学校保管）

二五、野田古墳

種別

古墳

所在地

東松浦郡玄海町大字値賀外津字野田（畑）

概要

海を臨む丘陵台地上にある円墳であつて、現在封土上に小祠が建てられている。未発掘の古墳であつて、内部主体の構造は不明であるが、横穴式石室と推定される。

二六、瓢塚

種別

古墳

所在地

東松浦郡呼子町大字加部島字鉢の底（牧場）

概要

加部島の東北端、海岸近くに築成されている規模の小さい前方後円墳である。封土の主軸の長さ二〇米、後円部の径一〇米、高さ一米五〇で、封土上には葦石が露出している。相当以前に発掘されていて、現在埋戻されているため、石室の構造は不明であるが、小口積で鉄丹が塗布されていたといわれている。

出土品

須恵器多数・鉄刀二・鎗先四・鉄刀子・鉄鏃多数・勾玉・管玉・小玉数百個・銅鏡・耳環（呼子町田島神社保管）

二七、狐 塚

種別 古 墳

所在地 東松浦郡呼子町大字加部島字鉢の底 (山林)

概要 過去の盗掘にかかるもので、その時期や遺物等は明らかでない。封土は現在径五米・高さ一米五〇の円墳で、石室は破壊され、石材は道路の石垣に使用されており、構造は明らかにすることができないが、横穴式石室であつたと推定される。付近に円墳らしいものが数基認められるので、群集墓を形成しているのではないかと思われる。

二八、相 賀 古 墳

種別 古 墳 (湮滅)

所在地 唐津市湊町大字相賀字高尾

概要 相賀松原の入口西側、上場台地が低地に迫り、山麓と水田とが交わる位置に築成された横穴式石室墳である。大正一〇年の耕地整理の際発見破壊され、その跡に小祠堂が建てられている。遺物は祠堂の下におかれていたのが三年前に再発見された。

出土品 鉄刀・鉄剣・鉄刀子・鉄鏃・須恵器・土師器 (唐津西高等学校保管)

文献 唐津市史 (昭和三十七年八月一八日、唐津市)

二九、妙見山古墳

種別

古墳

(湮滅)

所在地

唐津市妙見西町字妙見山七〇二番地

(山林)

概要

段丘が海岸にのびて形成されている妙見山の頂上東側の竹藪の中にあつた古墳で、内部主体は数枚の板石で囲まれた箱式石棺になっている。現在、薬師堂が建てられ、その側壁と標石に石棺の中の二個が用いられている。なお、この西方一〇米の所にもう一基それらしいものがある。

出土品

人骨と鉄刀

三〇、二タ子古墳

種別

古墳

所在地

唐津市二タ子町日赤病院内四九五〇番地

概要

唐津日赤病院敷地内の西北端の地点にある小型の横穴式石室を有する円墳である。戦時中、軍需省の倉庫設立作業中に発見されたもので、現在は封土が剝奪されて石室が露出している。後に付近から須恵器の破片が発見されている。しかし石室内部からは発見されていないらしい。

出土品

須恵器(唐津第二中学校保管)

三一、鳩川古墳

種別

古墳

(湮滅)

所在地

唐津市浦町大字門前

概要

唐房から湊へ至る県道に鳩川の松原があるが、その西方の小丘に形成された古墳時代後期の横穴式石室墳である。早く盗掘にあい石室は破壊されて、鉄丹の塗布された石材の一部が残存している。古墳の築成されているところの下の方の畑から土器類が多く発見されている。

出土品

須恵器・土師器(唐津第二中学校保管)

三二、下戸古墳

種別

古墳群

(湮滅)

所在地

唐津市佐志町大字下戸一四三八番地

(山林)

概要

惣原古墳群の北側下方約二〇〇米・下戸部落へ登る道路の彎曲部で、段丘の先端に位置している。小形の竪穴式石室墳で側壁は花崗岩と玄武岩の小口積になっており、天井は数個の板石からなっていた。石室の内部は長さ二米、幅六三厘、深さ五五厘であった。昭和三十七年二月、農道作りの際に発見され破壊されたものである。

出土品

管玉・ガラス小玉・土師器(唐津第二中学校及び唐津市松岡史氏保管)

三三、かぐめじ古墳

種別

古墳

所在地

唐津市湊町大字神集島字かぐめじ二七六一番地

概要

神集島の東側、湾入部の南斜面に遺存する横穴式石室墳である。主軸は東西の線で、羨道部と天井部は開鑿により破壊されている。なお、この部分に使われていた石材は段々畑の石垣などに利用されている。玄室の奥行二米三五、幅二米二五、高さ一米二〇である。

出土品

須恵器・装身具類（神集島中学校保管）

三四、温泉山古墳

種別

古墳

所在地

唐津市菜畑大字巡見道字温石山四二一九ノ一番地（荒地）

概要

洪種世の花崗岩質の小丘、標高約四〇米の地点に形成された古墳時代の後期の横穴式石室である。相当以前に発見破壊されたものらしく、封土も石室の形態も明らかでないが、小規模の古墳ではなかったと思われる。

出土品

須恵器

三五、権現谷古墳群

種別

古墳群

(湮滅)

所在地

唐津市西唐津町大字三丁目字権現谷六六三二

概要

権現山東方の斜面、西唐津市民住宅の西側の道路沿いにあるコンクリート溝に、二・三基並んでいた古墳群である。一〇年前、住宅建設のさい破壊されてしまった横穴式石室を有する円墳であって、石室の側壁に使用されていた花崗岩が付近の畑に残っている。副葬品が発見されたいが、金貼り耳環のみが市に報告され、他は明らかにされていない。なお、下方の畑から須恵器が多量に出土している。

出土品

須恵器(唐津第二中学校保管)

三六、中山古墳

種別

古墳

所在地

唐津市八幡町大字中山字五本松五六〇番地 (山林)

概要

標高三〇米余りの丘陵の尾根上に築かれている。地山にある巨大な花崗岩を用いて築かれた小形竪穴式石室墳で、石室内部は長さ二米三〇、幅一米、深さ八五釐である。大正初期に盗掘され、金環、鉄器類、玉類などが発見されたといわれるが、その所在は明らかでない。石室は残存しているが、崩壊のおそれがある。

三七、普恩寺古墳

種別 古墳

所在地 東松浦郡玄海町値賀普恩寺字神社南

概要 値賀小学校の北方一〇〇米、値賀神社の西側に存在している。現在崩壊状態にあるため石室の規模や構造など明らかでないが、玄室の広さ二米平方の横穴式石室であると推定される。須恵器や玉類などの遺物が値賀神社に保管されたといわれるが現在散失してしまっている。

出土品 勾玉一個（唐津市富井憲次氏保管）

三八、深田古墳

種別 古墳

所在地 東松浦郡肥前町大字入野字深田（畑）

概要 肥前町役場の西方約一五〇米の丘陵台地上に、八米の間隔で二基の小円墳が築成されている。内部主体は横穴式石室であると推定されるが、未発掘の古墳である。

三九、池の内古墳

種別 古墳

所在地 唐津市久里大字池の内字倉瀬戸（山林）

概要

松浦川・波多川の合流によって沃野が造成されているが、その沃野に突出した夕日山西麓の台地の端近くに築成されている径約一五米、高さ二米五〇厘の封土を有する円墳である。昭和三八年、開墾中に石室の一部が破壊され、石室内に挂甲が副葬されていることが確認された。しかし、破壊口は塞ぎ、保存されているため、石室の規模は明らかでない。この古墳の北にカケ塚があり、この古墳所在地付近には甕棺破片が散布している。

四〇、杉殿古墳

種別

古墳

(湮滅)

所在地

唐津市大字半田字杉殿

(畑)

概要

鏡山南麓、杉殿の尾根筋に営まれた小円墳である。石室は板状安山岩であったが、現在は開墾により破壊され湮滅してしまっている。

出土品

倣製菱形文鏡・短甲片・鉄刀片(唐津市松岡史氏保管)

文献

唐津市史(昭和三七年八月一八日、唐津市)

四一、宮の上古墳

種別

古墳

(湮滅)

所在地

唐津市大字半田字松葉

(畑)

概要

鏡山南東方、西に平地を望む丘陵端にある円墳で、内部主体は横穴式石室である。この古墳から出土し

出土品
文献

た遺物には学術上注目に値するものがあるが、古墳は破壊湮滅してしまっている。

金製クチナシ型・垂飾付耳飾・金環・勾玉・管玉・小玉・三環刀柄頭（東京国立博物館所蔵）

吉村茂三郎「名勝鏡山とその付近の古墳について」（昭和十一年三月三十一日、佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告第五輯）、唐津市史（昭和三十七年八月一八日、唐津市）

四二、外園古墳

種別

古墳

所在地

唐津市大字柏崎字外園（畑）

概要

夕日山の北東麓がのびて低平な台地を構成している。その端に築かれている円墳で、内部主体は横穴式石室である。玄室の側壁および奥壁は各一個の扁平巨石の組合せであつて、天井石は二個の板石からなっている。縦約三米、横二米で礫床となつていて、袖石の上部が破壊されている。早く盗掘にあつているため遺物は保存されていない。

四三、カケ塚

種別

古墳

所在地

唐津市大字久里字下久里（山林）

概要

松浦川の東岸、夕日山の西山麓に径一〇数米の円墳がある。墳頂部が陥没している所から盗掘にあつた

可能性も考えられるが明らかでなく、内部主体の構造も判明しない。

四四、下柳谷石棺遺跡

種別 石棺埋藏地

所在地 唐津市大字石志字下柳谷

(畑)

概要 北に波多川と平地を望む山麓の丘陵斜面にある。農道が造られたため箱式石棺の側壁の一部が露出している。内部の規模や遺物については明らかでない。付近にはかつて円墳が点在していたと伝えられるが湮滅してしまつて存在しない。

備考 近く開墾される予定である。

四五、小長崎山第一号古墳

種別 古墳

所在地 唐津市柏崎大字長崎山字小長崎 (畑)

概要 宇木汲田弥生遺跡の北方やや西寄り夕日山の北東山麓の台地上にあった二基の小円墳である。この第一

号は、横口式石室で、側壁を小口積にして天井は一個の亀甲状の巨石であった。内部は長さ二米、幅九

〇棚、深さ七〇棚、二体の差違ひ合葬であった。

出土品 小形無文鏡一・碧玉丁字頭勾玉二・同管玉数個、刀子一個・ガラス小玉四〇個(京都大学保管)

文献 唐津市史（昭和三十七年八月一八日、唐津市）
備考 昭和三十一年四月一日～一五日 「唐津湾周辺の古代文化の考古学的総合調査」 団によって発掘調査された。

四六、小長崎山第二号古墳

種別 古墳

所在地 唐津市大字柏崎字長崎山（畑）

概要 宇木汲田弥生遺跡の北方やや西寄り、夕日山の東北山麓に近い台地上にある古墳群の一つである。この

古墳は第一号古墳の北方約三〇米、この台地の端に位置している小円墳である。東西に主軸をおいた竪穴式石室で、側壁は小口積、天井は板石四枚を使用し、石室は、長さ約四米、幅一米、深さ一米である。

出土品 鈿五個・鉄剣一口（京都大学保管）

文献 唐津市史（昭和三十七年八月一八日、唐津市）

備考 昭和三十一年四月一日～四月一五日 「唐津湾周辺の古代文化の考古学的総合調査団」によって発掘調査された。

四七、大長崎山第一号古墳

種別 古墳

所在地 唐津市大字柏崎字長崎山 (山林)

概要 夕日山北東部の山麓、小長崎の基部に近い所の大長崎山の丘陵頂、標高約四〇米の所に営まれている円墳である。封土の径約一五米余りで、内部主体は不明であるが、原状のまま保持されていると推定される。

文献 唐津市史(昭和三十七年八月一日、唐津市)

四八、大長崎山第二号古墳

種別 古墳

所在地 唐津市大字柏崎字長崎山 (山林)

概要 夕日山の東北山麓の大長崎山にある古墳で、第一号古墳の南方約三〇米余りの斜面に位置している。封土を失って、亀甲状の天井石が露出している。内部は横口式小石室で主軸は南北の方向にある。遺物については不明である。

文献 唐津市史(昭和三十七年八月一日、唐津市)

四九、淵上古墳

種別 古墳

所在地 東松浦郡浜崎玉島町大字淵上 (畑)

概要 玉島川が唐津湾に注ぐ河口北側の山麓に、この古墳がある。複室を有する横穴式石室で、切石を使用し

備考 た厨子型石棺がある。勾玉三・管玉・小玉・鉄器・須恵器・紡錘車二が発見されている。墳丘は相当に破壊されており、この古墳のある丘陵上には箱式石棺が群集している。

唐津市史（昭和三十七年八月一日、唐津市）の古墳一覧表に記載されている。

五〇、梶山公園石棺遺跡

種別 石棺埋藏遺跡

所在地 東松浦郡相知町大字梶山

概要 唐津線相知駅の南東方台地に梶山公園がある。その記念碑の基部に箱式石棺がある。板状の砂岩を組み合せた形式のもので、鳥居を建てる際に発掘し、一〇米余り離れた現位置に移したものである。

五一、割石古墳群

種別 古墳群

所在地 唐津市大字柏崎字割石（畑）

概要 柏崎部落の西側、夕日山の北麓が長くのびて構成している丘陵上に従来支石墓と考えられていた巨石遺構が六基存する。未発掘で内部構造は不明であるが、第二号石上に接して和泉式土師器高坏の脚部が出

土しているのもので、サコガシラ古墳群と合わせ考えると古墳期に属する古墳群であろうと考えられる。

出土品 和泉式土師高坏

文献 唐津市史（昭和三十七年八月一日、唐津市）

五二、黒岩石棺遺跡

種別 石棺埋藏遺跡

所在地 東松浦郡相知町大字黒岩字宿五八二番地 (畑)

概要 陣の山の西山麓、松浦川の東方斜面に位置している黒岩の裏山の稜線上に石棺はあって、現在みかん園

となっている。石棺は、縦二米弱、横六〇釐で、扁平の板石で方形に囲んだ箱式石棺である。副葬品は発見されておらず、他にも一基存在していたといわれる。

五三、部田古墳

種別 古墳 (湮滅)

所在地 唐津市中原字部田 (畑)

概要 夕日山西北麓に営まれた円墳であつたらしく、開墾により片袖の横穴式石室が露出し、副葬品が発見さ

れた。石室は花崗岩各一枚をもつて側壁を構成し、主軸を北東→南西におき、南西に開口していた。

出土品 硬玉製勾玉・丸玉・小玉・耳環・刀装具・鉄鉾・鉄鏃・馬具・くつわ・刀子

文献 唐津市史(昭和三十七年八月一日、唐津市)

五四、黒田石棺遺跡

種別 石棺埋藏遺跡 (湮滅)

所在地 東松浦郡浜崎玉島町大字淵上字黒田 (畑)

概要 玉島川が唐津湾に注ぐ河口北側の丘陵上に、古墳時代に属する石棺群があったが、現在は畑地となり、

痕跡をとどめない。鉄剣や鉄刀等の遺物が発見されており、棺内には鉄丹が施されていて、古墳時代中期に比定されている。

備考 唐津市史(昭和三七年八月一八日、唐津市)の古墳一覧表に記載されている。

五五、ツカサマ古墳

種別 古墳 (湮滅)

所在地 唐津市大字字木字鶴崎 (畑)

概要 飯盛山の山麓が北に長く尾を引いて、低丘陵台地を形成しているその突端に二基の古墳があった。しか

しその一基は数年前に破壊され、そのあとから遺物の一部が発見された。古墳の規模・構造などは明らかにすることができない。

出土品 鉄製太刀・馬具杏葉

文献 唐津市史(昭和三七年八月一八日、唐津市)

五六、迫頭古墳群

種別 古墳群 (湮滅)

所在地 唐津市大字字木字サコガシラ

概要 飯盛山の東北麓の低丘陵上にある群集墳であつて、一二基の古墳と三基の支石墓、四個の弥生式甕棺が

包蔵されていた。古墳のうち一基は早く破壊されていたものであり、横口式石室を主体に、土壙墓、箱式石棺等種々の形式を有する古墓制究明上価値の高い遺跡であつた。

出土品 鉄器類・倣製鏡・櫛・玉類・弥生式甕棺（京都大学保管）

備考 昭和三二年一月「唐津湾周辺の考古学的総合調査団」によつて発掘調査が実施された。

五七、迫頭第一四号古墳

種別 古墳群（湮滅）

所在地 唐津市大字字木字迫頭（山林）

概要 「唐津湾周辺の考古学的総合調査」団の発掘調査が実施された後、開墾によつて昭和三二年二月発見されたもので、丘陵北側に営まれていた小形竪穴式石室である。石室の長さ一米九〇、幅一米、深さ六〇釐で礫床である。

出土品 鉄斧二・直刀一・鉄剣一・鉄鏃二、ガラス小玉（飯木中学校及び唐津市松岡史氏保管）

文献 唐津市史（昭和三七年八月一八日、唐津市）

五八、島田塚

種別 古墳



第48図 島 田 塚

所在地 唐津市鏡大字鏡字今屋敷（草地）

概要 鏡山山麓の砂丘上に営まれた前方後円墳で、封上の全長三〇米、後円部径一二米、高さ四米五〇、

前方部幅一二米、同高さ三米の小前方後円墳である。内部主体はやや長い羨道を有する横穴式石室で、無蓋の石枕造出船形石棺がある。

出土品

甗残欠一・勾玉三・銅碗一・鉄器残片一・鉄刀残片一・金銅製裝飾品残片一・鉸具残片一・銅鏡二・管玉二二・銅釧四・金銅製金具四・須恵器蓋坏一・切子玉一・金環一・鉄地銀張金具残片一・ガラス玉一二・金銅製三輪玉形装具一括・鉄鏃及び甲残片一包・鹿角製鏝一・鉄刀一・槍の石突一・砥石一・その他（東京国立博物館及び唐津市恵日寺保管）

文献

吉村茂三郎「名勝鏡山とその付近古墳の調査」（昭和十一年三月三十一日、佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告第五輯）、吉村茂三郎著「史話伝説の松浦潟」（昭和二十七年三月二五日、松浦郷土史刊

行会)、松尾禎作著「佐賀県考古大観」(昭和三二年三月一日、祐徳博物館)

五九、玉葛窟古墳

種別 古墳

所在地 唐津市鏡大字梶原字火の口(山林)

概要 樋の口古墳から数十米北東方の鏡山山麓にある。封土の径一〇数米・高さ二米五〇余りの円墳で、内部

主体は西に開口する横穴式石室である。早くから開口していて遺物は一切不明である。

備考 唐津市史(昭和三七年八月一八日、唐津市)の古墳一覧表に記載されている。

六〇、御灯坊古墳

種別 古墳

所在地 唐津市鏡大字鏡字御灯坊(山林)

概要 鏡山西麓、鏡山登山道のそばの山中にあつて、樋の口古墳や玉葛窟古墳と一群をなしている。典型的な

古墳時代後期の単室小円墳で、早くから開口し、遺物一切不明である。

備考 唐津市史(昭和三七年八月一八日、唐津市)の古墳一覧表に記載されている。

六一、樋の口古墳

種別 古墳

所在地 唐津市鏡大字梶原字火の口 (山林)

概要

鏡山西麓、梶原と鏡の中間、樋の口貯水池の堤塘西南角にある西に開口する単室横穴式石室を有する円墳である。玄室及び羨道の側壁は、板状安山岩を小口積にしている。玄室内下部一杯に砂岩の切石を方形に立てめぐらし、その中央に一石を立てて二分し、二個の石棺に仕立ててある。封土から円筒埴輪および家形埴輪を出土している。盗掘にあつて遺物は明らかでないが古墳はよく保存されている。

出土品

鏡二・勾玉四 (以上は伝言)、鉄刀・鉄剣・鉄刀子片・家形埴輪・円筒埴輪

文献

唐津市史 (昭和三十七年八月一日、唐津市)

六二、小 振 塚

種別

古 墳

所在地

唐津市大字柏崎字小振塚 (草地)

概要

柏崎の西方溜池の谷を三〇〇米余りさかのぼった所にある。この地は、夕日山山頂の北側に位置していて、やや開けて盆地状をなしている。南に開口する横穴式石室墳で、付近に石材や須恵器片が散布している所からみて、もと数基の古墳があつたのではないかと推定される。石室は全長五米、玄室の奥行、幅共二米五〇で清掃の結果いくらかの遺物が発見されている。

出土品

鉄釘一〇本、須恵器の長頸壺・蓋坏・坏などの破片・土師器の盥・盤などの破片 (唐津市松岡史氏保管)

文献

唐津市史 (昭和三十七年八月一日、唐津市)

六三、五反田古墳

種別 古墳

所在地 東松浦郡浜崎玉島町大字五反田 (畑)

概要 玉島川の左手、城山が平地に漸移する丘陵末端にあつて、近くに五反田支石墓がある。横穴式石室を有する円墳であつて、中空角形金環・金銅環が出土している。

出土品 中空角形金環・金銅環

備考 唐津市史(昭和三十七年八月一八日、唐津市)の古墳一覧表に記載されている。

六四、金谷古墳

種別 古墳 (湮滅)

所在地 唐津市大字山本字金谷 (畑)

概要 山本駅の西側丘陵に築成されていた円墳で、内部主体は羨道の短小な横穴式石室である。昭和二十七年

夏、石室が破壊されるに及んで、遺物の一部が発見された。

出土品 鉄製太刀二・珠文鏡一・変形文鏡一・銅製耳環一・碧玉製管玉・ガラス小玉

文献 唐津市史(昭和三十七年八月一八日、唐津市)

六五、横田下古墳群

種別 古墳群

所在地

東松浦郡浜崎玉島町大字横田下 (山林・畑)

概要

鏡山の北東麓、千居南方に位し、鏡山が平野に漸移する一支派の末端近くに位置している。この古墳群の中には、史跡横田下古墳がある。史跡以外に三基のものがあつたが、一基は石材まで取り去られ完全に湮滅している。他の二基は横穴式石室を有する円墳であるが、開口し天井は落ちて破壊の度がひどく、付近は畑地として開墾中である。鉄鏃・鏡二・勾玉・土器・砥石二・短甲一などが出土したといわれる。

文献

吉村茂三郎「名勝鏡山とその付近古墳の調査」(昭和十一年三月三十一日、佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告第五輯)

六六、立山古墳群

種別

古墳群

所在地

東松浦郡北波多村大字大杉字立山九八三番地 (山林)

概要

霧差山の南斜面の雑木林中に約三〇〜四〇基の古墳が散在している。すべて封土の余り大きくない小円墳であつて、内部主体は横穴式石室となつてゐる。側壁は持送られて、石室が穹窿状になつてゐるため天井が落下し上部側壁が壊れてゐるのが多い。この古墳群内には処女墳が相当数残存している。

出土品

須恵器の盤・杯・盃・埴・横瓶・埴瓶・鉄刀・馬具・刀子・鉄鏃・鉄斧・丸玉・小玉・切子玉・管玉・勾玉・耳輪(北波多村正福寺保管)

文献

北波多村史(昭和三六年九月、北波多村)、昭和三〇年に数基の古墳が発掘された。

六七、親王塚

種別

古墳

所在地

東松浦郡北波多村大字田中宇島六七二番地（神社）

概要

徳須恵盆地内の田中の南端、葛原神社境内にある。周囲約三一〇米・高さ一三米余りの円丘であり、北側には周埴のあとと思われる沼池がある。大正二年宮内省御用掛増田千信博士の発掘により、出土品が発見されたが、またもとのまま埋蔵され、今日では八角の玉埴をめぐらし、葛原親王の陵墓と伝えて尊崇されている。

出土品

鉄製太刀二口・鉄鏡四五本・その他須恵器破片多数・漢式白銅鏡破片

文献

北波多村史（昭和三六年九月、北波多村）

六八、島古墳

種別

古墳

所在地

東松浦郡北波多村大字田中宇島五九四番地（宅地）

概要

徳須恵盆地内の通称城野と呼ばれているところにある。民家の裏にある円墳であるが、封土の周りはけずられて平面形となり、封土上は平に地ならしされている。内部主体はまだ盗掘にあつておらず、その構造や副葬品などは明らかでない。

六九、薬師堂古墳群

種別 古墳群

所在地 東松浦郡北波多村大字田中字薬師堂（畑）

概要 田中の西方小高い丘の上に薬師堂あり、その周囲に六基の古墳がある。そのうち三、四基は封土が流出

したり破壊されたりしているが、一、二基は処女墳でないかと推定される。横穴式石室を有する円墳であつて、石室は巨石を用いて築成されており、内部に鉄丹の塗布されたものもある。大正末年頃に盗掘されたといわれていて、副葬品は保存されていない。

文献 北波多村史（昭和三六年九月、北波多村）

七〇、竹有古墳

種別 古墳

所在地 東松浦郡北波多村大字竹有字屋敷谷（山林）

概要 遠見岳南麓の雑木林の中にあつて、天井石が破壊され、内部が露出している破壊古墳である。封土も大部分流出していて、大きさは明らかでないが、横穴式石室を有する円墳であつて、副葬品は保存されていない。

出土品 須恵器蓋一個（北波多中学校保管）

文献 北波多村史（昭和三七年九月、北波多村）

七一、谷口遺跡

種別 遺物包含地

所在地 東松浦郡北波多村大字行合野字谷口（水田）

概要

行合野川の川岸を中心に相当広範囲に及んでいる遺跡である。河川改修及び耕地整理の際、多くの須恵器と木の株が発見された。遺跡の性格は明らかでないが、遺物はまだ相当に包含されているものと推定される。

出土品 須恵器盤・盃・横瓶（北波多中学校保管）

文献 北波多村史（昭和三十六年九月、北波多村）

七二、峯の辻古墳群

種別 古墳群（湮滅）

所在地 東松浦郡北波多村大字田中字峯の辻（宅地）

概要

盆地に接した山麓に築成されていた古墳群であるが、昭和一二年唐津炭坑開設のさい、湮滅してしまつた。しかし、この古墳群は大正一三年すでに盗掘にあい、副葬品の大部分は持去られてしまつていた。この古墳群の中に一基、前方後円墳が存在していた。最近まで残っていた高見町古墳は巨石を用いた石室の長さ五米、高さ二米に及び当地方では規模の大きいものであつた。

出土品 石斧・鉄斧・須恵器・玉類・鏡鑑・鉄刀・刀子・眉庇付盾・雲球・杏葉・耳環（一部北波多中学校保管）

七三、立蘭古墳群

種別

古墳群

(湮滅)

所在地

東松浦郡北波多村大字徳須恵字立蘭 (宅地)

概要

盆地に臨む南山麓にある立蘭甕棺遺跡の所に数基の古墳が築成されていた。しかし、この古墳はすべて炭鉢開設のさい破壊され湮滅してしまった。規模や構造など明らかでない。

出土品

土師器・須恵器・鉄製太刀・変形文鏡・勾玉 (北波多中学校保管)

七四、谷口古墳

種別

古墳

所在地

東松浦郡浜崎玉島町大字谷口字立中 (山林・畑)

概要

標高三八三米の城山の山麓の端に築かれている主軸の長さ八八米の前方後円墳であって、明治四一年に発掘されたものである。石室は後円部に二室が営まれ、ともに石棺を藏した竪穴式石室であるが、西側の石室は破壊されて、石棺は地表に保存されている。現在する石室は縦二米九四、横一米五八、底部は栗石敷、側壁は小口石積の合掌式石室で、鉄丹が一面に施されている。石棺は長持形石棺で、二棺ともに相似た構造である。

出土品

鏡七・勾玉七・管玉・小玉類二九二・石釧一一・刀剣類三 (東京国立博物館保管)

文献

吉村茂三郎「名勝鏡山とその付近古墳の調査」(佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告第五輯、昭和一一)

年三月三十一日、佐賀県）、梅原末治「玉島村谷口古墳」（佐賀県文化財調査報告第二輯、昭和二八年三月三十一日、佐賀県教育委員会）、佐賀県下の文化財（昭和三十一年三月三十一日、佐賀県教育委員会）、佐賀県の文化財（昭和三十六年三月三十一日、佐賀県教育委員会）

備考
史 跡

七五、横田下古墳

種 別
古 墳

所在地
東松浦郡浜崎玉島町大字横田下字西谷七四二・七四三番地（山林）

概要
標高約二八三米の鏡山の山麓に近い傾斜面にあつて、大正一二年開墾中に発見され、開口されたものである。封土の径三三米あまりの円墳で、羨門が南方に開いた横穴式石室である。玄室は、奥行三米九四、幅一米七九・二米二七で、高さは二米三六、側壁は小口石積で、一面に鉄丹が施されている。内部に組合せ式石棺三個が設けられていて、八体が合葬され、副葬品にも注目すべきものがあつたというが、多くは散失してしまっている。

出土品
鏡二（獣帯鏡、方格規矩鏡）・筒形同器一・土師高杯二・土師埴一（一部祐徳博物館依託保管）

文 献
松尾禎作「横田下古墳」（佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告第一〇輯、昭和二六年三月三十一日、佐賀県）

（佐賀県下の文化財（昭和三十一年三月三十一日、佐賀県教育委員会）、佐賀県の文化財（昭和三十六年三月三十一日、佐賀県教育委員会））

備考
史 跡

七七、釜太郎山古墳

種別 古墳

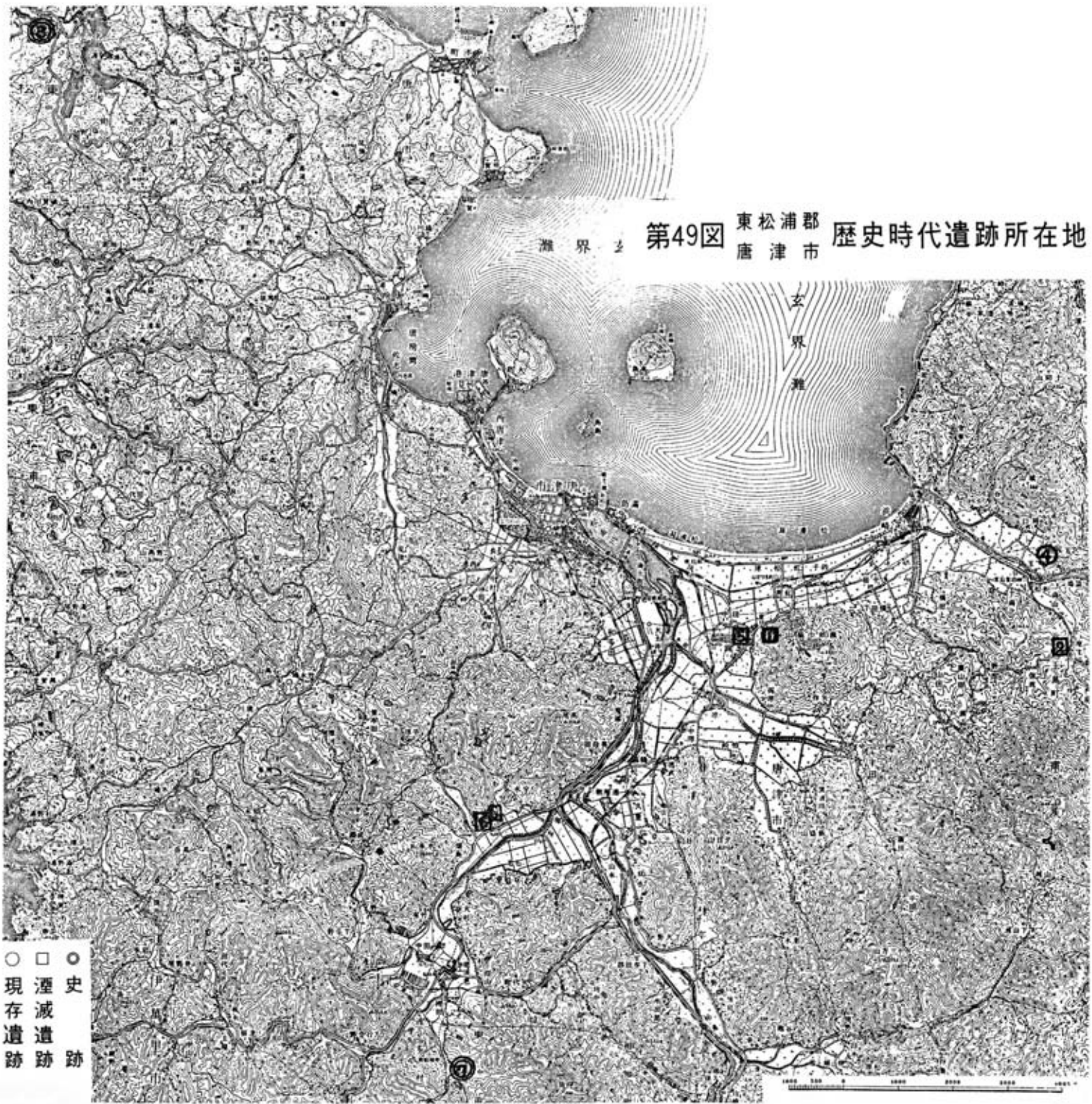
所在地 唐津市東宇木（山林）

概要

東宇木部落の西方に位置している標高約一〇米余りの独立した小丘陵の頂上付近に築成されている小円墳で、昭和三九年二月みかん園造成のための開墾中に発見されたものである。内部主体は、左右各二個奥壁一個の扁平石で構築され、天井石は三個からなっている。石室の全長三米二〇、幅八〇～六〇㎝、高さ五〇㎝余りで、石室の奥の方は次第に彎曲して狭くなり長階円形を呈している。一種の横口式石室であって、床面は中央部が溝のように掘りくぼめられている。

出土品

鉄剣一・鉄鍬二・鉄斧一（唐津市東宇木石崎義晴氏保管）



東松浦郡 歴史時代遺跡所在地
唐津市

第49図

灘界

玄
界
灘

○ 史
□ 湮滅遺跡
● 現存遺跡

1000 500 0 500 1000 2000 3000 4000

東松浦郡
唐津市

歴史時代遺跡

一	唐津市鏡	恵日寺藏骨器出土遺跡
二	浜崎玉島平原	座主経塚
三	唐津市鬼塚	千々賀経塚
四	浜崎玉島町五反田	知識無怨寺廃寺跡
四	唐津市鏡	鏡社経塚
六	唐津市鬼塚千々賀	十二社権現経塚
七	北波多村稗田	岸嶽古窯跡
八	鎮西町名護屋	名護屋城跡並びに陣跡

一、恵日寺藏骨器出土遺跡

種別
所在地

藏骨器出土地
唐津市鏡字山添

(湮滅)
(畑)

概要

鏡山西麓にある恵日寺の裏山を通っている小道のそばから蔵骨器が一個出土している。内部には骨粉が充満していたが、埋蔵状態や遺構などは明らかでない。

出土品

蔵骨器（志道小学校保管）

二、座主経塚

種別

経塚

（湮滅）

所在地

東松浦郡浜崎玉島町大字平原字座主

（畑）

概要

座主川上神社の西方平野に漸移する台地に遺跡はある。昭和三五年二月、この台地にみかん園を造成するための開墾中発見された。粘土質の地盤を掘り下げて底に平石をおき経筒と剣をのせ、その上に甕をかぶせ、その周りに木炭を充填してその外側を約三〇個余りの石で囲ってあったという。

出土品

銅製経筒一個・陶質甕一個・鉄剣一口（浜崎玉島町志田原一馬氏保管）

三、千々賀経塚

種別

経塚

（湮滅）

所在地

唐津市鬼塚大字千々賀字寺本

（畑）

概要

波多川の造成する低地を望む山腹に築成された経塚で、直径一米八〇、深さ一米五〇の竪穴を掘り、底に小石を敷き、その上に経筒が安置してあった。経筒は滑石製の方形外函の中に納められた銅板紙止め

製で、外函の周りには木炭が充填しており、上部には小石が積み重ねられていた。

出土品
滑石製外函一・銅製経筒一・銅鏡一

文献
「千々賀の経塚」（昭和七年三月三十一日、佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告第三輯）、松尾・木下・

松岡「佐賀県下出土の経塚概観」（昭和三年五月三十一日、佐賀県文化財調査報告書第六輯）

四、知識無怨寺廃寺跡

種別
廃寺跡

所在地
東松浦郡浜崎玉島町大字五反田大村神社（社地）

概要
標高三八三米の城山の南麓、水田地帯との接触点に、藤原広嗣を祭神とする古社大村神社がある。この

境内を中心に布目瓦が出土する。礎石の存在は明らかでなく、また、その遺構も判明しないが、奈良朝の廃寺跡と推定されている。

五、鏡社経塚

種別
経塚（湮滅）

所在地
唐津市鏡大字鏡神社（社地）

概要
鏡山の東麓至近の所に鏡神社がある。昭和一〇年三月、神苑設置のため境内の木竹清掃中、偶然に二基

の経塚が発見された。一基は地下一米五〇の所に板石をおき、銅製経筒をのせ、甕をかぶせて周囲に木



第50図 鏡社経塚出土品（陶製外筒・銅製積上式経筒）

出土品

炭を詰めてあり、他の一基は地下一米五〇の所に扁平な小石を疊んだ上に陶製経筒をのせ、木炭を周囲に充填してあった。

銅製積上式経筒一・陶製外筒一・刀子一・陶製経筒一・合子二・湖州鏡四・土師質皿一〇・鬼瓦片一・光背片一（唐津市鏡神社保管）

文献

吉村茂三郎「鏡神社境内発見の経塚」（昭和十一年三月三十一日、佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告第五輯）、松尾・木下・松岡「佐賀県下出土の経塚概観」（昭和三十三年三月三十一日、佐賀県文化財調査報告書 第六

輯)

六、十二社権現経塚

種別

経塚

(湮滅)

所在地

唐津市鬼塚大字千々賀字十二社権現(社地)

概要

山麓に鎮座する十二社権現の境内にあった経塚から出土したと伝えられている三個の陶製経筒であつて、三個とも破損している。出土状況や、経塚の構造などは明らかでない。この経塚の近くに千々賀経塚がある。

出土品

陶製経筒三個(唐津市立図書館保管)

文献

松尾・木下・松岡「佐賀県下出土の経塚概観」(昭和三年五月三十一日、佐賀県文化財調査報告書第六輯)

七、岸嶽古窯跡

種別

窯跡

所在地

東松浦郡北波多村大字稗田字帆柱三三七二番地(山林)

概要

標高三〇〇米の岸嶽の山麓に近い斜面に点在している飯洞甕上窯及び下窯・帆柱窯・皿屋窯・平松窯等を中心とする群窯跡である。飯洞甕窯は、長さ一五米、温座八間からなる登り窯で、一間毎に焚口が設

けられている。この開窯年代については定説がないが、室町時代後期と推定され、朝鮮北方式の割竹窯や「叩き手による成形」は当窯の特徴であり、唐津焼の源流をなすものである。

出土品

陶器（唐津市中里太郎右衛門氏保管）

文献

松尾光雄・山崎猛夫「岸岳焼」（昭和二六年二月一五日、北波多中学校、プリント版）、中島浩気著「肥前陶磁史」（昭和三〇年六月一日、肥前陶磁史刊行会）、佐賀県の文化財（昭和三六年三月三十一日、佐賀県教育委員会）、北波多村史上巻（昭和三六年九月一日、北波多村）

備考

佐賀県史跡

八、名護屋城跡並びに陣跡

種別

城跡

所在地

東松浦郡鎮西町大字名護屋（原野・山林・畑・水田・宅地・墓地）

概要

豊臣秀吉が文禄・慶長両度の朝鮮の役の本営として、諸侯に課して天正一九年から翌二〇年にかけて築かせた平山城である。朝鮮の役後廢城となつて、建物は他に移され、寛永一四年の島原の乱に際し、石垣の一部も壊されて廢墟と化してしまつた。天守台・本丸・二ノ丸・三ノ丸・山里丸等の主廓跡や、濠渠・石塁・礎石等が残存していて古城のおもかげをとどめ、城跡の周囲の丘陵山野に諸侯の陣跡が散在している。

出土品

遺瓦（鎮西町太閤記念館保管）

文 献

佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告第一輯（昭和三年三月三十一日、佐賀県）、名古屋経一「特別史蹟名護屋城跡並びに陣跡」（佐賀県下の文化財―昭和三年三月三十一日、佐賀県教育委員会）、呼子丈太郎「歴史呼子港」（昭和三五年一月一〇日、械蔭山房）、佐賀県の文化財（昭和三六年三月三十一日、佐賀県教育委員会）

備 考

特別史跡

西松浦郡・伊万里市

西松浦郡
伊万里市
先土器時代遺跡

- | | | |
|---|-------------|----------|
| 一 | 伊万里市松浦町桃川 | 瓶山先土器遺跡 |
| 二 | 伊万里市二里町大里 | 平沢良先土器遺跡 |
| 三 | 伊万里市東山代町滝川内 | 辻の堂先土器遺跡 |
| 四 | 西有田村藏宿 | 藏宿先土器遺跡 |

一、瓶山先土器遺跡

種別 石器散布地

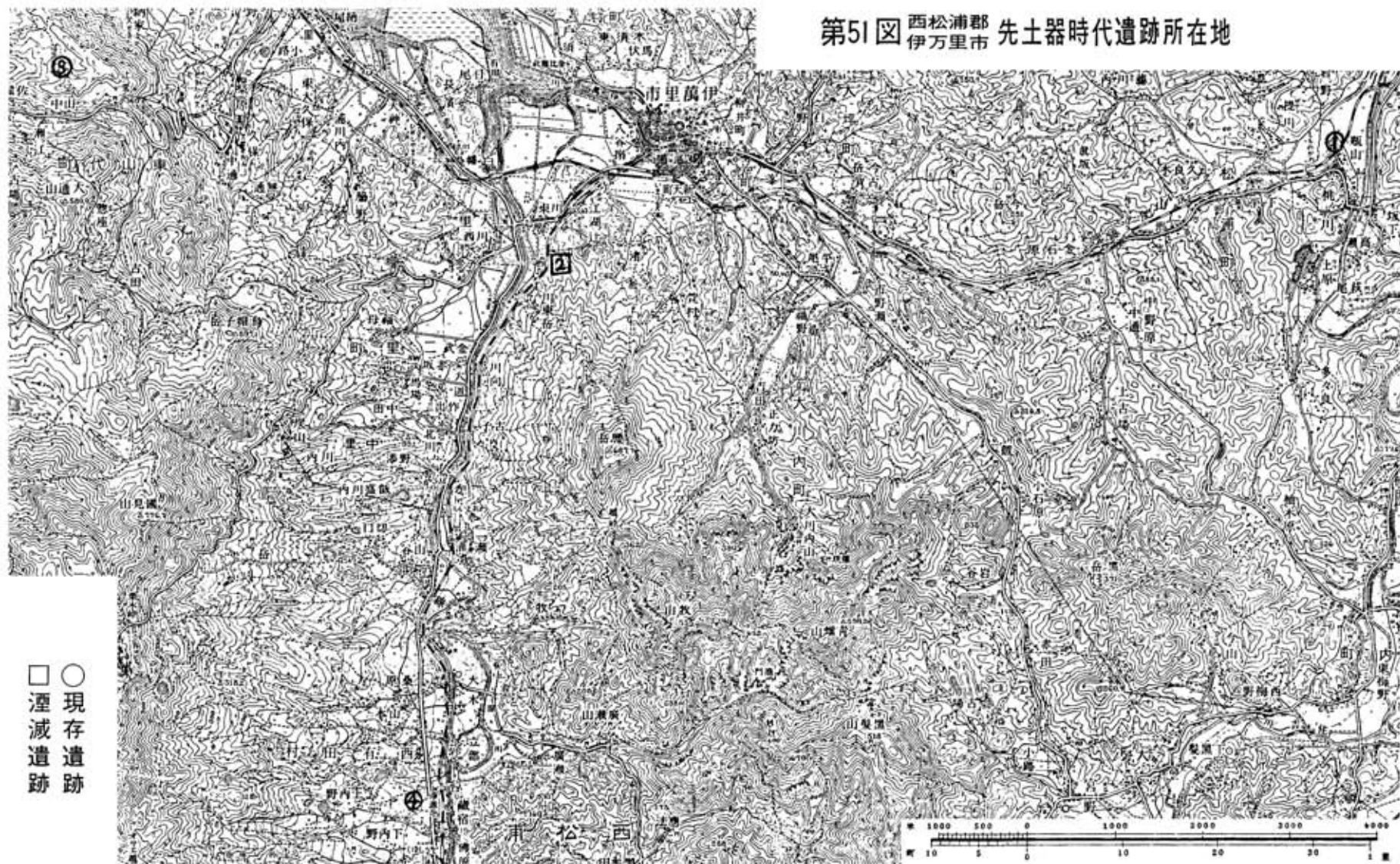
所在地 伊万里市松浦町大字桃川字瓶山（畑）

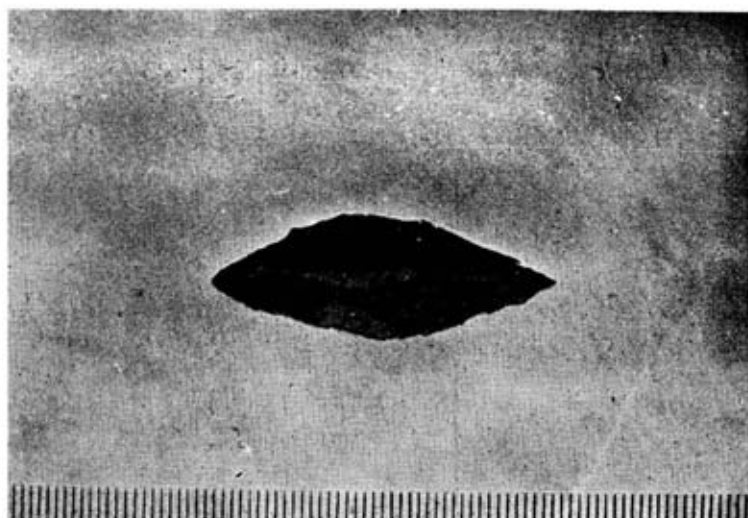
概要 山麓に接する標高三〇米の段丘状の畑地から先土器系の石器が出土している。また桃川駅西方からは、

マイクロ・コアーも発見されている。

出土品 ナイフブレード等（明治大学考古学教室保管）

第51図 西松浦郡 伊万里市 先土器時代遺跡所在地





第52図 平沢良先土器遺跡出土品（ナイフブレード）

二、平沢良先土器遺跡

種別 石器包含地

（湮滅）

所在地 伊万里市二里町大字大里字平沢良（土取場）

概要 腰岳の北東麓、標高約五米の丘陵端に築成されて

いた本路寺前方後円墳の後円部封土下にある遺跡である。黒曜石の剝片に混って各種の石器類が出

土しているが、遺跡の大半は破壊されている。

出土品

ナイフブレード・ポイント・スクレイパー・ドリル・ブレード・コア・フレイク（明治大学考古

学教室保管）

文献 「佐賀県伊万里市平沢良の石器文化」（明治大学

報告書）

備考 昭和三十六年八月「西北九州総合調査特別委員会」

によって発掘調査が実施された。

三、辻の堂先土器遺跡

種別 石器包含地

所在地

伊万里市東山代町大字滝川内字辻の堂開拓地（畑）

概要

標高四〇〇米の丘陵地にある開拓地から先土器系の石器が出土している。遺物の包含状態は明らかでない。

出土品

ナイフ型石器・細石器・ブレイド

文献

伊万里市史（昭和三八年、伊万里市）

四、蔵宿先土器遺跡

種別

石器散布地

所在地

西松浦郡西有田村字蔵宿（山林・畑）

概要

松浦線蔵宿駅の北西方に共立病院がある。その背後の東面した緩傾斜をなす台地一帯に先土器系の石器が散布している。その分布区域は相当広範囲に及んでいる。

出土品

ブレイド・コアー（有田町中原和弘氏保管）

第53図 西松浦郡 伊万里市 縄文・弥生時代遺跡所在地



西松浦郡 伊万里市 縄文時代遺跡

- | | | |
|----|-------------|-----------|
| 一 | 伊万里市大川町大川野 | 構縄文遺跡 |
| 二 | 伊万里市松浦町提川 | 提川縄文遺跡 |
| 三 | 伊万里市黒川町立目 | 大平山縄文遺跡 |
| 四 | 伊万里市脇田町 | 中尾山縄文遺跡 |
| 五 | 伊万里市波多津町筒井 | 筒井縄文遺跡 |
| 六 | 伊万里市南波多町小麦原 | 小麦原縄文遺跡 |
| 七 | 伊万里市東山代町滝川内 | 辻の堂縄文遺跡 |
| 八 | 伊万里市南波多町井手野 | 南波多中学縄文遺跡 |
| 九 | 伊万里市東山代町長浜 | 白幡縄文遺跡 |
| 一〇 | 伊万里市松浦町桃川 | 西の谷堤縄文遺跡 |
| 一一 | 伊万里市波多津町辻 | 供養の辻縄文遺跡 |
| 一二 | 西有田村仏の原 | 仏の原縄文遺跡 |
| 一三 | 西有田村山本 | 立木原縄文遺跡 |

一、構縄文遺跡

種別 遺物散布地

所在地 伊万里市大川町大字大川野字構（畑）

概要 標高二〇〇米余りの城山の東端、大川野の盆地に接する標高二〇～二五米の丘陵上に縄文

系の石鏃が散布している。まだ関係土器の発見はなく、遺構は明らかでない。

出土品 石鏃多数（大川中学校保管）

備考 同町内からは、この地以外からも石器類が出土している。

二、提川縄文遺跡

種別 遺物散布地

所在地 伊万里市松浦町大字提川字桑原（畑）



第54図 構縄文遺跡

概要

山丘の南斜面、前面に盆地状の水田と筑肥線を望む標高約五五米の畑地や果樹園に縄文系の石器が散布している。その範囲は、径約二〇〇米にわたっており、確実な土器はまだ発見されていない。

出土品

石 鏃（黒曜石他）……多数・すりいし破片一個・土器片？（伊万里高等学校保管）

備考

同町内久良木裏谷からも、石鏃が拾集されている。

三、大平山縄文遺跡

種別

遺物散布地

所在地

伊万里市黒川町大字立目字大平山（畑・水田）

概要

城古岳の中腹に黒川小学校分校がある。その分校の南方至近の所にある標高三〇〇米の耕地から縄文系の石鏃が発見されている。しかし、まだ関係土器は出土していない。

出土品

石鏃等（立目分校保管）

四、中尾山縄文遺跡

種別

遺物包含地

所在地

伊万里市脇田町（畑）

概要

標高二五〇米前後の丘陵地に開拓団が入植しているが、その開墾地から縄文系の石器が出土している。土器の発見はなく、その遺構も明らかでない。

出土品

石斧・石鎌・石匙・その他

文献

伊万里市史（昭和三八年、伊万里市）

五、筒井縄文遺跡

種別

遺物包含地

所在地

伊万里市波多津町大字筒井字磯道（みかん園）

概要

標高一〇〇米の南東方に向って開けた緩傾斜面から縄文系の土器や石器が相当多く出土している。この遺跡の遺構は明らかでなく、北方の木場からは硬玉製勾玉一個が発見されている。

出土品

石鎌・磨石・石斧・曽畑式土器片（波多津中学校保管）

文献

伊万里市史（昭和三八年、伊万里市）

六、小麦原縄文遺跡

種別

遺物散布地

所在地

伊万里市南波多町大字小麦原字フラン（畑）

概要

南波多盆地の南端近くにある小独立丘の頂上、標高五〇米の所にある遺跡で、畑地から縄文系の石器が発見されている。また土器の発見はなく遺構は明らかでない。

種別

遺物散布地

出土品
文献

石斧・石鎌・石匙

伊万里市史（昭和三八年、伊万里市）

いるが、遺構は明らかでない。また、この遺跡の一端からは、先土器系の石器も出土している。



第55図 小麦原縄文遺跡出土品（石槍・石匙）

七、辻の堂縄文遺跡

出土品 石匙一個・石槍一個（伊万

里高等学校保管）

種別 遺物包含地

所在地 伊万里市東山代町大字滝川

内字辻の堂開拓地（畑）

概要 標高四〇〇米の丘陵地にあ

る開拓地内の遺跡で、辻の

堂峠の西北方にある。縄文

系の石器や土器が出土して

所在地 伊万里市南波多町大字井手野 (校地)

概要

大野岳山麓の標高三五米にある遺跡で、現在南波多中学校の校庭となっている。畑地を校地にするための整地作業中、縄文系の石鐮が発見されている。土器の発見はなく、遺構は明らかでない。なお、南波多町からはこの遺跡の他、中の瀬・水田峠・樋の谷・大野岳・府招等から縄文系の石鐮が出土している。石鐮数一〇個(南波多中学校保管)

出土品

九、白幡縄文遺跡

種別

遺物包含地

所在地 伊万里市東山代町大字長浜字白幡 (畑)

概要

有田川に沿うて展けている水田に接する丘陵端、標高一〇米～二〇米の所にある遺跡であつて、縄文系の石器が出土している。まだ、土器の発見はなく、その遺構は明らかでない。

出土品

石鐮・石斧(伊万里市二里町川東田中正義氏保管)

一〇、西の谷堤縄文遺跡

種別

遺物散布地

所在地 伊万里市松浦町大字桃川字西の谷

概要

山麓に築成されている西の谷堤の水際から石匙が一個発見されている。なお、その至近の所から縄文系

の石鏃の出土も見ている。土器はまだ発見されておらず、遺構も明らかでない。

一一、供養の辻縄文遺跡

種別 遺物散布地

所在地 伊万里市波多津町大字辻字深浦九四（畑）

概要 標高三〇米、伊万里湾に近い台地上の畑地に縄文系の石器が散布している。まだ、関係土器の発見はな

く、遺跡の性格は明らかでない。

一二、佛の原縄文遺跡

種別 石器散布地

所在地 西松浦郡西有田村字仏の原（山林・畑）

概要 松浦線蔵宿駅の東方、西面した山麓の丘陵地一帯に黒曜石の剝片が散在している。この遺跡からは主と

して石鏃が発見されるが、まだ、土器は検出されていない。

出土品 石鏃（有田町中原和弘氏保管）

一三、立木原縄文遺跡

所在地

西松浦郡西有田村大字山本字立木原 (畑)

概要

国見岳を中心とする山脈の裾がのびて形成されている舌状台地上にある遺跡である。などかな傾斜をなしてのびている台地上の畑に、石器類が散在しているが、風雨による表土の剝奪と流出が相当に進んでおり、地表下には、遺物を含む何等の遺構も残されていないらしく、また、この散布地の範囲も明らかでない。その出土品から考えて、この遺跡は縄文時代に属するものであろうが、先土器系の石器も相当に含まれているので、先土器時代から縄文時代へかけての長い時期にわたる遺跡であるかも知れない。

出土品

フレイク・コアー・石礫・石匙・石斧・ポイント・ブレイド (県教育委員会および西有田村大木吉永直氏保管)

一四、矢杖縄文遺跡

種別

住居跡

所在地

西松浦郡西有田村大字山本矢杖 (畑)

概要

などかな傾斜をなす低丘陵にある遺跡で、ほとんど畑地となっているが、昭和三九年一月、みかん植栽のための壺穴掘り中に発見されたものである。現地表下約四〇厘の所に竪穴住居跡があり、石斧・縄文土器片および多数の黒曜石剝片が出土している。住居跡の規模や遺物の埋蔵状態、遺跡の範囲など明らかでないが、みかん園造成に伴ない遺跡は次第に破壊されつつある。

出土品

石斧一個・縄文系土器片・石器剝片 (西有田町山本吉永直氏保管)

西松浦郡
伊万里市
弥生時代遺跡

一 伊万里市東山代町日尾

日尾崎丘陵弥生遺跡

二 伊万里市黒川町奥野

土井頭弥生遺跡

一、日尾崎丘陵弥生遺跡

種別

遺物包含地

所在地

伊万里市東山代町大字日尾字日尾崎 (畑)

概要

伊万里湾に接する標高一〇〜二〇米の低丘陵地の畑から弥生系の遺物が出土しているが、遺構は明らかでない。また、付近には一基の古墳も築成されていた。

出土品

石鏃・弥生式土器片 (伊万里市松尾竹一氏保管)

文献

伊万里市史 (昭和三八年、伊万里市)

二、土井頭弥生遺跡

種別	甕棺埋藏地
所在地	伊万里市黒川町大字奥野字土井頭（宅地）
概要	南北に丘陵をおり、東西に細長く展げた低地にある遺跡で、黒川中学校の西北方、標高五米の所に位置している。昭和二六年四月、森戸氏の宅地造成の際一九個の甕棺が出土している。甕棺は斜位埋置で、一六個には鉢型の上蓋が用いてあつた。この遺跡からは、石斧や石庖丁も発見されている。
出土品	石斧・石庖丁・甕棺
文献	「伊万里富士」（佐賀県立伊万里高等学校、郷土研究部）

□○ 現存遺跡
 湮滅遺跡



第56図

西松浦郡
 伊万里市

古墳時代遺跡所在地

西松浦郡 伊万里市 古墳時代遺跡

一 伊万里市東山代町日尾	日尾崎丘陵古墳
二 伊万里市山代町久原	小島前方後円墳
三 伊万里市二里町大里	高岸石棺群出土遺跡
四 伊万里市二里町大里	奎路寺前方後円墳の石棺
五 伊万里市二里町大里	奎路寺前方後円墳
六 伊万里市新天町	坂口古墳

一、日尾崎丘陵古墳

種別 古墳 (湮滅)

所在地 伊万里市東山代町大字日尾字日尾崎 (畑)
概要 伊万里湾に接する標高一〇と二〇米の低丘陵にある日尾崎弥生遺跡の一端に一基の古墳が築成されている。

た。現在破壊湮滅していて、その規模や構造など明らかでないが、円墳ではなかったかと推定される。

出土品
遺物も明らかでないが、土器類の一部が保管されている。
土師器・須恵器（伊万里市松尾竹一氏保管）

二、小島前方後円墳

種別
古墳
所在地
伊万里市山代町大字久原字小島（山林）
概要
久原港前面の孤島、現在は埋立により陸繋島となつている小島頂上部にある。主軸の長さ三九米七〇、後円部の径約二一米八〇、高さ四米、前方部の幅約二〇米八〇、高さ約二米八〇の前方後円墳である。封土上には葺石があり、埴輪円筒片が出土している。内部主体は発達した横穴式石室で、早く盗掘にあい、遺物は保存されていない。

文献
伊万里市史（昭和三八年、伊万里市）



第57図 小島前方後円墳

三、高岸石棺群出土遺跡

種別

石棺出土地

(湮滅)

所在地

伊万里市二里町大字大里字高岸甲一一三番地 (山林)

概要

腰岳の西北麓、標高二五米の斜面にあつて、道路工事中に発見されたものである。箱式石棺四個が出土して、棺内から鉄丹のついた敷石が多数発見されているが、副葬品は埋蔵されていなかった。二個は砂岩、他の二個は火成岩が用いられており、第二号石棺の蓋は長さ二米、幅七〇厘厚さ一二厘の砂岩である。八重津・片岡両博士が調査されたことがあり、石棺は松林中や本山鉄次氏の宅地内に移転保管されている。

備考

四、杣路寺前方後円墳の石棺

種別

古墳

所在地

伊万里市二里町大字大里字杣路寺 (畑)

概要

丘陵端に築成された杣路寺前方後円墳の前方部に四個の箱式石棺が埋置されている。一個は砂岩の板石で構成されていて、長さ一米七〇、幅四〇厘、一体分の人骨と副葬品が埋蔵されていた。前方部は相当変形しているが、保存されている。

出土品

鉄斧一・鉋一・砥石一 (伊万里市二里町中村喜一氏保管)

文献

伊万里市史 (昭和三八年、伊万里市)

五、李路寺前方後円墳

種別

古墳

(前方部湮滅)

所在地

伊万里市二里町大字大里字李路寺 (畑)

概要

腰岳の北西山麓の端に築かれた前方後円墳で、国鉄松浦線のため、前方部と後円部とが切断されている。しかも、後円部は製瓦用の土取りのため封土は破壊されてしまっている。主軸の長さ八〇で、後円部径四二米、前方部幅二二米、前方部高さ三米、前方部が西側に位置している。埴輪円筒が埋置されているが、後円部の石室は、早く破壊されていて構造や規模は不明であり、前方部には四個の石棺が埋蔵されている。なお、後円部の封土の下からは、先土器系の石器が出土している。

出土品

三角縁神獸鏡・鉄剣・鉄刀・土師器破片・埴輪円筒破片 (伊万里市二里町中村喜一氏保管)

文献

駿台史学 (明治大学)

備考

昭和三十六年八月、西北九州総合調査特別委員会によって調査が実施された。

六、坂口古墳

種別

古墳

(移管)

所在地

伊万里市新天町字坂口一七四ノ一 (畑)

概要

低丘陵上にある古墳で、畑地になっているため封土は破壊されていて明らかでないが、内部主体は箱式石棺である。長さ一五八釐、幅六二ノ四八釐、深さ六〇釐内外で、扁平な砂岩で囲まれ、二枚の板石

蓋石で覆われていた。底部は、小石敷床となっていて、内部には鉄丹が塗られている。石棺の側石にそうて、外縁に扁平な板石を装飾的に並べて囲んである。副葬品としては、鉄剣一口が発見されている。なお、付近には、別に二基の箱式石棺があったが破壊された。

出土品 鉄剣（長さ四九釐）一口（伊万里市新天町岩永末一氏保管）

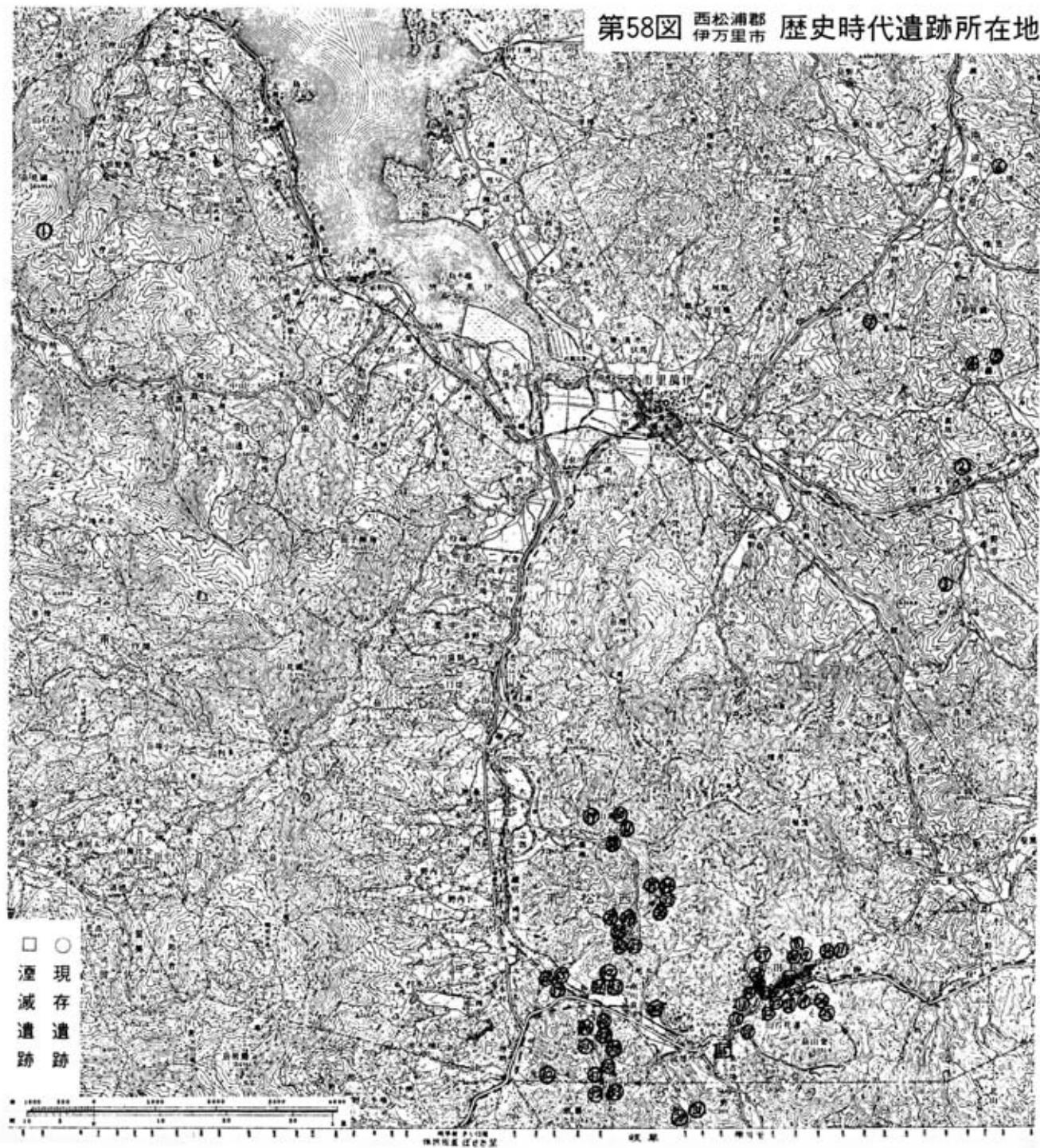
文献 木下之治「佐賀県における埋蔵文化財の発掘、発見の覚書」（昭和三五年一〇月一日、郷土研究第一〇号）

備考 石棺は、発掘して伊万里市の公園に移し、市教育委員会で管理している。

西松浦郡 伊万里市 歴史時代遺跡

- | | | |
|----|-------------|-----------|
| 一 | 伊万里市東山代町川内野 | 日南郷墨石線遺構 |
| 二 | 伊万里市松浦町中野原 | 金石原古窯跡 |
| 三 | 伊万里市松浦町中野原 | 多々良古窯跡 |
| 四 | 伊万里市松浦町山形 | 藤川内狩の谷古窯跡 |
| 五 | 伊万里市松浦町山形 | 藤川内阿房谷古窯跡 |
| 六 | 伊万里市南波多町大川原 | 大川原古窯跡 |
| 七 | 伊万里市南波多町府招 | 椎峰古窯跡 |
| 八 | 有田町泉山 | 年木谷第一号古窯跡 |
| 九 | 有田町泉山 | 年木谷第二号古窯跡 |
| 一〇 | 有田町泉山 | 年木谷第三号古窯跡 |
| 一一 | 有田町泉山 | 楠木谷古窯跡 |
| 一二 | 有田町大松本 | 谷古窯跡 |
| 一三 | 有田町裨古場 | 裨古場古窯跡 |

第58図 西松浦郡 伊万里市 歴史時代遺跡所在地



三一	三〇	二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四
有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有
田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田
町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町
戸	戸	白	中	上	小	小	中	大	本	上	上	舞	舞	岩	岩	長	稗
枸	枸	川	白	白	樽	樽	樽	樽	幸	幸	幸	々	々	谷	谷	吉	古
			川	川					平	平	平	谷	谷	川	川	谷	場
														内	内		

戸	埴	下	中	天	小	小	中	大	白	前	西	山	舞	猿	天	長	天
枸	門	白	白	狗	樽	樽	樽	樽	燒	登	登	小	々	川	神	吉	神
向	谷	川	川	谷	第	第	古	古	古	古	古	屋	谷	古	町	谷	山
原	一	古	古	古	二	一	窯	窯	窯	窯	窯	古	古	窯	古	古	古
古	本	窯	窯	窯	号	号	跡	跡	跡	跡	跡	窯	窯	跡	窯	窯	窯
窯	松	跡	跡	跡	古	古						跡	跡	跡	跡	跡	跡
跡	古				窯	窯						跡	跡				
	窯				跡	跡											

四九	四八	四七	四六	四五	四四	四三	四二	四一	四〇	三九	三八	三七	三六	三五	三四	三三	三二
有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有
田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田
町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町
南	南	南	南	南	小	小	小	黒	黒	黒	黒	黒	応	応	応	応	外
川	川	川	川	川	溝	溝	溝	牟	牟	牟	牟	牟	法	法	法	法	尾
原	原	原	原	原				田	田	田	田	田					山

南	小	小	天	天	小	小	小	多	多	山	山	山	窯	柿	掛	弥	外
川	物	物	神	神	溝	溝	溝	々	々	辺	辺	辺	の	の	の	源	尾
原	成	成	森	森	中	下	上	良	良	田	田	田	辻	谷	谷	地	山
窯	下	上	下	上	の	の	の	第	の	三	二	一	古	窯	古	古	古
の	の	の	古	古	古	古	古	二	本	の	の	の	窯	跡	窯	窯	窯
辻	古	古	窯	窯	窯	窯	窯	窯	窯	古	古	古	跡		跡	跡	跡
古	窯	窯	跡	跡	跡	跡	跡	跡	跡	窯	窯	窯					
窯	跡	跡								跡	跡	跡					
跡																	

所在地 種別 伊万里市東山代町大字川内野字日南郷五八〇八番地 墨石線遺構

一、日南郷墨石線遺構

五〇	有	田	町	南	川	原	柿右エ門古窯跡
五一	有	田	町	南	川	原	源右エ門古窯跡
五二	有	田	町	南	川	原	樋口古窯跡
五三	有	田	町	南	川	原	ムクロ谷古窯跡
五四	有	田	町	泉	山		枳敷古窯跡
五五	有	田	町	南	川	原	清六の辻一の古窯跡
五六	有	田	町	南	川	原	清六の辻大師堂横古窯跡
五七	有	田	町	南	川	原	清六の辻二の古窯跡
五八	有	田	村	大	木		広瀬向古窯跡
五九	有	田	村	大	木		広瀬小森谷古窯跡
六〇	有	田	村	大	木		広瀬権現山古窯跡
六一	有	田	村	大	木		広瀬香茸巖古窯跡
六二	有	田	村	原	明		原明窯の谷古窯跡

概要

標高四九六米余りの国見岳の中腹、長崎県境に近い所に日南郷開拓団がある。玄武岩の自然石の礫石で高さ二米〜三米、幅二米〜三米で最大四米、その延長五〇〇米、礫石線の一部は雑木林となっており、また、住宅のため欠損している部分もある。谷間にあつて、谷間に沿うてのびている。

文献

内庫所所蔵古地図「山代郷川内野村之図」に「石垣長サハ九十間馬牧ノ仕組ニモ候ヤ」とある。

二、金石原古窯跡

種別

古窯跡

所在地

伊万里市松浦町大字中野原四六七一番地 (畑)

概要

筑肥線金石原駅の西北方にあたる標高四五米の山麓斜面に築成されている窯跡で、現在窯壁が残存している。付近に雑器破片が散布しており、なお、付近には多くの古窯跡がある。

文献

中島浩気著「肥前陶磁史」(昭和三〇年六月一日、肥前陶磁史刊行会)

三、多々良古窯跡

種別

古窯跡

所在地

伊万里市松浦町大字中野原字多々良 (畑)

概要

標高六五米のゆるやかな勾配をなす東斜面に築成されている登り窯で、陶片が付近に散在している。

出土品

大小雑多な鉢・かめ・壺・碗



第59図 多々良古窯跡

文献 中島浩気著「肥前陶磁史」(昭和三〇年六月一日、

肥前陶磁史刊行会)

四、藤川内狩の谷古窯跡

種別 古窯跡

所在地 伊万里市松浦町大字山形字勝負谷 (畑)

概要 標高五五、六〇米の南緩斜面に築成されている登

り窯で、窯壁の一部が残存しており、付近には陶

片が散在している。

出土品 陶片多数

文献 中島浩気著「肥前陶磁史」(昭和三〇年六月一日、

肥前陶磁史刊行会)

五、藤川内阿房谷古窯跡

種別 古窯跡

所在地 伊万里市松浦町大字山形字阿房谷 (原野)

概要 阿保谷池の北方、標高六〇米の斜面に築成されて

いる登り窯で、付近に陶片が散布している。この窯跡の東南方約七〇〇米の勝負谷に、狩の谷窯跡がある。

文献 中島浩気著「肥前陶磁史」(昭和三〇年六月一日、肥前陶磁史刊行会)

六、大川原古窯跡

種別 古窯跡

所在地 伊万里市南波多町大字大川原字柳谷 (山林)

概要 南波多盆地の最東端に接統する標高五〇米の南緩斜面に築かれている登り窯である。窯壁の一部が残存

しており、付近には陶片が多数散在している。

出土品 陶片多数

文献 中島浩気著「肥前陶磁史」(昭和三〇年六月一日、肥前陶磁史刊行会)

七、椎峰古窯跡

種別 古窯跡

所在地 伊万里市南波多町大字府招字仏谷 (畑)

概要 椎の峰の谷あい、標高六〇〜七〇米の傾斜面に構築されている登り窯で、第一号タタラから第四号タタ

ラまで四基のものが残存している。窯跡付近には、雑器類の陶片が散在している。

出土品

茶碗ほか雜器類

文献

中島浩氣著「肥前陶磁史」（昭和三〇年六月一日、肥前陶磁史刊行会）

八、年木谷第一号古窯跡

種別

古窯跡

所在地

西松浦郡有田町大字泉山字年木谷七一三番地（畑）

概要

標高一二〇米の緩傾斜地にあつて、現在柿の木畑となつてゐる。相原氏宅の裏、坂道の右側に位置してゐて、登り窯跡であることが歴然としてゐる。その窯跡付近から破片が多数出土してゐる。西側は溪流に沿ひ、東側は急傾斜の山となつてゐる。

出土品

白磁染付は呉須で牡丹・円模様・唐獅子の見込、永楽年製の銘等の精巧なものもあり、江戸時代後期に属す。

文献

肥前古窯跡めぐり、古伊万里（昭和三四年六月一日、金華堂）、古伊万里染付図譜、肥前古窯史跡付図（有田陶磁美術館）

九、年木谷第二号古窯跡

種別

古窯跡

所在地

西松浦郡有田町大字泉山字年木谷六七二番地（畑）

概要

標高約一一〇米、天神社横の谷間に二枚統きの畑があるが、そこが窯跡と物原と推定される。この畑の上の方は原野になっていて、天保・安永・天明頃の墓が四基ある。この窯跡付近は、山に囲まれ、溪流にも近い。ほとんど破壊されているらしく規模や構造など明らかでない。

出土品

白磁染付のドンブリ・皿・碗等の食器類が主である。染付の唐草の図案化されたもの、風景の日本風のものなどあり、達筆のものもある。江戸時代後期と推定される。

文献

肥前古窯跡めぐり、肥前古窯史跡付図（有田陶磁美術館）

一〇、年木谷第三号古窯跡

種別

古窯跡

所在地

西松浦郡有田町大字泉山字年木谷七八ノ一番地（山林・宅地）

概要

標高一〇〇米余りの所に位置している。窯跡の上半分は荒地となつて現存するが、下半分は工場になっているため破壊されている。物原は横の雑木林の中にある。大きな登り窯であつた跡が歴然と残っている。溪流にも近い。

出土品

白磁染付の食器類、竜・ウロコ模様など精巧なものが多い。明治の中頃まで焼いていたという。

一一、楠木谷古窯跡

所在地 西松浦郡有田町大字泉山四八五ノ一番地 (畑・宅地)

概要 英山南斜面、標高約一〇〇米の開けた傾斜地にある。住宅地前の畑が物原で、上の方が窯跡と推定され

る。採石場の泉山に近いが、溪流には離れている。規模や構造など不明である。

出土品 主として皿類、緑釉のものもある。白磁初期染付・李朝風草花・蝶・葡萄などで、江戸時代初期と推定される。

文献 古伊万里 (昭和三四年六月一日、金華堂)

一二、谷 古 窯 跡

種 別 古 窯 跡

所在地 西松浦郡有田町大字大絵本一四八三番地 (宅地)

概要 標高一〇〇米の所にある深川製磁社長別荘の谷間に約三〇米位の長さに亘って築造されていたらしく、トンバイ壁も多く現存している。右側は溪流で、急斜面であり、北面している。窯跡の規模や構造などは明らかでない。

出土品 白磁の染付で、牡丹の大皿、竜・唐草模様・線模様など、江戸時代後期と推定される。

一三、稗古場古窯跡

種 別 古 窯 跡

所在地 西松浦郡有田町大字稗古場二〇七三ノ一番地 (宅地)

概 要

裨古場の松本平氏の住宅地が物原であつて、その裏側標高八〇米、九〇米余りの乾燥する南斜面の所に窯跡が三基ある。最上部に位置するのが江戸時代中期、中央部に位置しているのが江戸時代初期のもので半地下式の築窯であつた。最下部に位置するものは江戸時代後期のもので最近まで存在していたらしい。この窯跡は有田川上流に近い理想的な場所である。

出土品

白磁、李朝風の草花・蝶・桃の初期のものより後期のものまである。青磁も陶器も出ている。江戸時代初期より後期までと推定される。

文 献

鍋島藩窯の研究（昭和二九年九月一日、佐賀県文化館）、肥前古窯跡めぐり、肥前古窯史跡付図（有田陶磁美術館）、古伊万里（昭和三四年六月一日、金華堂）

一四、天神山古窯跡

種 別

古 窯 跡

所在地

西松浦郡有田町大字裨古場二〇四四番地（山林・畑）

概 要

標高一〇〇米余りの天神社の裏山にあつて、南斜面が物原になつてゐる。窯跡は畑となつて判明しないが、小規模のものと推定される。有田川の上流に近い所に位置している。

出土品

白磁初期の染付のぶどう・つばき・草花の抽象化されたもの、および青磁の初期のものもある。釉裏紅も出土している。江戸時代初期。

文 献

鍋島藩窯の研究（昭和二九年九月一日、佐賀県文化館）、肥前古窯跡めぐり、肥前古窯史跡付図（有田

陶磁美術館）、古伊万里（昭和三四年六月一日、金華堂）

一五、長吉谷古窯跡

種別

古窯跡

（湮滅）

所在地

西松浦郡有田町大字長吉谷二四九七・二四九六番地（畑・宅地）

概要

標高約一〇〇米の所に位置していて、窯跡は破壊されて存在せず、その規模や構造も明らかでない。ただ、破片が付近に散乱していて、窯跡であることが推定される。

出土品

白磁の蝶・もみじなどの呉須染付で、上品に出来上っている。江戸時代中期と推定される。

一六、天神町古窯跡

種別

古窯跡

所在地

西松浦郡有田町大字岩谷川内字天神町二一〇・二一三九・二一四〇番地（山林）

概要

猿川古窯跡と国鉄佐世保線を間に挟んで相對して存在している。標高約一〇〇米の西面した傾斜面を利用して築窯されているが、割に急傾斜であって、約三〇米×三米の規模である。窯跡はいま小松が生えており、鉄道に面した斜面が物原である。この窯跡は猿川に近い位置にある。

出土品

白磁の山水・草花と青磁 罅焼がある。何れも食器類である。江戸時代の初期。

文献

鍋島藩窯の研究（昭和二九年九月一日、佐賀県文化館）、肥前古窯跡めぐり、肥前古窯史跡付図（有田

陶磁美術館）、古伊万里（昭和三四年六月一日、金華堂）

一七、猿川古窯跡

種別 古窯跡

所在地 西松浦郡有田町大字岩谷川内二一九八・二二〇〇番地（山林・畑）

概要 猿川の天神前から国鉄佐世保線の通過している所の標高九〇米余りの台地にかけて、新旧二基の窯跡がある。鉄道側のものは、創業期のものが多く出土しており、神社前のものは、後期のものが出土している。この窯跡はともに猿川の溪流に近く位置している。

出土品 白磁に山水・網目・鯉・蝶が出ている。大明の銘のあるものもある。江戸時代初期から後期に及んでいる。

文献 鍋島藩窯の研究（昭和二九年九月一日、佐賀県文化館）、肥前古窯跡めぐり、肥前古窯史跡付図（有田

陶磁美術館）

一八、舞々谷古窯跡

種別 古窯跡

所在地 西松浦郡有田町大字舞々谷一〇三八ノ二・一〇三七・一〇三五ノ一番地（畑）

概要 陶山社にある李參平の碑の南下方、標高約一一〇米の傾斜面にある。窯跡は国鉄佐世保線に切断されて

出土品

いて、その構造や規模など明らかでない。しかし、磁器片は、付近の畑に多数散乱している。割りに若い窯跡で、白磁完成期のものに近いと推定される。

品の良い呉須染付、万暦年製などの銘のあるもの、唐草・蛸唐草・網目・牡丹・梅花などの精巧なものもある。江戸時代後期のものと推定される。

一九、山小屋古窯跡

種別

古窯跡

所在地

西松浦郡有田町大字舞々谷九六六ノ一・九七四番地（畑・遊園地）

概要

国鉄佐世保線に近接して天神社があるが、その南側が現在子供遊園地となっている。この地は、標高約一〇〇米の地で、この遊園地から緩傾斜の段々畑となっている。この所に窯跡と物原があつたらしく、遺跡は破壊されているが、僅かにその痕跡をとどめている。

出土品

白磁の染付、李朝風の素朴なものと推定される。また、彫りのあるものや、淡い青磁などがある。江戸時代初期から中期と推定される。

二〇、西登古窯跡

種別

古窯跡

所在地

西松浦郡有田町大字上幸平一一四二・一一四三番地（宅地）

概要

標高一〇〇米付近の窯の辻の西斜面に位置している。前登窯跡より少し離れた所に対山窯があるが、その対山窯の所が西登古窯跡であるため、窯跡の規模、構造など明らかでない。

出土品

染付のドンブリ・角皿などの食器類。呉須の色も非常にあざやかで、型打もある。江戸時代初期から、明治・大正におよんでいる。

文献

肥前古窯跡めぐり、古伊万里（昭和三四年六月一日、金華堂）、肥前古窯史跡付図（有田陶磁美術館）

二一、前登古窯跡

種別

古窯跡

所在地

西松浦郡有田町大字上幸平一一五八ノ一・一一五八ノ二番地

概要

標高約一〇〇米付近の台地に位置していて、窯の辻の西斜面に窯跡が残存している。その規模は判明しないが、相応に大きな登窯であったと推定される。

出土品

染付、竜・菊花紋・竹・唐草文様、見込に梅花文様・線模様などあり、江戸時代初期から後期までと推定される。

文献

古伊万里（昭和三四年六月一日、金華堂）、肥前古窯史跡付図（有田陶磁美術館）、肥前古窯跡めぐり

二二、白焼古窯跡

種別

古窯跡

所在地 西松浦郡有田町大字本幸平一四七六ノ一番地（神社境内）

概要 標高一〇〇米、栗島神社境内から有田公園社務所横の谷の埋立地、西斜面のツツジ畑に続いていたらしい。物原らしいものは見当らない。焼土と共に僅かの磁片が発見されるにすぎず、窯跡は破壊されていると推定される。

出土品 竹・雲・唐草模様などの染付で、白磁・ヒビ焼などがある。江戸時代中期。

文献 肥前古窯跡めぐり、肥前古窯史跡付図（有田陶磁美術館）、古伊万里（昭和三四年六月一日、金華堂）

二三、大樽古窯跡

種別 古窯跡

所在地 西松浦郡有田町大字大樽一一三八ノ七番地

概要 蓮花石山系の北斜面、標高約一〇〇米の台地にある。現在南側は、国鉄佐世保線によって切断されてしまっているため、窯跡の規模・構造など明らかでない。

出土品 ドンブリなどの大物から小食器までであるが、春蘭型打などの染付がある。江戸時代初期から、明治時代におよぶと推定される。

文献 肥前古窯跡めぐり、肥前古窯史跡付図（有田陶磁美術館）、古伊万里（昭和三四年六月一日、金華堂）

二四、中樽古窯跡

種別 古窯跡

所在地

西松浦郡有田町大字中樽八七七ノ一番地 (宅地)

概要

標高約一〇〇米、香蘭社第三工場裏側にある重油タンク背後に、登窯の最高部が露出している。窯跡は掘りくずされ、物原の一部が崖となつて残存している。有田川の上流が近くを流れている。

出土品

染付、文字・草花・花・線点模様など、青磁もある。大明年製・碧玉珍玩などの銘あり。江戸時代初期より後期までと推定される。

文献

肥前古窯跡めぐり、古伊万里(昭和三四年六月一日、金華堂)、肥前古窯史跡付図(有田陶磁美術館)

二五、小樽第一号古窯跡

種別

古窯跡

所在地

西松浦郡有田町大字小樽字保屋谷一四二ノ四番地(畑)

概要

標高約一一〇米、窯業試験場の先の草津論氏宅の道をはさんで左側、東斜面に約二〇米の長さで登窯があつたらしく、畑土はほとんど焼土である。初期天目、無地の白磁李朝風染付などが畑中から出土する。

出土品

天目、釉の食器は、陶器と磁器とあり。李朝風染付の食器は白磁である。図柄は福寿の字および草花、その図案化されたものである。桃山時代より江戸初期に亘ると推定される。

文献

肥前古窯跡めぐり、古伊万里(昭和三四年六月一日、金華堂)、肥前古窯史跡付図(有田陶磁美術館)

二六、小樽第二号古窯跡

種別 古窯跡

所在地 西松浦郡有田町大字小樽二〇二ノ一番地（宅地）

概要 標高約一一〇米の丘陵上に築窯されていたらしく、破壊されて、原形をとどめていない。窯跡付近の宅

地や墓地は、焼土が一面に覆っている。第一号窯跡と同じく天目から白磁に天目釉をかけたもの、染付と進展したらしい。油つぼも作られている。窯跡の下を小樽川が流れている。

出土品 天目、釉を外側のみに使用したもの、内側まで使ったものの二種あり。地は磁石である。白磁染付、李

朝風水鳥・草花・山水などで江戸時代初期。

文献 古伊万里（昭和三四年六月一日、金華堂）、肥前古窯史跡付図（有田陶磁美術館）

二七、天狗谷古窯跡

種別 古窯跡

所在地 西松浦郡有田町大字上白川一八二九（山林）

概要 標高約一〇〇米の所にあつて、李參平の白磁焼成にふさわしく当時の破片が豊富に出土している。約一

四米×一〇米位にわたつて出土している焼土の部分が窯跡と推定され、現在雑木林となっている。近くの白川に水車の柱が立っているために岩に掘った穴が現存している。

出土品 白磁の初期ではあるが、おおらかな李朝風の山水・網目・竹・ぶどうなどの染付があり、酒瓶・碗・皿

が多い。江戸時代初期。

文献

鍋島藩窯の研究（昭和二年九月一日、佐賀県文化館）、肥前古窯跡めぐり、肥前古窯史跡付図（有田陶磁美術館）、古伊万里（昭和三四年六月一日、金華堂）

二八、中白川古窯跡

種別

古窯跡

所在地

西松浦郡有田町大字中白川一八一六・一八二九番地（山林・畑）

概要

標高一〇〇米、寺内信一氏宅の裏に物原があり、その裏の高台に窯が築かれていたと推定される。現在窯跡の規模や構造などは不明であるが、白川谷に面し、しかも、白川の流水に近く動力源に恵まれた所である。

出土品

初期の白磁染付、網目・ざくろ・抽象画・山水など、後代になるに従い呉須の色があざやかに出ている。江戸時代初期から中期におよぶと推定される。

二九、下白川古窯跡

種別

古窯跡

所在地

西松浦郡有田町大字白川一七二三〇二番地（宅地）

概要

稻荷社の参道より香蘭社別荘への上り道付近一帯に物原がある。焼土は見当らず、窯跡の規模は不明で

ある。近くに白川が流れている。

出土品

白磁染付の網目・唐草・地文様など 罽 焼もある。江戸時代初期より中期までと推定される。

文献

肥前古窯跡めぐり、肥前古窯史跡付図（有田陶磁美術館）、古伊万里（昭和三四年六月一日・金華堂）

三〇、禅門谷一本松古窯跡

種別

古窯跡

所在地

西松浦郡有田町大字戸杓山三〇二番地（山林）

概要

標高八〇米、道路わきの右側杉林にあつて、焼土は残っているが、窯跡は判明しない。陶磁器の破片も少ない。

出土品

江戸時代初期と推定される白磁・染付・山水草花などの破片

文献

肥前古窯史跡付図（有田陶磁美術館）

三一、戸杓向原古窯跡

種別

古窯跡

所在地

西松浦郡有田町大字戸杓字禅門谷三二一九番地（畑）

概要

標高一六〇米、緩傾斜の谷間にあつたらしく、畑の中に破片が散乱している程度で窯跡は判明しない。

出土品

江戸時代中期の白磁・染付、山水・青海波・牡丹などがあり、福の銘のあるものもある。

文献

肥前古窯史跡付図（有田陶磁美術館）

三二、外尾山古窯跡

種別 古窯跡

所在地 西松浦郡有田町大字外尾山一七一三ノ四番地（宅地）

概要 外尾山天神社入口付近にあつて、焼土によりその所在が判明するが、比較的新しい築窯である。

出土品 江戸時代末期の白磁染付、草花・流水に花などで、大鉢など大物がほとんどである。

三三、弥源地古窯跡

種別 古窯跡

所在地 西松浦郡有田町大字応法三九一五・二九一六・二九一七番地（山林）

概要 標高一〇〇米の雑木林の中にあり、主として油つぼが出土しているが、まれに染付もある。雑木林の峰

が窯跡で、焼土が露出している所もあるが、ほとんど五厘位の腐蝕土でおおわれている。谷の方が物原であるが、最近の土砂崩解のため変貌してしまった。こし砂をした所がある。

出土品 江戸時代初期の白磁（山土を相当混入したと思われる）の無地ものと、染付がある。ほとんど油壺である。染付は李朝風の草花・山水などである。

文献 古伊万里（昭和三四年六月一日、金華堂）

三四、掛の谷古窯跡

種別 古窯跡

所在地 西松浦郡有田町大字応法 (山林)

概要 雑木林の中にあつて、窯跡と物原が判明している。よく保存されている規模の大きい登窯であつて、峰

のところが窯跡であり、両側の谷の部分が物原となつてゐるが、腐蝕土におおわれている。

出土品 江戸時代初期の青味をおびた白磁の染付、山水の図案化・太陽の図案化、日・寿の文字を見込みに入れ

たもので、ほとんど皿である。

三五、柿の谷窯跡

種別 窯跡

所在地 西松浦郡有田町大字応法 (山林)

概要 柿の木谷の西方の辻にあつて、明治四〇年頃まで焼いていた窯であるといわれる。谷は物原となつてい

て、破片が多く埋蔵されている。

出土品 江戸時代後期より明治におよぶ白磁染付・色絵付のものが多い。

文献 古伊万里 (昭和三四年六月一日、金華堂)

三六、窯の辻古窯跡

種別 古窯跡

所在地 西松浦郡有田町大字応法 (畑)

概要

非常に大きな登窯で窯跡も物原も現存している。相当長期間使用された窯らしく、時代の古いものから新しいものまでおびただしい破片が存在している。

出土品

江戸時代中期より後期におよぶ白磁染付・地紋皿・輸出品なども焼いているが、どんぶり物・花瓶などが主である。

三七、山辺田一の古窯跡

種別

古窯跡

所在地

西松浦郡有田町大字黒牟田二九六八番地（畑）

概要

標高六〇米、ヤンベタと通称されていて、付近の畑は焼土ばかりで、大規模な登窯が築成されていたことが判明する。この窯跡の南斜面が物原になっている。

出土品

江戸時代初期の白磁初期のもの・染付草花・唐草などの食器類である。

文献

柿右エ門（昭和三四年六月一日、柿右エ門調査委員会）

三八、山辺田二の古窯跡

種別

古窯跡

所在地

西松浦郡有田町大字黒牟田二九六八番地（畑）

概要

低丘陵東斜面にあって、物原と窯跡とは判明しない。現在畑となっていて、出土した破片が畔に堆積し

である。

出土品 江戸時代以前と推定される陶器で、鉄釉絵のものもある。皿・グイのみ・大皿・碗など主として食器類である。

文献 柿右エ門（昭和三四年六月一日、柿右エ門調査委員会）

三九、山辺田三の古窯跡

種別 古窯跡

所在地 西松浦郡有田町大字黒牟田二九八四番地（畑）

概要 二の古窯跡の西斜面にある相当規模の大きい登窯跡であつて、物原や焼土などが残っている。出土品は、

陶器から磁器まで多様である。

出土品 江戸時代初期のもので、陶器は灰釉、磁器は染付・山水・草花模様、天目茶碗、青磁の皿などである。

文献 柿右エ門（昭和三四年六月一日、柿右エ門調査委員会）

四〇、多々良の本窯跡

種別 古窯跡

所在地 西松浦郡有田町大字黒牟田二八三八ノ一番地（宅地）

概要 町営住宅地になっているところが窯跡で、そこへ通ずる坂道が物原である。この窯跡のところは、最近

地開きが行なわれた。

出土品 江戸時代後期の白磁の染付、罎および成化年製のマークが多く、青磁も出土している。
文献 柿右エ門（昭和三四年六月一日、柿右エ門調査委員会）

四一、多々良第二窯跡

種別 古窯跡

所在地 西松浦郡有田町大字黒牟田（畑）

概要 北面している傾斜地が窯跡らしく、焼土や破片が出土しているが、その規模や構造は明らかでない。焼土が出ており、破片も多い。

出土品 江戸時代初期の白磁染付、唐草・竹・草花・網目文様などの食器類である。

文献 柿右エ門（昭和三四年六月一日、柿右エ門調査委員会）

四二、小溝上の古窯跡

種別 古窯跡

所在地 西松浦郡有田町大字小溝五九二番地（山林・畑）

概要 トドロモトと通称されている岩永善太郎氏の横の雑木林が物原で、その上の畑の方に窯跡の一部が見受けられるが、規模など明らかでない。

出土品

江戸時代初期より中期までのもので、陶器は灰釉および天目釉で絵がない。白磁は染付で、花およびその図案化・青海波模様である。

文献

肥前古窯史跡付図、柿右エ門（昭和三四年六月一日、柿右エ門調査委員会）

四三、小溝下の古窯跡

種別

古窯跡

所在地

西松浦郡有田町大字小溝五七〇番地イ・ロ（山林）

概要

小溝大溜池の右側山麓の雑木林の中に築成されている窯跡で、物原も少し残っているが、破壊の度がひどく湮滅しつつある。

出土品

江戸時代初期のもので、陶器は灰釉、白磁は染付、菊花の見込、花模様

文献

肥前古窯史跡付図、柿右エ門（昭和三四年六月一日、柿右エ門調査委員会）

四四、小溝中の古窯跡

種別

古窯跡

所在地

西松浦郡有田町大字小溝（堤防、道路）

概要

溜池の堤防の所にあった窯跡であるため、その規模、構造などはほとんど明らかでない。ただ堤防下の小道に焼土、溝の中に破片が見出される。

出土品

江戸時代初期のもので、陶器の灰釉と天目釉

文献

肥前古窯史跡付図、柿右エ門（昭和三四年六月一日、柿右エ門調査委員会）

四五、天神森上古窯跡

種別

古窯跡

所在地

西松浦郡有田町大字南川原一二四番地（山林）

概要

天満宮付近に築かれていた窯跡であるが、規模など全く明らかでない。天満宮裏側の急傾斜面や天満宮境内に破片が多く見出される。

出土品

江戸時代初期から中期までのもので、陶器は灰釉であるが、鉄釉で草の葉などを描いたものもある。白磁は染付で、唐草・牡丹・松などの模様である。

文献

柿右エ門（昭和三四年六月一日、柿右エ門調査委員会）

四六、天神森下古窯跡

種別

古窯跡

所在地

西松浦郡有田町大字南川原一二五番地（山林）

概要

窯跡は原形をとどめてはいないが、登窯であろうと推定される。その横の雑木林が物原で、破片が多く埋もっている。

出土品

江戸時代初期から中期までのもので、陶器で灰釉の皿が多く、また、白磁の染付もある。唐草・山水・ぶどうの絵などが主である。

文献

柿右エ門（昭和三四年六月一日、柿右エ門調査委員会）

四七、小物成上の古窯跡

種別

古窯跡

所在地

西松浦郡有田町大字南川原字小物成二二〇番地（畑）

概要

丘陵地にあつて、畑地となっているが、焼土によって窯跡であることがわかる。しかし、破壊の度がひどく原形はとどめていない。付近には破片も多数見受けられる。

出土品

江戸時代初期のもので、陶器は灰釉で、鉄絵のものもあるが粗悪である。白磁は染付で、唐草・草花などである。

文献

柿右エ門（昭和三四年六月一日、柿右エ門調査委員会）

四八、小物成下の古窯跡

種別

古窯跡

所在地

西松浦郡有田町大字南川原二二五・二二七番地（畑）

概要

上の古窯跡の側面の丘陵地にあつて、焼土および破片を多数出土するが、窯跡は破壊されて原形をとど

めていない。

出土品 江戸時代初期のもので、陶器は灰釉であるが、鉄絵のものもある。

文献 柿右エ門（昭和三四年六月一日、柿右エ門調査委員会）

四九、南川原窯の辻古窯跡

種別 古窯跡

所在地 西松浦郡有田町大字南川原一三・一一四番地（山林・畑）

概要 窯跡は畑となつてゐるが、所々に残つており、窯道具も散見される。南斜面は物原になつていて、杉の

幼木が植林されている。

出土品 江戸時代後期のもので、白磁染付、大明万暦年製・成化年製の銘のある竜・山水・唐草模様などがある。

文献 柿右エ門（昭和三四年六月一日、柿右エ門調査委員会）

五〇、柿右エ門古窯跡

種別 古窯跡

所在地 西松浦郡有田町大字南川原字梨の木原三七四番地（畑）

概要 畑と化しているが、西向の傾斜を利用して築窯してあることが、焼土によつて判明する。西斜面の雑木

出土品
林に道具類や破片など散乱しているので、物原であったと思われるが、破片は案外少なく、すでに採集されてしまったのではないかと推定される。

江戸時代初期から中期までのもので、にこし手の破片多数、柿右エ門風の染付が出ている。また、青磁の薄手のものもある。

文献
柿右エ門（昭和三四年六月一日、柿右エ門調査委員会）

五一、源右エ門古窯跡

種別
古窯跡

所在地
西松浦郡有田町大字南川原字幕之頭（マクントウ）七七六イロ（山林・水田）

概要
窯跡は小松林の中の南斜面にある。物原は道路と水田の間の水路の底になっているらしく、そこから破片が出ている。道路工事、水田工事の際埋められたものと推定される。

出土品
室町・桃山時代より江戸時代初期に及ぶものと推定され、陶器の天目釉の瓶が主で、碗類も出ている。

文献
柿右エ門（昭和三四年六月一日、柿右エ門調査委員会）

五二、樋口古窯跡

種別
古窯跡

所在地
西松浦郡有田町大字南川原字幕之頭（マクントウ）七六二番地（山林・畑）

概要

樋口助太郎氏宅の西側の東斜面に窯跡があり、上段と下段に焼土が多量に残っている所から判断すると、上下にあったものと思われる。東西両斜面の雑木林が物原である。

出土品

江戸時代初期より中期におよぶものと推定される陶器および白磁に天目釉の酒瓶・碗類、白磁染付など各種のものが出土している。

文献

柿右エ門（昭和三四年六月一日、柿右エ門調査委員会）

五三、ムクロ谷古窯跡

種別

古窯跡

所在地

西松浦郡有田町大字南川原小字ムクロ谷五八九番地（山林）

概要

標高八〇米の北斜面に築窯されていて、浅い井戸のある所が陶工の住居跡らしい。その西斜面の雑木林が物原である。この窯跡の下に川が流れ急斜面をなしている。

文献

柿右エ門（昭和三四年六月一日、柿右エ門調査委員会）

五四、枳藪古窯跡

種別

古窯跡

所在地

西松浦郡有田町大字泉山四九五番地（宅地）

概要

池田忠一氏宅の裏山の南斜面を利用して築窯したらしく、窯跡は宅地になっている。付近の畑には、全

面的に破片が多数散布している。

出土品 江戸時代初期の白磁染付、日・草花・稗・山水・唐草模様で、ダミが入っているものもある。

五五、清六の辻一の古窯跡

種別 古窯跡

所在地 西松浦郡有田町大字南川原字清六一〇〇八番地

概要 標高五〇～六〇米のところにあつて、国鉄伊万里線に沿うて清六の辻の丘陵をえぐり取った所が窯跡

で、島田氏宅裏の雑木林が物原である。この窯跡は乱掘された形跡がある。

出土品 江戸時代初期の陶器、天目釉と土灰釉で、皿・碗などが主である。

文献 肥前古窯史跡付図、柿右エ門（昭和三四年六月二日、柿右エ門調査委員会）

五六、清六の辻大師堂横古窯跡

種別 古窯跡

所在地 西松浦郡有田町大字南川原字清六九六四番地（山林）

概要 標高六〇米余りのところにあつて、国鉄伊万里線の南側大師堂の左手の雑木林と竹林の中にあり、乱掘の跡がある。

出土品 江戸時代初期から中期までのもので、陶器は土灰釉の食器、磁器は菊・唐草模様の染付皿が多い。

文献

肥前古窯史跡付図、柿右エ門（昭和三四年六月二一日、柿右エ門調査委員会）

五七、清六の辻二の古窯跡

種別

古窯跡

所在地

西松浦郡有田町大字南川原字清六九三一の一、二、三番地（山林）

概要

標高六〇米、清六の辻の東北斜面、竹藪の中に窯跡が残っている。右側が物原になっているが、破片は比較的少ない。

出土品

江戸時代初期の天目・土灰釉の陶器の皿および大皿類が主で、流し鉄絵のものもある。

文献

肥前古窯史跡付図、柿右エ門（昭和三四年六月二一日、柿右エ門調査委員会）

五八、広瀬向古窯跡

種別

古窯跡

所在地

西松浦郡西有田村大字大木字広瀬（畑・墓地）

概要

有田から竜門へ通ずる道路の広瀬十字路から南西約一〇〇米の地点にある共同墓地の横は、ほとんど窯跡および物原である。この窯跡の西側にも窯跡がたつらなつて、群集した相を呈している。登窯であつて、相当に乱掘された形跡が見られる。

出土品

江戸時代初期の磁器で、網目・柳・山水・草花などの染付が主であり、釉裏紅も出土している。製品は

概して素朴である。

文献

肥前古窯史跡付図

五九、広瀬小森谷古窯跡

種別

古窯跡

所在地

西松浦郡西有田村大字大木字広瀬（山林）

概要

広瀬北方の西面する小松山の傾斜面が窯跡および物原であるが、この窯跡から出土する破片は少ない。

出土品

江戸時代初期以前と推定される陶器で、土灰釉の食器。

文献

肥前古窯史跡付図

六〇、広瀬権現山古窯跡

種別

古窯跡

所在地

西松浦郡西有田村大字大木字広瀬

概要

広瀬山部落の権現社の裏にある杉山一帯に窯跡と長さ約三〇米、高さ五米におよぶ物原がある。窯跡の保存もよく、登窯の典型的なものとして価値があると考えられる。

出土品

江戸時代後期の磁器で、染付食器類が主であり、瓶も出土している。線・草花・日など多様であり、中には青磁やそばちょこ・茶碗も出ている。

文献

肥前古窯史跡付図

六一、広瀬香茸巖古窯跡

種別

古窯跡

所在地

西松浦郡西有田村大字大木字広瀬（畑）

概要

広瀬山部落の東方出はずれの台地にある畑の西斜面に位置している。窯跡の規模や構造などは明らかでないが、付近の畑に多数の破片が散在している。

出土品

江戸時代初期の磁器染付で、山呉須を用いている。草花・山水・動物の模様であり、釉裏紅も出土している。

文献

肥前古窯史跡付図

六二、原明窯の谷古窯跡

種別

古窯跡

所在地

西松浦郡西有田村大字原明字本谷（俗称カマンタニ）

概要

一〇〇米の標高線付近、起伏した丘陵地帯の北斜面を利用して築窯されている。入口付近は「つちとり場」らしい。道路から丘陵地帯にかけ窯跡、物原が連続している。

出土品

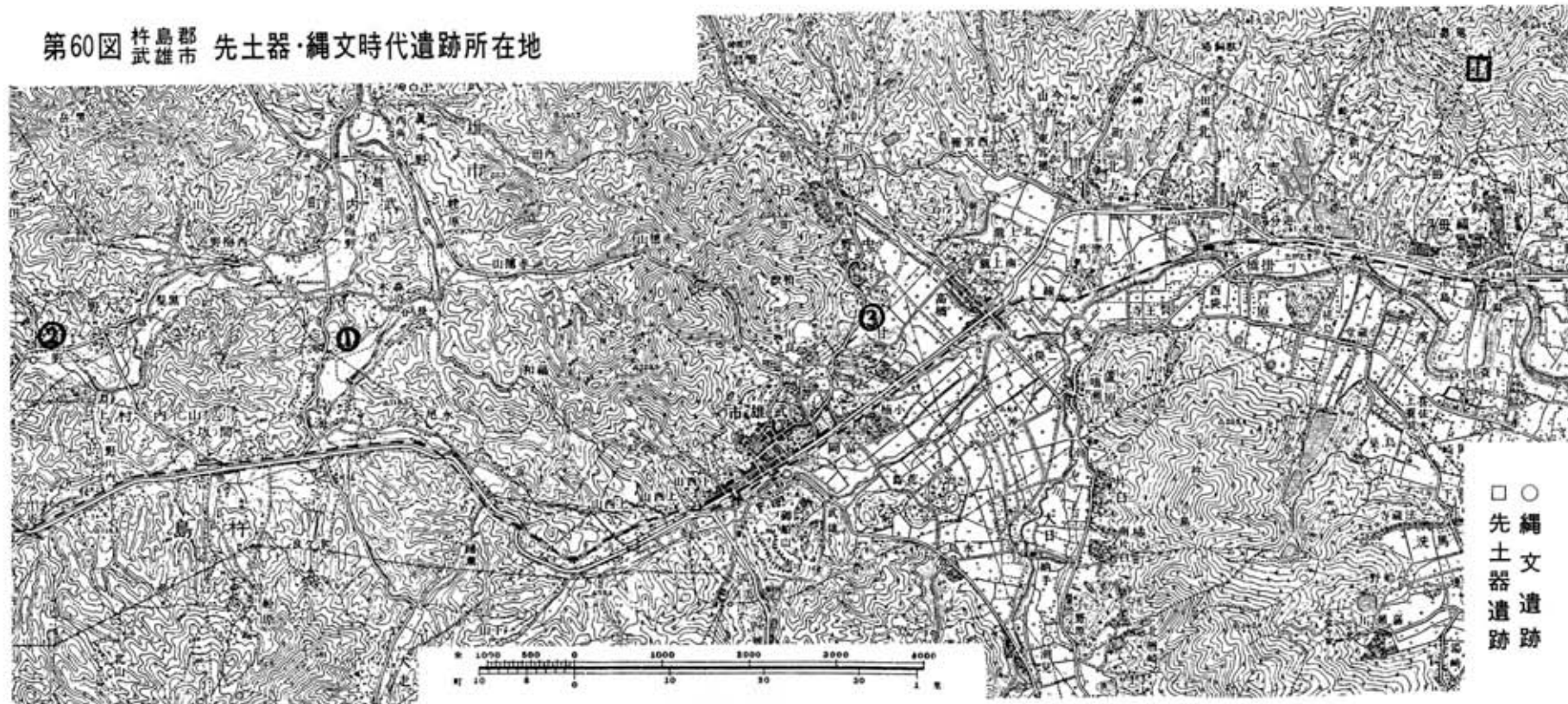
江戸時代初期の土物、灰釉が多く、食器類が主である。磁器に初期の染付の単純なものが少し出土している。

文献

肥前古窯史跡付図

杵
島
郡
・
武
雄
市

第60図 杵島郡 武雄市 先土器・縄文時代遺跡所在地



□ ○ 縄文遺跡
先土器遺跡

杵島郡 先土器時代遺跡
武雄市

一大町町鬼ノ鼻山

鬼ノ鼻先土器遺跡

一、鬼ノ鼻先土器遺跡

種別

石器埋藏地

所在地

杵島郡大町町鬼ノ鼻山（山林）

概要

標高四六七米余りの鬼ノ鼻山の頂上に近い南側山腹にある遺跡で、サヌカイドの剝片とポイントが多数発見されている。この鬼ノ鼻山には、サヌカイドの原石があり、この北麓には多久市の三年山遺跡をはじめとする多くのポイント遺跡がある。しかし、この遺跡は県内では最初に発見された先土器遺跡として記念すべき遺跡である。

出土品

ポイント・剝片（大町中学校保管）

文献

河内正治著「大町町鬼ノ鼻プレ縄文遺跡」（昭和三二年、プリント版）

杵 島 郡
武 雄 市
縄 文 時 代 遺 跡

一 山 内 町 島 海

椿 原 遺 跡

二 山 内 町 宮 野

宿 遺 跡

三 武 雄 市 朝 日 町 中 野

笹 尾 山 遺 跡

一、椿 原 遺 跡

種 別

遺物包含地

所在地

杵島郡山内町大字島海字島海一一二六番地（代）（畑）

概要

小高い山丘の頂上付近一帯が遺跡である。戦時中グライダーの滑空場となったため開墾され、現在畑となっている。ここから石器が発見されているが、遺跡の性格は明らかでない。

出土品

石器（黒髪治則氏保管）

二、宿 遺 跡

種別 遺物散布地

所在地 杵島郡山内町大字宮野字宿一〇二四番地 (畑)

概要 比高一〇米余りの所にあつて、定林寺を中心に付近一帯に石鏃が散布している。この寺の東方一帯をみ

かん園に開墾中長さ二米・高さ五〇釐にわたつて木を焼いたらしい跡が発見されたという。

出土品 石 鏃

三、笹尾山遺跡

種別 遺物散布地

所在地 武雄市朝日町大字中野字中野六三八七番地 (畑)

概要 山丘状を呈している笹尾山には、経塚・箱式石棺・古墳など各時代の遺跡が存在するが、この山丘一帯に黒曜石の石鏃も散布している。まだ関係土器は発見されていない。

出土品 石鏃 (武雄中学校保管)

杵 島 郡
武 雄 市
弥生時代遺跡

- 一 有明町 深浦
- 二 白石町 馬洗
- 三 白石町 馬洗
- 四 有明町 辺田
- 五 白石町 馬洗
- 六 白石町 堤
- 七 武雄市 朝日町 中野
- 八 武雄市 武雄町 富岡
- 九 北方町 大崎
- 一〇 武雄市 橋町 大日
- 一一 武雄市 橋町 大日
- 一二 武雄市 朝日町 甘久
- 一三 武雄市 朝日町 南上滝

- 西分 弥生遺跡
- 法藏寺 弥生遺跡
- 妻山丘陵石棺群遺跡
- 稻佐グラウンド石棺群遺跡
- 妻山甕棺遺跡
- 堤 弥生遺跡
- 笹尾山石棺遺跡
- 祇園山甕棺遺跡
- 唐人原 弥生遺跡
- 八郎社石棺遺跡
- おつぼ山南麓甕棺遺跡
- 外久保石棺遺跡
- 南上滝 弥生遺跡



一、西分弥生遺跡

種別 遺物散布地

所在地 杵島郡有明町大字深浦字笹山三三二七ノ二番地 (畑)

概要 杵島山の東南端、杵島山の裾が舌状丘陵となつてのびているその基部付近の斜面に西分古墳群がある。

この古墳群地帯から石器や土器が発見されている。縄文系の石器も含まれているかと思われるが、弥生系のものが主体をなしており、遺跡の範囲や性格などは明らかでない。

出土品 石斧四個・石匙一個(有明南中学校保管)

二、法蔵寺弥生遺跡

種別 遺物包含地

所在地 杵島郡白石町大字馬洗字上黒木二四八七番地 (畑・道路)

概要 杵島山の一角、南に面した丘陵斜面の端近くに位置している。この遺跡の至近には、甕棺・石棺・古墳

などの各種の遺跡が群在している。妻山丘陵石棺埋蔵地へ通ずる林道の断面に、土器片が多数露出している。この道路に面した畑一帯が遺跡と推定され、径二〇米余りの範囲におよんでおり、地表下五〇厘米の深さに弥生時代後期から土師器に及ぶ各種の土器が包含されているので、この遺跡は住居跡と推定される。

三 妻山丘陵石棺群遺跡

種別

石棺群埋藏遺跡

所在地

杵島郡白石町大字馬洗字妻山・林道付近（山林・道路）

概要

杵島山の北東部、南面した標高六〇米～八〇米の斜面に埋藏されている石棺群で、昭和三十六年林道建設工事中七個余りの箱式石棺が出土した。第一・二・四・五の四棺は板石を用いた組合式石棺で、第三号は石蓋土壙棺、他は破壊されていて構造は不明である。第四・五号棺および破壊された石棺から遺物が出土している。石棺の様式や出土品などから考察して、弥生時代から古墳時代におよぶ石棺群と推定される。なお道路の上下の山林中に相当数の石棺が埋藏されていると推定されている。

出土品

素環頭鉄製太刀一・鉄製太刀一・鉄斧一・鉄刀子一・土師器片一（県教育委員会および白石町大島荒市氏保管）

文献

木下之治「妻山石棺遺跡」（昭和三十七年二月号、新郷土、県文化館発行）

備考

昭和三十六年一月一七日、県教育委員会が応急調査を実施した。

四、稲佐グラウンド石棺群遺跡

種別

石棺群埋藏遺跡

（湮滅）

所在地

杵島郡有明町大字辺田字稲佐（グラウンド）

概要

杵島山丘の東山麓端、標高一〇〇〇米の所に稲佐神社があるが、その北側に稲佐グラウンドが建設されて

いる。昭和二七・二八年の建設中箱式石棺が一四個発見された。板状の扁平石をならべた組合式石棺であつて、人骨が出土したが、一個の石棺内から小形の内行花文鏡一面も発見されている。なお、この地には円墳四基もあつたが、石棺と共に破壊され、また蔵骨器や石器も出土していて、長期間にわたる遺跡であることが知られる。

出土品

内行花文鏡一面（祐徳博物館保管）

文献

松尾禎作「東肥前出土奈良時代乃至平安初期蔵骨器について」（昭和二九年三月三十一日、佐賀県文化財調査報告書第三輯）

五、妻山甕棺遺跡

種別

甕棺埋蔵遺跡

所在地

杵島郡白石町大字馬洗字上黒木二四九二ノ一・二四九三番地（山林）

概要

妻山の中腹、標高約八〇米余り、妻山神社の裏側の豊前坊登山道路と開拓道路との交差点近くが遺跡である。開拓道路建設中、多数の甕棺が出土したが、道路の断面に現在も相当数のものが露出している。甕棺は弥生時代中期の須玖式であつて、大部分が合口甕棺である。副葬品は何も発見されておらず、遺跡の範囲も明らかでない。

出土品

甕棺

種別

遺物包含地

所在地

杵島郡白石町大字堤字堤 (畑)

概要

隆城のある山塊の東北麓、須古小・中学校の西方にあたる地点の畑から、弥生式土器片や土弾が発見されている。遺跡の規模や性格は明らかでないが、一応住居跡ではないかと推定される。

七、笹尾山石棺遺跡

種別

石棺出土遺跡

(湮滅)

所在地

武雄市朝日町大字中野字中野六三八七番地 (畑)

概要

小山丘状を呈している笹尾山の中心部あたりに、経塚と同じ墳丘内に埋蔵されていた箱式石棺である。長さ一米六〇、幅四七釐、深さ四五釐で、板状の自然石で囲まれていたという。昭和二五年八月に経塚とともに発見されたもので、副葬品などは発見されていない。

文献

松尾禎作「武雄市朝日町牛の谷経塚」(昭和三二年五月三一、佐賀県文化財調査報告書第六輯)

八、祇園山弥生遺跡

種別

竊棺埋蔵遺跡

所在地

武雄市武雄町大字富岡字小楠一一七二四ノ一番地 (山林・社地)

概要

祇園山古墳のある小独立山丘である祇園山の南側中腹から単棺一個、社殿前方から合口竊棺一組がともに昭和三三年に出土している。また、山丘北側からは校庭の石垣築成中に多数の竊棺が出土したといわ

れている。三三年出土のものは、ともに須玖式であった。

出土品

単棺一個（武雄中学校保管）

九、唐人原弥生遺跡

種別

遺物散布地

所在地

杵島郡北方町大字大崎字西宮裾（畑）

概要

唐人原開拓地から弥生式甕棺片とともに、弥生系の石斧が出土している。遺物の包蔵状態や、その分布範囲は明らかでなく、また、縄文系の打製石槍も発見されている。なお、近くから古墳・石棺・蔵骨器なども発見されている。

出土品

磨製石斧一・半磨製石斧一・石槍二（祐徳博物館保管）

一〇、八郎社石棺遺跡

種別

石棺埋藏遺跡

所在地

武雄市檮町大字大日字小野原・おつぼ山（山林）

概要

おつぼ山神籠石の列石内に、八郎社と呼ばれている石祠があり、その石祠の前方に石棺の蓋石が露出している。主軸は、ほぼ南北の方向をとり、左右は各四・五個、前後は各一個の板石で囲まれた箱式石棺である。床には、大小各種の扁平石が敷き詰められており、蓋には五個の板石が用いられている。石棺

内部の長さ二米弱、幅四〇釐一八釐で、南側が著るしく狭くなっており、深さは二七釐前後である。なお、この石棺の南方、神籠石列石に接して墓地があるが、この墓地にも破壊された箱式石棺一個がある。

備考 昭和三八年八月、神籠石調査の際この石棺の調査も実施された。

一一、おつぼ山南麓甕棺遺跡

種別 甕棺埋藏遺跡

所在地 武雄市橋町大字大日字小野原・おつぼ山（山林・道路）

概要 神籠石の所在する「おつぼ山」の東麓の里道の所に数個の弥生式甕棺が露出している。道路にあるため

露出している甕棺はほとんど破損しているが須玖式のもので、石蓋甕棺も存在していたことが知られる。この甕棺の埋藏範囲は明らかでない。

一二、外久保石棺遺跡

種別 石棺埋藏遺跡（移管）

所在地 武雄市朝日町大字甘久字外久保（畑）

概要 柏嶽の山麓が西にのびて、低平な舌状台地となっている所が遺跡で、昭和三七年四月土取り作業中に発見されたものである。地山を掘り凹めて埋置された箱式石棺で、数個の板石をもって構築されていた。

備考
副葬品はなく、また、他に石棺が埋蔵されているかどうかは明らかでない。
石棺は武雄中学校に移し、保管している。

一三、南上滝弥生遺跡

種別
遺物包含地

所在地
武雄市朝日町字南上滝（畑）

概要
小独立丘を呈した斜面の畑から、昭和三五年、耕作中に弥生系の遺物が発見されている。これが出土状況や遺跡の構造などは明らかでない。

出土品
須玖式小形甕棺片・甕破片・磨製石斧（県教育委員会保管）

一四、樺島石棺出土遺跡

種別
石棺出土遺跡（遷滅）

所在地
杵島郡北方町大字芦原字西平

概要
杵島山の北方樺島部落に小独立丘がある。この独立丘に若松神社が鎮座されているが、昭和三八年二月、この神社の社殿と平地とのほぼ中間やや西寄りの傾斜面にある畑を、みかんにするための重掘り作業中に箱式石棺四基が出土した。その一基から土器が発見したが破砕され、他の一基から発見された鏡鏝一面が幸いに保存された。石棺の規模や構造など不明であるが、板石囲いの箱式石棺であったと推定

出土品

される。

方格規矩禽獸鏡一面（佐賀県教育委員会保管）



杵 島 郡
武 雄 市

古墳時代遺跡

一 有明町深浦
二 有明町深浦
三 白石町大渡
四 白石町大渡
五 白石町堤
六 白石町堤
七 北方町芦原
八 北方町芦原
九 有明町辺田
一〇 白石町馬洗
一一 有明町深浦
一二 有明町深浦
一三 白石町今泉

鬼塚古墳
西分古墳群
喜佐木古墳群
鳥の巣古墳群
かぶと塚周辺古墳群
かぶと塚古墳
芦原第一号古墳
芦原第二号古墳
稲佐古墳群
妻山古墳
竜王崎第一号古墳群
竜王崎第二号古墳群
多田遺跡

三四	武雄市武雄町富岡	一五	武雄市朝日町中野	一六	武雄市朝日町中野	一七	武雄市朝日町中野	一八	武雄市橘町鳴瀬	一九	武雄市武雄町武雄	二〇	武雄市橘町永島	二一	武雄市武雄町永島	二二	武雄市橘町大日	二三	武雄市橘町永島	二四	有明町深浦	二五	大町大町	二六	江北町山口	二七	江北町山口	二八	北方町大崎	二九	武雄市橘町大日	三〇	武雄市武雄町永島	三一	武雄市武雄町永島
----	----------	----	----------	----	----------	----	----------	----	---------	----	----------	----	---------	----	----------	----	---------	----	---------	----	-------	----	------	----	-------	----	-------	----	-------	----	---------	----	----------	----	----------

祇園山古墳	觀音山古墳	鬼塚古墳	笹尾山古墳	鳴瀬古墳群	野間古墳	玉島古墳	劍塚古墳	楠崎古墳	潮見古墳	竜王崎第三号古墳群	道金塚	土元古墳群	宮原古墳群	西宮裾古墳	南橋崎石棺遺跡	溝ノ上古墳群	溝ノ上古墳群
-------	-------	------	-------	-------	------	------	------	------	------	-----------	-----	-------	-------	-------	---------	--------	--------

三二	武雄市橋町大日	片白模造鏡出土遺跡
三三	武雄市朝日町川上	川上古墳
三四	武雄市橋町大日	おつほ山神籠石
三五	武雄市武雄町	枯木塔古墳
三六	北方町永池	勇猛寺古墳
三七	白石町船野	一の谷古墳
三八	大町大畑ヶ籠	大畑ヶ籠古墳群

一、鬼塚古墳

種別 古墳

所在地 杵島郡有明町大字深浦字町裏六一九二番地

概要

有明南中学校の東方山林中に鬼塚とよばれる古墳がある。この古墳は、杵島山の東南端の丘陵上に群在する竜王崎第二号古墳群に接続して存在している。破壊の度がひどく、封土は剝奪され、玄室の天井石もなくなっているが、副室を有する横穴式石室である。早くから開口していて、遺物などの所在は明らかでないが、当地方の代表的規模を有する古墳である。

二、西分古墳群

種別 古墳群

所在地 杵島郡有明町大字深浦字笹山 (畑)

概要 杵島山の東南端、杵島山の裾が舌状丘陵となつてのびている基部の所に綿打大明神の祠がある。この神社近くの標高六〇米余りの斜面に三基の古墳が残存している。ともに破壊の度がひどく、遺物も所蔵されてい

ないが、横穴式石室墳であつたことが確認される。また、この地には多数の古墳が築成され、古墳群が形成されていと推定される。

三、喜佐木古墳群

種別 古墳群

所在地 杵島郡白石町大字大渡字喜佐木二二〇九番地 (山林)

概要 杵島山の東北端に位置する標高六〇米余りの舌状丘陵上にある古墳群で、現在三基の円墳が残存している。中央のものが最も大きく、径一八米余りであるが、ともに内部主体は明らかでない。この三基の古墳の東南斜面から開墾中に組合せ式の箱式石棺が数個出土し、破壊されている。

四、鳥の巣古墳群

種別 古墳群

所在地 杵島郡白石町大字大渡字鳥の巣 (畑)

概要 杵島山の北端に近い標高約八〇米の東斜面に所在している古墳群である。大小各種のものがあるが、多

くは破壊されてしまっている。内部主体は横穴式石室で、側壁は小口積となっている。遺物の大部分は散失してしまっている。

出土品
鉄製太刀一口・鉄剣一口（白石町船野栗山善夫氏保管）

五、かぶと塚周辺古墳群

種別
古墳群

所在地
杵島郡白石町大字堤字船野山（畑）

概要
杵島山の一角、東方に白石平野を見下す標高二二〇米の船野山の山頂にあるかぶと塚を中心に、中腹および山麓にかけて多くの古墳が散在している。多く破壊されてしまつて、その存在を確認できるものは少ない。横穴式石室を有する小円墳であつて、遺物もほとんど保存されていないが、須恵器片が諸所に散布している。昭和三十九年三月、開墾中破壊された一の谷古墳からは、短甲・鉄製太刀・鉄刀子・鉄鏃などが発見されている。

出土品
須恵器（白石町船野栗山善夫氏保管）

六、かぶと塚古墳

種別
古墳

所在地
杵島郡白石町大字堤字船野山三七八一番地（山林・畑）

概要
杵島山の一角、東方に白石平野を見下す標高二二〇米の船野山の山頂にある古墳である。封土の径約四

備考 ○米、高さ五米余りの円墳で内部主体は不明である。墳丘中央部に落ち込みがあるので、石室が崩壊しているのではないかと考えられる。この古墳の封土内には円筒埴輪が埋置されており、埴輪を有する古墳としては県下の最西南端に位置するものとして注目され、この地方の代表的古墳として価値が高い。開墾予定地になっていたが、地元の熱意で保存されることになった。また、円筒埴輪中には、ヘラ描の文様のあるものがある。

七、芦原第一号古墳

種別 古墳

所在地 杵島郡北方町大字芦原五九二〇番地 (山林)

概要

杵島山の最北端の斜面、標高一六〇米の雑木林の中にある円墳である。封土は相当に剝奪され、石室はすでに開口している。副室を有する横穴式石室であって、羨道部が発達している。奥室は幅二米一七、奥行三米一二で側壁を持送って穹隆状に築成されているため高さは二米七七となっている。遺物は散失していて不明である。

八、芦原第二号古墳

種別 古墳

所在地 杵島郡北方町大字芦原 (畑)

概要

杵島山の最北端の東斜面、芦原第一号古墳の南方に位置している古墳である。開掘のため破壊されて、構造など明らかでないが、恐らく横穴式石室墳であろうと推定され、遺物なども明らかでない。付近には、なお相当数の古墳が存在しているというのが確認できない。恐らく群集墳の中の一基であろう。

九、稲佐古墳群

種別

古墳群

所在地

杵島郡有明町大字辺田字稲佐（山林）

概要

杵島山の東斜面の標高一〇〇米の所に稲佐神社がある。この稲佐神社の周辺に数基の古墳が点在しているが、すべて円墳であつて、中には処女墳も含まれている。稲佐グラウンドにあつた円墳四基は、昭和二七・二八年のグラウンド建設中に破壊されている。座主坊の敷地内にある開口した一基は、封土は相当地に剝奪されているが、石室はよく保存されている。副室を有する横穴式石室で、一種の巨石墳であり、石室の全長八米九四、奥室一米八〇、前室四米八八、前室が著るしく発達している。遺物は保存されていない。

出土品

鉄製太刀一口（稲佐グラウンド親塚出土）（稲佐神社保管）

一〇、妻山古墳

種別

古墳

所在地

杵島郡白石町大字馬洗字上黒木二五五四ノ一番地（山林）

概要

標高約八〇米、妻山薨棺遺跡の至近くにあつて、俗に円通古墳と呼ぶ二基の並列している横穴式石室を有する円墳である。西側の古墳は、玄室の幅二米三四、奥行三米二、羨道の奥行二米三二である。東側の古墳は、玄室の幅一米七〇、奥行四米三八、羨道二米六六。東側の玄室奥壁には、石棚が設けられている。封土は相当に流出して、天井石が一部露出しているが、石室はよく保存されており、この地方の代表的古墳として価値が高い。ともに早く盗掘され、副葬品は保存されていない。

備考

東側古墳石室入口に、江戸時代に「円通」と大きく陰刻されている。

一一、龍王崎第一号古墳群

種別

古墳群

所在地

杵島郡有明町大字深浦字龍王山六一一四番地（畑）

概要

杵島山の東南端、舌状丘陵の突端に海童神社があるが、その背後の標高約三〇米余りの丘陵上に数基の古墳がある。すべて径一〇米余り封土を有する円墳で、既に破壊されたものもあるが、三基余り処女墳も存在している。内部主体は横穴式石室ばかりではないかと推定され、破壊古墳の遺物は散失していて明らかでない。

一二、龍王崎第二号古墳群

所在地 杵島郡有明町大字深浦字平山・地平五七七七ノ二番地 (山林・畑)
概要 杵島山東南端、竜王崎第一号古墳の西方に位置していて、有明南中学の南側一帯の丘陵に群集している
十数基におよぶ古墳群である。既に破壊されたものもあつて、その数は明らかでないが、まだ処女墳も
いくらか残存している。すべて小形の円墳であつて、内部主体は横穴式石室と推定され、遺物は多く散
失している。

一三、多田遺跡

種別 遺物包含地

所在地 杵島郡白石町大字今泉字多田五五三番地 (畑)

概要 白石平野の平坦地にある遺跡であつて、梅香寺の近くの畑地にある。土鍾や各種の土器類が多数出土し
ているが、土器は土師器や須恵器を主としているので、古墳時代後期頃を中心とする遺跡であろうと推
定される。この遺跡が住居跡であるかどうかは明らかでない。

出土品 須恵器・土師器など各種の土器 (白石町福田八坂神社保管)

一四、祇園山古墳

種別 古墳群

所在地 武雄市武雄町大字富岡字小楠一二七二四ノ一番地 (山林・社地)

概要

標高二〇米余りの小独立山丘で、祇園社が奉祠してある。この神社横に一基の古墳があつたが、昭和三〇年八月発掘された。封土は削平されていて明らかでなく、内部主体は横穴式石室であるが、極めて規模の小さいものであつた。この地には他にも小墳が二・三基存在しているらしく、また、弥生時代の甕棺も埋蔵されている。

出土品

鉄刀子・鉄鐮・鉄鎌（祐徳博物館保管）

備考

昭和三〇年八月一七日、武雄市歴史研究会が発掘調査を実施した。

一五、観音山古墳

種別

古墳

（湮滅）

所在地

武雄市朝日町大字中野字中野五九六七番地（宅地）

概要

山麓の平地に築かれている封土の径五米、高さ三米余りの円墳で、宅地になすため整地中発見されたものである。石室は完全に破壊されて、その材石の一個に仏像を刻み祭祀してある。鉄剣や玉類が出土したらしいが、所在不明である。

一六、鬼塚古墳

種別

古墳

所在地

武雄市朝日町大字中野字川上一〇三〇〇番地（山林）

概要

標高六〇米の小独立山丘の頂上に位置している円墳である。内部主体は横穴式石室であつて、玄室の幅一米九〇、奥行二米三〇、高さ一米九〇、羨道は土砂が埋まつていて、その大きさを明らかにすることができない。既に盗掘にあつており、副葬品は存在しない。

一七、笹尾山古墳

種別

古墳

所在地

武雄市朝日町大字中野字中野六三八七番地（畑）

概要

小山丘状を呈している笹尾山の中心部あたりに、経塚と箱式石棺を内蔵していた墳丘と並んでいる円墳である。径一五米、高さ二米二〇余りであるが、内部主体については明らかでない。

一八、鳴瀬古墳群

種別

古墳群

所在地

武雄市橋町大字芦原字鳴瀬（山林）

概要

杵島山北方の西斜面、山麓に近い所に鳴瀬神社がある。その境内に数基の古墳が散在している。いずれも規模の小さい円墳であつて、盗掘破壊されており、遺物についても知ることができない。

一九、野間古墳

種別

古墳

（湮滅）

呼ばれていたという。



第63図 玉島古墳

所在地 武雄市武雄町大字武雄字四十九重四五三番地(畑)
概要 山谷の所に突き出た山裾の先端の所にある盗掘墳
で、封土は径五米、高さ二米余りと推定される小円

墳である。内部主体は不明であつて、鉄剣・管玉・
馬鐙などが出土したらしいが、散失している。山の
中腹に自然石が立っており、そこも古墳であると土
地の人はいうが、明らかではない。

二〇、玉島古墳

種別 古墳

所在地 武雄市橋町大字永島字檜崎六九〇七ノ三番地

(畑)

概要 山麓至近の水田中に築成されている円墳で、封土の
径二五米、高さ一〇米、この地方における代表的古
墳である。封土上は畑となつて耕作されているが、
内部主体は不明である。以前は霊島(たましま)と

二一、劍塚古墳

種別 古墳

(湮滅)

所在地 武雄市武雄町大字永島字山田一六一六八番地 (畑)

概要 池の内溜池の東側にあたる斜面にあつた古墳で、昭和九年に発掘され、石室も破壊されてしまつてゐる。古墳の構造や規模などは全く不明であるが、出土品は古墳のあつた所に祭壇を作つて埋置してある。鉄剣が出たので劍塚と呼ぶようになったという。

二二、檜崎古墳

種別 古墳

所在地 武雄市橘町大字大日字北檜崎八〇二三番地 (山林)

概要 杵島山の西山麓の雑木林の中にある封土の径一〇米、高さ三米の円墳である。内部主体は副室を有する

横穴式石室であつて、側壁は持送つて穹隆状に築かれている。早くから開口していらしく、副葬品は何も保存されていない。

二三、潮見古墳

種別 古墳

所在地 武雄市橘町大字永島字潮見 (山林)

概要

潮見山の東山麓に近い斜面にある円墳で、昭和三十一年三月一日日山道建設中に発見されたものである。封土はあまり顕著でなく、内部主体は横穴式石室となっている。羨道の一部は破壊されたが、玄室は完全に残されている。付近にもまだ円墳が存在しているといわれている。

出土品

須恵器壺・馬鐸・挂甲・鉄製太刀・五鈴付杏葉・鉄刀子・雲珠・冠・銅鏡・鏡板（祐徳博物館保管）

二四、竜王崎第三号古墳群

種別

古墳

所在地

杵島郡有明町大字深浦五九七三番地（山林・畑）

概要

杵島山の東南端の低丘陵上にある円墳群で、数十年前一基は破壊され鉄刀子が出土したという。昭和三十六年三月、みかん苗植栽中更に一基が発見され破壊された。この古墳の封土は剝奪されていて不明であるが、石室は縦三米二五、横二米余りの横穴式石室で、奥壁にそって蓋のある組合石棺一個、更に石棺にそうて石敷の屍床一個が設けられており、石室床面は小石敷となっている。この破壊古墳の西方二五米の所に開口されない小円墳一基が現存している。

出土品

須恵器甕・玉類一〇〇余・大形勾玉一・鉄刀子二〇余（有明町深浦 野口史郎氏保管）

二五、道金塚

種別

古墳

所在地

杵島郡大町町大字大町字道金町 (畑)

概要

標高四六七米の聖ヶ岳の南麓、標高約一〇米の低丘陵にある古墳で、早く破壊されて封土も石室の上部も欠失していた。昭和三〇年四月土取り作業中に石室の基礎の部分が発見されたので、調査されたものである。巨石を用いた横穴式石室で玄室の広さは三米一〇×一米九三、羨道は幅一米四〇、長さは不明。敷石床となっている。

出土品

耳環五・勾玉五・管玉六・切子玉三・白玉・丸玉・小玉一二〇・変形玉一・鉄製馬具二・鉄釘二・土師器片・須恵器片 (大町中学校保管)

文献

木下之治「道金塚古墳」(昭和三〇年一月二五日、大磨智第一号・大磨智郷土史研究会)

二六、土元古墳群

種別

古墳群

所在地

杵島郡江北町大字山口字土元 (山林・畑)

概要

御嶽山の西山腹、標高一二〇米前後の所に築成されている三基の古墳で、中一基は処女墳である。一基は開口、破損しており、残りの一基は、昭和三七年四月開掘によって破壊された。遺物はこの破壊古墳から出土したものである。その他以前に勾玉を内蔵した石棺が破壊されたとも伝え、相当数の古墳が存在していたことが推察される。横穴式石室を有する小円墳であって、この古墳群の北方やや西寄りに宮原古墳群がある。

出土品

鉄刀一・勾玉一・須恵器・土師器 (県教育委員会保管)

二七、宮原古墳群

種別

古墳群

(湮滅)

所在地

杵島郡江北町大字山口字門前・宮原

(密柑園)

概要

標高二七・一米の大平山の西南方中腹の斜面に築成されている五基の円墳である。すべて横穴式石室を有する小円墳で、昭和二九年四月、みかん園造成のため破壊されつつあったので、県教育委員会が三基を応急調査したものである。縦二米一〇、横一米一〇余りの玄室を有しており、石組も粗雑で天井石はすべて落下していた。

出土品

耳環三・鉄刀片二・須恵器六・土師器四

(白石高等学校保管)

二八、西宮裾古墳

種別

古墳

(湮滅)

所在地

杵島郡北方町大字大崎字西宮裾

(畑)

概要

山麓に近い低丘陵地にある横穴式石室を有する小円墳であつて、すでに破壊されていて、規模や構造などは明らかでない。耳環二個が発見されており、封土上付近ら青磁二個体分が出土している。また、付近から平安時代と推定される蔵骨器一個および箱式石棺一個が出土している。

出土品

耳環二・青磁二(祐徳博物館保管)

二九、南檜崎石棺遺跡

種別 石棺埋藏地 (移管)

所在地 武雄市橋町大字大日字南檜崎 (畑)

概要 杵島山の山麓、標高五〇米余りの台地にあつて、里道によつて生じた切通しの西側にある。縦一米八五、

横三〇厘、四三厘、深さ三〇厘余りの箱式石棺で、粘土床となつてゐるが、一端に扁平な枕石が設けられてゐる。この石棺は、側壁が板石の二重囲いになつてゐるという点に特色があり、その側石間には粘土が充填してあつた。また、石棺の半分に鉄丹が塗布されており、副葬品はなかつた。

備考 石棺は、武雄市橋小学校に移転し、復原して保存されてゐる。

三〇、溝ノ上西古墳群

種別 古墳群

所在地 武雄市武雄町大字永島字溝の上・勝負谷 (山林・畑)

概要 南面する山麓の端近い斜面にあつて、溝の上古墳群と小谷を距てて西に位置してゐる。恐らく同一古墳群に属するものであらう。既に破壊された古墳の石材も見られるが、畑中に一基天井石が落下した円墳

が残存してゐる。径二〇米余りの封土を有する円墳で、この溝の上地区では最大の規模を有するもので

ある。

三一、溝ノ上古墳群

種別

古墳群

(湮滅)

所在地

武雄市武雄町大字永島字溝の上・勝負谷 (山林・畑)

概要

南面する山麓の端に近い斜面に群在している約一八基あまりの小円墳である。内部主体は小規模な横穴式石室で側壁は小口積、敷石床である。玄室の長さ二米九〇、幅一米三〇～八五〇、羨道の長さ一米四〇、幅一米四五～五五〇のものが最大で、その形態には特色がある。この古墳群は、昭和三七年五月中に発見され、破壊されたものである。

出土品

管玉・小玉・鉄刀子・鉄刀・鉄鏃(武雄市教育委員会保管)

備考

昭和三七年五月、武雄市および県教育委員会が共催して緊急調査を実施したが、それ以前に既に破壊されたものが二・三基あったと推定される。

三二、片白模造鏡出土遺跡

種別

遺物出土遺跡

所在地

武雄市橘町大字大日字片白 (水田)

概要

杵島山の西麓、潮見川のほとりにある水田中から、昭和三六年三月、排水溝作業中出土した遺物で、出

出土品
土状態や遺構などは明らかでない。径一〇厘六の滑石製で、表面平滑、背面に鈕座の造り出しがある点から模造鏡と推定される。出土地は、流出によるものか、遺跡であるのか不明である。
滑石製模造鏡一面（武雄市朝日町中村畔松氏保管）

三三、川上 古墳

種別 古墳

所在地 武雄市朝日町字川上（畑）

概要 山麓に近い低丘陵上に築かれた小円墳で、昭和三十一年一月に調査された。封土はあまり顕著でなく、

内部主体は封土中央下に営まれた一個の箱式石棺である。側石は小口積で、蓋石は數個の板石が用いられており、一種の小形竪穴式石室とも見られるものである。石室内から鉄刀子一個が発見された。

出土品 鉄刀子一個（県教育委員会保管）

三四、おつば山神籠石

種別 神籠石

所在地 武雄市橘町大字大日字小野原おつば山

概要 昭和三十七年、全国で第八番目に発見された神籠石であり、また、神籠石として学術的調査の実施された最初のものである。杵島山の西方に派出して、半独立丘を呈しているおつば山を囲む列石線の延長



第84図 おつぼ山神籠石

出土品

は一八〇〇米余りで、その中、一九〇米は破壊され、五七四米は欠失している。門址二カ所、水門址二カ所（四カ所に存在していたことが確認されている）・土塁一カ所などの調査が重点的に実施され、その構造が明らかにされた。調査の結果は、神籠石研究史上注目すべき多くの事実を明らかにしたが、特に、列石の前面に木柵が設けられていたことや、すべて一定の尺度をもって構築されていることなどが究明され、この神籠石は朝鮮式山城の影響を受けた山城跡であることを確認に至ったこの成果は、高く評価されるべきものである。この神籠石築成の絶対年代を知る資料や、列石線内部の遺構などは明らかにされなかったが、出土した土器などから見て、やはりその築成年代は従来の説のとおり古墳時代後期と見るべきであろう。

須恵器・土師器その他の土器片・木柵遺物

文献
備考

昭和三九年度に「おっぱ山神籠石調査報告書」が、武雄市および佐賀県から発行される予定。
昭和三七年度に航空写真による地図作製、昭和三八年度に発掘調査が、国庫および県費の補助金を受けて
武雄市によって実施され、調査には九州大学考古学教室がたった。

三五、枯木塔古墳

種別

古墳

(湮滅)

所在地

武雄市武雄町枯木塔

概要

御船山の西麓を通る国道三四号線の西方約一〇〇米、園田病院の裏側の低丘陵斜面にあった古墳である。昭和三八年六月、病院敷地の拡張工事中にブルドーザによって破壊された。封土や石室の規模は明らかでないが、現場の状態から見て、横穴式石室を有する小円墳であったと推定される。副葬品の一部が検出されているが、その副葬品から見て、古墳時代末期の古墳であつたろうと思われる。

出土品

丸玉六個・小玉五個・土師器片一個・須恵器片一個・鉄刀子片一個(園田病院保管)

三六、勇猛寺古墳

種別

古墳

所在地

杵島郡北方町永池勇猛寺

概要

杵島山の山腹にある月輪山勇猛寺の近くにある古墳で、封土・石室ともに相当に破壊されている。封土



第85図 勇猛寺古墳中央石室

は、東西径二〇米、南北径一〇米であつて、南北面が著るしく破壊されている。この古墳には、南に開口した横穴式石室が三室、ほぼ五米間隔に平行して築成されている。東石室が最も規模が大きく、西石室が一番小さく、東西両室の破壊度は大きい。最もよく保存されている中央室の玄室は、幅一米六〇、一米三〇、奥行二米前後、高さ二米で、床は石敷となつている。羨道部は、幅六〇、八〇、高さ二米で、床は石敷となつている。羨道部は、幅六〇、八〇、高さ二米で、床は石敷となつている。

長さ二米八〇余りで、相当破壊されており、その石組みも玄室に比べて粗雑である。古墳関係の遺物は西石室から僅かばかりの土器片が出土し、中央石室に比較的豊富に残存していた。ただ西石室から平安時代より鎌倉時代におよぶ土師質土器や青・白磁などが出土していることが注目される。

出土品 耳環四個・曲玉二個・管玉二個・切子玉一個・丸玉二〇個・小玉二〇個・腕輪三個・鉄鏃片若干・土師器その他の土器片若干（県教育委員会保管）

備考 昭和三八年一二月、県教育委員会は、北方町教育委員会や勇猛寺の協力をえて調査を実施した。

三七、一の谷古墳

種別

古墳

(湮滅)

所在地

杵島郡白石町船野一の谷

概要

南北にのびている杵島山の丘陵中腹に築成されていた古墳で、かぶと塚古墳群の中の一基である。この古墳の東北万丘陵上には、埴輪円筒を有するかぶと塚があり、谷をへだてて水堂の名をもって知られる日輪山安福寺がある。昭和三八年一月、みかん園造成中にブルトーザによって完全に破壊されてしまったため、封土や石室の規模・構造など不明であるが、幸いに副葬品の一部が採集保管された。この古墳の石室の概要を聞取りによって誌しておくことにする。

羨道については一切不明であるが、玄室の入口は閉塞されていた。玄室の幅約一米五〇、奥行約二米五〇、高さ約二米で、奥壁から約六〇厘の所に奥壁に平行して高さ三〇厘の板石を立てならべて屍床が設けられていた。床は石敷で、壁は小口石積みであり、奥壁に一カ所、左右壁に二カ所づつ石の突起が設けられていて、その突起にそれぞれ鉄製太刀がおかれ、石室中央に短甲がおかれていた。

出土品

短甲一具・鉄製太刀五口・鉄剣一口・鉄鋒一口・鉄鍔片若干(県教育委員会保管)

三八、大畑ケ籠古墳群

種別

古墳群

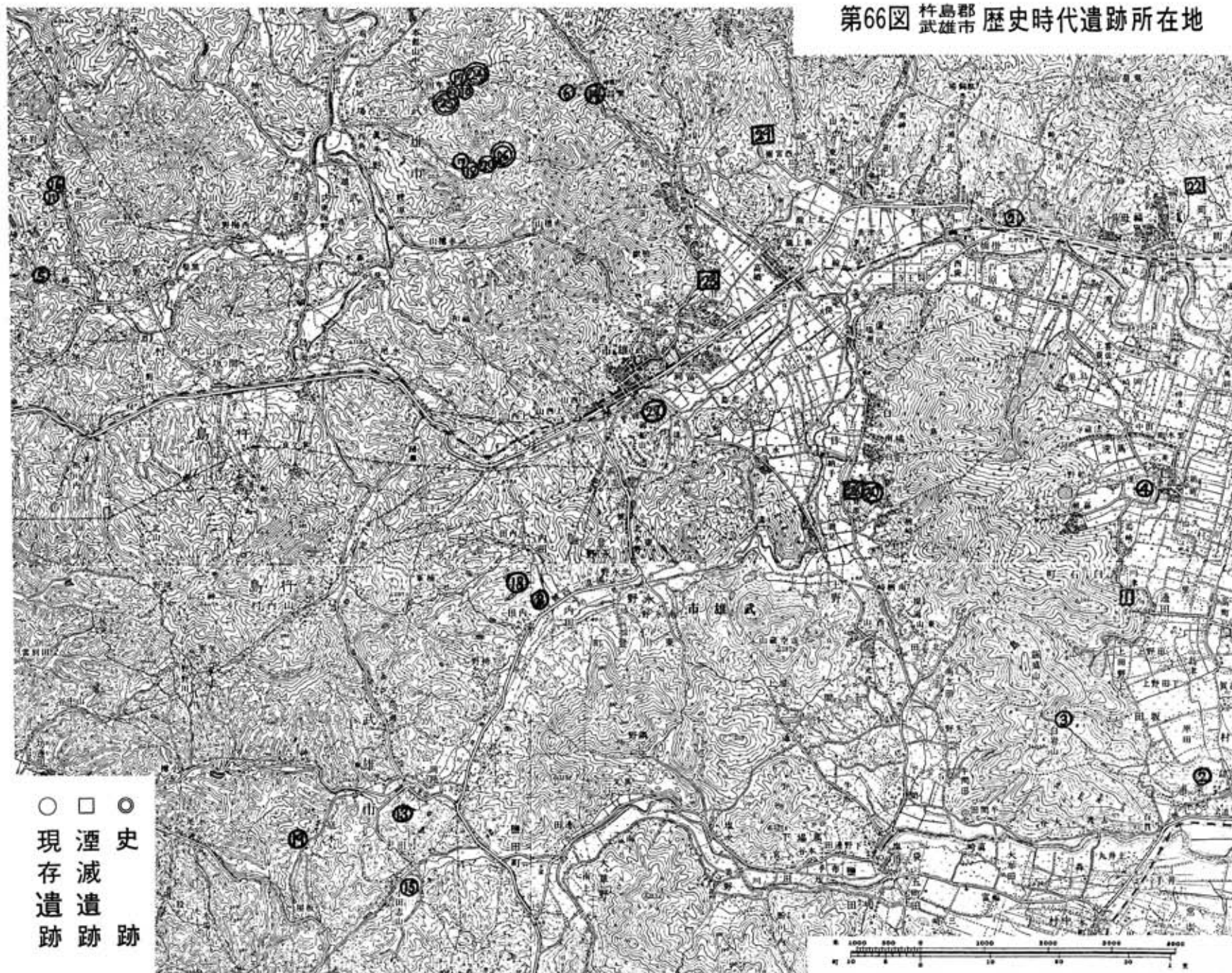
所在地

杵島郡大町町大畑ケ籠

概要

鬼ノ鼻山の南麓、標高約七〇米の丘陵地に、約二〇基余りの古墳群がある。この大部分は石室が崩壊しており、数基は盗掘されている。古墳時代後期の横穴式石室を有する小円墳の群集墳である。

第66図 杵島郡 武雄市 歴史時代遺跡所在地



杵 島 郡
武 雄 市
歴 史 時 代 遺 跡

一 有明町 辺田
二 有明町 深浦
三 有明町 深浦
四 白石町 堤
五 山内町 宮野
六 武雄市 若木町 川古
七 武雄市 武内町 真手野
八 武雄市 東川 登町 永野
九 武雄市 武内町 真手野
一〇 武雄市 武内町 真手野
一一 山内町 宮野
一二 武雄市 武内町 真手野
一三 武雄市 西川 登町 小田 志

稻佐藏骨器出土遺跡
六通寺 廃寺跡
白岩山 星石遺構
隆城跡
住吉城跡
川古谷 古窯跡
古湯 古窯跡
忠平谷 古窯跡
向古窯跡群
庵の 下古窯跡
岩石山上 葉(釉)穴跡
吉谷 古窯跡
弓野 古窯跡

- 一四 武雄市朝日町中野
- 一五 武雄市西川登町小田志
- 一六 山内町宮野
- 一七 武雄市武内町真手野
- 一八 武雄市東川登町永野
- 一九 武雄市西川登町神六
- 二〇 武雄市武内町真手野
- 二一 北方町志久
- 二二 大町町大谷口
- 二三 武雄市朝日町中野
- 二四 武雄市武内町真手野
- 二五 武雄市武内町真手野
- 二六 武雄市武内町真手野
- 二七 武雄市武雄町武雄
- 二八 武雄市橘町小野原
- 二九 北方町大字大崎
- 三〇 武雄市橘町大日

- 繁昌古窯跡
- 小田志古窯跡群
- 筒江古窯跡
- 幸平古窯跡
- 皿屋古窯跡
- 庭木古窯跡群
- 古屋敷古窯跡
- 北方宗判山経塚
- 仏法堤経塚
- 笹尾山経塚
- 靖谷古窯跡
- 土師場物原山
- 小峠古窯跡
- 武雄高等学校内古窯跡
- 橘小学校応永銘硯出土遺跡
- 西宮裾藏骨器出土遺跡
- 鞆山神社経塚

一、稲佐藏骨器出土遺跡

種別

藏骨器出土遺跡

(湮滅)

所在地

杵島郡有明町大字辺田字稲佐

概要

杵島山丘の東端、標高一〇〇米の所に稲佐神社があるが、その北側に昭和二七・二八年グラウンド建設工事中、多数の石棺とともに藏骨器一個が出土した。須恵器質の甕で、木炭や灰にかこまれていたといわれる。また、昭和三七年、林道工事中に須恵器質の藏骨器一個が稲佐神社境内から出土している。

出土品

須恵器質の藏骨器二個(祐徳博物館および稲佐神社保管)

文献

松尾禎作「東肥前出土奈良時代乃至平安初期藏骨器」(昭和二九年三月三十一日、佐賀県文化財調査報告書第三輯)

二、六通寺廃寺跡

種別

寺院跡

所在地

杵島郡有明町大字深浦字六通寺 (山林)

概要

杵島山の東南端に位置する標高八四米四〇の丘陵上にあつて、付近には石塔婆が散在している。この近くに種子を刻んだ巨石や六地藏尊があり、東側は平坦な場所が続き、雑木林中に礎石らしいものが散見される。遺瓦は発見されず、寺伝もないため、創建年代も明らかでないが、山岳寺院の寺跡であろう。

出土品

六地藏尊(一体)「和屋普公禪定尼・天文十白戊戌月十一日」の銘がある。梵字石(一箇)

三、白岩山壘石遺構

種別 壘石遺構

所在地 杵島郡有明町大字深浦字坂田白岩山（山林・畑）

概要

杵島山丘の南端近くにある標高三四〇米の白岩山の中腹、標高二四〇米の所には東西の方向に壘石線がある。壘石線は二列に並び、その両側は傾斜をなして谷となり、内側は比較的平坦で南に傾斜し、みかん園となっている。高さ二米〜三米、巨石を縦に並べ、または積み重ねてあり、その延長は現在七六米余り確認される。遺構の年代や性格は不明であるが、牧場の囲いの跡かと思われる。これに類似した遺構は、伊万里市東山代町日南郷にある。

四、隆城跡

種別 城跡

所在地 杵島郡白石町大字堤字堤一五一七番地

概要

杵島山の東側山麓の平地にある火山岩の独立山塊である。標高一九米で頂上は平坦な地形をなし、一角に巨岩が併立している。周囲に濠をめぐらし、北に大手門の跡をとどめており、東に乱れ橋を通じて、小島城に結ぶ地形は今に昔を偲ぶことができる。戦国時代、平井経治の居城であったが、竜造寺隆信の来襲を受け、天正二年に落城した。付近から遺瓦が出土する。

五、住吉城跡

種別 城跡

所在地 杵島郡山内町大字宮野字小路四〇六ノ一番地（山林）

概要 黒髪山麓に築かれた塚崎地頭後藤氏数代の居城跡である。本丸の跡は、七三米四方、周囲に深さ、幅とも二米五〇余りの空濠の跡がある。元永年間、三代後藤資明が築城したものといわれ、遺瓦が出土する。

六、川古谷古窯跡

種別 古窯跡

所在地 武雄市若木町大字川古字川古山中二〇一三五番地（山林・畑）

概要 川古山中から西へ約一杆余りの所、丘陵端の斜面に谷を挟んで、三基の窯跡がある。一基は開鑿のため破壊されている。この窯跡の築成年代は明らかでない。

文献 中島浩気著「肥前陶磁史」（昭和三〇年六月一日、肥前陶磁史刊行会）

七、古湯古窯跡

種別 古窯跡

所在地 武雄市武内町大字眞手野字内田二四三二六ノ二番地（畑）

概要 内田系の窯跡としては、最も西方に位置している。現在畑となつてゐるため、窯跡の規模や構造を明らかにすることはできない。

八、忠平谷古窯跡

種別 古窯跡

所在地 武雄市東川登町大字永野字内田六一三八番地 (山林)

概要 明治になつてから土族が開窯したといわれる築成年代の新しい窯跡である。しかも窯付近に学校が建てられ、学校への通学道路となつたため、短期間しか使用されていない窯跡である。

出土品 白磁に呉須の絵付鉢(田栗好隆氏保管)

九、向古窯跡群

種別 古窯跡群

所在地 武雄市武内町大字真手野字黒牟田二四七六〇番地 (畑)

概要 史跡に指定されている「土師場物原山」の西方一帯に多くの窯跡があるが、畑作によつて壊され、その位置や規模を明らかにすることができない。

一〇、庵の下古窯跡

種別 古窯跡

所在地 武雄市武内町大字真手野字黒牟田二四九三五番地 (畑)
概要 窯としては最も規模の小さいものであつて、相当に破壊されており、原状は明らかでない。

一、岩石山上薬(柚)穴跡

種別 窯関係遺跡

所在地 杵島郡山内町大字宮野字筒江一九一ノ一九番地 (山林)

概要 筒江窯跡の西方に、岩石山と呼ばれている山があつて、その奥に入口一〇米位の洞窟がある。昔からワ

クスイ穴と呼ばれているので、窯と関係のある遺跡であろうと推定される。

二、吉谷古窯跡

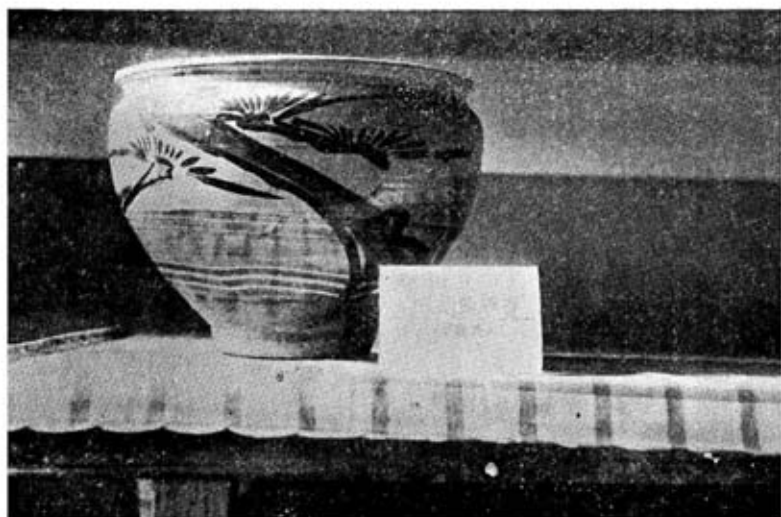
種別 古窯跡

所在地 武雄市武内町大字真手野字内田二四三六二番地 (山林)

概要 史跡に指定されている大谷窯跡西側の山谷の山裾にある窯跡で、規模は大きく、比較的によく原状をとどめているようである。

一三、弓野古窯群

種別 古窯跡



第67図 弓野古窯製品

所在地 武雄市西川登町大字小田志字弓野一四九六一番

地 (畑)

概要 標高五〇米余りの山麓斜面に数基の窯跡が築成

されている。窯跡が畑となつてゐるため破壊の

度が進み、その位置も規模も明らかでない。近

くの谷間に規模の大きい物原が残つてゐる。こ

この窯跡は、武雄南部系に属するものである。

文献 中島浩気著「肥前陶磁史」(昭和三〇年六月一

日、肥前陶磁史刊行会)

一四、繁昌古窯跡

種別 古窯跡

所在地 武雄市朝日町大字中野字繁昌一〇五四番地

(畑)

概要 山麓斜面に築成された二基の登り窯跡である。

若木町川古谷窯と一連をなす武雄北部系の窯跡

で、現在のこの窯跡の所は果樹園になつており、

破壊の度が進んでいる。

一五、小田志古窯跡群

種別

古窯跡群

所在地

武雄市西川登町大字小田志字小田志一九三四〇～一九三七一番地（山林・畑）

概要

かつては有田とならぶ窯業地であつたらしく、この部落一帯、至る所に数十基の窯跡がある。中には二五連合窯もあり、秘伝とされている「含珠焼」の窯跡もある。武雄南部系の窯跡である。

出土品

古いのは、高麗焼的な壺・鉢など。新しいのは、白磁の皿が多い。（西川登小学校他保管）

文献

中島浩気著「肥前陶磁史」（昭和三〇年六月一日、肥前陶磁史刊行会）

一六、筒江古窯跡

種別

古窯跡

所在地

杵臼郡山内町大字宮野字筒江三九四三～三九四五番地（畑）

概要

小高い丘陵斜面に築成されている温座六間の窯跡である。碑に宝永五年に再興したとあり、明治年間まで焼いていたらしい。規模も大きく比較的によく保存されている。

一七、幸平古窯跡

種別

古窯跡

所在地 武雄市武内町大字真手野字黒牟田二四九四番地 (畑)
概要 窯跡であることは判明するが、畑地であるため、原型など不明である。黒牟田の窯跡には、この幸平窯跡のように規模が小さく原型の明確でないものが多い。

一八、皿屋古窯跡

種別 古窯跡

所在地 武雄市東川登町大字永野字内田七四三五番地 (畑)

概要 溜池近くの傾斜地にある窯跡であるが、盗掘のため破壊されてしまつて、その規模も明らかにすることができない。

一九、庭木古窯跡群

種別 古窯跡群

所在地 武雄市西川登町大字神六字庭木二一二七二 (代表) 番地

概要 長崎県波佐見に通ずる谷の斜面に六間の温座を有する登り窯など数基の窯跡がある。現在みかん園となつてゐるが、窯跡の位置は明らかである。この窯跡も武雄南部系に属するものである。

文献 中島浩気著「肥前陶磁史」(昭和三〇年六月一日、肥前陶磁史刊行会)

二〇、古屋敷古窯跡

種別 古窯跡

所在地 武雄市武内町大字真手野字内田二四五三五番地 (畑)

概要 史跡に指定されている大谷窯跡と小峠窯跡との中間に位置していて、窯跡の原状は明らかでない。

出土品 鉄描の徳利、丸皿や角皿に蔓葉・唐画・二つ車など簡単な鉄描。飴釉や灰色釉のものが多く。

文献 中島浩気著「肥前陶磁史」(昭和三〇年六月一日、肥前陶磁史刊行会)

二一、北方宗判山経塚

種別 経塚

所在地 杵島郡北方町大字志久字追分・宗判山 (山林)

概要 佐世保線北方駅前に標高四四米の宗判山という台地があつて、鬼の鼻山に続いている。宗判山頂上のは

は中央に宗判の石碑が建っており、その下が経塚であつた場所だという。砂岩質の地山を二段に掘り下げ、経筒を安置して木炭を充填し、その上段に小石をつめ、地上に大小の石を積んであつたという。

出土品 銅製経筒一(北方町駅前真鍋政次郎氏保管)

文献 松尾・木下・松岡・「佐賀県下出土の経塚概観」(昭和三二年三月三十一日、佐賀県文化財調査報告書第

六輯)

二二、仏法堤経塚

種別 経塚 (湮滅)

所在地 杵島郡大町町大字大谷口字仏法堤

概要 鬼の鼻山の山麓に近い丘陵斜面にあるが、炭坑の坑道やボタなどのため潰跡はすっかり変貌してしまっている。この経塚は、昭和一〇年杵島鉱業所の拡張工事中偶然に発見されたもので、経塚の構造は明らかにされていない。



図 68 仏法堤経塚出土銅製経筒
(県重要文化財)

出土品 銅経筒一・滑石製外筒一 (県文化館委託保管)

出土遺物は、銅経筒と滑石製外筒とが保存されているが、銅経筒には、「奉書写供養、法華如法經、嘉保三年八月廿七日」以下勅進僧などの銘がある。

文 献

森永道雄「大町出土経筒に関する一考察」（大摩智第一号―昭和三〇年一二月、大町町郷土史研究会）
松尾・木下・松岡「佐賀県下出土の経塚概観」（佐賀県文化財調査報告書第六輯、昭和三二年五月三十一日、佐賀県教育委員会）、佐賀県の文化財（昭和三十六年三月三十一日、佐賀県教育委員会）
備 考 経塚出土品は、佐賀県重要文化財に指定。

一三、笹尾山経塚

種 別

経 塚

（湮滅）

所在地

武雄市朝日町大字中野字中野六三八七番地（畑）

概 要

小山丘状を呈している笹尾山の中心部あたりにあった経塚で、昭和二五年八月に発見されたものである。円墳状を呈している封土の中心部から出土したが、この封土内には外に箱式石棺も埋蔵されていたといわれる。

出土品

銅製銅経筒一・盒子一（祐徳博物館保管）

文 献

松尾禎作「武雄市朝日町牛の谷経塚」（昭和三二年五月三十一日、佐賀県文化財調査報告書第六輯）

一四 錆谷古窯跡

種 別

古 窯 跡

所在地

武雄市武内町大字真手野字黒牟田二四六〇〇番地（山林）

概 要

錆谷と呼ばれる丘陵斜面に築かれた登り窯で、温座一六間からなり全長約三二米、一温座は幅、奥行と

文 献
 もに約二米である。この窯は、土着していた在来の肥前一円の陶工たちの営みの跡といわれ、開窯の時期は桃山時代と推定されている。この窯跡の作品は、すべて陶器であって、作調は稚拙にして小さな角形のものが多く、ほとんど絵模様はなく、当地方では最も古い開窯であると推定されている。

山口良吾「肥前窯跡」(佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告第三輯、昭和七年三月三十一日、佐賀県)、佐賀県下の文化財(昭和三十一年三月三十一日、佐賀県教育委員会)、佐賀県の文化財(昭和三十六年三月三十一日、佐賀県教育委員会)

備考
 「肥前陶器窯跡」として、他の三窯跡等とともに一括して史跡に指定されている。

二五、土師場物原山

種 別
 物原遺跡

所在地
 武雄市武内町大字真手野字黒牟田二四七・一四ノ二番地他 (畑・原野)

概 要
 桃山時代に開窯されたと推定されている黒牟田地方の創窯以来の焼成陶器の残欠を遺棄したところで、推積して丘陵状を呈している物原の代表的なものである。出土品中、そろばん玉形の黒土瓶や青土瓶は古い様式を保っている。

文 献
 山口良吾「肥前窯跡」(佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告第三輯、昭和七年三月三十一日、佐賀県)、佐賀県下の文化財(昭和三十一年三月三十一日、佐賀県教育委員会)、佐賀県の文化財(昭和三十六年三月三十一日、佐賀県教育委員会)

備考

「肥前陶器窯跡」として、他の三窯跡とともに一括して史跡に指定されている。

二六、小峠古窯跡

種別

古窯跡

所在地

武雄市武内町大字真手野字内田二四五五六・二四五五八ノ三番地（山林）

概要

小峠という丘陵斜面に築かれた登り窯で、温座一七間からなり全長約四一米、一温座は、幅一米九四、奥行二米一五である。この窯は帰化した鮮人陶工の集団陶業の跡といわれ、桃山時代中期以降の開窯と推定されている。この窯では、唐津系陶器のほかに赤穂山長石を用いた白磁・呉須で描いた染付磁器を作り、また、俗にいう匣鉢を用いた（箱当）焼を特色としている。

文献

山口良吾「肥前窯跡」（佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告第三輯、昭和七年三月三十一日、佐賀県）、佐賀県下の文化財（昭和三十一年三月三十一日、佐賀県教育委員会）、佐賀県の文化財（昭和三十六年三月三十一日、佐賀県教育委員会）

備考

「肥前陶器窯跡」として、他の三窯跡等とともに一括して史跡に指定されている。

二七、武雄高等学校内古窯跡

種別

古窯跡

所在地

武雄市武雄町大字武雄字本小路武雄高等学校（校地）

概要

御船山の北部山麓に近い武雄高校の校地内から昭和三十六年七月、校地拡張工事中に窯跡が一基発見され

た。温座五間の登り窯で、窯壁を始め窯の遺構がよく残存しており、近くに物原も残っている。この窯跡は、旧武雄城の三の丸にあり、邑主のお庭窯であつて、化学用磁器を焼いた窯跡ではないかと推定されている。

出土品 陶磁器片（武雄市教育委員会保管）

備考 窯跡は、調査後現状のまま埋め戻し、保存されている。

二八、橘小学校応永銘硯出土遺跡

種別 遺物出土遺跡

（湮滅）

所在地 武雄市橘町字小野原・旧橘小学校

（校地）

概要

神籠石が築成されているおつば山の北麓に橘小学校がある。この地は廃寺跡であると推定されており、昭和一二・一三年頃、校地の拡張工事を実施している際地中から応永銘のある硯一個が発見された。出土状況や共伴遺物は明らかでない。硯は、縦一八釐一、横一二釐三余り、石質は赤間石で、風字硯の名残りを僅かにとどめている。

出土品 応永銘硯一個（橘小学校保管）

備考

針書銘「肥前国竜溪海、長嶋庄玉泉寺住持知全
芳岩叟硯也、于時応永三十五年甲辰三月十八日」

二九、西宮裾藏骨器出土遺跡

種別

藏骨器出土遺跡

(湮滅)

所在地

杵島郡北方町大字大崎字西宮裾 (畑)

概要

山麓の丘陵地から藏骨器一個が出土している。藏骨器は須恵質の白色を帯びた焼成の悪いもので、肩の張った徳利形で頸の上部が打欠かれ肩部に把手がついている。出土状況は明らかでない。

出土品

藏骨器一個 (祐徳博物館保管)

三〇、韮山神社経塚

種別

経塚出土地

所在地

武雄市橘町大字大日字小野原おつぼ山

概要

おつぼ山神籠石の列石線外、橘小学校の上方に韮山神社の石祠がある。その石祠前に経塚は営まれているもので、地山を掘り凹めた中に銅製経筒を安置して木炭を周囲に充填し、一個の扁平巨石を上にかぶせてあった。

経筒は銅製で、宝珠形のつまみのついた蓋を含めての総高三〇厘二である。筒部は、径七厘四弱の円筒形で、蓋は二段になった笠形、底は上底となっている。

なお、この経塚から至近の列石線内部にも、経塚が発見されているが、すでに盗掘され、遺物は存在していない。

出土品
備考

銅製経筒一個（武雄市教育委員会保管）

昭和三八年七月、おつぼ山神籠石の調査にあたっていた九州大学考古学教室によって発見され、調査された。

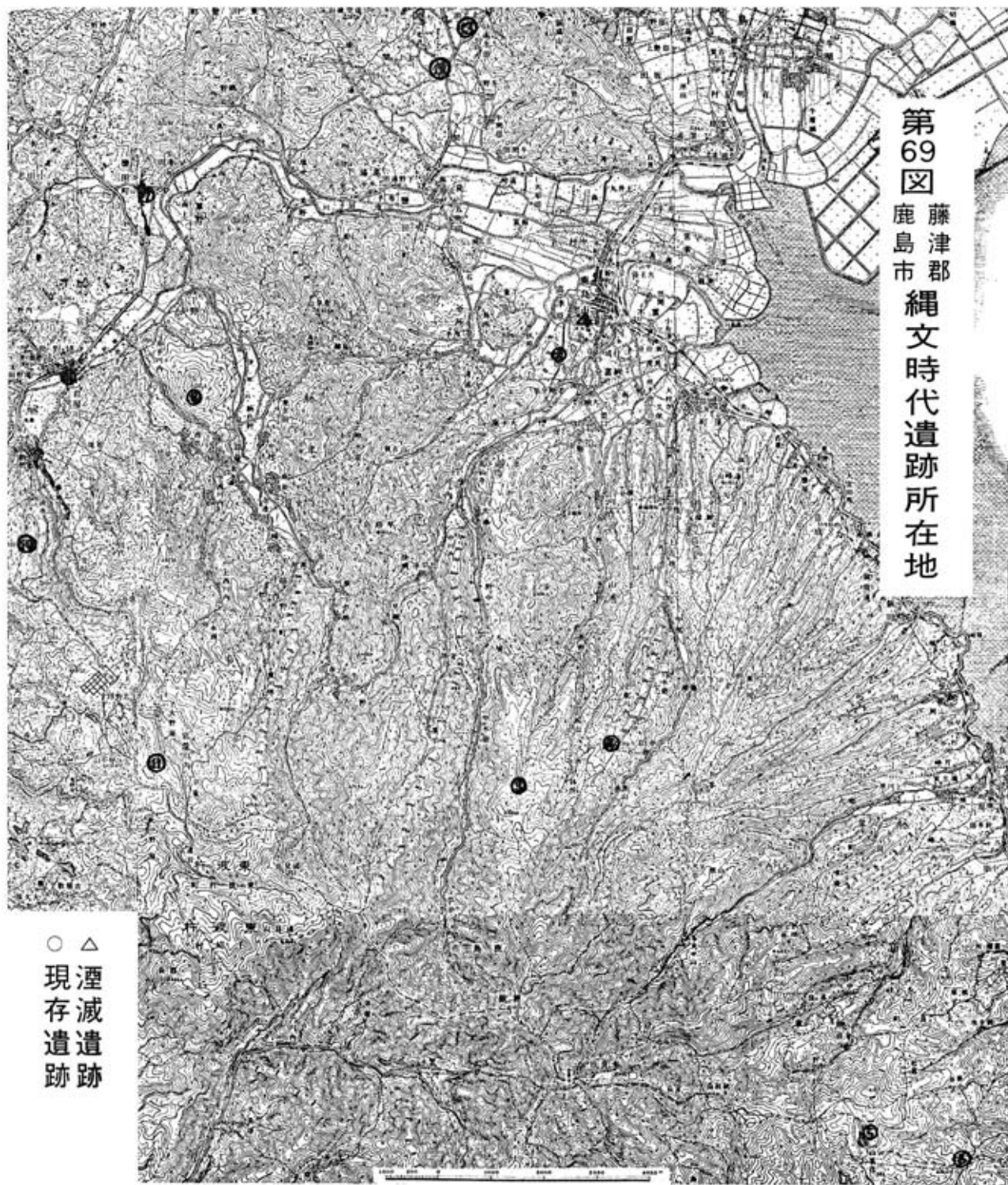
藤津郡・鹿島市

第69図

藤津郡
鹿島市

縄文時代遺跡所在地

○ △
湮滅遺跡
現存遺跡



藤津郡 鹿島市 縄文時代遺跡

一 鹿島市鹿島町高津原
 二 鹿島市鹿島町高津原
 三 鹿島市能古見町山浦
 四 鹿島市能古見町山浦
 五 太良町大浦
 六 太良町大浦
 七 塩田町大草野
 八 嬉野町吉田
 九 嬉野町一本椎
 一〇 嬉野町岩屋川内
 一一 嬉野町大野原
 一二 塩田町久間
 一三 塩田町久間

鷺の巣遺跡
 吹上遺跡
 万才遺跡
 山浦第二開拓遺跡
 山茶花遺跡
 大浦第二開拓牛尾呂遺跡
 大草野小学校近傍遺跡
 柢園遺跡
 的場遺跡
 陣野遺跡
 大野原遺跡
 志田原石器遺跡
 南志田遺跡

一、鷺の巣遺跡

種別

遺物包含地

(湮滅)

所在地

鹿島市鹿島町大字高津原字高津原八五八ノ一番地

概要

蟻尾山が長く尾を引いて高津原の低丘陵を構成し、次第に低くなって平地に没するその北東方の突端に位置し、前面には鹿島川がゆるやかに流れる平坦な沖積平野を俯瞰する地点にある。採土工事中に縄文系の石器とともに、箱式石棺数基と石庖丁・紡錘車および土師器、須恵器などが出土しているが、その出土状態などは明らかにされていない。出土遺物から見て、縄文時代末期から古墳時代におよぶ遺跡であると推定される。遺跡は採土工事のため、ほとんど湮滅してしまっている。

出土品

箱式石棺数基・石鏃数個・石槍一個・石匙三個・紡錘車二個・土師器・須恵器片多数・石庖丁一個(祐徳博物館保管)

文献

木下之治「鷺の巣の遺跡」(昭和三五年三月、鹿島市文化財保存会報第三号) 鹿島史第一巻(昭和三七年二月、鹿島市文化財保存会)

二、吹上遺跡

種別

遺物散布地

所在地

鹿島市鹿島町大字高津原字吹上 (畑)

概要

標高一八〇メートルの蟻尾山の裾が、東北方になだらかにのびている高津原丘陵一帯の広範囲にわたって縄文系の石鏃・石匙や弥生時代の石斧が相当数散布している。しかし、土器は何も発見されていない。



第70図 万才遺跡

発掘調査が実施されたことはないが、早くから水田または畑として開かれているので、遺跡は相当に破壊されているものと考えられる。

出土品 石鏃・石斧・石匙（祐徳博物館保管）

文献 鹿島史第一巻（昭和三十七年二月、鹿島市文化財保存会）

三、万才遺跡

種別 遺物散布地

所在地 鹿島市能古見町大字山浦字万才丙四三七一帯

（畑）

概要 標高約五〇〇米の万才開拓団一帯に遺物は散布している。ここは、経ヶ岳の山麓にあたっており、両側を山丘に囲まれた谷間の地点から遺物が多く発見される。遺物は、石鏃が最も多く、他に磨製石斧二個と、縄文系土器片一個が発見されている。この地は縄文時代末期から弥生時代にわたる。

遺跡と推定されるが、遺跡の性格は明らかでない。

出土品
文献
石鏡多数・磨製石斧二個・縄文式土器片一個・石槍一個（能古見中学校保管）
鹿島史第一巻（昭和三七二年二月、鹿島市文化財保存会）

四、山浦第二開拓遺跡

種別
遺物散布地

所在地
鹿島市能古見町大字山浦字白鳥尾（畑）

概要
能古見の川内、山浦の峡谷と古枝の峡谷との間の尾根をたどって南の方へ登っていくと、山浦開拓にた

どりつく。遺跡は東に七浦赤岩部落、西に能古見坂山部落を望む中間の標高三七〇米の処にあり、古枝湯の峰を遠く望み、有明海が一望に見渡せる位置にある。この遺跡からは、多数の石鏡と石匙が発見されているが、土器はまだ発見されておらず、遺跡の範囲やその性格は明らかでない。

出土品
石匙・石鏡（能古見中学校保管）

五、山茶花遺跡

種別
遺物包含地

藤津郡太良町大字大浦字山茶花（貯水池）

所在地
佐賀県と長崎県との境界付近の長崎県小長井村に属する貯水池があるが、この貯水池の北東方から縄文

時代末期の土器が出土している。この地は標高四〇〇米の高原状をなしており、遺跡は佐賀県側にまた

出土品
がつていると推定されるが、その範圍や性格などは明らかでない。発見されている土器片は細片ばかりで、器形を復原することは不可能であり、石器はまだ発見されていない。
縄文式土器片（大浦中学校保管）

六、大浦第二開拓牛尾呂遺跡

種別
遺物散布地

所在地
藤津郡太良町大字大浦字牛尾呂己二二六番地（畑）

概要
田古里より津の浦を経て西方の山地の方へ登って行くか、黒金より小径をたどって登って行った標高約

二二〇米の山腹に牛尾呂開拓地がある。この開拓地の畑に縄文式土器（縄文末期）や石斧・石鏃などが散在している。石棺が発見されたといわれるが確証はなく、遺物出土の範圍や遺跡の性格は明らかでない。

出土品
縄文式土器片・石斧・石鏃（大浦中学校保管）

七、大草野小学校近傍遺跡

種別
遺物散布地

所在地
藤津郡塩田町大字大草野（畑）

概要
大草野小学校近傍の低丘陵の畑地一帯から黒曜石製の石鏃が多数発見されている。他の石器や土器など

の発見はなく、遺跡は早くから畑地として利用されているため破壊されてしまっているものと推定される。

出土品 石鏃多数（大草野小学校保管）

八、祇園遺跡

種別 遺物散布地

所在地 藤津郡嬉野町大字吉田字皿屋祇園丁三六四九ノ八六番地（畑）

概要 標高二六一・六米の山の南斜面にあつて、終戦後開拓団がはいり、開拓中に石斧が一個発見された。遺

跡の状態は明らかでなく、他に共伴した遺物も判明していないが、この地方で石器や土器の発見されたものが他に知られていないので唯一個の石斧であるが、注目を要するものである。

出土品 蛇紋岩製磨製石斧一個（吉田小学校保管）

九、的場遺跡

種別 遺物包含地

所在地 藤津郡嬉野町大字一本椎甲一二二七番地（公園）

嬉野温泉と川を距てた対岸の公園にある遺跡であつて、民家との境の所から石器類が出土している。黒曜石の剥片が大部分であるが、中にブレイド形式のものが含まれており、土器はほとんど含まれていない。遺跡の範囲は明らかでない。



第71図 陣野遺跡出土品

出土品
石器

一〇、陣野遺跡

種別
遺物包含地

所在地
藤津郡嬉野町大字岩屋川内字陣野乙三八二六番地

(山林・畑・貯水池)

概要

嬉野町の温泉街より約四軒南々西の山腹、小盆地状を呈している標高約三六〇米の開拓団の入植地に遺跡は存在している。遺跡の範囲やその性格は明らかでないが、縄文時代末期の遺跡であると推定され、貯水池付近がその中心であるらしく、土器は貯水池の北側、石器は貯水池内より主として発見されている。

出土品

石鏃多数・石匙多数・石斧一個・縄文式土器片(嬉野小学校保管)

一一、大野原遺跡

種別
遺物散布地

所在地

藤津郡嬉野町大字大野原字幸濱川丙九四四番地他（畑・原野）

概要

嬉野町温泉街から直線距離で約八軒南方、長崎県に跨がる標高五〇〇米前後の広大な高原状の台地が遺跡である。石鏃を中心とする石器類が多数発見されていて、大正年間から注目されている遺跡である。

遺物は各地に持たれてしまつて調査の手懸りがなく、また、この台地はかつて陸軍の演習場であつた所で、遺跡の範囲や性格も明らかでない。

出土品

石鏃多数・石斧・石槍その他

備考

昭和三十六年八月、西北九州総合調査特別委員会が、この遺跡の中、長崎県側の発掘調査を実施した。

一二、志田原石器遺跡

種別

遺物包含地

所在地

藤津郡塩田町大字久間字志田原乙一八一七番地（畑）

概要

低丘陵南斜面にある久間中学校の茶園一帯が遺跡で、広さは約四アール位である。遺物は黒曜石およびサヌカイド製の石鏃が大部分であるが、その遺跡の性格は明らかでない。

出土品

石鏃六〇個余り・石匙一個（久間中学校保管）

一三、南志田遺跡

種別

遺物散布地

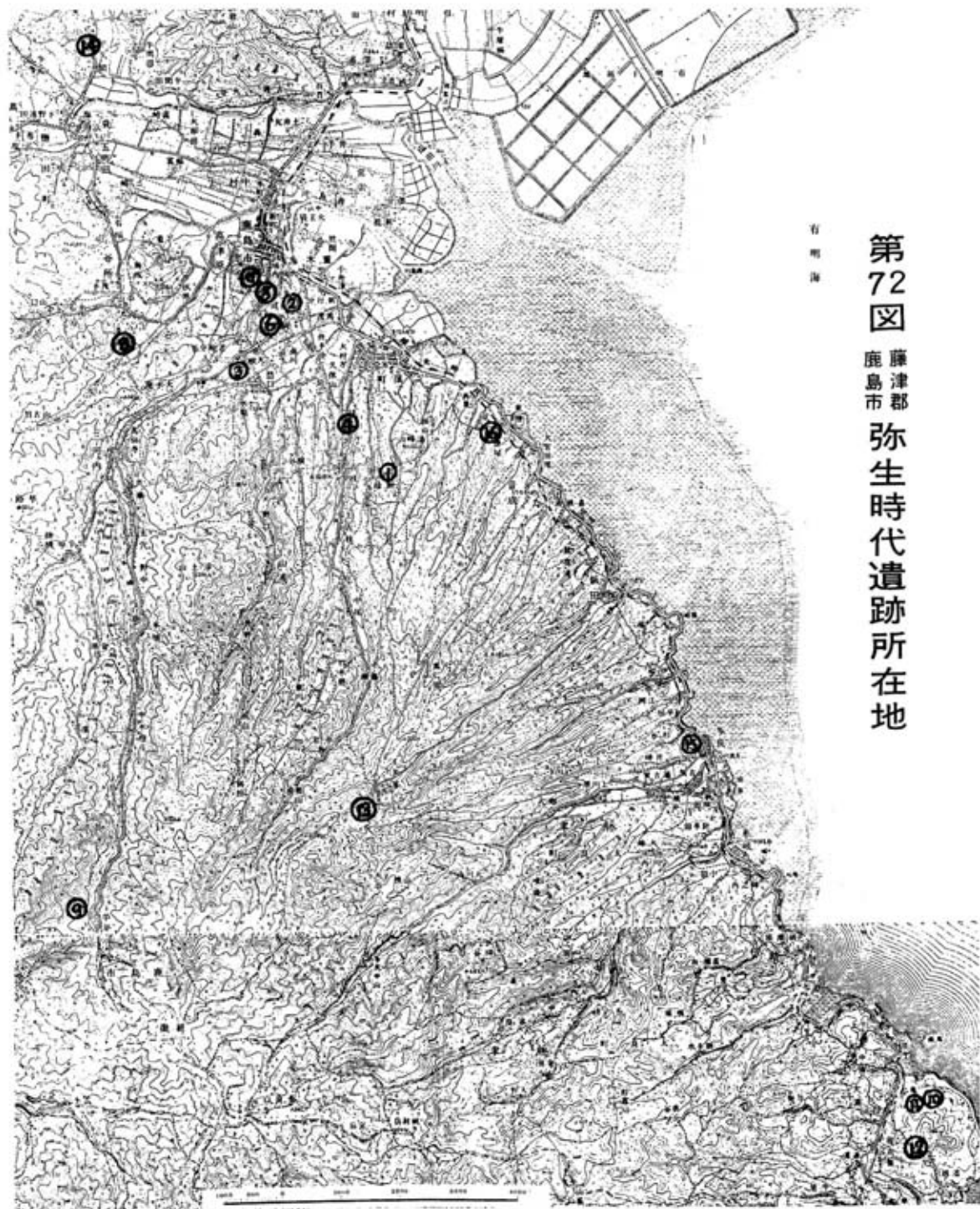
所在地	藤津郡塩田町大字久間字南志田甲四二六二番地（畑・墓地）
概要	志田神社の北側の低丘陵上に石鏡を主体とする各種の石器が散在している。散布地は、志田神社北側から慈眼庵の墓地におよぶ範囲であるが、遺跡の性格は明らかでなく、また土器類は発見されていない。
出土品	ポイント様石器・ナイフ様石器・石鏡多数・石錐・搔器（久間小・中学校保管）

第72図

藤津郡
鹿島市

弥生時代遺跡所在地

有明海



藤津郡 鹿島市 弥生時代遺跡

- | | | |
|----|------------|-------------|
| 一 | 鹿島市古枝町 | 鮎越遺跡 |
| 二 | 鹿島市鹿島町納富分 | 行成公民館横遺跡 |
| 三 | 鹿島市能古見町山浦 | 大殿分遺跡 |
| 四 | 鹿島市古枝町 | 古枝小学校遺跡 |
| 五 | 鹿島市鹿島町高津原 | 鹿島小・中学校近傍遺跡 |
| 六 | 鹿島市鹿島町納富分 | 納富分遺跡 |
| 七 | 鹿島市鹿島町高津原 | 松陰社境内遺跡 |
| 八 | 鹿島市能古見町三河内 | 浅浦遺跡 |
| 九 | 鹿島市能古見町山浦 | 流木岩陰遺跡 |
| 一〇 | 太良町大浦 | 大浦中学校前遺跡 |
| 一一 | 太良町大浦 | 野崎遺跡 |
| 一二 | 太良町大浦 | 道越岩下遺跡 |
| 一三 | 太良町多良 | 矢答遺跡 |

- | | |
|-------------|--------|
| 一四 堀田町久間 | 南下久間遺跡 |
| 一五 太良町栄町 | 峰遺跡 |
| 一六 鹿島市七浦町音成 | 西塩屋貝塚 |

一、鮎越遺跡

種別 遺物散布地

所在地 鹿島市古枝町字鮎越（畑）

概要 この遺跡は、多良岳が長く裾をひいて有明海に没する丘陵端の標高約一〇〇米余りの台地上にある。遺

跡の状態は不明であるが、この地からは磨製の石斧が相当数発見されており、弥生時代の住居跡ではないかと推定される。

出土品 石斧（古枝小学校保管）

文献 鹿島史第一巻（昭和三十七年二月、鹿島市文化財保存会）

二、行成公民館横遺跡

種別 遺包含布地

所在地 鹿島市鹿島町大字納富分字行成柿木二四四九番地

概要 行成公民館の西方桑畑の中に遺物が散布している。この地は標高約一〇米位で、北の方は水田になって

出土品
いる。表面採集したもので、遺跡の発掘調査は実施されていないので、遺跡の範囲も不明であるが、大
体弥生時代後期を中心とする遺跡であると推定される。
甕棺（弥生時代後期）・石斧・石匙

三、大殿分遺跡

種別
遺物散布地

所在地
鹿島市能古見町大字山浦字大殿分（畑・水田）

概要
中川の造成した扇状地の水田を中心とする一帯であつて、石鏃を中心とした遺物が発見されている。こ

の地帯は、平安時代に建立されたと推定されている金剛勝院の寺院跡を中心とする一帯であるが、寺院
と関係ある遺物はごく一部の場所を除いては、現在発見されていない。

出土品
石釜（滑石製）・石斧・石鏃（能古見中学校保管）

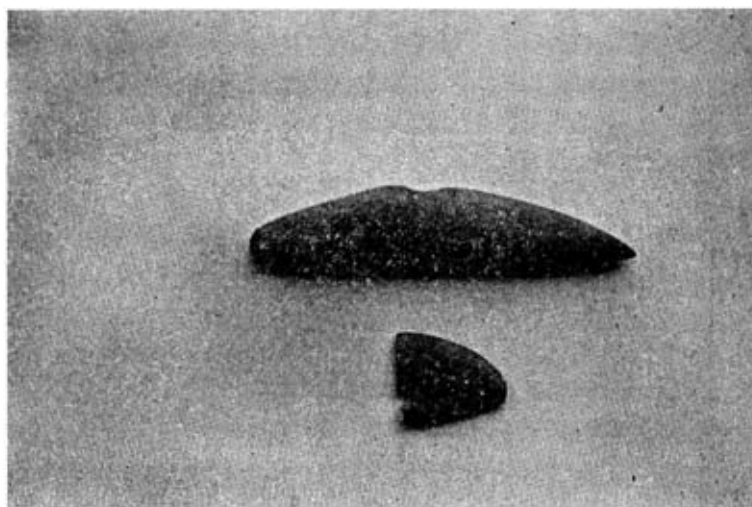
文献
鹿島史第一巻（昭和三七年二月、鹿島市文化財保存会）

四、古枝小学校遺跡

種別
遺物包含地

所在地
鹿島市古枝町甲一二四八ノ二番地（水田・校地）

概要
緩傾斜をなす水田地帯に古枝小学校があるが、校地造成中に多数の土器が出土したといわれる。最近、



第73図 鹿島小・中学校遺跡出土品（独钴石・石包丁）

出土品

竈一個と近くの水田中から小型甕棺一個が出土しているが、ともに弥生時代後期の土器であるので、この地は弥生時代後期の遺跡であると推定される。しかし、この遺跡の性格などについては明らかにされていない。

弥生後期竈一個・弥生後期小型甕棺一個（祐徳博物館保管）

五、鹿島小・中学校近傍遺跡

種別

遺物包含地

所在地

鹿島市鹿島町大字高津原字横田（水田・校地）

概要

甕棺および石棺の群集遺跡である松陰社境内遺跡の至近に位置している平地遺跡で、鹿島中学校から小学校および自動車学校におよぶ広範囲の遺跡である。石庖丁・独钴石・石斧などの石器や、小型甕棺を始め、土器片が数多く出土している。土器の中には土師器や須恵器も混っている。弥生時代後期

から古墳時代におよぶ長期間の遺跡で、住居跡であろうと推定される。

出土品

石廬丁一個・弥生式土器片多数・石斧数個・小型合口甕棺一組・独鈷石一個・土鍾一個・石鍾一個（祐徳博物館・鹿島小・中学校保管）

文献

鹿島史第一巻（昭和三十七年二月、鹿島市文化財保存会発行）、木下之治「鹿島中学校近傍弥生時代遺跡」（昭和三十五年一月、鹿島市文化財保存会報第二号）、佐々木勝・樋口三郎「鹿島市横田出土小児合口甕棺」（昭和三十三年七月、佐賀県郷土研究会会報「とりのこ第一号」）、松尾禎作「佐賀県考古大観」（昭和三十三年三月、祐徳博物館）

六、納富分遺跡

種別

遺物散布地

所在地

鹿島市鹿島町大字納富分字納富分

概要

広瀬橋から辻宿間の県道東側の水田地帯から石器や土器片が発見されている。この地は水田として早くから開けているため、遺跡は完全に破壊されてしまっていると推定され、その性格は明らかでない。

出土品

石匙・石斧・弥生式土器

文献

鹿島史第一巻（昭和三十七年二月、鹿島市文化財保存会）

七、松陰社境内遺跡

種別

甕棺および石棺埋藏遺跡

所在地

鹿島市鹿島町大字高津原字城内五一七ノ一（公園）

概要

高津原丘陵の末端近くにある旭ヶ岡公園が遺跡であるが、その範囲は明らかでなく、招魂碑前付近が中心をなしていると推定される。甕棺および箱式石棺が埋蔵されている弥生時代の群集墓地である。甕棺は主として中期の須玖式で、合口甕棺や石蓋単棺があり、石棺は板石を組合せた箱式石棺である。現在まで甕棺二〇個余りと石棺が四個余り発見されているが、副葬品は何も発見されていない。

出土品

甕棺・石棺（祐徳博物館・鹿島高校保管）

文献

鹿島史第一巻（昭和三七年二月、鹿島市文化財保存会）、木下之治「旭ヶ岡弥生時代遺跡」（昭和三四年七月、鹿島市文化財保存会報第一号）、木下之治「埋蔵文化財の発掘・発見覚書」（郷土研究第七号）第九号、佐賀県郷土研究会発行）、松尾禎作著「佐賀県考古大観」（昭和三二年三月、祐徳博物館）

八、浅浦遺跡

種別

遺物散布地

所在地

鹿島市能古見町大字三河内字浅浦

概要

早くより開けている土地で、遺跡の状況は全くわからないが、明治の初期頃までは鬼塚と称する古墳もあつたという。現在は水田が一面に開けていて、時たま石鏃が発見される。浅浦部落でも下浅浦一帯がその中心地である。

出土品

石斧・石鏃（能古見中学校保管）

文献 鹿島史第一巻（昭和三七年二月、鹿島市文化財保存会）

九、流木岩陰遺跡

種別 岩陰遺跡

所在地 鹿島市能古見町大字山浦字中木庭流木

概要 人煙遠く離れた標高約六〇〇米の森林におおわれた山腹にある。斜面に屹立した岩塊の下部が奥行二米

五〇、幅六米二〇、高さ四米二〇の随円形状の半洞窟となっている。床面には厚さ約四〇厘の木炭を多く含んだ黒土層が推積している。この黒土層中から弥生時代後期から鎌倉時代におよぶ土器片が出土している。土器片以外の出土品はなく、また、土器片が極めて小数である点から臨時的に使用された居住跡ではないかと推定される。

出土品 弥生時代後期土器片一個体分・土師質の陶質土器片一個体分・その他の小土器片・青磁片など若干（能

古見中学校保管）

一〇、大浦中学校前遺跡

種別 遺物包含地

所在地 藤津郡太良町大字大浦字野崎丙一三八三ノ三番地（宅地）

概要 大浦中学校の校門前右側から昭和三四年一〇月二日に遠賀川式土器一個が発見された。高さ一二厘三、

最大部胴経一三釐二、口径七釐二、底部径六釐一、僅かばかり上げ底となっている。焼成良好な壺で、ほぼ完全に復原されている。出土状況は不明であり、この遺跡の性格も明らかにされていない。

出土品 遠賀川式土器一個（大浦中学校保管）

文献 木下之治「佐賀県における埋蔵文化財の発掘・発見の覚書」（昭和三五年一〇月、郷土研究第一〇号、佐賀県郷土研究会）

一、野崎遺跡

種別 遺物包含地

藤津郡太良町大字大浦字野崎（畑）

所在地 昭和三四年八月三〇日、大浦中学校近くの低丘陵斜面から、夜臼式土器二個体分と遠賀川式土器一個体分が発見された。出土状況は明らかでなく、また、遺跡の性格も不明である。

出土品 夜臼式土器片・遠賀川式土器片（大浦中学校保管）

文献 木下之治「佐賀県における埋蔵文化財の発掘・発見の覚書」（昭和三五年一〇月、郷土研究第一〇号、佐賀県郷土研究会発行）

一二、道越岩下遺跡

種別 遺物包含地

所在地 藤津郡太良町大字大浦字道越岩下丙二九三番地 (畑)

概要

田古里より道越に通ずる旧道が、昭和三十七年七月八日の水害で破損し、その西側の畑も岩盤までも露出した。そこに木炭を包含した暗黒色土層があらわれ、土器が多数包含されていた。土器は弥生式土器から須恵器まであり、住居跡ではないかと推定されるが、完全な調査は行なわれていない。ここは標高一三六米の火の辻山の南西傾斜面にあたり、標高六〇米の所に位置している。遺跡の範囲は大体一〇〇〇平方米位と推定される。

出土品

土器片

一三、矢 答 遺 跡

種 別

遺物包含地

所在地

藤津郡太良町大字多良字矢答開拓

概要

標高約四五〇米位の矢答開拓団の入植地から石斧が約二〇個余り発見されている。開拓中の偶然発見であるため、遺跡の規模や性格は明らかでない。石斧は扁平な短冊型のものが多い。土器の発見はない。

出土品

石 斧

一四、南下久間遺跡

種別 遺物包含地

所在地 藤津郡塩田町大字久間字南下久間辻乙三四六番地（宅地）

概要 宅地内より弥生時代の石器や土器が出土しているが、偶然発見であるため、出土状況やその性格は明らかでない。しかし、石廂丁の出土は、この地方では他に例がなく、注目に値する。

出土品 石廂丁二個・紡錘車二個・弥生式土器片（久間中学校保管）

一五、峰 遺 跡

種別 甕棺および石棺出土遺跡

所在地 藤津郡太良町大字多良字栄町

概要 鉄道線路に隣接した畑が遺跡であって、昭和三九年一月、みかん植栽のための作業中に発見されたものである。現地表下六〇厘の所に合口甕棺がほぼ水平に埋置され、その上に板石二個を水平にならべてあ

った。甕棺は、長さ六七厘で丸底、高さ八厘の頸部を有する土師甕に類似したものである。蓋甕は、口縁部を欠きとった壺形のものであったが破砕されてしまっていたので、形状・大きさなど明らかでない。なお、この遺跡からは箱式石棺三個も出土しており、須恵器甕らしい破片も出土している。この甕棺は特殊の埋葬法であり、土師器に類似していて注目され、あるいは古墳時代に属する遺跡ではないかとも考えられる。

出土品

甕棺（多良小学校保管）

備考

昭和三十九年一月三〇日、太良町教育委員会が地元学校の協力を得て応急調査を実施した。

一六、西塩屋貝塚

種別

貝塚

所在地

鹿島市七浦町大字音成字西塩屋

概要

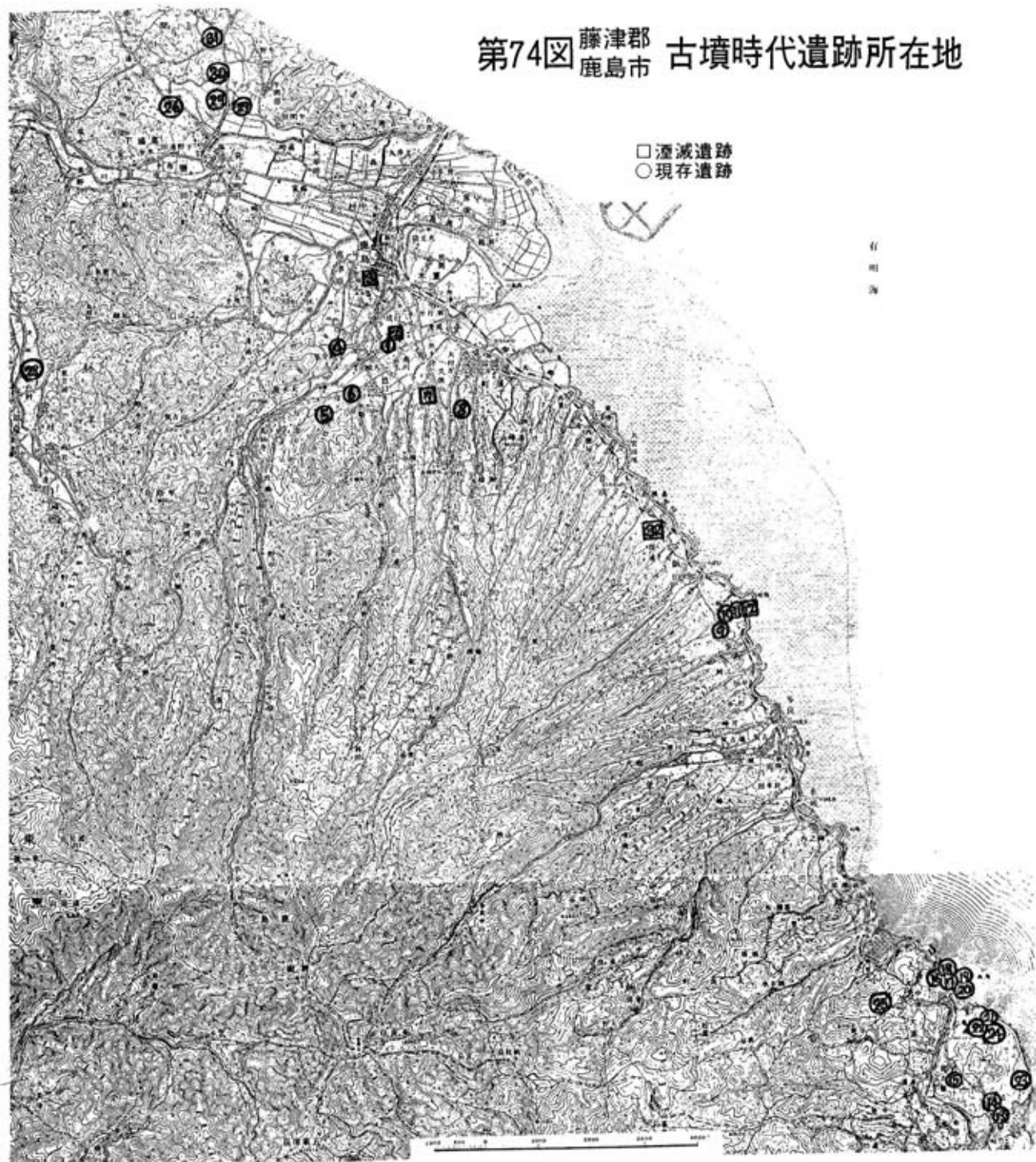
低丘陵中腹にある貝塚であつて、所在地は畑地となつてゐるため、貝塚は相当に破壊されてゐる。畑の断面に露出しているところで調べてみると、現地表下五〇厘の所にその上層があり、貝層の厚さは五〇厘で、二〇米の範囲にわたつてゐる。この貝層から更に三〇米余り離れて断続的な貝層が見られ、付近の畑の地表には貝殻や土器片が散在しているので、当初は相当広範囲におよぶ貝塚が築かれていたと推定される。

貝殻は、まがきが主体をなし、しじみなどが少し含まれており、その間に土器片が混在しているが、最下層から弥生中期の須玖式土器が出土している。近くから以前に弥生式甕棺が出土したといわれていたが、最近また弥生式甕棺一個が発見された。

出土品

甕棺一個（祐徳博物館保管）

第74図 藤津郡 鹿島市 古墳時代遺跡所在地



藤津郡
鹿島市
古墳時代遺跡

一	鹿島市鹿島町納富分	行成第一号古墳
二	鹿島市鹿島町納富分	行成第二号古墳
三	鹿島市鹿島町高津原	よいごろ坂古墳
四	鹿島市鹿島町高津原	吹上百堂古墳
五	鹿島市能古見町山浦	岩泉山古墳
六	鹿島市能古見町山浦	花木庭古墳
七	鹿島市古枝町久保山	久保山古墳群
八	鹿島市浜町	陣の上古墳
九	太良町伊福	伊福第一号古墳
一〇	太良町伊福	伊福第二号古墳
一一	太良町伊福	伊福第四号古墳
一二	太良町伊福	伊福石棺遺跡
一三	太良町大浦	道越第一号古墳

三一	三〇	二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四
塩田町久間	塩田町馬場	塩田町久間	嬉野町吉田	塩田町久間	塩田町久間	太良町大浦	太良町大浦	太良町大浦	太良町大浦	太良町大浦	太良町大浦	太良町大浦	太良町大浦	太良町大浦	太良町大浦	太良町大浦	太良町大浦
下																	

光武須恵器窯跡	高月須恵器窯跡	入江川遺跡	納戸料田中遺跡	鬼塚古墳	牛坂古墳群	中畑掘の口開墾地遺跡	大浦中学校前遺跡	平浜古墳	野崎第三号古墳	野崎第一号古墳	帆前鼻第四号古墳	帆前鼻古墳群	長崎の鼻第三号古墳	長崎の鼻第二号古墳	長崎の鼻第一号古墳	田古里古墳	道越第二号古墳
---------	---------	-------	---------	------	-------	------------	----------	------	---------	---------	----------	--------	-----------	-----------	-----------	-------	---------

一、行成第一号古墳（俗称「鬼塚」）

種別 古墳

所在地 鹿島市鹿島町大字納富分字行成鬼塚一九六四

番地（山林）

概要

この地は低平な畑作地帯で、東南方至近の所には広大な水田地帯が展開している。北方約三〇米の所には第二号古墳があつたが、破壊されてしまった。この地域には、かつて一〇基余りの古墳が存在していたと伝えられ、この古墳はその古墳群中の一基である。横穴式石室を有する巨石墳で、羨道の長さ九米五〇、羨道が著るしく発達した当地方の代表的古墳である。早く盗掘にあい遺物は残存しないが、石室はよく保存されている。現在円墳状を呈しているが、九州



第77図 行成第一号古墳（鬼塚）

大学岡崎助教授は、前方後円墳であって、前方部は破壊されているが、その痕跡をとどめているといっている。

文献 星野英夫著「郷土のあゆみ」（昭和二八年九月発行）、鹿島史第一巻（昭和三七年二月、鹿島市文化財保存会）

二、行成第二号古墳

種別 古墳

（湮滅）

所在地 鹿島市鹿島町大字納富分字行成鬼塚二三四番地（畑）

概要 行成鬼塚古墳（第一号古墳）の北方約三〇米の所にあつたもので、昭和二七年一月二〇日、発見され

たが完全に破壊されてしまった。護門が西南方に開口した横穴式石室で、封土や天井石などは早く破壊

されていたため明らかにすることはできなかった。玄室の長さ三米九五、幅二米三六で、奥壁は一個、

側壁は各三個の巨石で築かれ、床面には径二〇厘米余りの石が整然と敷きつめられていた。

出土品 鉄刀片三・鉄鏃小數・耳環二・管玉二・土師器碗一・須恵器片および土師器片少數（祐徳博物館保管）

文献 木下之治「行成第二号古墳」（昭和三六年九月、鹿島市文化財保存会報第六号）、鹿島史第一巻（昭和

三七年二月、鹿島市文化財保存会）

三、よいごろ坂古墳

種別 古墳

（湮滅）

所在地 鹿島市鹿島町大字高津原字城内四六九番地

概要

高津原低丘陵中に散在している高津原古墳群中の一基であって、旧鹿島城西門址の至近の土塁の所に位置していた。昭和三五年一月一日、土取り作業中に発見され破壊された。横穴式石室墳で、封土および石室の天井石は、鹿島城を築くときに破壊されたらしく、側壁の用材もほとんど破壊されていた。石室の主軸は南北の線にあつて、羨門は南に開いていた。奥壁の幅約一米六〇、奥壁にそつて一個の箱式石棺様の屍床が設けられており、敷石床であつた。

出土品

勾玉一個

文献

木下之治「城内よいごろ坂古墳」(昭和三五年一月、鹿島市文化財保存会報第五号)、木下之治「発掘・発見の覚書」(昭和三五年一〇月、佐賀県郷土研究会発行、郷土研究第一〇号)

四、吹上百堂古墳

種別

古墳

所在地

鹿島市鹿島町大字高津原字妙見淵上二一七三番地 (山林)

概要

蟻尾山山麓の丘陵端に築城されている破壊古墳であつて、この地にはかつて多くの古墳があつたといわれているので、群集墳の中の残存している一基である。封土は完全に剝奪され羨道部は欠損して、玄室の一部分が残っているのみである。古墳時代後期の横穴式石室を有する小円墳で、副葬品については明らかでない。

文献

鹿島史第一巻(昭和三七年二月、鹿島市文化財保存会)

五、岩泉山古墳

種別 古墳

所在地 鹿島市能古見町大字山浦字水梨甲二九六九ノ一七番地

概要 水梨堤の南西、俗称岩泉山と称される山の南斜面、標高約一三〇米の地点にある破壊古墳で、周囲は開

墾され畑となっている。横穴式石室を有する円墳であるが、破壊の度がひどく、封土は僅かに一部分が残存しているのみであり、石室の羨道部も完全に破壊されていて、その規模は明らかでなく、副葬品についても不明である。

六、花木庭古墳

種別 古墳

所在地 鹿島市能古見町大字山浦字大殿分花木庭二六五八・二六五九・二六六〇番地（畑）

概要 南前面に水梨堤を望む低丘陵斜面にある横穴式石室を有する円墳であるが、封土は完全に剝奪されて石

室が露出している。玄室の長さ三米八〇、幅二米五〇、高さ二米七〇で羨道部は破壊湮滅し、玄室の天井石も中央部が破壊されている。江戸時代に藩の火薬貯藏場に使われていたといわれ「煙増ぐら」と呼ばれている。最近、羨道部付近から蓋坏が一個発見されているが、早くから開口していたため他の副葬品は存在していない。

出土品 蓋坏一個（能古見中学校保管）

文献 鹿島史第一巻（昭和三十七年二月、鹿島市文化財保存会）

七、久保山古墳群

種別 古墳群

所在地 鹿島市古枝町大字久保山字寺籠甲二三四六ノロ番地他 (山林)

概要 多良岳が長く尾を引いて舌状丘陵地を形成し、平野に没するその舌状丘陵端に位置している。もとの地には多くの古墳が存在したといわれるが、ほとんど破壊湮滅してしまっている。第一号墳は、普明寺

境内にあつて、封土の径約六米、内部主体は長さ一米六五、幅九五厘の箱式石棺に近い形状を有する羨道部の退化した石室終末期の古墳である。第二号墳は、鶴田氏所有の畑にあつて、巨石積みの横穴式石室墳であるが、破壊の度がひどく封土・石室ともに細部は不明である。

出土品 第一号墳(鉄刀一・鉄刀子二・鉄鏃・土師埴一)、第二号墳(鉄刀一・刀子二) (祐徳博物館保管)

文献 木下之治「久保山の遺跡」(昭和三五年六月、鹿島市文化財保存会報第四号)、鹿島史第一巻(三十七年

二月、鹿島市文化財保存会)

八、陣の上古墳

種別 古墳

所在地 鹿島市浜町字陣の上甲三七五五

概要 低丘陵上に存在している破壊古墳で、石室の構造など不明であるが、横穴式石室を有する円墳であろう

と推定される。副葬品についても明らかにすることができない。

九、伊福第一号古墳

種別 古墳群

所在地 藤津郡太良町大字伊福字箱崎

概要

鹿島市と太良町との境界をなす標高二〇米と三〇米の舌状丘陵上に現存する四基の古墳の中の一基である。この丘陵には、もと数多くの古墳が存在していて、古墳群を形成していたといわれている。これらの古墳は横穴式石室を有する小円墳であるが、すべて開口されていて遺物は残存していないが、付近の畑中には須恵器片がいくらか散在している。この第一号古墳は破壊の度がひどく、その形状などを明らかにすることができない。

一〇、伊福第二号古墳

種別 古墳群

所在地 藤津郡太良町大字伊福字小浦三〇五五番地 (原野)

概要

伊福古墳群の中の一基で、最も保存の良いものである。封土は径約一七米、高さ約二米の円墳で、内部主体は南方に開口した横穴式石室である。玄室は、長さ四米五〇、幅二米一〇、羨道は、長さ三米七〇幅一米七〇で、石室は完全に保存されているが、早く盗掘にあつたらしく副葬品は何も残されていない。

一一、伊福第四号古墳

種別 古墳群

所在地 藤津郡太良町大字伊福字箱崎甲三三九一番地 (原野)
概要 伊福古墳群中の一基で、横穴式石室を有する小円墳である。封土は大部分が削除され、石室も半壊して

いて、副葬品は何も発見されていない。

一二、伊福石棺遺跡

種別 石棺埋藏遺跡 (湮滅)

所在地 藤津郡太良町字伊福箱崎 (山林)

概要 多良岳が長く裾をひいて有明海に没入する箱崎の鼻の断崖上にあった箱式石棺であって、鉄刀および須

恵器片が出土している。この石棺は、昭和三一年二月、道路工事中偶然に発見されたものであって、調査にあたつた中島勝次氏が他県へ転出したため詳細は不明であるが、小円墳の内部主体ではなかったかとも推定される。なお、この付近からは、以前数個の石棺が出土しているというので、群集墳の一基であらう。

出土品 鉄刀・須恵器片 (祐徳博物館保管)

文献 木下之治「埋蔵文化財発掘発見覚書」(昭和三一年九月、佐賀県郷土研究会発行「郷土研究第七号」)

一三、道越第一号古墳

種別 古墳

所在地 藤津郡太良町大字大浦字道越五六一番地 (山林)

概要

道越の自動車停留所より約三〇米南東の山林の中にあり、自然の山丘を利用して営まれた横穴式石室を有する円墳である。玄室の長さ四米八〇、幅三米・二米六五、羨道は長さ二米三〇で、羨門は西に開き、石室は上部を付送って天井部が次第に狭くなっている、天井の高さは約四米六〇である。早くから開口していて遺物は何も存在しないが、石室はよく保存されており、また、この地方では大規模な古墳の一つとして重要なものである。

文献

松尾楨作「佐賀県考古大観」(昭和三年三月、祐徳博物館発行)、吉村茂三郎「道越古墳調査」(昭和十五年四月、佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告第七輯)

一四、道越第二号古墳

種別 古墳

所在地 藤津郡太良町大字大浦字道越 (宅地)

概要

田古里より道越に通ずる旧道から、野狐谷部落に入る道路付近、保育園の東側にある。石室の長さ五米四〇の横穴式石室を有する小円墳で、天井石は欠失し、石室内部が露出している。盗掘にあつていて、遺物は何も発見されていない。

文献

吉村茂三郎「道越古墳調査」(昭和十五年四月、佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告第七輯)

一五、田古里古墳

種別 古墳

所在地

藤津郡太良町大字大浦字田古里鬼塚平二〇五七番地 (山林)

概要

標高約四〇米の台地に位置していて、自然の地形を利用して築かれた円墳で、内部主体は前室と奥室の複室を有する横穴式石室である。石室は巨石をもって築かれ、奥室四米三五×二米八〇、前室一米九〇×二米五〇、羨道の長さ三米三〇、天井部は次第に持送られて、高さ四米一五に達している。石室は早く開口されて遺物は何も存在しないが、封土や石室はよく保存されており、しかも当地方で最も大規模な古墳として価値が高い。

文献

松尾禎作著「佐賀県考古大観」(昭和三二年三月、祐徳博物館発行)、吉村茂三郎「道越古墳調査」(昭和一五年四月、佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告第七輯)

一六、長崎の鼻第一号古墳

種別

古墳群

所在地

藤津郡太良町大字大浦字白浜丁一八四〇番地 (山林)

概要

有明海に突出した半島台地上にある長崎の鼻古墳群三基中の一つである。封土の径二米三〇、高さ一米五〇余りの円墳で、その封土の中央部に石室が営まれている。石室は安山岩の小口石積で、石室は二米一〇×一米五五、高さ八五釐、羨道はほとんど形式的な簡略な構造を有し、一見箱式石棺に近い構造である。早く盗掘にあつていて副葬品については知ることができない。

一七、長崎の鼻第二号古墳

種別

古墳

所在地 藤津郡太良町大字大浦字白浜丁一八四〇番地 (山林)

概要 有明海に突出した小半島台地にある長崎の鼻古墳群中の一基で、第一号古墳の東方にある。封土の存在は認められるが、剝奪されてその大きさは不明である。石室は小口石積の箱式石棺に近い形式で、石室の広さ二米五〇×九〇釐、高さ一米一〇、羨道部は破壊されている。早く盗掘にあい副葬品は存在しない。

一八、長崎の鼻第三号古墳

種別 古墳群

所在地 藤津郡太良町大字大浦字白浜丁一八四〇番地 (山林)

概要 有明海に突出した半島台地上にある長崎の鼻古墳群中の一つで、昭和三六年八月二三日、太良町郷土研究会によって調査された。封土の径一九米、高さ約一米二〇の小円墳で、内部主体は横穴式石室である。

玄室の長さ二米九〇、幅一米三三、羨道の長さ七〇釐で、盗掘されていた。

一九、帆前鼻古墳群

種別 古墳群

所在地 藤津郡太良町大字大浦字広江丁一七〇四番地 (山林)

概要 帆前鼻と呼ばれている有明海に突出した半島状台地上にある古墳群で、小口石積の小石室や組合せ式石

種別 出土品
棺が群をなしている。破壊の度がひどく確実な数は不明であるが、現在七基余りのものが認められており、封土は流出して顕著でない。第五号古墳から鉄刀その他、第四号古墳から土師器片が発見されている。現在第一号墳上に石祠、第二号墳上に記念碑、第六号墳の傍に古墳群記念碑が建てられている。第七号墳は破壊されて石祠が建てられ、第三号墳は石室壁が露出している。
第五号古墳より、鉄刀一・鉄鉋一・鉄斧一（大浦小学校保管）

二〇、帆前鼻第四号古墳

種別 古墳群
所在地 藤津郡太良町大字大浦字広江丁一七〇四番地（山林）

概要 帆前鼻古墳群中の一で、第五号古墳の真西の方向にあって、石室中央間の間隔は一〇米五〇である。剝奪されているため封土は不明であり、羨道部は極めて短かく、玄室は長さ一米八八、幅一米・一米二四である。床面には径一糎五から五糎位までの玉石が敷きつめられており、土師器片が玄室内から数片発見されている。

出土品 土師器片

二一、野崎第一号古墳

種別 古墳群

所在地 藤津郡太良町大字大浦字野崎甲一三七三番地 (山林)

概要

大浦中学校運動場前方有明海の海蝕を受けて切り立った断崖上にある。封土は削除されて明らかでなく、内部主体は小口石積の竪穴式石室であって、壁面には鉄丹が施されており、床は玉石敷となっている。石室の広さは一米五〇×七五釐、高さ六六釐で、一部は海中に落下しており、副葬品は発見されていない。

文献

木下之治「佐賀県における埋蔵文化財の発掘・発見の覚書」(昭和三五年一〇月、郷土研究第一〇号、佐賀県郷土研究会)

一二、野崎第三号古墳

種別 古墳群

所在地 藤津郡太良町大字大浦字野崎一三六五 (畑)

概要

大浦中学校校門の、左前方丘陵上にあった教基の古墳群の中の一基で、現在は埋め戻されている。小口石積の小石室を有する小円墳であって、羨道は極めて短かい。他に二基余りその位置が確認されるが、構造など不明である。

出土品 鉄刀四口・鉄刀子・鉄鎌(大浦中学校保管)

一三、平浜古墳

種別 古墳

所在地

藤津郡太良町大字大浦字野崎一〇一三ノ一番地 (山林)

概要

道越より大浦中学校前に通ずる海岸線よりの道路の東側の畠の中、標高約二〇米の位置にある。羨道部は湮滅しているが、玄室は大体よく保存されている。封土の径約二〇米、高さ二米五〇の円墳で、玄室は長さ三米三〇、幅二米二五ノ二米一五、高さ一米七〇の小口石積で、天井部は僅かばかり狭くなつて持送っている。盗掘にあつて遺物は保存されていない。

二四、大浦中学校前遺跡

種別

遺物包含地

(湮滅)

所在地

藤津郡太良町大字大浦字野崎一三八〇ノ五番地 (宅地)

概要

大浦中学校の校門前の左側から昭和三四年一〇月八日に土師器三個が出土した。家屋建設のための地均し作業中に出土したもので、遺跡は完全に破壊されていて不明であるが、何か石蓋様のものが存在していたといわれている。埴二個・坏一個である。三個ともに焼成良好で、ほぼ完構を保っている。

出土品

土師坏一個・土師埴二個 (大浦中学校保管)

文献

木下之治「佐賀県における埋蔵文化財の発掘・発見の覚書」(昭和三五年一〇月、郷土研究第一〇号、佐賀県郷土研究会)

二五、中畑堀の口開墾地遺跡

種別

遺物埋蔵地

所在地 藤津郡太良町大字大浦字中畑平原丁一四八六番地 (山林)

概要 中畑部落を登った開墾地で、標高約一四〇米の丘陵地にあり、里部落との境界近くに位置している。昨年より開墾を始めており、その開墾したところから土師器片が無数に発見されている。広範囲にわたって遺物は散在しているが、ブルトーズで掘り返されているので、遺跡の性格や遺物の埋蔵状態などは不明であるが、古墳時代の住居跡ではないかと考えられる。

出土品 土師器片(大浦小学校保管)

二六、牛坂古墳群

種別 古墳群

所在地 藤津郡塩田町大字久間字牛坂丙一四番地 (山林)

概要 丘陵端の台地上に数米の間隔をもつて築かれた三基の古墳である。封土は極めて小さく、しかも低平であつて、内部主体は組合せ式の箱式石棺である。昭和二五年開墾中に発見されたもので、副葬品は二号古墳以外のものは不明であるが、近くから須恵器の高坏が出土している。一号と三号の石棺は埋戻され、二号石棺は鹿島中学校に保管されている。

出土品 耳環(金貼り)四・鉄鏃三・鉄刀子三(祐徳博物館保管)

二七、鬼塚古墳

種別 古墳

所在地

藤津郡塩田町大字久間字南下久間乙四五八番地 (畑)

概要

畑地として利用されている低丘陵がなだらかに起伏しているその低丘陵上にあつて、早く破壊されて封土も大部分が削除され、天井石も破壊されていた。昭和二九年に石室内部が清掃され、副葬品が検出された。横穴式石室を有する円墳で、玄室内は三個の屍床に区分され、敷石床となつてゐる。この地方における代表的古墳であつて、現状のまま保存されている。

出土品

鉄刀子・耳環四個・鉄鎌・鉄刀・馬具・土師器・須恵器 (祐徳博物館保管)

文献

木下之治「久間鬼塚古墳見学」(昭和二九年、新郷土第七一号、県文化館)

二八、納戸料田中遺跡

種別

遺物包含地

所在地

藤津郡嬉野町大字吉田字東吉田・甲一八五三ノ一番地 (水田)

概要

吉田盆地の水田中から、昭和二四年の耕地整理中に土師器の丸底埴一個が発見された。この地は東吉田の納戸料になつていて、吉田川の東岸から二〇米離れた場所であつて、遺構も他の遺物も明らかにされていないが、この地方からの土師器の出土は、この一例であるので注目し値する。

出土品

土師器一個 (祐徳博物館保管)

二九、入江川遺跡

種別

遺物包含地

所在地

藤津郡塩田町大字久間字下久間

概要

下久間と牛間田の中間の平地を南流している塩田川支流入江川の堤防工事中に土師器壺一個が発見された。伴出の遺物は確認されず、遺跡の性格についても不明である。

出土品

土師器壺一個（祐徳博物館保管）

三〇、高月須恵器窯跡

種別

須恵器窯跡

所在地

藤津郡塩田町大字馬場下字高月一二二番地（畑・水田）

概要

鹿島・武雄間の県道から上久間の方へ二〇〇米余り行った低丘陵端の所に營造されている。戦後水田拡張工事の際、窯跡の一部が破壊されて、須恵器片と灰が出土したという。自然の傾斜地を利用した登り窯であると推定されるが、その構造や規模は不明である。

出土品

須恵器（盃・杯・蓋坏・高坏など）（久間中学校保管）

三一、光武須恵器窯跡

種別

須恵器窯跡

所在地

藤津郡塩田町大字久間字光武乙一八八九番地（水田・水路）

概要

久間中学校北側の低丘陵斜面に位置していて、中心部は水路および小道となっている。天然の地形を利

出土品
用した緩傾斜の登り窯であるが、大半は破壊されていて、その規模は明らかでない。
須恵器（蓋坏・高台付盃・甕など）多数（久間中学校保管）

三二、竜宿浦石棺遺跡

やのうら

種別

石棺出土遺跡

（移管）

所在地

鹿島市七浦町竜宿浦

（畑）

概要

七浦小学校の西方約一〇〇米の所にある低丘陵上の畑中から発見された石棺である。この石棺は、丘陵の尾根上に位置し、畑となっていたため封土の存在は明らかでなく、現地表下僅かに二〇厘の所に石棺の蓋石が位置していた。石棺の主軸は、北西→南東の方向で、この丘陵の方向と直角となっており、左右を二個と三個、前後を各一個の板石で囲んだ箱式石棺で、蓋石は四個の扁平石の他に数個の補助的な石が用いられていた。

石棺内部の長さ一米八〇、幅四一厘、深さ三五厘余りで、内部には鉄丹が塗布されており、底は玉石床となっていて、東南部に頭をおいた遺体一体分が埋置されていた。副葬品としては、土師器の小破片が一片検出されたのみであったが、遺体の頭部付近にまがきの貝殻が一杯つまられていたのが注目された。

出土品

土師器片一個・まがきの貝殻

備考

昭和三十八年六月二五日、鹿島市教育委員会が、県および地元学校の協力を得て調査を実施した。石棺は鹿島市立東部中学校七浦校舎に移管している。

第76図 藤津郡 鹿島市 歴史時代遺跡所在地

□ 湮滅遺跡 ○ 現存遺跡



藤津郡 鹿島市 歴史時代遺跡

種別 経塚

一、岩屋山経塚

- 一 鹿島市能古見町山浦
- 二 鹿島市鹿島町高津原
- 三 鹿島市能古見町山浦
- 四 太良町中峰
- 五 鹿島市能古見町山浦
- 六 鹿島市鹿島町高津原
- 七 塩田町久間
- 八 塩田町五町田
- 九 塩田町塩吹
- 一〇 塩田町久間

- 岩屋山経塚
片山経塚
水梨蔵骨器出土遺跡
中峰蔵骨器出土遺跡
金剛勝院跡
蟻尾城跡
八幡籠経塚
美野南経塚
塩吹経塚
冬野瓦窯跡

(湮滅)

所在地

鹿島市能古見町大字山浦字川内 (山林)

概要

鹿島駅から南々西方へ直線距離で四・五軒余り離れた標高二〇〇米の山腹に岩屋観音がある。大正八年七月、この境内から経塚が発見され、遺物は最初鹿島鍋島家に所蔵されていたが、大正一三年三月鍋島家より誕生院に寄贈されたもので、発掘状況は不明であり、明確な出土地点も明らかでない。

出土品

銅製経筒(銅板鋳止)・滑石製外筒・紙本写経四卷(祐徳博物館保管)

文献

松尾禎作・木下之治・松岡史「県下出土経塚概観」(昭和三二年二月、佐賀県文化財調査報告書第六輯)

二、片山経塚

種別

経塚

(湮滅)

所在地

鹿島市鹿島町大字高津原字若殿分井手坂五九六番地 (山林)

概要

蟻尾山東側中腹にある山林を開墾して密柑園造成中、昭和三五年二月偶然に発見されたもので、経塚はほぼ南北の線に二・四米余りの間隔を保って、四基が構築されていた。経塚の構造は四基ともに相似たもので、地山を径一米余りに浅く掘りさげ、その中央部を更に径四〇釐、深さ六〇釐前後に掘り下げて底口を小さく、土塙の壁面に接して石組をほぼ方形に作って積みあげ、その内部に経筒を安置し、木炭を充填し、上部を石で覆い、拳大より大きい石を無数に積んで構築してあった。地表上に現われている塚経の石積みは直径一米五〇余りの円形で、高さは四五釐余りであった。



第77図 片山経塚出土品（陶器外筒・銅製経筒・滑石製の外筒蓋）

出土品

第一号経塚（四耳付の陶器外筒・滑石製の外筒蓋・銅板鉄止めの経筒）、第二号経塚（滑石製経筒）、第三号経塚（鑄銅製経筒・鉄刀子一口）、第四号経塚（陶製経筒一身、須恵質。蓋、土師質。一・鉄刀一口）（祐徳博物館保管）

文献

木下之治「発掘発見覚え書」（昭和三五年一〇月、郷土研究第一〇号、佐賀県郷土研究会）

三、水梨藏骨器出土遺跡

種別

藏骨器出土地

（湮滅）

所在地

鹿島市能古見町大字山浦字水梨二九二五番地

概要

（山林）

昭和三五年四月、水梨の丘陵上の畑を耕作中、山茶花の根元付近より掘出された二個の甕である。二個の甕が重なった状態で出土したという以外は不明であるが、藏骨器として使用されたものではないかと推定される。甕は四耳付須恵

質の陶質土器で、上半部には自然釉が薄く流れている。他の一個は、相似た形状であるが、少し小さく破損が著るしい。

出土品

四耳付壺二個（祐徳博物館保管）

文献

木下之治「発掘発見覚え書」（昭和三五年一〇月、郷土研究第一〇号、県郷土研究会）

四、中峰蔵骨器出土遺跡

種別

蔵骨器出土地

（湮滅）

所在地

藤津郡太良町字中峰

（畑）

概要

昭和三五年一月二二日、西瓜の畦立て作業中、偶然に発見されたものである。この地は、標高一〇〇米の中峰丘陵にあつて、径約三三厘、深さ約三六厘の土塙中に埋置されていた。蔵骨器は高さ一四・三厘、最大部胴径二〇・九厘、口径一一・二厘の須恵質の壺で、蓋には土師質の皿が用いられていた。この蔵骨器は底部を上、口を下にして埋置し、周囲に木炭が充填されていたという。

出土品

須恵質壺一個・土師質皿一個（祐徳博物館保管）

文献

木下之治「発掘・発見覚え書」（昭和三五年一〇月、郷土研究第一〇号佐賀県郷土研究会、）

五、金剛勝院跡

種別

寺院跡

所在地

鹿島市能古見町大字山浦字大殿分松原一四七五ノイ番地（畑・宅地）

概要

重要文化財指定の仏像三軀が安置されている蓮巖院のある処は、平安時代後期に建立された金剛勝院の遺跡であると推定されている。当時の遺構はほとんど破壊湮滅してしまっているが平安時代後期から鎌倉時代に及ぶ土師質の土器片や青磁片及び瓦片が出土しており、現地表下七〇厘余りの所には、敷石や配石などの遺構が認められるが、今後の発掘調査にまたねばその性格を明らかにすることができない。瓦・土器片多数・青磁片

出土品

文献

星野英夫・木下之治「金剛勝院について」（昭和三五年一月、鹿島市文化財保存会報第二号）、山口良吾「金剛勝院址の調査」（昭和一三年、佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告第六輯）、星野英夫著、「郷土のあゆみ」（昭和二八年九月発行）

六、蟻尾城跡

種別

城跡

所在地

鹿島市鹿島町大字高津原字高津原（山林）

概要

鹿島市鹿島町の南西にある標高一八〇米の蟻尾山上に築かれた山城である。室町時代藤津地方を領有していた大村氏の居城であって、文明九年に千葉胤朝に攻略された後廢城となった。城跡には豊前坊の石祠があつて、一部はその境内となっており、一部には空濠の跡が残っていて、中世の城跡の名残りをとどめている。

七、八幡籠経塚

種別 経塚

(湮滅)

所在地 藤津郡塩田町大字久間字牛坂八幡籠一〇五二ノ六番地

(山林)

概要

八幡社北方の低丘陵上にあって、昭和三五年みかん園造成中に発見されたものである。経塚は、径七〇厘、現地表下三五厘の深さに土壇を掘り、一二厘ノ三〇厘前後の自然石五個を土括内に円筒形に配置して、二段に積み重ね、その中央に底石を置いて経筒を安置し、木炭を充填して扁平な覆石をしてあった。覆石には「古文書」と刻してあり、経塚から一〇米前後の地点から青磁と青白磁の碗二個が出土している。

出土品

滑石製経筒(蓋・台石付) 一個・「古文書」刻銘の覆石一個・青磁および青白磁碗二個(祐徳博物館保管)

文献

木下之治「佐賀県における埋蔵文化財の発掘発見の覚書」(昭和三五年一〇月、郷土研究第一〇号、佐賀県郷土研究会)

八、美野南経塚

種別 経塚

(湮滅)

所在地 藤津郡塩田町大字五町田字美野乙三一四三イ番地

(山林)

概要

殿屋敷と通称されている小台地の端近くに構築されていたといわれ、昭和三〇年頃、土取り作業中偶然

に発見されたものである。地表下約一米のところから径一五厘余りの小石が木炭とともに多く出土し、その中央部の所から滑石製経筒が出土したといわれ、他には何も共伴していなかったという。

出土品

滑石製経筒一個（祐徳博物館保管）

文献

木下之治「佐賀県における埋蔵文化財の発掘発見の覚書」（昭和三五年一〇月、郷土研究第一〇号、佐賀県郷土研究会）

九、塩吹経塚

種別

経塚

（湮滅）

所在地

藤津郡塩田町字塩吹丸尾平一一九番地

概要

遺跡は、塩田町から嬉野町へ通ずる県道添いの崖上に位置している。眼下に塩田川を望む景勝の地であるが、採石場となっているため遺跡は破壊されてしまつて、遺跡の原状は不明である。

出土品

青銅製経筒（祐徳博物館保管）

文献

松尾禎作・木下之治・松岡史「佐賀県下出土の経塚概観」（昭和三二年三月、佐賀県文化財調査報告書第六輯）

一〇、冬野瓦窯跡

種別

瓦窯跡

所在地

藤津郡塩田町大字久間字冬野一本松甲一〇三一番地（貯水池堤防）

概要

飯盛山および白岩山の西山麓の傾斜面に築成されている登り窯であるが、貯水池構築の際その下半部は破壊されていて、上半部が堤防の所に残存している。遺瓦は表面が布目で、裏面は斜格子文である。

出土するのは、字瓦のみであって、その築成年代は明らかでないが、藤原時代前期頃のものであろうと推定される。窯跡の規模や構造は明らかでない。

出土品

字瓦（祐徳博物館保管）

文献

松尾禎作「冬野瓦窯址」（昭和一五年、佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告第七輯）木下之治「佐賀県における埋蔵文化財の発掘発見の覚書」（昭和三五年一〇月、郷土研究第一〇号、佐賀県郷土研究会）

あとがき

人里遠く離れた山ふところに散在している遺跡や山林の中に孤立して訪れる人もない古跡にたえずむととき、先人の偉大なる営みに感無量なものを覚えるとともに、調査員の方の言語に絶した労苦をひとしお深く感じさせられるのであります。

この遺跡調査の結果を「佐賀県の遺跡」として出版するにあたり、これらの遺跡が今後永く保存されていくようにと念願するとともに、二十数名の調査員の方および本書のため題字を揮毫していただいた県教育長森一郎氏に対し厚くお礼のことを申し上げます。

(編集者誌)

昭和三十九年三月十五日印刷
昭和三十九年三月三十一日発行

編集 佐賀県教育庁社会教育課
発行 佐賀県教育委員会

印刷 佐賀・隆文社

